

し

し【**名詞**】衆 人々 衆の変化した語 (志、三)

し【**接尾語**】**【名詞】**士 師 動詞 名詞についてその様な人を表す

…し【**接尾語**】1) 軽い感情を添える。そのような状態を表す。よ、さ、ね。(志、鳥、南、熊) [会話] 1) いくらいたてて (何度も行っても) おらせんシ (居ない)、いくら 呼んでも 聞こえやせんシたら (ないとか) 見えやせんシ (見えない)。したに (末尾) つけんのなあ (付けます)。「シ」を。いくらいたてておらせんシ言うて。いっくら (何度) 言うて (言つて) 聞かしても 聞かせんのかなシ あの人な (は) 言うて。

じあい (ぢあい、ぢあひ) (地合) **【名詞】** 1) 土地の面積、広さ 境界 2) 布地の品質、又布そのもの 3) 様子 格好 (南) [会話] 1) さかえ (境) の事言うんかい (言うのですか)。境争いする言うのを 地争いする言うてな。此処は、和具のジアイで言うて、せだ (布施田) と越賀と和具の境を、海のけいけい (境界) は図面でみやな判からせんけど (見なければ判からないが)、そんでも (それでも) 桶をこおし として (浮かして置いて) 体だけあつちやいいて (あちらへ行って)、越賀はふたご (地名) な (が) 判かつとんねてや (判かっているのです)。島な (が) 有つて、ふたご を和具ん (の) のん (に) して、そんで (それで) 境にしとんねけど (しているのだが)、ちよいとでも (少しでも) 寄つてくと (行くと) 越賀の人らたけてきよおったけど (怒つて来ましたが)、その沖合のけいけい (境界) 判からせんね (判からないのです)。
2) きもん (着物) も ジアイ言うしなあ (言います)。

じあい (じあひ) (時合) **【名詞】** 頃合 汐時

しあげ (仕上) **【名詞】** 遣しあげ: 仕上げる事。又、その結果。できあがり。仕事の最後の工程。人の死後、佛事、供養を済ませ、生業に戻るための行事。体なしに葬儀を行う仮埋葬後の本葬儀。[会話] シアゲ言うのは 出来上りの事やけどなあ (です)。仕事のシアゲ終り 言う事やわなあ (です)。シアゲもせんと (せずに) 言うて、葬式の事なあ (です)。シアゲせんと (せずに) あんね (あるのだ) 言うて。かげかくし として (仮埋葬して)、後でする事を シアゲ言うね (言うのです)。先い (へ) かげかくし として 後で 葬式する事を シアゲ。

しあげかんな (仕上鉋) **【名詞】** 材木を削る時、最後の仕

上に用いる鉋、刃が薄く鋭利にして有り木の表面が極めて滑らかに削られる様にしたもの。[会話] シアゲカanna言うと、荒削りはし として (しておいて)、また じっぱん (立派に) 仕上げて柱なあ。すべな (滑らかさが) よおなるよん (よくなるように) シアゲカannaかけるの、大工な (が)。今しゃ (今は) まあ機械でするよつて (から) あれやけど (しないが) そんでも (それでも) 榎やなんや (などは) するよん (ように) となると シアゲカannaなあ (で) 仕上するわい (します)。とんでばつかおるやんかい (研いでばかり居ます) 大工な (が)。おおた あんに (あんなに) とんでばつかおつて 仕事もすんのかい なあ (するの) 思う程やなあ (です) 鉋、研ぐの (で)。

しあげど (仕上砥) **【名詞】** 刃物をとぐ時、仕上に用いる砥石。質が極めて細かく、多くは粘板岩を用いる。

(北) [会話] 研ぐとお (砥)。荒砥やら (とか) 金剛砂砥やら (とか)、シアゲドや (た) 言うて、剃刃 研ぐ時や (は)、シアゲドのこまかあいの おやし (細かいのですし)、畑ですんのは (するのは) 金剛砂砥言うて、あらくたいのおで (荒いので) 研ぐし (研ぎます)。

しあげる (仕上) **【他ガ下】** 成し終る なしとげる

しあさつて **【名詞】** 明明明後日 (志 (浜島、鶴方)、鳥 (答志)、鈴市、一、飯、松、多、上、張、名、北、南) [会話] あした、あさつて、ささつて、シアサツテ、四日目の事やなあ、シアサツテ言うなあ。

しあせ **【名詞】** 幸福

しあせええ 幸だ

しあせわり 不幸だ

じあらし (ぢあらし) (地嵐) **【名詞】** 西風の少し強いもの。土地に依り風の方角は変わる (北、尾) [会話] あらし言うても、台風のあらし (嵐) と違 (違います)。常 (いつも) の風な (が) あるなつて (荒くなつて) 来たの (のです)、そして 西の風な (が) 吹いて来ると、ジアラシな (が) 出して来たよつて (吹いて来たから) 早よいこや (早く行きましょう) 言うて、ジアラシ言う。

しあるく (爲歩) **【自カ五】** している 盛に行なう しまわる 歩くのでは無い (南) [会話] あげん (あんなに) シアルク言うてな、あげん シアルイテ、あげん 言いアルイテ言うてな、後でつけんね (つけるの

です、あげん (あんなに) シアルイテ まあ しもたんねやれ (壊してしまうのだ)、言うてな。あげん シアルイテ、こげん (こんなに) シアルイテ言うてな、シアルイテ、しやアルイテ言うてな、あげなこと (あんな事) しやアルイテ、なんもかも (なんにもかも) しもたんねやれ。仕事しても 何しても 下手な事しとると (していると) あやあれ (あれあれ)、あげな (あんな) 事シアルク言うて。

しあん (思案) 【名詞】 よく考える事。心配する事。[会話] シアン、考える シアンナゲクビ。なんでも考えとるとな (ていると)、あやあれ シアンナゲクビしとられ (している) 言うてな。首、かたげて (傾けて) シアンしとると。

しあんなげくび (思案投首) 【名詞】 困った状態 どおにもならない様 しあん参照 (員)

しい (尿) 【名詞】 小便。しと (尿) のしの変化した語。尿、おしっこ。幼児語。(志 (布施田)、上、阿、張、名) [会話] 子供にしょんべさす時に (小便させる時に) シイ。シイしたれ (してやりなさい) 言うもんなあ (言います)。シイやったらか (させてやろうか)。

しい (しひ) (椎) 【名詞】 椎の実 実の尖り錐に似た物故に出来た (大言海) (鈴市、南)

しい 【感動詞】 犬、猫などを追い拂うのに用いる語 しいしい参照

じい 【名詞】 1) 痛い事。火、灸。2) 汚物、汚い、不潔だ。(志 (布施田)) 3) 傷、怪我。[会話] 1) ジイやどお (だぞ) 言うて (言って)、子供らを 脅す時な (が) 有るやんかい (有ります)。そや (それ) ジイすんね (するのだ)。やけざる (火傷を負う) 事を ジイすんど (するぞ) 言うて、あたたい (熱い) 事なあ (です)。そや (それ) ジイやどお (だぞ) 言うて。
2) 汚い事も ジいや (だ) 言うて、そげんも言うなあ (そんなにも言います)。それと あつかいもんや (赤い物、火とか)、危いもん (物) を 子供らな (が) なぶとて (さわって居て)、そや (それ) ジイすんど (するぞ) 言うのなあ (言うのです) 危い時の事を。危ない時や (とか) 汚い時や ジいやどお 言うて。

じい (ぢい) (地) 【名詞】 1) 土地、地面。地の二拍化した語 2) 当地、当村。[会話] 1) ジイ (じい) 言うて 土地の事を 地面の事を ジイ言うし (言います)。

じい (痔) 【名詞】 痔、肛門およびその周辺に生ずる疾患の総称 じの二拍化した語 (松、一) [会話] ジイで けつあ (尻は) 赤い言うて。道理の通った事言うと

ジイで けつあ 赤いわれ (です) 言うて、よお言うやんかい (よく言うで有りませんか)。なんでも理屈んおおた (に合った) 事言うと ジいな (が) あられ (有る) 理な (が) あられ 言うのな (です) ジナ有るなあ。

じい (ぢい) (爺) 【名詞】 老人、祖父。幼児語ちぢの訛 (大言海) (志 (浜島、甲賀)、鳥 (答志)、桑市、三、鈴市、津、一、飯、上、阿、張、伊、北、南、熊、度) [会話] 爺さん、ジイサン言わんと (言わずに) ジイ、ジイ言いおった (言っていました)。言葉のわり (悪るい) 家や (は) ジジ、ジイ言うのはええの (よいのです)。ジイサン言うのは丁寧な言葉で ジジ言ううな (のは) 一番わり (悪るい) 言葉、ジいげえいて (爺の家行つて) 置いて来い言うてな ジイ言うとちよいと (少し) 上品な言葉。

じい (字) 【名詞】 文字 じの二拍化した語 (鈴郡、鈴市、一、松、多、度、伊) [会話] 黒板のジイも、えごつと見とらな (よく見ていなければ)、わからせんね (分からないのです)。

しいあるいて して。しあるく参照 [会話] シヤアルイテ言うのと 一緒やわい (です)、シヤアルイテ言うのもな。“や” つけやせんだけや (つけないだけです)、言うのでも、あげん (あんなに) ゆや (言い) あるいて言うのもな、あるいて言うて 後でつけんね (つけるのです)。

しいおった した。していた。過去にして居た。(志) [会話] ショオッタおら (俺は) 昔や (は) こげん (こんなに) ショオッタ言うてな。仕事すんのもなあ (するもの) あげん (あんなに) ショオッタ、料理すんのも こやつて (こんなに) ショオッタ言うてな、ショオッタ “よ” なつくのな (です) おら (俺は) まあ 若いこら (頃は) こげん ショオッタ レ こえ (肥料) 持ったり ショオッタ レ ショオッタも 一緒の事や (です)、その時ん (に) よつてなあ、ショオッタ レ 言う時もあるし、シイ言う時もあるし。

しいおり 【副詞】 しおれているさま。勢い、元気がなく。[会話] シイオリしとんな (しているのは) 美味しいなあ。塩入れて、塩加減な (が) ええ (よい) 時んなあ (に)、シイオリして どいらい (大変) 美味しいなあ言うて。なあ (菜) でも ちよいと (少し) 日に干したると (てやると) シイオリと、しおれてたなあ言うて、しなぼれてた (しおれて行った) とかなあ、しおれてたとか な 同じ意味やけどな (だが)。揉むのん (に)

ちよいと (少し) しなぼらしとけ (しおれさせておけ) 言うて、やらこお (柔らかく) なるよん (ように) ちよいとひなつくと (少ししおれると) ぐたっとしてくね (して行くのです)。

しいかけ 仕事を始めたばかり、仕事の途中であること
しいさし参照

しいかける 始める (上) [会話] 仕事 し始める言うのを シイカケル言うのな。シイカケテ ほっといて (放っておいて) そやれ (それ) 言うてな。シイカケテ ほっといてくと (すてておいて行くと)、シイカケといて (ておいて) ま、どこやらいいたて (何処かへ行ってしまつて) おらせんわれ (居ない) 言うて。話も シイカケといて、また 他の事言うて ま 言うたり。

しいかた 【名詞】 する方法 仕方 [会話] その方法な (が) わりわれ (悪るいです)、シカタな (が) わりわれ そや (それは) 言うてな。シイカタな (が) わり 言うたりな、シイカタな (が) わりなあ (悪るいなあ)、こげん (こんなに) せなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うてな。

しいがてら しながら、一つの事をしながら他の事をすること [会話] 仕事 シイガテラ、これもこしやえた (作った) 言うてな。しいもて (しながら) する事を がてらに 言うてな。仕事シイガテラ喋ったり し いながら (しながら) 言うのを シイガテラ。

じいか、ばあか 【名詞】 遊びの一種。じいかもうか、字か紋か。銅貨を掌で押え、上に出て居る表現が字が書いて有るか、絵が書いて有るかを当てる遊び。[会話] ぜん (銭、貨) を、うつむけといて (ておいて) ジイカバアカ言うて (言つて)、しいおつたてや (して居ました)。ぜん (銭) を きゅと 弾いて、廻しといて (ておいて) ばたんとしたの (倒れたのを)、てえ (手) で 押さえといて ジイカバアカ。裏か表か言うのを ジイカバアカ言うて。

じいき 【名詞】 茎、くき。[会話] 芋のくき。ジイキな (が) なんがい (長い) とか言う。くきの事。

しいきった 一生懸命にした

しいきる 一生懸命にする [会話] シイキッテ来て くたばった (疲れた)。

しいさいといて し始めて居るのに

しいさがし (為探) 【他サ五】 まとまりなく、あれこれとして中途でやめた状態。しさがし。(志 (布施田))

しいさがす (為探) 【他サ五】 あれこれとして中途でやめる。あれこれと手を出す。しさがす。(尾、南) [会話]

そこらの事を なんもかも (すべて) シイサガス言うて、あれしい、これしいすんのをなあ (するのを) シイサガス言うて。一つの事せんと (せずに) あれもしい、これもしいして きめたらんとほっとくの (終らずにすてておくのを) シイサガシやなあ (だ) 言うて。シイサガス言うのは ほっといてく (放つて行く) 事やし (です)。シイサガス言うのは まあ これしとるか (しているか) 思うと こつちや (こちら) の仕事しい、又、こつちしとると (こちらしていると) シイサガス言うのな (です)。

しいさし あれこれとして中途でやめた状態。[会話] はんぶ (半分) して はんぶせんと (半分せずに)、仕上げやせんのをな (ないのを) シイサガシ言うの、シイサシも一緒や (です)。シイサシやれ (だ) こや (これは) まだ、しいかけ言う時も有るしな (有ります)、まだ こや (これは) しかけたばかやれ (しはじめたばかりだ)、話でも しいかけてな なんやかや (いろいろ) 用事言うのん (に)、話、シイカケテ言うのなあ話、しいかけとたや (ていたら) あの人な (が) 来て まあ、飯も食いかけとたや まあ来て くいさいた (さした) 言うてな。途中で止めること。

しいさらせ しなさいの卑語。命令形。[会話] 此れをシイサラセ。

じいさん (ぢいさん) 【名詞】 祖父 お爺さん 老人の男性 じいさまの転 くだけた言い方 (広辞苑) (志、員一、阿、度) [会話] お爺さんの事ジイサン、ジイ言う人も有るし、ジジイ言う人も有るし、一番わり (悪るい) 言葉 おれげ (俺の家) の ジジななれ (がです) 言うて、ジジなら ええけど (よいが) シャジマや (だ) 言うて、しゃじまのおこな (が) 言うて、ちよいと好かん (少しいやな) 事言うて 嫌いん (に) なるとしゃんばやたら (婆とか) しゃんじやたら (爺とか) 言うて。

しいし、いしい 【名詞】 小便、尿、おしっこ。幼児語。シイ (尿) を重ねたもの (大言海) (尾) [会話] 子供らん シイシイやつてくよ (させてあげよう) じゃあ言うてな、そいん (そんなに) 言うと ぶ (屁の音) 言うてな。

じいじ 【名詞】 祖父 じいさん参照 (度、尾)

しいしい 【感嘆詞】 動物を追う声 (伊賀地方) [会話] シイシイ言うて、尻から 追いまくられて。仕事、先い (へ) 立てといて (ておいて) 後から いっしょげんめ (一生懸命) で、する人な (が) すると、先の な (者は) ちよいと、とろいと (少し鈍であると) 尻

からシイシイ 追いまくられて言うてな。

いしい (爲爲) 【副詞】 何度も同じ事をする

いしい しながら [会話] 仕事シイシイ (しながら)、なんやら、かやらしとられたら (いろいろしていると) か 言うたられたらなあ (言うて居るとか)。

じいじい 【名詞】 蟬の一種 あぶらぜみ 鳴き声から。セミ科の昆虫。体長約3.5cm、全体に黒く背腹に白粉がつき、羽は褐色で不透明、濃淡のまだらがある。ジージーと鳴く。(志(甲賀))

じいそ (ぢいぞ) (地磯) 【名詞】 一般の公共海域 禁漁区に対し、自由に漁の出来る海域 (志(布施田)) [会話] ジイソ言うやんか (言います)。ジイソいこか (行きましようか) 言うて。今日は ええ山 (地名) やけど (だが)、あした (明日) から、じいへ 掛けんね よってん (掛けるのだから) 言うて。へた (海岸近い所) の事 ジイソ 言うね (言うのです)。沖い (へ) 掛けんのおは (掛けるのは) 沖掛け、ほいて (そうして) へたい (へ) 掛けん (掛けるのを) ジイソ。

しいたい したい (南) [会話] 仕事な (が) シイタイとか、何々な (が) したいな (です) 言うて、あんな (あれが) シイタイな (です)。あんな (彼が) こしゃ えとたや (作っていたら) どいらい (大変) よかった よってん (から) あんな (あれが) シイタイなあ 言うて。

しいたいごお 【名詞】 したい放題、我儘 (志(布施田)) [会話] 我儘にしとると な (していると)、なんもかも (すべて) シイタイゴオで、あやま (彼は) シイタイゴオん (に) 育つと (ている) 言うてな、シイタイゴオにしてな言うてな。男の人らでも まあ シイタイゴオにして 酒のおだり (飲んだり) 博打打ったりな、おなご (女) 道楽すんな (するのは) しいたい放題にして言うてな。

しいたくる 【動詞】 一生懸命にする

しいだし し始め [会話] まだ こや (これは) シイダシやれ (だ) 言う時も有るしな (有ります)、まだこや しかけたばかやれ (ばかりだ)。

しいたない したくない (志)

しいたねえ したくない (鳥) [会話] そいなこた (そんな事は) シイタナイわれ (です)、シイタネエわれ。嫌な事をな、そいなこた おら (俺は) シイタネエわれ 言うてな。

しいつけとる し慣れて居る しいつける参照

しいつける (仕付) 【他カ下一】 している。しなれて居る。慣れている。[会話] シイツケル 言うのはな、

じよおくしとる (いつもしている) ことをな、あやま あ じよおく (彼はいつも) シイツケトルもんで (ているので) 上手ななあ (だ) とかな、しじゅう (いつも)、しとる (している) 事をな (です)、シイツケル 言うて。

じいっと 【副詞】 1) 静かに動かずに居る (多) 2) 常に いつも [会話] 1) じっとしとれまあ (していなさい) 言うの (のです)。静かにしとれまあ。よけ (あまり) もしゃもしゃしとらんと (もそもそしてなくて)、ジイットしとれまあ おとなししとれまあ 言うてな。2) あの人は ジイット来とんね (来ているのだ)、いつでも来とんのな (来ているのを) ずうっと 来とる (来ている) 言うのを、じっと来とる 言うん やるなあ (言うのでしょうか)。あやな (あれは) ジイット ねがめておこした、たらな (とか) いつ迄も 見つめとる (ている) ことを、あのひた (人は) ジイット 見つめとて (ていて) すかんな (嫌だ) 言うて、睨む 言う事な ねがめる 言うて。

しいづめ (仕詰) しづめ。一つの事を続けてしている。[会話] 仕事 シイツメ やった (だった)。仕事ばっか しとる (ばかりしている) 人をな、なんもかも (すべて) じよつく しとる (いつもしている) 人をな、ほん (本当に) シイツメで、えらいやるなあ (大変だらう) 言うて、あげん (あんなに) シイツメで まあ 言うて。じよつく しとる 詰めてしとる 休まんと (ずに) しとると (していると) シイツメやなあ (だ) 言うてな。

しいな (しひな) (糶) 【名詞】 穀物の実が入らず、殻のみのもの。サミナセ (眞実無稲) の意の略

しいのくい 仕難い するのに困難だ [会話] シイノクイ事を いっしょけんめ で (一生懸命) した。いっしょけんめ になった。

じいばあ 【名詞】 祖父母 (志、鳥)

しいほおだい 自分勝手に振る舞うこと しほうだい しいたい放題 [会話] しほおだい言うの (のです) シイホオダイ言うて。なんでも わがと (自分) したい よん (ように) して、酒な (が) 飲みたきや (たければ) 飲む、博打な (が) したきや 打つて、人の言う事聞かんと したいよん (ように) して あのひた (人は) まあ 我儘してきたんよって (来たのだから)、なんもかも シイホオダイやもんなあ (だから) 言うてな。

しいまくつたる 一生懸命にする [会話] シイマクツタル言うの なあ (です)。いったん (一度) に シイマ

クッタテ くたばって (疲れて) 言うてな。

しいまくる 一生懸命でする [会話] シイマクル、なんでも、あや (何でも彼は) いったん (一度) に シイマクッタテ くたばって (疲れて) 言うてな 仕事シイマクル。

しいもて しながら。(北、尾) [会話] おそるおそる なんかしとる (何かして居る) 言う時ん (に) おじおじシイモチ。

じいやん **【名詞】** お爺さん (志、三、鈴市、安、度、北、尾、南) [会話] お爺さんの事を、ジイヤン言うしな (言います)。じいさん言う人も有るしな。昔や (は) そいん (そんなに) “お” はつけやせんしな (つけません) じいさん言うのは 丁寧な言葉やったんやな (でした)。お爺さん言うな (のは)、医者どん (殿) か、坊主か、先生か、偉いさんらなな (が) お爺さん言うけど (が)、ちっちゃい子らら (小さい子達は) は ジイヤン、ジイヤン言うしな (言います)。

しいよい しやすい、容易に出来る。しよい。(北) [会話] 中腰で 腰かけんのなあ (かけるのです)、シイヨイもんで (ので)。魚 開く時ん (に) こでば (小出刃) ですると、シイヨイわれ (です) 言うて。

しいよい **【形容詞】** 白い

しいよった していた (北) [会話] あげん (あんなに) しょおった。こげん (こんなに) しょおった言うて、シイヨッタ、しょった、しょおった言うて。

しいれる (仕入) **【他ラ下一】** しつける。教育する。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗) 鳥) [会話] 子供らを しこむ言うのも、シイレル事なあ (です)。

じいろ (ぢいろ) **【地色】** **【名詞】** 本来からの色。染めてない下地の色。ぢいろ。

しいろい **【形容詞】** 白い。(志 (布施田)、鳥、南) [会話] あんな (貴方の) シャツ シイロいなあ、頭も髪な (が) シイロいなあ、しらが (白髪) の事なあ (です)。白い言うのを シイロイ言うう (言うのです)。しいろ しらい (白い) 言うう (のです)。白の事を シイロイ言うて (言って) “い” つけんね (付けるのです)。

しうち (仕打) **【名詞】** 人などに接する時の態度、扱い方、ふるまい。多くは悪い意味に使用する。

しえ せ、せの発音はしえになる事が多い (志、鳥、員、三、鈴市、安、津、一、飯、松、多、上、名、度、伊、北、尾、南、熊)

しえ **【名詞】** 瀬。海底の岩場。まあ、せえ (瀬) 参照

[会話] シエとシエの 間のまあ言うて。

しえいしゅ **【名詞】** 施主 しえいしゅ参照

しえいかく。しええかく **【名詞】** 性格、その人固有の性向、性質、持ち前の特質。(志、鳥、松、度、北、南) [会話] しょお (性格) の事をな、気持ちの事をな、あのひた (人は) ま シエエカクな (が) わりなあ (悪るい) 言うてな、あのひた やさし (優しい) 性格やもんでなあ (なので) 言うたりな、心のええ (よい) 人を言うんやろな (言うのでしょうか) 一概な正直で真面目な人を。

しえいかく。しええかく **【名詞】** **【形容詞】** 精確 詳しい上に間違いの無いこと。[会話] なんもかも (すべて) シエエカク にせなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うて、借金しとでも (していても) 戻したねやら (のか)、戻させんねやら (戻さないのか) 訳な (が) 判からんで、シエエカクに しときやええけど (しておればよいが) 言う時な (が) あんなあ (有ります)。こやあら (これ) おおぞらしで (乱雑で) シエエカクに きちつとして有るとわかるんけど (判るのだが)、しさがしみたよん (途中のように) 後やら (か) 先やら (か) 判らんよんしとると (ようにしている)と)、シエエカクにして無いよつてん (から) 判らせんなあ (ない) 言うて。

しえいかつ。しええかつ (せいくわつ) **【名詞】** 生活 世の中を暮して行くこと、又その暮らし。(北) [会話] シエエカツ、暮らしの事な (です) シエエカツ改善。

しえいきゅう。しええきゅう (せえきゅう) **【名詞】** 請求、相手方に一定の行為を求めること。[会話] 金を借とて (ていて) シエエキユウしやれて (されて)、しえめられて (責められて) しえめのしえつたくやれ (強く責められる) まあ言うて。いつ まあ かやしてくれんねど (返して呉れるのですか)、お前 都合したたのん (してやったのに) いつ かやしてくれんねど 言うのを、シエエキユウしやれて 言うてな。まあ 会うたびん (に) シエエキユウしやれて 言うてな せめのせつたくん (に) 会われ言うやんかい (会う言います)。会うたびん (に) 道で おおてもな (逢っても)、じえん (銭) 戻せ 言うこた (事は) 言わせんけど (言わないが) まあ あのもん (物) も考えといて くれえ (ておいて下さい) またそれは、いつぞや (いつかわ) 行くけどな (けれど) 言うてな、すんのを (するのを) シエエキユウする言うてな。

じえいきん。じええきん (ぜいきん) **【名詞】** 税金、租税として国、地方に納める金銭。(志、鳥、津、度) [会

話] こおそお言よおったな (言っていました)。こおそおも せんとおんね (せずに居るのだ) 言うてな “よおい こおそお 持って御座れよおい” 言うてな。二十三日頃な (に) ごおじの (役場の小使いの) じじな (爺が) まあんの (廻るのです)、締切りやもんでな (なので) ジェエキンの事 こおそおや (だ) 言よおったねんな (言っているのです)。

しえいしえき、しええしえき (せえせき) 【名詞】 成績、成しとげた結果 出来上り。(志、鳥、一、松、度、北、南) [会話] シェエシェキな (が) 悪るうて (くて) 言うてな、なんやかや (いろいろ) わり (悪るい) 事するにげ (人間) をな、あやまあ (彼は) シェエシェキな (が) わりねよってな (悪るいのだから)、いび (指) も曲つとるし (ているし)、言うてな。がっこな (学校が) よお出来やんのも (出来ないのも) シェエシェキな (が) わり (悪るい) 言うし、がっこい 行く時分から シェエシェキな (が) わりんでや (悪るいのです)。

しえええ (せええ) しない (鳥 (答志))

しええしえん しない (北)

しええしつ (せいしつ) 【名詞】 性質 (志、鳥、一、松、度、北、南)

じええたく (ぜいたく) 【名詞】 贅沢、必要以上に金銭を費して物事を行う事、豪華で有ること。(志) [会話] 派手な事 するとな、あの家や (は) ジェエタク三昧しとんね (しているのだ) 言うてな。

しええつく (せいつく) 元気になる、病氣などが快復する。[会話] シェエツク、にんにく 食うと シェエツク クんでわい (つくそうです)。馬い (に) 人參食わすと シェエナ (が) ツイテ 言うやんない (言うでしょう)。にげ (人間) は にんにく 食うと しええきな (精氣が) 出んね (出るのだ) 言うて、馬に人參食わすと、しええきな 出て、よお (よく) 走って 昔の人らはな、馬に人參 人はにんにく 言うてな。

しええな (せいな) 精が出る 一生懸命にしている よく働く (志 (浜島) [用例] あの男、シェエナ男や (だ)。

しえいねん、しええねん (せいねん) 【名詞】 青年、年の若い人、青春期に有る男女。(志、鳥、三、津、松、多、度、伊、北、南) [会話] わかいしゅ (若い衆) のこと シェエネン。昔やな (は) 男を シェエネン 言うてな おなご (女) を、処女 会言うて。今しや (今は) 男でも おなご でも シェエネン 団言うやんない (言うでしょう)。

しええしゅ (せえしゅ) 【名詞】 施主 しえしゅ参照

しええばい (せえばい) 狭い

しええまあ (せえまあ) しない [用例] はよ (早く) シェエマア。

しええまい (せえまい) しない [会話] シェエマイ 言うて。しえんとおこ (しないでおこう) 言う事をな。あいな (あんな) 事 シェエマイやんか (でおこう) 言うてな。まあ あいな 事 止めとこやんか (ておきましよう) 言う事を シェエマイやんか (でおこう) まあ。

しえかい (せかい) 【名詞】 世界 (北)

しえがれ (せがれ) 【名詞】 1) 倅 息子 (志、鳥 (答志)) 2) 陰茎

しえき (せき) 【名詞】 席 (志、鳥、松、多、度、北、南)

しえき (せき) 【名詞】 咳 (志、鳥、一、度、伊、北、尾、南、熊)

しえきたん (せきたん) 【名詞】 石炭 (鳥 (答志)、鳥、鈴市、松、多、上、度、北、南)

しえきゅ (せきゅ) 【名詞】 石油 (鳥 (答志))

しえく (せく) 咳く

しえく (せく) 【自カ五】 急ぐ [用例] そげん (そんな) に シェク と、ころぶど (転ぶぞ)。

しえぐ (せぐ) 1) 押す 2) 塞ぐ

しえけん (せけん) 【名詞】 世間 (志、鳥、鈴市、安、一、松、飯、多、度、伊、北、南)

しえしゅ (せしゅ) (施主) 【名詞】 1) 工事の依頼主 2) 初盆の最年長者 盆の行事を取りしきる

しえつき (せつき) 【名詞】 節季 (北)

しえつく (せつく) 催促する せつく

しえつく (せつく) 【名詞】 節句 (志、鳥、松、上、度、北、南)

じえったい 絶対 (度、北) [会話] 絶対言うのを ジエッタイ 来やへんなあ (来ません)。

しえともん (せともん) 【名詞】 瀬戸物。陶器。(志 鳥 (答志)、度、北、尾)

じえに (せに) 【名詞】 銭 じえん参照 (志、鳥、員、鈴市、鈴郡、安、津、一、飯、松、多、上、名、度、伊、北、尾、南、熊)

しえばい (せばい) 狭い (志)

しえめて (せめて) せめて 最小限

しえめて (せめて) 責めて

しえめのしえったく (せめのせったく) 何度も繰り返して請求すること。[会話] 金 借つとて (借りてい

て) しええきゅうしやれて (請求されて) しえめられて (責められて) シェメノシェッタクしやれて (されて)。

しえめる (せめる) 1) 責める (志、鳥、度、北、南)
2) 攻める

しえわ (せわ) 【名詞】 世話、面倒を見る事、面倒なさま (志、鳥、一、松、多、度、北、南) [会話] シェワ ななあ (だ) 言うてな。 ややくし (面倒な) 事をな。 シェワなもん (物)、子供の面倒見るのも シェワ、 ちっさい (小さい) 時ん (に)、あの家で シェワしても おて (貰らつて)、 シェワん (に) なって育てて貰らう事な (です)、嫁、貰らうのでも 嫁 シェワしても ろて (貰らつて) 言うてな 仲人、口きいて貰らうと。

…**しえん (せん)** しない。(志、鈴市、安、津、一、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] そげなこた (そんな事は) しやシェン 言うて、 おまや (お前は) 此を したやんな (しただろう) 言うて、その子な (が) おらま (俺は) そいな (そんな) 事 しやシェン 言うて わり (悪い) 事を かづからまい (かぶらない) 言うての。 仕事すんのかい (するのですか) 言うて、 しやシェン 言う事も有るし、飯 食わんかれ (食べなさい) 言うて、 おらまあ (俺は) 食わシェン 言うてな。 いなん (要らん) 言うのを くわシェン 言うてな。 食わシェン、 泣かシェン、 笑わシェン、 しやシェン、皆 よお似た事や、ま 止めとく (やめておく) 事をな しやシェン。

じえん (ぜん) 【名詞】 金銭、銭。(志、鳥、多、度、伊、北、尾) [会話] お金の事を ジェンや (だ) 言うね (言うのです)、 ジェン いっしえんくれや (一銭下さい) 言うてな、 ジェニ (銭) 言わんと (言わずに) ジェンや (だ) 言うてな。 しよんがつん (正月に) しえん (二銭) の 丸銅貨 貰らうと 嬉してなあ (嬉しくて)。 壁打ちのてぎに ええねなあ (よいのだ) 言うて。 二銭の銅貨は 壁打ちの てぎんしよ と言うて 取っときおったの (取っておいたのです)。

しえんかい (せんかい)。 **しえんかな (女性語) (せんかな)**。 **しえんかれ (せんかれ)**。 しなさい (志) [会話] これ シェンカレ、此の仕事しなさい言うて 今では言うのな シェンカレ。

しえんぎり (せんぎり) 一生懸命。 沢山。(志 (鶴方)) [会話] シェンギリ 言うのは、 沢山、 〇〇ななあ (が)、 大阪い (へ) 働きん (に) いとて (行っていて)、 旦那さんな (が) 〇〇さん 沢山 食べてな (下さい) 言うたや (言ったら)、 ああ、 ま、 センギリ よばれた (頂

きました)。 センギリてや (とは) なんやな (なんですか) 言うたや (言ったら)、 だいこ (大根) のきぞだのやれ (刻んだのだ) 言うて、 だいこ 刻むと、 千切りや (と) 言うやんない (言うでしょう) それをな わからせんもんで (わからないので)。

しえんくら (せんくら) 千回 回数が多い事を言う

しえんしえ (せんせ)。 **しえんしえい (せんせい)**。 **しえんしええ (せんせえ) 【名詞】** 先生 (志、鳥、一、飯、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] シェンシェエ、言うのはだ、 教員の事も、 シェンシェエ言うし (言います)、 医者どんにも シェンシェエ言うし、 なんでも 自分と (より) 上の人をなあ (目上の人)、 シェンシェエ言うのなあ (言います)。 目上の人とか 偉い人に シェンシェエ。

しえんしえん (せんせん) 【名詞】 蟬 (志)

しえんち (せんち) 【名詞】 便所 しえんちや 参照 (鳥、北、南、熊)

しえんちや (せんちや) 【名詞】 便所 (志) [会話] トイレの事をな、 シェンチャや (だ) 言うのな (のです)。 シェンチャとか センチャとか、 センチとか、 シェンチャい (へ) いて来い (行つて来い)、 はこな (大便が) したい 言うてな、 はよ シェンちい (へ) 連れてけ (ていけ) 言うて。 シェンチ 言う。 シェンチャの 菰 で 搾り取られて なわ (名、縄) 残る 言うてな。 尻拭きな (が) 無いと シェンチャは 昔や (は) とおせん と (戸せず) 菰な (が) さがら かけてあり よつて んなあ (吊して有ったので)、 昔や (は) 紙は入れやせんし (入れないし)、 藁 で 拭きよつたやんな (居たでしょう)、 そやもんで な (それなので)、 その藁な (が) 無いと 菰 ちぎつて 拭いて ほして ま (そうして) ちぎり、 ちぎり すると まあ な 編んだ 縄 だけ 残 こんね (残るのです) そやもんで (それなので) シェンチャの 菰 で 搾り取られて なわ 残る。

しえんで しなくて しえんと 参照

しえんでくる (せんでくる) 押して来る 寄って来る 圧迫して来る (北) [用例] よけ (あまり) シェンデクンナ (来るな)。

しえんと (せんと) せずに [会話] そいな (そんな) 事 シェント、 ま、 止めとけ 言うてな。 そいな (そんな) 事、 シェンデええわ (よろしい)、 シェント おいとけ (おいておけ) 言うてな シェントケ (しないでおけ)。

しえんと (せんと) 【名詞】 銭湯、大衆浴場 (鳥) [会話] ゆうや (湯屋) の事や (です)。 おら も なり たや よ シ

エントヤの板によ言うて歌いおったの (居たのです)。風呂屋言わんと (言わずに) シェントヤ、シェントい (へ) 行かなはざんわれまあ (なければ駄目だ)、しえんとお (銭湯) 言うのを シェント。

しえんど (せんど) 【名詞】 船頭、漁労長、漁船で漁の指揮をする人 (志) [会話] 船の大將の事、シェンドな (です)。シェンドは大將でな 舵とる人 おやじ言うて。

しえんとや (せんとや) 【名詞】 風呂屋 しえんと参照
しえんならん (せんなんらん) しなけれぬいけな (北)
じえんぶ (ぜんぶ) 全部、残らず。(北) [会話] わたし言うのは 大工さんに 皆 まかして。いり言うて、その日 その日に 要ったのを ジエンブはるて (払つて)。

しお 【名詞】 1) 鰯の幼魚 (志 (片田)) 2) かんばちアジ科の海魚。全長 1.5 m に達する、魚形はブリによく似るが、体高が高く、ブリのような青味がなく背部は赤紫色を帯び、体側に淡黄色の一縦帯がある。

しお (潮) 【名詞】 大潮。海流。1) しお、潮、汐、月及び太陽の引力で、海水が満ちたり干いたりする事。おおしお、大潮、約半月毎に生ずる干満の差が最大となる潮汐の状態、又その時期、新月及び満月の一、二日後に起こる。(伊、尾) 2) 機会、折、チャンス[会話] 海へ おって (落ちて行って) したのおも (の) しおった言うの (言います)。海い (へ) 知らんと (知らずに) とびこんでくやない (落ちるでしょう)。知らんと とびこんでた時んのおを (で行った時ののを) しおった言うの (言うのです) 海のシオも、¹⁾ そすと よお (よく) 干いた時 (干潮の時) シオな (が) 干いたとか、にった (満ちた) とか。シオな (が) にって 来て言うて、今日はシオやよって (だから) よお干いたれ (よく干きました)。今日はかれ (干満の差の少ない時期) や (だ) 言うて シオと、かれとなあ。かれやオオシオ コシオ みいとおりも (三通り) あんねなあ (有るのです)。今日は ひいて ジオ (一日潮) ふっかジオ (二日潮) 言うて、今日此の月のシオ言うて 月に 二回やなあ (です)。十日迄 シオで いっかな (五日が) かれやよって (だから) 二回やなあ (です)。そと (そうすると) 始めのシオか 今度のシオか言うて、此のシオ言うて 始めのシオなし (です) 今度のシオ言うて じゅうごんち (十五日) 過んでからのシオなあ (を) 今度のシオ言う。 ²⁾ そすと (そうすると) なんやかやする時に 丁度今し (今) しとかんと (しておかなければ) いかん

ぞ言うよおな時に、シオドキや (だ) 言う。生れた時や 死んでく (死んで行く) 時でも シオドキ言うて。こおな (子供が) 生れた、シオドキは 満潮やったか (だったか) 干潮やったか 言うて、生れた時 そのこおな (子が) 出来た時に 干潮か満潮か 言うて 死んでく (で行く) 時でも 満潮に息切った (呼吸が止まった、死んだ) 干潮に息切った とか言うて。みちしお (満潮) の時に 生れるとええし (良い)、干き潮 (干潮) に生れると はざん (駄目だ) 言うて、そのシオドキを なんやかや言う人らな (人達が) 有るもんなあ (有ります)。結婚式の樽入すんのも (するの) も、シオドキで 干潮か満潮かの時になあ (します)。シオドキ そやせえ (それ、しなさい) 言うて、しよおがつどんやんのも (豆撒きするの) もシオドキ な (が) 来たらずえお (しなさい) 言うて。

しおあい (しほあい) (汐合) 【名詞】 1) 潮の干満のない時 潮の流れのない時 2) 汐時 機会

しおあがき 【名詞】 泳ぐ、泳ぐこと、特に潮流に逆からって泳ぐこと。[会話] シオアガキすんのを (するのを) 泳ぎかく (泳ぐ) 言うて、泳ぎよおかいて来たれ (よく泳げるようになった) 言うて、泳ぐこた (ことは) おえぎ言うのなあ (のです)。

しおあそび 【名詞】 海水の遊び場。海水が田に逆流しないように作られた広い場所。潮溜り。[会話] 潮溜り、潮よけやわい (です)。ゆり言うて、シオアソビ言うて、潮な (が) 入って来て たあ (田) よける よおん (ように) シオアソビ。

しおあび (しほあび) (潮浴) 【名詞】 海水浴 (志 (浜島)、鳥) [会話] シオアビ (潮浴び) 海水浴の事。シオアビや (だ) 言うて。

しおあびる 海水浴をする [会話] 海水浴行く言うな (言うのは) 今しや (今です)。昔や (は) シオアビル言うてな、裸で ちんぶらりん (丸裸) で浴びてな。こごえて (冷たくなって) 来て 浜の砂い のたって (腹はいいになって)、砂な (の) ぬくたいの (温かいのを) 掻いて来て あんご (顎) 乾け 口乾け 口より あんごな (顎が) はよ (早く) 乾け言うて。シオアビル言うのは 海水浴の事をな。シオアビんこや (に行きましょう) 言うて。がっこ (学校) から来ると、道具ばな (を) 打ちつけ といて (投げ出して) シオアビん (に) とんでて (とんで行って)、“だんぼちかいて ひいらいて おらな (俺の) せえ (背) は こんだけや (これだけだ)” どぼんと飛び込んで。しいろい (白い) 石 ほつ といて (投げて) 石取りや (だ) 言うて、

しいろい石ほると(投げると)海の底で眼鏡かけんでも(かけなくても)めえとるもんで(見えているので)石取りしよおや(しましろう)言うて、しいろい石ほり込んで底いっててな(潜って行って)めえ(目)まっかん(に)なって。

しおあまい(しほあまい)【形容詞】塩分が不足している、塩味がうすい(四、一、飯、度、尾)[会話]塩な(が)うっすいのをな(薄い、少ないのを)、塩な(が)足らんのをシオナ(が)アマイなあ言うて。魚でもちよいと(少し)塩なうっすいとなこやちよいと(これは少し)シオアマイなあ言うて、うっすい言わんと、あまいなあ言うて、しよからい(塩辛い)と、塩な(が)よお効いとんな(よく効いている)言うし。

しおあわせ【名詞】塩の配分[会話]味噌もこねる程ええんやんかい(よいのです)。シオアワセな(が)効いて(よくなって)。

しおいっぱい 1)満潮(尾) 2)干潮の期間中、十日間[会話] 2)シオイッパイ言うて、ひいてじお(一日潮)、ふつかじお(二日潮)言うてなとおかじおな(十日潮)がしまいやもんで(終りなので)、此のシオイッパイいこやんか(行きましよう)言うて、此のシオイッパイ休まんといかな(休まずに行かなければ)言うて。1)潮な(が)一杯にって(満ちて)来た事もな、シオイッパイ言うしな(言います)。ま、にちて(満ちて)潮な(が)一杯やれ(だ)言うてな、満ちて来る事を。

しおえる(しをへる)(爲終)【他ア下一】なし終る

しおがきく 潮流が早い

しおかげん(しほかげん)(塩加減)【名詞】適当に塩味をつける事

しおかぜ(しほかぜ)(潮風)【名詞】潮気を含んだ海からの風

しおがとごった。しおなとごった 干潮、満潮の極で海流が無くなった(志)

しおからい(しほからい)【形容詞】塩味がきつい(志、鳥、四、津、一、松、阿、伊)

しおからごえ(しほからごえ)(塩辛声)【名詞】しわがれた声、しゃがれ声。[会話]シオカラゴエ言うて、びしゃびしゃしたよおな、ええ(よい)声やなしに(でなくて)嘎れたよおな声言わへんのか(言いませんか)。とどろ声の嘎れたよおな、しゃしゃら声ほっそおなし(細くですし)。しよっから声やなあ(塩辛声だなあ)言うて、嘎れたよおな声やわなあ(です)。

とどろ声言うな(のは)、なんやら(何か)、どいらい(大変)おんなわり(音が悪い)人な(が)有るやんかい(有ります)。声な(が)ふっといかつたり(太かつたり)、とどろ言うて 雷の事言うの(言います)。あのどいらい(大変)声のふっとい(太い)。

しおからだ(潮体)【名詞】海から上ったままで、真水で洗ってない体。[会話]シオカラダそんなり(そのまま)おると、あつつうて(熱くて)しよおならないよおん(仕方ないように)なって来る。

しおぎ(潮着)【名詞】海女が作業し海水に濡れて潮を洗い落としてない着衣。海水のついたままの着衣、海女が作業したまま、その衣服をまとして居る、海水を洗い流してない状態の衣服[会話]磯(海女作業)からあがって来て、乾いてたの(ていったのを)着て、畑い(に)行くとな、シオギのまま畑えいた(に行った)言うて。

しおくい(塩喰い)【名詞】味見(志(布施田、鶴方、国府、安乗))[会話]試食する事シオクイ。始めて喰うのを(食べるのを)シオクイ言うの(のです)。試食に喰てみよまあ(食べてみなさい)言うてするやんない(でしょう)。それをシオクイ。言うたらなあ(言えば)味見すんのを(するのを)シオクイ言うんやろなあ(言うのでしょう)。これうまいかうまないかシオクイせえまあ(しなさい)。シオクイの団子呉れ(下さい)言うて(言って)、シオクイした時に喰うたの(食べたのが)どいらい(大変)うまいもんで(ので)、ほいて(そうして)今度喰うと(食べると)腹一杯喰たると(食べてしまうと)まあたんの(堪能、飽きて)して、うまないんやんかい(うまく無いのです)。さあもんで(それで)シオクイの団子呉れ言うて、シオクイしたおり(時)うまかった。

しおくり(仕送り)【名詞】1)生活や勉学を助けるため、金品を送る事。2)順送り、役に立たなくなったもの、不要の物を譲る事。[会話] 2)若味噌喰わんよおん(食べないように)言うて、一樽つひねん(古く)してみいたる(三樽)ずつしとると(していると)、一樽ずつシオクリん(に)なつとたの(なっていたのです)。

しおくわず【名詞】海岸線ぎりぎりに住む浅利。海岸の上部、海水のとどかない所にすむ浅利[会話]シオクワズしおしらず言うのもあるし、シオクワズ言うて一緒のことやけど(だけれど)、とおげん(上の方に)おんの(居るのを)あんごあさり。山の麓のとこん(所に)居って、そすと(すると)波な(が)よけ来

やせんもんで(あまり来ないので) シオクワズ言うね(言うのです)。そして あんごあさりや(です) とおげん(上の方に) 居るもんで(ので) しおくわんでも(潮食べなくても) おつきい(大きく) なる 浦の波な(が) 来んとこい(来ない所へ) 山際な(が) 有るやんない(でしょう) そいなとこん(そんな所に、潮な(が) につて(満ちて) 来ても 潮な(が) とどかせんね(とどかないのです) 干いてくと(て行くと) ずうっとしてくし(して行きますし)、につて(満ちて) 来ても そこい(そこへ) までは行かせん(行きません) そいなとこん(そんな所に) おんの(居るのを) シオクワズ言うて。

しおけ(しほけ) (塩気) 【名詞】 塩の味 塩分

しおけ(しほけ) (潮気) 【名詞】 塩分をふくんだしめり気

しおけぶり(しほけぶり) 【名詞】 潮煙、海水が飛び散るしぶき。[会話] 波、島 うちつけといて(打って)、ぱっと シオケブリな(が) 立つわい(立ちます)。こまかあい(小さい) 潮な(が)。

しおご 【名詞】 鱸の幼魚 しお参照

しおさいふぐ(しほさいふぐ) (潮際河豚) 【名詞】

- 1) くさふぐ シホサイはシホサキ(潮先)の音便(大言海) さばふぐ ひがんふぐ しおさいふぐ マフグ科の海魚。日本沿岸で普通に見られる河豚の一種。全長約35cm、体色は暗褐色の地に青味を帯びた不定形の斑紋が有る。腹面は白い、マフグ、ゴマフグに似るが尾鰭が白いので区別出来る。卵巣、肝は猛毒、肉は弱毒で少量ならば食用にしても危険は無い。(志) サバフグ マフグ科の海魚。体長35cmに達す。体はやや長く頭部に小棘が密生し、腹部にも小棘がまばらに有る。体色は背が黒色、腹は銀白色、尾鰭の上下端が三角形に白い。肉は無毒だがまずい。(志、鳥)
- 2) 何処へでも、あちらこちら出歩く人 [会話] 2) 他所い(へ) ばっか(ばかり) 出歩いとると(ていると)、シオサイフグで 何処い(へ) でもいとんねよつて(行っているのだから) 言うて。

しおざい。しおざかい(しほざかひ) (潮境) 【名詞】

互いに異なった性質の潮流が、接触するところ。好漁場になる。(志、鳥)

しおざかな(しほざかな) (塩魚) 【名詞】 塩をふりかけた魚 塩漬けにした魚。[会話] シオザカナ、塩したの(のを) シオザカナ言うし。鯨でも、鯖でも 塩して それ冷蔵庫い(に) 入れて有つてな、シオザカナやけど(だが)、そんで(それで) 寿司すると ええん

なあ言うてな よお(よく) 言うやんかい(よく言います)。生ん(の) のえ 塩して置いて有ると、シオザカナ 焼こかてやら(焼こおかとか)、シオザカナ すう(酢) でおや(食べよう) とか よお言うやんかい(よく言います)、塩してあるのすうで食うとな、美味しい。

しおざかり(潮盛) 【名詞】 干潮期間十日間の間の最も作業するのに好適な時間に干潮の来る日、干潮の初まりから五、六、七日目。(鳥) [会話] しおなかを休むと勿体ないな、五日潮、六日潮、七日潮言うてな。三日、四日は よおひくんやんかい(よく干くのです) 潮な(が)。それをな、しおなかを休むと勿体ないなあ言うて、休まんと、いかな(休まずに行かなければ) 言うて 用事な(が) 出来て来て 休まなはざんとあ(なければいけない) しおなかの どぶくろやのんなあ(だのに) 言うて。五日潮 六日潮 七日潮な、その 三日 四日な しお(潮) のそこりで シオザカリやのん(だのに) 勿体ないなあ、休むと。

しおさめ(しをさめ) (爲納) 最後の仕事 これを最後までしてする仕事

しおしらず 【名詞】 浅利貝の一種。海水の無い所に住む。しおくわず参照

しおする 調味と保存のため魚に塩をふりかける(志(布施田))

しおだき 【名詞】 塩を調味料として炊いた物(志(布施田))

しおだし(しほだし) (塩出) 【名詞】 塩分の多い物を眞水につけて塩分を少なくする事

しおだまり(しほだまり) 【名詞】 1) 海水が田などに入らないように、川などの一部を広くしてある場所。しおあそび。2) 干潮時、海水が島の間閉じ込められた所 [会話] 2) シオダマリ言うな(のは)、溜まり水。潮な(が) 溜つて、だんぼち(へこんでいる所) ん(に) なつてな、潮な(が) たまって来ると、しおあびんいて(海水浴に行つて) だんぼちい(へ) いて(行つて) んくたあい(温い) 潮な(が) 有つて。そこいて(そこへ行つて) あびると(海水浴すると) んくとおてええわれ(温かくてよらしい) 言うてなあ、潮な(が) 有つて そんな(それが) 日な(が) 照ると、ぬくとおなつて(温かくなつて) 風呂みたいんしとんね(のようにしているのです)。1) ゆりの前の潮な(が) 遊ぶとこ(所) シオダマリ。

しおたれる(しほたれる) (潮垂) 1) 湿気と呼びやすい。塩分を多く含み、湿気が多い。2) 悄然として居る。

しよげる。元気が無くなる。あわれな様子になる。(志
(布施田、鶴方、国府、安乗)) [会話] 1) 塩につけ
ると、雨な(が)降ると、びちょびちょしてくんね
(来るのです)。ひな(日が)照ると さんざり(さっ
ぱり)と しとんなけど(して居るのだが)、雨な
(が)降ったり ひよりな(天候が) わり(悪く)な
ると、したしたしてくんの(来るの) シオタレル。

しおづけ(しほづけ)【塩漬】【名詞】 塩漬け。野菜、魚
などを塩のみで漬けたもの(熊) [会話] シオツケン
(に) しとこやんかれ(しておきましょう)。だいこ
(大根)でも、なあ(菜)でも、引いて来て 樽入れ
て、塩水してな。昔や(は)海の水 汲んできて シ
オツケンしおった(にして居ました)。今しや(今は)
海の潮 使かわせんもんで(ないので)、真塩入れとい
て(ておいて)、シオツケ言うてな、野菜したり、そし
て 魚でもな、シオツケしといて(しておいて) また
本漬け言うて しょからん(塩辛に) すんのなあ(す
るのです)、シオツケ、始めしといて 一週間も 十日
もしといて 本漬けや(だ)言うて、きりあわせすん
のなあ(混ぜ合せするのです)。効いとる(ている) と
こと(所と)、効かんとこと 有るもんで(ので) そん
で(それで) しおあわせ言うてな、シオツケンしとい
て(にしておいて)、本漬けんする。

しおった 1) しました。して居た 2) 海へ落ちる。

しお参照

しおって 1) して していて 2) 海に落ちて しお
参照 [会話] 2) 海へ落ってて(落ちていって) した
のおも(のもの) シオツテ。1) あいな事してまあ言うの
を、あげな事シオツテ まあ言うて 腹な立ったよお
な言い方やんかい。

しおどき(しほどき)【潮時】【名詞】 1) 機会、チャン
ス。物事を行うのに最も適した時。2) 時期、時間、
特に出産、死亡の時に言う。(志(布施田)) [会話]
2) シオドキ言うのは 其の時 満潮(みちしお)とかな
あ 干き潮とかなあ シオドキを考える言うのなあ
(です)。みち潮に せんならん(しなければなら
ない) 時も 有るし、干き潮にせんならん 時も有るも
んで(ので)、シオドキ考える言うなあ(言います)。
1) 仕事の事でも 丁度ええ時(よい時)を シオドキ、
今し(今) シオドキやれ(だ) 言うなあ(言います)。
娘の嫁入り(結婚)する時でも まあ(もう) 丁度え
え時や(です) 今し(いま) シオドキやれ(だ) 行く
な(のは) 言うなあ。十八位で 結婚する時やったら
(だったら)、十八ん(に) になると そや(それ) 今し

シオドキやどお(だ) 言うし(言います)。“十九で立
花、はたち(二十才)で見花、おくれ花かよ 二十一
は”言うて 十九や十八の時は 今しな(今が) てご
ろ(手頃、丁度よい) いまだきな(今時、今が) シオ
ドキやれ(だ)。それ おくれたら おくれ花やれ
(だ) 言うて 言うのな(言います)。

しおどきなし いつも 時間を決めずに 不意に

しおとし【爲落】【名詞】 すべき事をうっかりしないで居
る事 失念してしない事

しおとり【名詞】 タオル。[会話] タオルは シオトリ
や(だ) 言うて。そんな(それで) 流行って来たおや
(時は)、シオトリに 買おやんかあ(買ひましょう)
言うて、シオトリ 鉢巻ん(に) したり、体拭いたり。

しおないく 潮の流れが早くなる。動く。しおないごかん
参照 [会話] 干潮とか 満潮ん(に) なる さか
えん(境に) になると、シオナ(が) イテクシノナア
(くるのです)。真潮な(が) いて来たり 底潮な
(が) 来たり。シオナイク言うななあ(のは) 東から
流れて来る潮な(が) えらい(大変)のか、西から来
んのが(来るのが) えらいかすん(するのです)。潮
な(が) はよおて(早くて) 今日では言うて。じょおし
な(漁師が) 潮な(が) はよおて はざんよお(早く
て駄目だ) 言うやんな(言うでしょう)。どっちゃ(ど
ちら) からか 来る潮な(が) はよなつてくんねやん
かい(早くなって来るのです)。

しおないごかん 1) 潮が差しもせず、引きもしない。
そこり。2) 潮流がない [会話] 2) シオナイゴカン、
じょおし(漁師)の人な(が) 言う事か(ですか)。潮
な(が) とごつとて(どんよりして居て、沈んで居
て) ましおも(西から東へ流れる) そこしお(東から
西へ流れる)も よりしお(陸の方に流れる) しお
いかんと(流れずに)。1) 一日ふたくら(二回)は
シオナイゴカン時な(が) 有るわな(有ります)。潮な
(が) とごつとる(て居る) 言うて。その とごつと
る時は いっても(潜つても) どいらい(大変) いり
よおて(潜水しやすくて)、底 ふつかいとこ(深い
所)も、いかれんねやけど(行かれるのだが)、潮な
(が) いてくると(よく動く) 底 行きのくいやん
かな(行きにくいのです)。そやって(それだから) そ
の潮な(が) とごつとる時は まあ幾らでもいられん
の(潜れます)。深いとこ(所)も 行かれんねけど(行
かれるのだが) 潮な(が) いて来ると 潮のとごつと
る時の倍 骨な(が) 折れんの(折れるので)。そやも
んで(だから) 底(限界)になると イゴカン時な

(か) 有るわな (有ります)。その時な一日に二回有んねやろなあ (有るのでしょうか) 潮な (か) 行ききって来る時と とごつてく時と 有んねてや (有るので)、ちよいと (少し) の ひまやけど (時間、間ですが)。その時 行きあわすといつても (もぐつても) どいらいりよいし 楽なの (のです)。潮な (か) そこしおな (か) いて来ると 濁った きたなあい (汚い) 潮な (か) 東から来ると、そや (それ) あすこい (あそこへ) 迄 そこ潮な (か) 来て 真黒んなって来た言うて、わかっつんの (判って居るのです)。かあんと澄んどんのななあ (で居るのが) 東から流れて来る潮な (か) 来ると、真黒 濁って来んの (来ます)。西から来る潮 ましおな (か) 来ると、潮な (か) 海な (か) かあんとして 輝いて来んねやんかな (来るのです)。その時 潮な (か) 行ききって来る時も有るし、ほいてまあ (そうして) 行ききつても (て居ても) ぱぱっと、とごつてく時な (動かない時が) あんのなあ (有るのです)。その時に 行きあわすと かずくの (海女作業は) どいらい楽やんかな (大変楽です)。潮な (か) とごつとる (て居る) こいな時、はよ (こんな時早く) 沖出よや (出ましょう) 言うて、沖い (へ) 出てく (出ていく) 時も有るし (有ります)。あんで (あれで)、潮の (か) 息する (休む) 言うんやろなあ (のでしょうか)。風も 息するよおなもんで (もので) 行ききつても (て居ても) ぱぱっと やんでく (やんで行く) 時な (か) あんねてや (有るのです)。その時を シオナイゴカン。

しおなか【名詞】干潮十日の間の中間の時期 干潮の五、六日頃 大潮の最中 (志) [会話] シオナカ言うて、一番よお (よく) 干く時やんかい (です)。十日間のうちの (間の) 真中。ひいてじお (一日潮) ふっかじお (二日潮) 言うて、とおかじお (十日潮) 迄有って十日迄しおやんかい (干潮です)。ひいてじおや ふっかじおは 朝な (か) はよおて (早くて) 八時か九時にや (には) そこりやんかい (最もよくひく時です)。そやけど 五日潮、六日潮なると、十二時か一時にや (には) そこりやもんで (なので) 丁度ええ (よい) 時や (です)。ここのかや (九日とか) 十日言うてくると、ひにぐれん (日暮れに) なつてくんやんかい (なつて行くのです)。ここのかじおのちぐらし言うて上つて来る 時分に 潮な (か) 干くね (干くのです)。潮な (か) 一番 よお (よく) 干く、いっかじお、むいかじお、なぬかじおな、そのみっか (三日) よっかな (四日)が しおの そこりでな、シオナカやのん勿

体ないな 休むと。

しおなかのどぶろく【名詞】干潮時の最も潮のよくひく時 [会話] 一番潮な (か) よお (よく) ひく時をシオナカノドブログや (だ) 言うてな。

しおなげき【名詞】海女が潜って出た時に吐き出したり、呼吸をととのえたりする息。急に大量に空気を吐き出すため、口笛のように聞える。[会話] ほおい言うて口笛吹くやんな (でしょう) 海女な (か)。それをな、磯笛の事を。シオナゲキな (か) あの人な (か) 上手でな、ひいひい言うてなるにげな (人間が) 有つてな、そやけど (それだけれど) おか (陸) では鳴らせんね (鳴らないのです)。ほおい言うてな、口笛な (か) どいらい (大変) 上手ん (に) 海の中では鳴るけど (か)、おかでは鳴らせん (陸では鳴りません)。海い (に) おるとな、水い (へ) 響いて ひいと鳴るの (のです)。シオナゲキしとるとな (していると) どいらい (大変) 息な (か) 楽なの、息な (か) しいよいな (しやすいのです)。夏ん (に) なつて来ると、磯人のぐらいや (様です) ほおい ほおい言うてな、暑いと ほおい言うたと (言つてやると) どいらい 涼しよおな気分になんねてや (なるのです)。蚊帳の中でも ほおい言うてな。出て来ると ろちつちよおしといて (小さくしておいて) すぼけといて (すぼめておいて) ほおい言うて、どいらい 楽なの、おつきい (大きい) 口、開いて おつきい、ま、出したと (てやると) それは はざんの (駄目なのです) ろすぼめといて (小さくしておいて) ほおい言うて どいらい 楽なの。

しおなこむ 潮が満ちて来る。こみしお参照 [会話] にちて来た事 (満ちて来た事) を、にちる (満ちる) 事を、シオナコム。込み潮な (か) 来た。

しおなさす 井戸水に塩分が混る

しおなとごつた 満潮、干潮の極になり潮の流れが無くなった [会話] シオナトゴツタ言うて、あつちや (あちら) も こつちや (こちら) も いかんと (行かずに) もお (藻) も、真つ立ちん (に) なつてなあ、ちよいと (少し) の あいやけどな (間だけれど)、こみ潮 (満潮) と、さげ潮 (干潮) のあいやけどな (間ですが)。とごつてく時な (か) 有つて、底な (に) いりよおてな (潜りやすくて)、ふっかいとこでも (深い所でも) らあくにいられんねてや (楽に潜られるのです)。潮な (か) 早いと 底い (に) いこ (行こう) おもても (思つても) なかなか 底い (に) いかれやせんやんな (行けないでしょう)。そやよつてん (それだ

から) シオナトゴツトル(ている)時は ひとひろ (一尋) や ふたひろ (二尋) ふっこお (深く) て も、らあくに 行かれるの。潮な (が) そこりん (に) になると とごんねやろな (遅むの) でしょう 潮のはなな (先が) くんのを (来るのを) さし潮言うの、その時ん (に) なるとなあ ちよろちよろ 潮な (が) はやなつてくんの (早くなつて来るのです)、そやよつてん (それだから) 潮のそこのおりはな (時は) 潮な (が) よお (よく) ひいて こんで (これで) 一杯 潮な (が) ひいたな言う時んなあ (に) シオナトゴツテナ、シオナトゴツトル(ている) うちん (間に) はよいかな (早く行かなければ) 言うてな、火場 (休憩場所) を はよ 引き上げる時もあんの (あるのです)。ふつかいとこ (深い所) 行く時はな 潮な (が) ぬうらい (流れがゆるい) 時は どいらい 楽なんやんかい (大変楽なのです) 潮な (が) 早いとその苦しいのが 一生懸命するもんで (もので) 息な (が) なんものおて (少しも続かなくて)。

しおなぬるい 潮流が緩い、遅い

しおなぬるむ 1) 潮流が遅くなる 2) 海水温が上がる

しおなはやい 潮の流れが急である。[会話] シオナ(が) ハヤイ 言うな (のは)、西から来ても、東から来ても、行ききつてくねやんかな (早く流れるのです)。シオナ(が) ハヤイ と なんか (何か) 落しても ちよちよいと してくわい (して行きます)。そいな (そんなの) シオナ(が) ハヨ (早く) ナツテ 来た言うて、潮な (が) どいらい (大変) 早よなつて来たよお (来ました) 言うて。網やつとも (入れて居ても) 網な (が) 島へ 覆つてたりして 破つたんねやんかな (破ってしまうのです)、潮な (が) はよ (早く) なつて来ると。

しおなます 【名詞】 刺身に塩を当てたもの

しおのはな 【名詞】 潮流の先端。[会話] シオノハナな (が) 来た言うのは、こみしおの事なあ (です) 満ちかけて来た事な (を) はなな (が) 来たれ (来た)。

しおのぼり 【名詞】 潮流にさからって泳ぐこと。[会話] 今し (今) の 子らは、どげな (どんな) シオノボリでも よおすんね (よくするのです) 鱈つけとるもんで (つけているので)。

しおぼしる 塩の粉がつく。水分が乾燥して塩分が残った状態。

しおばな 【名詞】 水漬 [会話] 水漬なあ (を) シオバナたらし言うやんない (でしょう)。しよからいの (塩辛いのです)。そやもんで (それなので) シオバナ

言うの (のです)。漁師の人らな (が) 来ると、鼻のともとい (鼻の下へ) 塩みたいん (のように) なつとんの (なっているのです)、しいろお (白く) 塩ばして粉ふいてするわい (します)。シオバナや (だ) 言うて、水漬な (が) 出て来ると そんな (それが) こびりつ いてくと (行くと) 塩ん (に) なんね (なるのです) 真つ白ん (に) なつて。

しおばらい (しほばらひ) (潮拂) 【名詞】 漁に出た時に着る、丈の長い綿入れ。どてら。(志(越賀)、鳥(答志)) [会話] シオバライ。昔や (は) 丹前を シオバライや (だ) 言いおつたなあ (言つて居ました)。シオバライ こしやえて呉れ (こしらえて下さい) 言うてなあ (言つて)、綿入れの事 シオバライや (と) 言いおつたてや (言つて居ました)。シオバライを こさえてもらわな (作つてもらわなければ) 言うて、綿のいったのおを (入つたのを) 言いおつたね (言つて居たのです)。

しおま (しほま) (潮間) 【名詞】 潮の干いて居る間

しおまつり (潮祭) 【名詞】 海上、漁業の安全と豊漁を僧に行つてもらう行事。陰暦六月十一日。神の島の周囲を南無阿弥陀仏と書いた石を、読経しなから海に入れ、島の周囲を廻る行事。[会話] 六月の十一日 シオマツリ、言うてな、神の島に石ほり込みん (に行く) のなあ (です) 心経言うてなあ 神の島迄 石ほり込みもて (ながら) 行くの (のです)。太鼓 叩いてな 石ほり込みもて 神の島まで お経言うてな、あやなあ (あれは) 六月十一日 シオマツリ言うて 磯人も休むの (のです)。

しおめ (しほめ) (潮目) 【名詞】 潮合、潮流の境界付近、潮流が常に流れ波の立つて居る所。

しおもん (しほもん) (塩物) 【名詞】 1) 塩漬けにした魚。(志(布施田)、熊) 2) 海女作業をしたままの衣服 水洗いしてない着衣 [会話] ② シオモン言うのは磯着をな、いそじよつきをな、磯(海女) いて来て (行つて来て) そのまま おるとな それを、シオモンや言うの (のです)。磯着 でおるとな 磯から上がつて来てそのまま 乾いたの着て 畑え行くとな 潮着のままで、畑い (へ) いた (行つた) 言うて。いそじよつきの事をな、シオモン、シオモンを そこらい 置いとくなまあ (ておくな)、したたりのん (湿つばいのに)、家ん (の) 中い (へ)、入れるとな、夕方ん (に) になると、しとしとして来てな、おおた したたりのん シオモン そこらい (へ) 置いとくなまあ (ておくな) 言うて。① 塩した魚を シオモンや

(だ) 言うて、シオモンで すう (酔) で食うと 美味いよって (から) 塩しとけ (しておけ) 言うてな。

しおよけ (しほよけ) 【名詞】 田などに海水が入らないようにしてある所。しおあそび、しおだまり。[会話] 潮溜まり シオヨケやわい (です)、ゆり言うて 潮遊び言うて。

しおらし (しをらし) 【形容詞】 ひかえめで従順な様子である。可愛らしい。[会話] 可愛らしい事をな、おおた シオラシよ、口もとな (が) ちっちょおて (小さくて) シオラシよ 見よまあ (見なさい) 言うて。可愛らしとな、シオラシ顔しとんねよ (しているのだ) 言うて。

しおれもん (枝折門) 【名詞】 柴折戸 低い木で廻らした垣につくられた入口。[会話] シオレモン言うな (のは)、おいえ (大家) 行くと、木でも竹でも じっばん (立派に) 作って、垣みたよんしとる (のようになっている) とこな (所が) あるやろ (有るでしょう)。

しおる する している

…しか **【副詞】** **【助詞】** よりか。比較の基準を表す。後に必ず打消の語が来る (志 (甲賀) 鳥、北) [会話] こいなもん (こんな物) シカ 無いとか、こいなもん シカ 出来やせんとか、こいなもん シカ 呉れざった言うて わりもんやなあ (悪い物です)。こげなもん (こんな物) シカ 言うんよってなあ (言うのだから) わりこと (悪い事)。“シカ” 使う時はあんまりええ (あまり良い) 事やない (でない)。

じか (ぢか) (直) 【名詞】 直接、間にへだてるものがない事。じきの変化した語。(志 (布施田)) [会話] 直接。肌い (に) ジカにあてんな (当てるな) 言うて、すぐに 肌にあてんな (当てるな) ジカに言うなあ (言います)。直接すんな (するな) 言う事。なんでも (何でも) 物でも ジカにやると、焦げてくぞ (行くぞ) とか 色な (が) 変わるとか 直接する事を “ジカ” 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

しがい (死骸) 【名詞】 死体、屍体、死んだ人の体。[会話] シガイ、死んだ人の事なあ (です)。シガイも揚がらざった (なかった) (水死体が見つからない) 言うて。盆 (盂蘭盆会) に 川ざらいしとたや (川浚、掃除して居たら)、シガイな (が) 揚って、それ見にいてなあ (行って)、ひろ (広の浜 地名) で。盆に 波で川な (が) とまってて (止まってしまつて)、人ら (は) 皆 踊つとるてのに (て居ると言うのに) わしら、川ざらい いっしょけめしとるなが (一生懸命して居るのです)。たあな (田が) つかつて (水につかっ

て) 稲が はざんもんで (駄目なので) ほしたら (そうしたら)、シガイな (が) 寄って来て (波で打ち寄せられて) それを 恐る恐る 見に行たんやんか (行ったのです)。死んだ人のおな (のが) 揚ると シガイな (が) 揚つた言うて (言います)。シガイな (が) 揚つても、此の まはまい (真浜、里の浜辺へ) は 揚げたら はざんで (いけないので) 川尻に 揚げる。川尻は シガイ揚げるとこや でなあ (所です)。そやけど (しかし) あしこい 寄つたんやろなあ (あそこへ寄つたのでしよう)。そやまあ (それは) 寄つたもん (から) しゃあねえわい (しかたがない)。そやけど (しかし) 沖で シガイひろて来るやんない (拾って来るでしょう)、浜へ 着けやせんの (着けないのです) 縁起な (が) わりもんで (悪いもので)。神さんな (神様か) まはまは するとこやもんで (所なので)、川尻の隅に 揚げて、あしこに (あそこ) 八人塚な (が) 有るもんで (ので) あれ 行きよつたなあ (行きました)。八人塚 言うな (のは) たこか (地名 高岡)、今し (今の) 墓の下ん (に) なつてく (なつて行く)、あしこら (あの辺り) 八人塚 言うて 降りてく (て行く) とこな (所が) 有つて、そこい (へ) 無縁佛へ 行きおつたわい (行きました)。八人塚 言うのは 無縁佛、海から 揚つたり こつちや (こちら、陸) で 死んでも、受取人な (が) 無いのおを (のを) 墓な (が) 無いよって (から) いけれやせんもんで (埋葬出来ないのです)、その無縁佛 八人塚へ いけよつた (埋めて居ました)。まはま 言うのは 里の浜 (地名) を、まはまや (と) 言うわい。まはまは 神さんな (が) 上るとこやよつてん (所だから) まはまへは てぎれたもん (汚れた物) は 着けやせんのなあ (着けないのです)。

しかえし (しかへし) (仕返) 【名詞】 仕立直し (志 (甲賀)) [会話] 着物のシカエシ、裏がやす (返す) の、昔や (は) 皆 シカエシして な、なかね (腰巻) の ひぼ (紐) まで うらがやして (裏返して) なかね の 尻うちも うらがやして、物は無いしな、なつとなど (どうにでも) 長持ちさせよ、おもてな (思って)、シカエシして 美し、あらにみしよ (新しく見せよう) 言うてな うらがやすと (裏返すと) ふたくらめ (二度)、はれするもんなあ (美しくなるので)。

じがお (地顔) 【名詞】 素面 化粧していない顔 (志 (布施田))

しかかる (仕懸) 【他ラ五】 し始める

しかくい 【形容詞】 1) 四角である (四、鈴郡、阿、張、名、度、熊) 2) 馬鹿正直で、融通がきかない [会

話] 1) シカクイ、まっかく (真っ角) 方形のもんをな (物を) 四角、2) またい (馬鹿正直) 人を あやまあ 四角で四面やな (だ) 言うて、ちよいと (少し) 七分、八分の人をな、あやまあ (彼は) 四角やど (だぞ) 言うてな。

しかくなふね【名詞】 棺 [会話] のりふね (棺) シカクナフネ 乗る迄や (だ)。

しかくばる (四角張)【自ラ五】 かたくるしい様子をする。まじめくさった態度をとる。緊張する [会話] シカクバッテ。あの家、いたや (行ったら)、あの家の しきな (敷居が) たっこおて (高くて) シカクバッテ、ちんと (正しく) かしこまって (正座して)、緊張する事な シカクバル言うの (のです)。窮屈なな、あんまり (あまり) 上品な家い (へ) げさくなのな (下品な者が) 行くやんない (でしょう)、そすとなあ シカクバツンノ (ているのです)、きどとんの (ているのです) 緊張してまあ。

しかけ (仕掛)【名詞】 1) 相手を自分の思い通りにさせるやり方、だんどり。2) 魚を釣るための道具。又鳥獣を取る罟 (志 (布施田))

しかけ【他カ下一】 1) しかける 仕事を準備する。機械を設置する。挑む。(桑市) 2) して居る途中 [会話] 1) シカケ言うの、仕事を始める事 シカケ、仕事のシカケとも言うし。花火やどきも (なども) する時 シカケ花火なあ (を) しかけんの (用意するの) シカケ言うし (言います)。なんでも (何でも) 仕事の始める事を シカケ言うけどなあ (言います)。それから、機械シカケルとか、ねい (根へ、本体に) 据える時を シカケル言うて、そいな (そんな) 時ん (に) 使うねやるなあ (のでしょう)。釣の道具は 道具こしやえてやる (作ってやる) 言うけど (が)、シカケ言わへんなあ (言いません)。

しかけたばか 始めたばかり

しかける (仕掛)【他カ下一】 しかけ参照 1) し始める 2) 罟などを設置する 3) 用意する。

しかた (仕方)【名詞】 なすべき方法、やり方。[会話] シカタな (が) 無い 博多の帯でシカタな 無い。シカタな (が) わり (悪るい) 言うて、する事に シカタな (が) わりと そや (それは) シカタな (が) わりわれ (悪るいです) こげん (こんなに) せなはざんわれ (しなければ駄目だ) 言うてな その方法な (が) わりわれ そや 言うて、シイカタな わり 言うたりな。シイカタな (が) わりな (悪るいのは) こげんせな はざんわれ 言うてな。

しかたない【形容詞】 やむを得ない しかたが無い

しかたなしん 嫌々 しぶしぶ 仕方無しに (三、鈴市、安) [会話] シカタナシン、今日は 此処い (へ) 来たね (来たのだ) 来たなかつた わけど (ののだが) あんたな (貴方が) 来たもんで (ので) シカタナシン来た。来てくれ、来てくれ言うもんで (ので)、行きたのおても (無くても) 行かななあ (なければ) 言うて 来たよお (来ました) 言う事やなあ (です)。シカタナシン来た。しぶしぶとか 嫌々来たわい (です) 言うな (言います)。

しかたねえ どうしようもない。やむを得ない。不満だがあきらめるほかない。どうにも困る (志) [会話] まあ したたもん (してしまったもの) シカタネエんか (でないか)。茶碗 うちゃった たけど (壊してしまったが) まあ うちゃった たもん (壊してしまった物) しゃあな (仕方が)、ないやんか (無いでないか)、シカタナイ言う事を しよおな (しょうが) 無いやんか (です)。

じがため (ぢがため) (地固)【名詞】 1) 建築などで地面をならし搗き固める事 (多) 2) 物事を確実にするため予め準備すること [会話] 1) どおづきを ジガタメや (だ) 言うし、2) 結婚すんのも ジガタメや (だ) 言うしな、なんか こお 確実にする言う事や (です)。

しがち (仕勝)【形容詞】 よく行なう事

しかつめらし【形容詞】 しかつべらしいの転。しかつめらしい、真面目くさって堅苦しい感じがする。もったいぶって居る。いかにも道理にかなって居る様子だ。もっともらしい。(上) [会話] あんまり (あまり) 堅苦し事言わせんのかいなあ (言うのでしょうか)。真面目くさって 堅苦しい 言う事やねえんのかいなあ (で無いのでしょうか)。シカツメラシ言うのは。

しがてら しながら、一つの事をしながら他の事を行なう。(多、度) [会話] カキガテラ言うてな。じい (字) 書きもて (ながら) なんやかやすんのを (いろいろするのを) ガテラ言うのな (のです)。じい (字) 書きもて 喋つとんのを (ているのを) シガテラ 言うてな、仕事シガテラん (に) 此れも こしやえた (作った) 言うてな、しいもて (しながら) する事を ガテラ 言うてな。仕事シガテラ 喋ったり、しい (し) ながら言う事を シガテラ、しいもて も一緒や (です)。仕事しいもて へえ (屁) もへつたり 仕事しいもて つまみぐいしたりな。

じかに (ぢかに) (直)【副詞】 直接 間に物を挟まずに、

じき(直)にの転、じか参照

じがね(ぢがね)【地金】【名詞】本性、本来の性格。ありのままの性質。[会話] 元のジガネにゃ(には) しゃびな(錆が)浮く言うて(言って)。ジガネ言うな(言うのは)鉄でも かねやよって(金属だから)、古う(古く)なると、しゃびな(が)浮いて来るよおなもんで、人間でも 元のジガネにゃ しゃびが浮く言うて、わり事(悪い事)するとさいご(最後、その時)、あのひた(人は)ジガネなわりよってなあ(悪いから)言うて。つね(日常)に、成績(評価)のわり(悪)かった人を ジガネな(が) わりよってん あやまあ しゃびな浮いて来たんなあ(来たのだ)言うて、わり 事すると 言われんなあ(言われます)。

じかばき(ぢかばき)【名詞】1) 下着をつけないですぐ上着をつける事。特にズボン等。2) 下着 [会話] 1) じかい履くのを 足袋や靴下 履かんと じかに、靴、草履、履いたりする時もな、ジカバキ言うし、裸足で裸で車座で言うて。

しがまえる 1) 強くつかまる。強情を張る。耐える。(北、尾、南、熊) 2) 欲ばって独り占めにする(志(立神)) [会話] 1) 家も 売ったんねやったけど(売ってやるのだった)が、ま シガマエタナア言うて。持ったなあ言う事、落ってくねやったけど(落ちて行くところだったが) そや シガマエトレ、落ってくのを、掴まえとれ(ておれ)言う事な、シガマエトレ。離すなよ、てえ(手) 離すと 落ってくよってん(落ちて行くから) シガマエトレヨオ 言うてな。なんでも 離す 売ろとするもんで(ので) なんでも、あつちや(あちら)、こつちや(こちら) 借金してな、家を売らんと すましたや(ら) まあ よお、シガマエタナア言うてな。

じかまき(ぢかまき)【直播】【名詞】苗にせず、直接種を田畑に撒く事

じがみ(ぢがみ)【地髪】【名詞】生来の髪 かもじ、かつらなど人工の物に対して言う語

しがめる【他マ下一】しかめる 顔や額に皺をよせる 渋面を作る 苦痛不愉快の気持ちを顔に表す。[会話] ぶつとして 顔シガメル、ねがめてしとんと(睨めてしていると)、あや(あは) 一物ある 顔やなあ(だ) 言うて。

しかやし(仕返)【名詞】1) 報復すること。仇をうつ事。(桑市) 2) 仕立直し(志(志島)) [会話] シカヤシも しかえしも一緒やわい(です)。

しがらみとる 1) 耐えるものを見つけ、それをつかま

える。からみつける。からませる。2) 結んで連ねる。

しき(敷)【名詞】敷居。門の内外を区切り、又部屋を仕切るために敷く横木。溝やレールを付け、戸、障子、襖などを受ける。しきいの末尾の略(志(鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、員、三、鈴郡、鈴市、津、一、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南) [会話] シキな(が) たこおて言うて(高くて言います)。家へ 訪れてても(行っても)、上りやすうい(やすい) 家と 上りぬくい(にくい) 家と 有るでしよお。きがねやよつて(気を使うのだから) シキな(が) 高い。あのうちや(あの家は) シキな(が) たつこおて(高くて) きずかいで 言うやんな(言うでしょう)。“シキ しんざえもん 中 通る とんざえもん” これなあに言うと 戸とシキ言うて ちつさい(小さい) 時の クイズや(です) 子供の。

…**しき【接尾語】**位 ばかり これシキ …しか(より)の変った語

じき(時期)(時季)【名詞】時、頃。ある区切られた時間。ある事を行うのに適当な機会。(北) [会話] ジキが来た言うやんかい(言います)。その時な(が) 来た言うの(のを)、丁度ええ(よい) ジキや(だ)、丁度ええ ジキな(が) 来たなあ(来ました) 言うて。芋でも まあ(もう) 掘るジキやなあ(だ) 言うやんかい(言います・言うて有りませんか)、芋掘りジキや(だ)とか、たあ(田) 刈りジキや(だ)とか言うて。その季節な(が) 来る事なあ(を)。ジキジキ言うのも 一緒の事やなあ(です)。ジキジキも その時 その時 言うねやわな(言うのです)。

しきえ(色衣)【名詞】葬式の形式の一つ。墨染の衣以外の法衣。[会話] 葬式、シキエや(とか) 佛事や(とか) かいごや(だ) 葬式の事。シキエや(だ) 言うてな、シキエは、真ん中やねえんかい(でないのですか)、佛事はええし(よいし)、会後言うのな(が) いっち (一番) わりねやんない(悪いのでしょう)。普通、皆と一緒ん(の) のおするのを 並会後言うしな 一番わりのおわ(悪いのは) ひとつがね言うて。まあ、ひとつがねでも だんねえわれ(かまわない) 言うて、家な(が) 貧しいて(貧しくて) 資格のない家はな ひとつがねでやつとけ(すましておけ) 言うて、ひとつがねな(が) いっちまずい(一番悪い)。

じきおくれ【名詞】1) 最適の季節に遅れているもの、旬に遅れているもの(南) 2) 流行遅れ [会話] 1) ジキオクレ言うな(のは) 季節はずれのことを、ジキオクレ言うて。なんでも 季節外れて、梨は盆ごろ旬

で 今しや (今は) ジキオクレや (です) 同じ季節外れでも 遅い方の季節外れ。早い方の はしりや (だ) 言うし、すえなりは ジキオクレん (に) なつてく (なつていきます) 時期外れとかな。② 着るもん (物) でも、ジキオクレやなあ (だ) 言うてな 昔はやって来たのおをな (のを) 年数な (が) たつと、こや (これは) ジキオクレやなあ (だ) 言うて、嫁行くのでも行かへんと (ないと) あやまあ (彼女は) ジキオクレやなあ 言うて。

しきし (色紙) 【名詞】 形が似て居る所から、衣類の破れた所や弱った所に当てて繕う、四角い布切れ。継ぐ当て。(志 (浜島、志島、甲賀、鶴方)、鳥、上、阿) [会話] シキシ言うななあ (のは)、破れたとこい (所へ)。シキシ言うのも 有るやんかなあ (有ります)。ほすと (すると)、いしきあてや、なんや (何か) 始めから 奇麗な所 当てとんのは (て居るのは) シキシ言わせんの (言いませんか)。あや (あれは) いしきあて言うし (言います)、昔の人ら (は)、しりうち言うの (言うのです)。腰巻 やどきい (などに) 汚れん (汚れない) よおに、単物 (ひとえもん) でも 尻な (が) ふくろんでかんよおん (膨れて行かないよおに) 一尺位のなあ (の)。しりあてすると むこても (座っても) 尻な (が) ふくろんで (膨らんで) 来んよおん (来ないように) しよった (して居ました)。破れたとこい (所へ) 当てんのは (当てるのは) シキシ言うなあ (いいます)。

じきじき 【名詞】 その時、その時に。その都度。じき参照

しきだい (敷台) 【名詞】 1) 踏み台 2) 物の下に敷く物。式台、送迎の式を行なう台 (大言海) から転じたか。[会話] ① 踏み台の事。シキダイ言うな (のは)、ふみつぎか、なんか (何か) を。② しきもん (敷物) の下い (下へ) 台 置いといても (置いて居ても) シキダイやったか (したか) 言うて。なんやかや (色々) 物置く時に 下い (へ) 敷く物を。

しきたり (仕来) 【名詞】 従来からの習慣、慣行、規則。[会話] 此処らの シキタリな (が) 判からせん (判りません)。

しきち (敷地) 【名詞】 建物をたてるための一定区域の土地。占有の地。屋敷地の義 (大言海) (南) [会話] シキチ、屋敷の事。埋め立てたりしたとこな (所が)、あしこの (あすこの) シキチな (が) 出来たよってん (から) 言うてな、新し、土地な (が) 出来るとな、あのシキチを 皆 割って売んねてわれ (売るのでそ

うだ) 言うてな。

しきってく 1) 買い占める、買い占めて行く しきる 参照 2) 区切りをつける [会話] ① みんな (皆) 棒抜きする言うのな (です)。ごっそり おんな (俺が) こおたるわい (買ってやる) 言うて、あきないして、いれもん (入れ物) 一杯 もてくるやんない (持って来るでしょう)、そすと (すると)、おんな (俺が) 皆 棒抜きしたるわ (してやる) 言うて、みんな (皆) こおたるわ 言うの (のを) シキッタルわ言うのな (です)、棒抜きしたる 言う時もあるしな。買い占める、おんな (俺が) 買いきったるわ 言うてな。② 此処から、此処迄 シキッタル、はんぶ (半分) 割った事を シキッタル (てやった) あつちや (あちら) と こつちや (こちら) と 言う時も使うな (使います)。

…**しきってく (頻) 【副詞】** 1) 一生懸命に行う、極限状態を表す 2) したくてたまらない (南) [会話] ① 仕事 シキッテク。シキッタル (てしまつて) くたばった (疲れた)、仕事 シキッタル (ら) くたばったよお (疲れた) 言う時も 有るし。

じきに (ぢきに) (直) 【副詞】 すぐに 間もなく [用例] まあ ジキニ 行くわい (行きます)。

じきはずれ (時期外) 【名詞】 その時節に合って居ない事。又その物。(南) [会話] ジキハズレ言うな (のは) 旬を外れる事な (です)。しなもん (品物) の盛りな (が) すむと (終ると) ジキハズレやなあ (だ) 言うて、おっせい (遅い) のをな、終いごろのことをな。まあ 時期な (が) 外れとられ (ている) 言うて。昔や “雁な (が) 鳴くのに白地のゆかた” 言うて、いまだきん (十月に) ゆかた 着ると。

しきび (櫛) 【名詞】 しきみ、櫛、櫛、佛様の花、はな。モクレン科の常緑小高木。高さ3~5m、葉は互生するが枝先に密につくため、輪状に見え、革質の倒卵状狭長楕円形で長さ約7cm、分枝も葉と同様、やや輪状に出る。春、葉腋に淡黄白色の花被をもつ。径約2cmの花をつける。果実は有毒で約2cmの径をもち扁平な球形、熟すると星形に裂け、黄色の種子をはじき出す。全体に香気があり、枝を佛前に供え、葉から抹香や線香を作る材は珠数などにする。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗、甲賀)、鳥 (加茂)、桑市、三、鈴郡、鈴市、亀、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] シキビや (です)、慕い (へ) まいる (参詣する) かざな (嗅いが) する。

しきめ (数目) 【名詞】 量などを敷いた時の隙間 [会話] 物と物との間い入れとくの (ておくの) を、あんまり (あまり) こやよけ (これは沢山) あいとんない (あいて居る) 紙 はさけとけ (挟んでおけ) 言うて。シキメな (が) よけあいとると (開いて居ると) 新聞紙折って はさけおったやんかい (挟んで居ました)。

しきもん (敷物) 【名詞】 下に敷く物。(伊) [会話] シキモン。うわしきしたり、布団え したりな。敷布や (だ) とか、下へ敷くのを シキモン。シキモンも捲くととけ (ておけ) 言うてな。うすべりでも、蓆でも 其処へ 敷くもん (物) を シキモンやし (です)、芝居見に行くのん (に)、シキモンも敷いてのおて (なくて) じべた (地面) へ座った言うてな。

しぎよ (繁) 【形容詞】 沢山 多い [会話] 西の風でも、シギョ 吹きゃ (吹けば) 怖い、可愛い殿でも 来な (なければ) 憎い言うて。西の風でもシギョ 吹きゃ (吹けば) 怖い言うて、どお (樽) も、よお漕がんよん (漕げないように) びゅうびゅう して来ると まあ、あといざり (後退) してくやんない (して行くでしよう)。そやもんで (それだので) 西の風でも シギョ 吹きゃ 怖い言うて。まぜの風でも シギョ 吹きゃ さぶい (寒い) 言うて、まぜ (南風) は、したたり (湿気の多い) 風やけどなあ (だが) よけ吹きゃな あさぶい 時も有る言う事やわいな (です)。

しぎよお (しゅぎょう、しゅげふ) 【名詞】 しゅぎょう、修業、教育させる。(志) [会話] あの家や (は) 子供らも 皆しこんで 言うて、がっこ (学校) へやったり シギョオに出したり。

じぎよお (じゅぎょう じぎげふ) 【名詞】 授業、学問、技芸などを教え授ける事 (志、員、三) [会話] 授業中言うて。がっこ (学校行って)、ジギョオ (授業) 中に しょんべな (小便が) したな (したくなって) 来て、しえんしえ (先生) しょおよお (小便) 言うて 行て来い。

しきり (仕切) 【名詞】 1) 区切る事、又区切る物。
2) 伝票。領収書。[会話] ② シキリ書いて もおて (貰らって) 来た、あきんどな (商人が) 札 (入札) して、なんやかや (いろいろ) 書くやんない (でしよう)。シキリくれえ (下さい) 言うてな、値段な (が) 書いてあんの (あるのを)、シキリくれえ 言うて。なんでもな こおたもん (買った物を)、受け取り、領収書みたいなもの (のようなもの)、シキリ書いてもおて 来いよお (貰らって来なさい) 言うてな。伝票やわい (です)、シキリもるてかな (貰らって行かなけれ

ば) わからせん (判からない)、シキリ書いてくれ 言うて、よお言うわい (よく言います)。① あっちゃ (あちら) と こっちゃ (こちら) と へきつとけ (区別しておけ) 言うてな シキットケ 言うたり へきつとけ 言うたり。

しぎりだし 【名詞】 1) 下痢便が少し出る事 又は便秘
2) 少しづつ出すこと。出し惜み。[会話] ② ちよいちよいつな (少しづつです)、みんな (皆) ひとくらん (一度に) 出したらんと (てやらずに) くたてな (食べてしまつては) ちよいと (少し) 出してきい、又 ちよいと 出して来いすんのを (するのを) シギリダシ、ちよいちよいつ いくくらんもすんのを (幾度にもするのを) シギリダシ言うてな。けちんぼの事なシギリダシして、いやらしなあ 言うて、ひとこまん (一度に) だいたやええのんなあ (出してやればよいのに)。借金しとでも (していても) 一円戻し 五十銭戻ししい (して) しぎりばらとか、シギリダシとか言うてな。シギリダシで ま ほん、おっとしや (本当に) おぞげやれ (腹が立つ)。ひとこっばい (一度) に 出したやええのん。① 便所もな しぎって でやんで (出なくて) シギリダシや (です)、便秘してな ちよいちよいつ 兔の糞みたいなの (のようなのが) ころつとでんな (出るのは)。

しぎりばら 【名詞】 少しづつ出る下痢。排便前後に痛みを伴い、排便後もすぐ便意をもよおす。[会話] シギリバラ言うて シギリバラん (に) になると なめ (粘液) たれよおったの (して居たのです)。シギリバラ言うて さるさこん 採て来て 煎じて飲むと治りおった (治りました)。さるさこん、あや (あれは) どえらい、ええね (大変よいのです) あれは 下痢の妙薬や (です)。さるさこん 飲んで 下痢な 治らんで (なくて) とくさを煎じて 飲んだや (だら) 治りおった (治りました)。シギリバラしといて (しておいて) 腹な (が) にかにかつと いと おて (痛くて) 気持なわりのおなあ (悪いのです) にかにかつと どいらいも (大変にも) 痛たないんけど (ないのだが) さぶけな (寒けが) して来る程 気持な (が) 悪りなあ (悪いのです) 今しや あいな (今はあんな) 病氣しやせん な (しません) シギリバラや (だ) 言うて よおしよおたわい (よくしました)。

しぎりばらい 【名詞】 少しづつ出し惜しみながら支払うこと 一度に支拂わず何度にも分けて各客と支払う事 [会話] 借金しとでもなあ (していても)、まあ一円戻し、五十銭 戻ししい (して) シギリバライとか し

ぎりだしとか言うてな、シギリバライで、ま ほんおとっしゃ (ああ) おぞげやれ (腹が立つ) ひとこっばん (一度に) 出したんやええのん (出してやればよいのに)。

しきる (仕切る) 【他ラ五】 全部引き受ける。(志 (布施田)) 2) 区別する、こまかく分ける。 3) 勘定を締め切って計算する [会話] 1) 担のて (担って) 売り んきいでも (に来てても)、それ シキル 言うて 皆買う事を。それ 皆 シキル 言うて、ぼおのき 言うて (抜き言つて) 担のてくんのを (来るのを)。昔や なあ (は) 担のて 蜜柑 や なんやかや 売りに きよつた (来て居ました)。ぼおぬき (天秤榊除き) シキツタレ (てやれ) 言うて、担のて 来た ながり (その儘) こおたれ (買ってやれ)、ぼおぬき シキツタル 言うて なあ (言いました)。有るだけ こおたれ (買ってやれ) シキツタレ 言うて、ぼおぬき 言う なあ (のは) 担のて 来た ながりを こおたれ (買ってやれ) 言う 事 やる なあ (でしよう)。昔や (は) ふご で 担のて 売りに 来た よつた (来て居ました)。ほと (すると) ぼおぬき シキル 言うて。

しぎる 【他ラ五】 1) 便が思うように出ない。便が残った感じがある。(下痢の時) 2) なめらかに出入り出来ない。防げる。遮る。(志 (布施田)) [会話] 1) よおな (用、便が) シギル たら (とか) 言うて (言います)。用 な 出のくい事 (出にくい事) を シギル 言うて。尿が シギル とか。あんで (あれで) 出て来て (出産時頭が見えて来て) シギツタテ (しまつて) 言うて、頭 な (が) いびつ (凸凹、不整) になつとると (なつて居ると)、ほや まあ (あれまあ) シギツタタンナア (てしまつたのだなあ) 言うて こや (これは) シギツタタン かして (と見えて) 頭 瓢箪 になつとられ (なつて居る) 言うて、こいな (こんな) 瓢箪 になつとると (なつて居る) こら (子供) よお (よく) 有り おつた なあ (有りました)。シギツタテ 頭 な (が) へちかんどら れ 言う。へちかんどる 言う やんか (言います)。い が んどる (でる) と、昔や わが とら な (自分達で) すると、産 な (お産が) たつかい (高い、難産) 人 ら な (は)、シギツタテ (てしまつて) 頭 な (が) 瓢箪 み た い にし とられ (のようにして居る) へちかんどら れ (で居る) 言うて。産 な たつかい 言う と 難産 の 事 言 う の な (言います)。シギル 言うのは 出 ぬ くい。出 の く う て (出にくくて) ま あ な 一 休 み した ら と (してやると)、シギツタ (てしまつた) 言 う の な あ (言うのです)。便 で も 子 供 で も な ん で も (何でも) 出 ぬ く

い時に シギル。

じきん 【副詞】 すぐに 間もなく

しく (敷) 【自カ五】 延べる、一面に広がるようにする。
ひく

しぐ (死) 死ぬる (志 (布施田))

じく (ぢく) (軸) 【名詞】 1) 草の茎 (四) 2) じく 軸 広く回転運動の中心。或いは物事の要を言う。車の心棒。巻物や掛物の芯にする丸い棒。筆、ペン、マツチ等の手に持つ部分 3) 物事の中心、活動の中心になる物や人。[会話] 1) ジク な (が) なあ が い (長い)、里 芋 の ジク な (が) なあ が い と か、芋 の く き (茎) の、じ い き が なあ が い と か 言 う な あ (言います)。じ い き と も 言 う し (言います)。なあ が い の お を (長いのを) は あ や な し ん (葉でなくて) 芯 を ジク や (だ) 言 う て (言います)。

しぐさ (仕草) 【名詞】 動作、ある動作をする時の態度や、やり方。(志 (布施田)、南) [会話] シグ サ 言 う の (のは)、仕事 する 事 を あ の ジグ サ 見 よ ま あ (見なさい) 言うて、なん か わ り (なにか悪い) 事 す る と あ の ジグ サ 見 よ ま あ 言 う な あ (言います)。下 手 な 事 し と る (して居ると)、あ ん な (彼の) シグ サ 見 よ ま あ。え え (よい) 時 に は 使 わ せ ん な あ (使いません)、わ り (悪い) 時 ん な あ (に) あ や (あれ) あ の シグ サ 見 よ ま あ 言うて、見 と て (見て居て) え せ ら 笑 い (嘲笑) す る よ お な、あ ざ 笑 い す る よ お な 時 ん な あ (に)。ほ や (ほうれ、それ) あ の 人 の シグ サ 見 よ ま あ 言うて。下 手 な 事 し と る と (して居ると) 言う の (のです)。そ お 言 う 時 に 言 う ね (言うのです)。シグ サ な わ り わ れ (悪いです)。

しくさつて して 行なつて [会話] 腹 な (が) 立 つ と る (ている) 時 や (は) そ い な (そんな) 事 し や が つ て (して) 言うて な こ い な (こんな) 事 シク サ ツ テ とか 言うて な あ。

しくさる (為腐) 【他ラ五】 する、行う、罵話。(志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (加茂)、上、張、北、熊)

しくされ しなさい。せよ。[会話] した れ (してやれ) 言う事を、それ シク サ レ とか、持 つ て 来 く さ れ とか、シク サ レ とか 腹 の 立 つ と る 時 使 う 言 葉 や (です)。わ り (悪い) 言 葉 や (です)、し て や れ よ お 言 う 事 を シク サ ツ テ とか。漁師の 人 ら (人) で も 言 葉 使 い の わ り う ち な (悪い家が) そ い な (そんな) 言 葉 使 い お つ た (使つて居ました)。堀 の は だ し か (裸足) か 言 う て、元 気 は 有 つ て え え ね け ど な あ

(よいけれど)、言葉使いもわりし(悪い)する事な大胆な(が)よおな事を しいおったなあ(して居ました)。堀のにげ(人、人間)は。

しくさんな するな

じくする 熟す [会話] ジクスル 言うの(のを)あかろで 言うて あかろんで来た 言うのな(です) 麦な(が)あかろんで来たやとか(だとか) びやな(枇杷が)あかろんで 来たとか言うて 熟する事なあ。

しくだい【名詞】宿題(桑郡、鈴市、松、多、伊、北、尾)

しくみ(仕組)【名詞】計画、設計、それによって出来上ったもの。[会話] あんな(彼の)シクミやれ(だ)とか、あんな(彼の)しわざやれ(だ)とか、あんなシクンダ仕事やなあ(出来事だ)言うて。隠して(かくれて)したり なんやら(何か)変なよおな事すると、あんな(彼の)しぐさやなあ(だ)とか シクミやなあ(だ)とか言うて、しぐさや、シクミや よお(よく)似た事やなあ(です)。

しくむ(仕組)【他マ五】企てる。計画する。

しぐれ(時雨)【名詞】にわか雨(阿) [会話] 宵のシグレは 明日の風言うて(言つて)、西から曇つて来て じい(地)から 曇つて来んのを(来るのを)シグレダッテキタ言うて 山から。すと(すると)シグレな(が)降つて来るやんかい(来ます)。雨やなしん(でなくて)シグレ言うて、じきん(すぐに)やんでくのなあ(やんで行くのです)。じきん やんでくけど(が)ばらばらあつと 降つてくんの(来るのを)シグレや(だ)言うて。宵にシグレな(が)降ると あしため(翌日)は ええ(よい) 風な(が)、よおするもんで(よくするので)宵のシグレは 明日の風言いおつた(言つて居ました)。

じぐろい(ぢぐろい)(地黒)【名詞】【形容詞】肌の色が黒い。もともとから黒い。

じぐんでく 死んで行く。

しけ(時化)【名詞】1) 風雨のため海が荒れる事。台風(志(畔名、片田、越賀、布施田、甲賀、国府、浜島、船越)鳥、(神島、坂手)桑市、四、鈴市、安、松、多、阿、張、北、尾、南)2) 海が荒れて魚が獲れない事。不漁(財布の中が軽い)不景気(志(浜島、越賀、船越)尾) [会話] 1) シケ言うの 台風の事シケや(と)言うてなあ(言います)。八月(陰曆)はシケドキ(時期)でなあ言うて、八月ん(に)なるとシケな(が)。2) 漁が無い時も、シケやつた(だった)。

波な(が)したり、風な(が)吹いて来たりすると、シケでなんもはざざつた(なんにも駄目だった)とか言うなあ(言います)。シケな(が)すると 海な(が)荒れて来るよつてやんない(からでしょう)。なんも(何も)獲らざつた(なかった)事を シケや(だ)言うてなあ 漁な(が)無い事を。ととな(夫が)無いよおんなつてくと(ようになって行くと)、あやまあ(彼女は)シケのあげくやんあ(だ)後家やんあ(だ)。ととな(夫が)死んでたのおを(死んでしまったのを) あや(彼女は)シケのあげくで 後家や(だ)言うて(言います)。

しげ【名詞】わだかまり、かたまり。[会話] シゲ言うな(のは)、なんやら(なにか)奥に物な(が) はさかつた(はさまつた)よおな、言いたい事、よお言わんと(言えずに)、なんやら(なにか)しこりな(が)有るよおな人や(だ)言うて、シゲも しこりも 一緒やわい(です)。

じげ(治下)【名詞】管轄内の村里。公共の物。共同体。治下、地下、村や集落。(志(浜島、鶴方、甲賀、国府、安乗)鳥、北) [会話] シゲ言うて 町の事。役場な(が)村 治めんねよつて(治めるのだから)役場でもええわ(よろしい)。

じげ(ぢげ)(地毛)【名詞】自分の髪の毛 もとから生えている髪の毛

しけあげく【名詞】後家。しけ、しびなあごけ参照

しけこむ 風雨が激しく雨が振り込む

しけこむ【自マ五】1) しよげる 2) 金がないのでじつとして居る。3) 男女が密会して居る

じけつ(ぢけつ)(痔血)(痔尻)【名詞】痔 痔疾の出血

しけてく 色があせる(志(布施田))

しけてきた 1) 天候が荒れて来た 2) 色があせて来た

しけどき【名詞】台風の季節。しけ参照

しけとる 1) 台風になっている 海が荒れている(志(布施田))2) やつれている(北、尾)3) 退色している 4) 落ちこんでいる(感情)(志(甲賀))

しけのあげく【名詞】1) 時化のすんだ後。2) 後家。しけ参照

じげのたいこ(地下)(治下の太鼓)公共物、公共物だから大切にしないでよい意味が有る。(志(布施田)) [会話] ジゲノタイコやなあ(だ)言うて(言つて)、なんでも使うと。ジゲノタイコは 誰でも使かやええやんな(使えば良いでしょう)。そやもんで(それなの

で) なんでも勝手に使うと (自由に使うと)、おらげ (俺家) ジゲノタイコにして言うて、よけ (多く) 使うと。ジゲノタイコ言うな (言うのは) 盆 (孟蘭盆会) に叩いて 廻るの (のを) ジゲノタイコで、誰でも だんねえんよって (かまわなから)、そやよって 人 (他人) のもん (物) でも かってに (許可なしに) 使うと、ほおた (ああ) ジゲノタイコにして おらげのもん (物) を言うて よお (よく) 言う言葉 やわい (です)、かってに使う事を。ジゲノタイコ、誰でも 使こてもええ (使つてもよい) 誰でも 使かやええね (使つてもよいのです)。後のしまつさえ (片付けだけ) しとけさいき (しておきさえすれば)、もとのとこん 置きして (置いて) しまつさいしときや (片付けさえすれば) つかうな (使うのは) だなつこても (誰が使つても) そんで (それで) ジゲノタイコ。じげ言うな (のは) 役場の事言うのなあ (のです)。町の事言わせんのかい (言うのと違いますか)。町やて (でも) 昔や (は) じげや (だ) 言うて。役場が 村 治めんねよって (治めるのだから) それでええわ (よろしい)。じげのもん (物) 言うと、仲間のもんやわい (物です)。村のもんやよって (だから) 村のにげ (人間、人) なら だなつこても ええ わけやんかいな あ (です)。そやよって (だから) ジゲノタイコや言う (言います)。そおすと まあ おおなかも (大仲、仲間の費用) 一緒や (です) こなか (ひそかに、自分の物にする) やなし (でなくて) おおなか。

しけぶり (時化降) 【名詞】 強風を伴ったはげしい雨。

じげやま (治下山) 【名詞】 公共の山林。部落共有の山林 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、松、度、熊) [会話] ジゲヤマや (と) 言うて、山でも村の山な (が) 有って、あや (あれば) ジゲヤマやよって (だから) 切りん (に) いきやええね (行けばよい) 言うて、ほしのん (欲しいのに) いるもん (要る物) 切りん (に) いって (に行っても) ジゲヤマやよって わるわれやせん (怒られない) 言うて。

しける (時化) 【自カ下一】 1) 色彩の薄れる事。色あせる。あせる、褪せる、浅せる。時間が経過したり、光線が当たったりして、色つやなどが薄くなる。色がさめる。もとの力や美しさ失う。衰える。(志 (鶴方、立神、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)) 2) 元気がなくなり弱る。しょげる。やつれる。(志 (浜島)、桑市、上、阿、伊、松、北) 3) 天候が荒れる 俗に風を帯びて降る雨をしけると言うは非なり。凡てシケルとは日の照らざるを言う。雨の降るにも限らざるなり。況や風の有無に

拘る辞に非ず。国に由て風無くて雨降るをしけると言うなり。風雨降るをシケルと言うは吾党の方言也。(伊勢の浜萩 (桑市、上、阿、伊、北) [会話] 3) シケル言うな (のは) 時化も有るし、1) 色な (が) さめてくと (て行く) と、シケル言うなあ (言います)。2) にげ (人間、人) も ぼさつとしとると (して居ると) あやまあ (彼は) シケテ言うしなあ。なんやら ぼやんとしとると あやまあ シケトテ (て居て) まあ言うて。

しける (湿気) 【自ラ五】 湿気を帯びて軟らかくなる 湿気を活用した語 (大言海)

じご 【名詞】 東北の風

じごえ (地声) 【名詞】 生れつきの声

しこお (しこう しかう) (趣向) (思考) 【名詞】 工夫、方策。しゅこう 趣向、思考の変化した語。(三、鈴郡) [会話] シコオ言うなあ (言います)。しゅこおな (が) ほんとやろけど (本当でしょうが) シコオ。シコオこらした仕事やなあ (だ) 言うて。シコオをこらして じつば (立派) な仕事したなあ言うて。シコオ言うのは 色々考え事して こまかい (細かい) 立派な仕事しとる (して居る) 事を、シコオこらした仕事し言うて。

しごお 【副詞】 至極 大変 [会話] ませのかげな (南風が) シゴオ 吹いて来ると、ちぶいて来た (強く吹いて来た)。

しごき (扱) 【名詞】 動詞 しごく (扱) の連用形の名詞化1) 扱き、細い紐、しごき帯の略。(志 (布施田)、鳥 (坂手)、上、阿、張) 2) しごく事、厳しく鍛練する事。[会話] 1) シゴキ言うな 細紐の事なあ (です)。ほっそい (細い) 紐の事。2) しごかれた言うて 偉いさんな (偉い人が)、しこんで呉れんのを (教育して呉れるのを) シゴキ、しごく言うやんかい (言います)。シゴキな (が) えろおて (大変で) 言うて、厳しいと。1) シゴキ言うのは ほそひぼ (細紐) ほっそいひぼ (紐) の事。ひこび言うのも一緒やわい (です)。昔の人ら (は) ひこび言うね (言うのです)。前掛けの ひこび言うて、前掛けの ひぼ (紐) を 紐の事を。腹巻きいも (にも) 紐着けると それもそげん言いおったなあ (そんなに言いました)。

しごく (扱) 【他カ五】 擦る。細長い物を手の中に握りしめたり、指で強くはさんだりして、そのまま手や指をこするように移動させる。[会話] 仕事をよけしやされて (沢山さされて) こき使われん (る) のをなあ、シゴカレタ言う。成績な (が) わり (悪る) かったり

するとなあ、先生に こやま (これは) シゴイテ 貰らわなはざん (なければ駄目だ)、シゴイテクレエ (下さい) 言うてな。ごしごしと シゴイテ おこして、痛おて (痛くて) 言うて、そして、なあのおても (縄なっても) シゴキおったやんかい (ました)、磯 行てなあ はじかんだんの (縮んで居るのを) 棕櫚綱でシゴクと痛おて、まいきってなあ (飛び上って) 擦る言う事や (です)。

じごく (ぢごく) (地獄) 【名詞】 1) 絶対に抜け出せない苦痛な状態 2) 絶対解く事の出来ない結び方 3) 杭などを堅く打ち込んだ状態 4) 行方不明 [会話] 1) あの家い (へ) 行くと ジゴクやれ (だ) 言うてなあ、ジゴクんおる (に居る) くらいやなあ (だ) 言うて、かたくるし (堅苦しい) 一概な家い (へ) 行くとなあ、まあ すると はざんやろおもて (駄目だろう思って) きい (気) 使うので ジゴクやれ (だ) あの家い (へ) 行くと言うてなあ。2) 物をし ばったり (くくったり) する時ん (に) しっかりくく ったると (くくってやると) ジゴクや (だ) 言うね (言うのです)。かっとおしたると (堅くしてやると) ジゴクや (だ) ほどきも 出来やへんわれ (出来ない) 言うてな 3) 杭、打ち込んで も こや ジゴクん (に) 打ち込んであられ (有る) 言うてな、かっとお (堅く) して有ると ジゴクやなあ (だ) 言うてなあ。4) いたまま (行ったまま) かえってきやへんと (来ない) ま、ジゴクん (に) 行たんかして (行ったのか)、きやせんわれ (来ない) 言うてなあ、なつとも (何も) 言わんと (ずに) 行くとなあ。飛んだ思うな そろそろ行くに 来んと思うな また来るに言うて 書き置きしとくと (しておく) とんだんでわれ (家出したそう) 言うてなあ。

しこしこ 弾力があって噛むと歯ごたえのあるさま。(志 (布施田)) [会話] シコシコと 旨いなあ言うて、ちよいと (少し) はあい (歯へ) こつこつしとると (している) シコシコと旨いなあ言うて、団子もかったいと (堅いと) シコシコと 旨いなあ、シコシコ言うてな、ちよいとかったいの (少し堅いの) をな。

しこしこがったい 【形容詞】 堅くもなく柔らかくもなく歯ざわりのよい、堅さ。弾力性のある堅さ [会話] ちよいと (少し) やいこおも (柔らかくも) なし、かっとおも (堅くも) なし、すんなあ (するのを)、シコシコガッタイ言うて。しこしこことがいな (大変) 旨いなあ言うて。

しこせん 熱心、努力、精を出して。[会話] シコセン

言うな (のは) いっしょけんめ (一生懸命) である事 なあ (です)。シコセン言うて (言て)。

しこたま 【副詞】 沢山 どっさり。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、志島、国府、安乗)、桑市、張) [会話] シコタマこおて (買って)。シコタマ かぬ (金) 貯めて言うて どっさり。よっけ (沢山) 貯めた言う事 なあ (です)、シコタマ かぬ (金) も 貯めとんね (て居るのだ) あの家言うて。ほて (そうして) 喰うので まあ (もう) シコタマ 喰うたよお言うて。どっさり言う事 やなあ (です)。沢山言う事 やなあ。

じごち 【名詞】 東北の風 (志 (布施田)) [会話] ジゴチ 北ごち いなさごち ほんごち。

しこって 精を出して、一生懸命に

しこつとられ 一生懸命になっている [会話] いっしょけんめ (一生懸命) に なつてくことなあ (なつて行く事です) 仕事すんのでも (するのでも) あやれ (あれ) シコツラレとかなあ。

しこつとる 1) 熱中している、夢中になっている 2) 筋肉などが堅くなって居る 3) 出来物が出て居る [会話] 1) 仕事 シコツトル、いっしょけんめしとるとなあ (一生懸命にしていると)。3) そして ねぶとな (出来物が) 出来ても こつこつと しこりな (が) 有って 言うてなあ、痛いわい (です) しこりな 出来て。

しごとぎもん 【名詞】 仕事着物 仕事をする時に着る着物 仕事着 (志)

しごとし (仕事師) 【名詞】 よく働く人。勤勉家。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、張、名、北) [会話] シゴトシ言うのは 仕事する人。そして (そうして) よお (よく) 仕事する人を あや (彼は) シゴトシやなあ (だ) 言うて、人よりえらい (よく働く) 人を あのひた (人は) シゴトシやよつてんなあ (だから) 言うて よお 働く人を シゴトシや (だ)。わしら (私は) どおまんやよつて (だから)。どおまん 言うのは 怠け者、魚も有る。どおまん 言う魚 うまないわい (まずい) あや (あれは)。

しごとなはる 仕事に手が余る。[会話] シゴトナハル もんで (ので)、ちよいとすけてええ (少し助けて下さい)。

しごとば (仕事場) 【名詞】 仕事をする場所、作業場 (熊) [会話] 大工しとても (していても) シゴトバ や (だ) 言うし、工場しとても (していても)、シゴトバ。たまいれ (真珠核入れ) しとんの (しているのを) シゴトバ い (へ) 行て 邪魔すんなよお (する

な) 言うてなあ。

しごとむし【名詞】 仕事をするのが好きな人 [会話] 仕事ばつか (ばかり) する人、あや (彼は) シゴトムシや (だ) 言うて、シゴトムシで 仕事さい、しとや (さへしておれば) ええね (よいのだ) 言うて。

しこなし【名詞】 1) 動作、身振り、ふるまい。 2) 仕事を充分に自分のものにして居る事。慣れて上手な事。[会話] 2) シコナシ。あや (彼は) 仕事シコナシとんなあ (て居る)、言うなあ (言います)。あやまあ (彼は) なんでも よおして (よく出来て) 仕事シコナシとんなあ 言うて。上手にする人。シコナス言うのは 何でも上手にする事 シコナス言う (言います)。きもん (着物) も上手に着ると 着こなしな (が) ええなあ (よい) 言うて。

しこなす【他サ五】 物事を巧みにやりとげる。しこなし 参照

しこみ (仕込)【名詞】 1) 出港のため航海に必要な食料、日常生活用品等を船に積み入れる事。しこむ参照 2) 教育 [会話] 1) シコミ言うのは、出船 (でふね、出港する事) で、シコミや (だ) 言うて。なんもかも (色々)、米や、麦や、味噌や、野菜や言うて (言つて)、入れんのなあ (船に積み込むのです) シコミや (と) 言うて、なんやかや (色々) 買い求めて 用意する事なあ (を) シコミ。そいな (そんな) 時に シコミ言うなあ (言います)。用意する言わんと (言わずに) シコミする言うて。

しこむ (仕込)【他マ五】 1) 教える、教育する。 2) 用意する、準備する。(しこみ) 3) 味噌などを作る。 4) 買う、手に入れる。[会話] 3) 味噌シコム。4) 材料をシコム。なんやかや (色々) 買い集める事 シコム言うなあ (言います)。材料を 買い集めて 材料をシコンデ来たとか言うてなあ (言つて)。朝鮮渡る (出稼ぎに行く) 時に、なんやかや 要るもん (物) を着るもん (物) でも 食べるもん (物) でも 買い集めるんの (ののを) シコム。夏中 要るもん (物) を、シコンデ来た言うて。1) 子供ら (を) シコム言うのも がっこ (学校) へ、やったり 下宿い (へ) 出したり すんの (するのを) シコム。子供らを シコム。あの うちや (家は) 子供ら 皆 シコンデ言うて、がっこい (学校へ) 出したり、しぎよお (修業) に出したり すんのなあ (するのを) シコム。3) 味噌シコム 味噌こしらえる 作る。豆を蒸してもろて (貰つて) 塩入れて 水入れて そいて (そうして) こねまわして まあ 喰うよおん (に) すんのを (するのを) シコム。

そして (そうして) なんやかや (色々) 新しもん (物) こおて (買って) すると、ええもん (よい物) シコンダナア言うやんかな (言います)。ええもんシコンダナア (よい物しこんだ) はりこんでもろた (気張つて貰つた) なあとか、シコンダとか言うて。着物こおたり (買つたり) 靴こおたり 物こおた時ん (に) ええもん シコム。

しこり (凝)【名詞】 動詞しこる (凝) の連用形の名詞化

1) 筋肉のかたくなった状態。(志 (甲賀)) 2) 腫瘍が固くなって居ること。(鳥) 3) わだかまり。(志 (甲賀)) [会話] 2) こつこつしとる (して居る) と こなあ (所です)。シコリな (が) 有る。腹い (へ) シコリな (が) 出来た こや (これは) 癌やなあ (だ)。乳い (へ) シコリな (が) 出来た、こつこつしとる (のを) シコリなあ (です)、塊り。3) 人間でも なんやら (何か) 言いたい事言わんと (言わずに) おると なんやら (なにか) シコリな 有るよおな言い方して言うて。しげな (が) 有るよな (ような)、シコリな (が) 有るよおな人やなあ (だ) 言うて。しげな (が) 有る しげ シコリも一緒やわいなあ (です)、しげ言うな (のは) なんやら (何か) 奥に物な (が) はさかった (挟まった) よおな、言いたい事な (が) 有るけど、おもても (有るのだが思つても)、よお言わん (言えない) 人なあ (を)。なんやら シコリな (が) 有るよおな 人やなあ (だ) 言うて。こだわつとる (ている) 事を こだわつとる 時に。

しこる (凝)【自ラ五】 1) 熱中する。夢中になる。一生懸命。(志 (浜島、布施田、鶴方、立神)、名、多、阿、張、尾、北) 2) 肩などがこる。[会話] 1) いっしょけんめ (一生懸命) シコル、シコツトルとか 寝コツトルとか言う。夢中になつとる (なつて居る)、夢中になつて 一生懸命なつとる事や (です)。人な (が) なつと言うても (何と言つても)、その人の事も 聞かん (聞かずにして居る)。熱中したる (してしま)う 事を シコル言うて。2) 肩が凝る 仕事シコッタや (たら) 肩が凝るよお (凝ります) 言うて 言うわい (言います)。此の時 こる言うのは かつとお (固く) なる。

しさい (ちさい) (持斎) (致斎)【名詞】 産婦に祝いに送る食糧。白米、小豆、副食物を重箱に入れて持つて行く。[会話] シサイ言う。こお (子供) もおける (出産する) と、シサイもてかな (持つて行かなければ) 言うて、重箱に米入れてもてきおつたわい (持つて行きました)。今しや (今は) かしん (菓子) でも、ぜん

(銭)でも、するけどなあ(しますが)。米の無い時やったもんなあ(でしたから)。米を重箱入れて、シサイや(だ)言うて、こおもおけるとシサイよけもろて(沢山貰って)まあ(もう)米や(は)よれやれ(沢山です)えんりよせんと(遠慮せず)にくやええんどお(食べればよろしい)言うて、おびやど(産婦)に言いおった(言っていました)。その時や(は)米な(が)たしないもんで(少ないので、重箱い(へ)入れて皆持てきおったの(持って行ったのです)。そと(すると)おびやどな(産婦が)えんりよせんと(遠慮、心配せず)に食べられるやんない(でしょう)。米だけでなんやかや(色々)卵を呉れる家(うち)も有りおったけど(有りましたが)、そいな(そんな)家や(は)よくよくやなあ(特別です)こいもんな(血縁の濃い者が)呉れる時も有るけど(けれど)、たいがい(大体は)米だけやわい(です)。祝の時小豆やそいなもん(そんな物)は、豆ひとつぼおつ(一粒)まめ(健康)なよおに言うて、豆ひとつぼ(一粒)真中い(へ)入れる家も有りおったなあ(有りました)。昔の一概な(真正直な)堅苦丁寧な家はそげんして(そんなにして)呉れおったけど(呉れましたが)、なんも入れん(なんにも入れずに)呉れる家も有るし(有ります)。

しさいといて 仕事などを途中までしておいて [会話] 仕事 はんぶしといて(半分しておいて)、えごつと(完全に)仕上げんと(ずに)すんの(するのを)シサイトイテ まあ言うて。仕事のシサイトイテ まあ言うて、飯の食いさしやたら(だとか)、まんじゅうはんぶ(半分)食い残すと、くいさしを まあ だれ(どれ)くたるかいなあ(食べてやろうか)言うて。

しさがし【名詞】仕事を途中でやめた状態。完成させないで放置する。しいさがし(志(鶴方、神明、立神、国府、安乗)) [会話] なんやかや(色々)仕事しとても(して居ても)ほつといて(ほおっておいて)、又ほかの仕事しとると(していると)仕事シサガシといて。

しさがす(爲探)【他サ五】仕事を途中でやめる。あれこれ手をつけて完成させない。しいさがす。(南、熊) [会話] 仕事しさがして はんぶ(半分)して、はんぶせんと おいたりすると(終わると)、なまはんじゃくな(中途半端な)事してシサガス。

じさき(ぢさき)【地先】【名詞】1)居住地や村落に近い事。又近い場所。2)境界線上の延長、海面の占有領に使用する。(志(布施田)) [会話] 1) ジサキ言う

な(のは)さかえ(境界)の事言うんやろなあ(言うのでしょう)。ジサキ言うなあ(言うのは)。和具のジサキは 何処迄やて(だ)言うよおな、そいなのおを言うんやろなあ(そんなのを言うのでしょう)。おらげ(俺の家)のジサキい(へ)あやれ きい(木)植えて来て言うてなあ。境え(に)植えて来るとなあ土地の境界をなあ、ちよいと(少し)でもして来ると喧ましてなあ(しくて)、²⁾和具のジサキと、越賀のジサキと、せだ(布施田)のジサキと言うてなあ、そのジサキ争いも えらいねてや(大変なのです)、ひし(鉢、搦んで突きん(に)くんね(来るのです)せだの人やわ 物妻いねんなあ(のです)、てぐさ(天草)の口や(だ)なんや(なにだ)言うとなあ、けえかい(境界)から ちよいと(少し)、寄ってくとなあ(行くと)、ひし持って、突きん(に)きよおった。

しさつて【名詞】明明明日、四日先の日(志(鶴方、一、伊)) [会話] あした あさつて ささつて シサツテ 四日目や(です)。あさつて ささつて シサツテ言うな(言うのは)四日目をなあ。

しざま(爲様)【名詞】行って居る格好 した後の様子 [会話] あの人な(が)する げえ見よまあ(様子見なさい)言うてなあ シザマなあ。

じさま(翁様)【名詞】男の年寄り、おじいさん。(三、南) [会話] ジサマも ばさまも 早よ 起きよ 地山の ほつぼな(が)鳴いて来た言うて。

しさる(退)【自ラ五】後へひきさがる シリ(後)サル(去)の意(広辞苑)(津)

しし(猪)【名詞】猪のシシ(獸)の略(大言海)(安、一、松、多、阿、張、名、尾、北) [会話] シシ。御座のししがたけ(猪嶽)に、しいろい(白い)シシが しひやくしいじゅうしひき(四百四十四匹)おってその内で 一番しいろいシシの尻ひげをしほん(四本)抜いて 詩を作ったら よい詩が作れたつと言うて、御座の猪嶽おったんては(居たそうです)。しいろいシシのしりひげを 四本抜いて 詩を作ったら よい詩が 作れたつと。

しし【名詞】小便 シトを略して重ねて言う(大言海)(鳥、津市、上、阿、張、名)

じじ(ぢぢ)【翁】【名詞】祖父、おじいさん。(志(立神)、鳥(坂手、浦村)、鈴郡、津、一、松、度、南、熊)

じじい(ぢぢい)【翁】【名詞】年老いた男子、老人。(志)

ししええ(しせい)【名詞】姿勢(北)

じじかれ、ばばかれ 蜜柑の袋を割る事。[会話] 蜜柑剥いても ジジカレババカレしてくれ言うて、蜜柑割ってすんのを ジジカレババカレ。

しじく(しずく、しづく)【釋】【名詞】水の小滴。水などの小滴がしたり落ちる事、又その水。(志(片田、浜島、鶴方、立神、甲賀、国府、安乗)、桑市、三、鈴郡、松)[会話] しずくの事を シジク言うの(言うのです)。水のシジク。シジクも 無いよお(ように)皆 漏ってたれ(て行った)言うて。桶な(が)はっしゃんどたり(乾燥して居たり)、バケツな(が)破れとたり(て居たり)すると、ほおた(ああ)水な(が)、いっとたの(入って居たのに)こや(これは)シジクも無いなあ言うて。しずくの事なあ(です)。

じじくさ【名詞】老男子を卑しめて言う語。爺。(度)[会話] ジジクサ ばばくさ言うてなあ(言うて)。昔や(は)じいさんな(じいさんが)なつとかと(何か)言うて ジジクサ言うて(言うて)。ばあやんな(が)言うて ばばくさ言うて、かかかしてやら(母親とか)とと(父)やたら 言うて、言葉使いな(が)わりいて(悪くて)そいな(そんな)言葉使いおったわい(使って居ました)。

じじくさい【形容詞】1) 老人のようだ 2) むさくるしい。不潔だ。汚い。(松、多、上、阿、南)[会話] 1) ジジクサイ。ふけこんどるとなあ(でいると)、ジジクサイ。若いもん(者)でもなあ としよりみたよん(年寄りのように)しとるとなあ(していると)あやまあ(彼は)としよりくさいなあ(年寄りくさい)。

じじくそ【名詞】爺、卑語(一、度)[会話] じじくさ(くそは)言うのを ジジクソ言うてなあ。

ししくだめ【名詞】岩礁の上にある小貝 [会話] シシクダメの、たかあがり言うてなあ。磯もん(小さな貝)の ふさな(蓋が)ぺらぺらの うっすいのおを(薄いのを)、旨いのなあ(です)あの シシクダメ。そんな(それが)島の岬におんね(居るのです)ほやがりに(頂上に)、波な(が)こんでも(来なくても)岬におってなあ(居て)シシクダメの たかあがりやなあ(だ)言うて、旨いなあ あや(あれば)あまざくうて(甘くて)。

しじくだる 水の垂れる程、濡れる。びしょぬれ。ぬれぬれ。しずくたるの義か。(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(鳥羽)、南)[会話] 濡れると シジクダル。雨な(が)降って来て しじくな(しずくが)たれる言うよおな(べ

とべとに濡れる。べとべとになった言うのを シジクダル。しじくな 垂れて来て。濡れた言う事を、シジクダッタ言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

しじご(指似子)【名詞】陰茎(志)

しじつ【名詞】手術(志、松、北)[会話] 白内障 シジツした。

ししな 物事のしはじめ。[会話] 仕事の始めを シシナとか、し始め。仕事の始めの事を シシナ言う(言います)。始めの事を シシナ言うて、そして(そうして)何処へでも 行く時も 行きしなに言うて 言うんかい(言います)。来しなやたら(とか)言うて。

ししな【形容詞】半分乾いて半分乾燥していない状態[会話] かんからこん(堅く、かんかんに)したらんと(してやらずに)、生乾きをなあ シシナや(だ)言うぬ(言うのです)シシナン(に)なって 旨いなあ言うて。

ししば【名詞】正月の飾りにする植物。ユズリハ 譲薬 トウダイグサ科の常緑高木。高さ約6m。若い枝と葉柄は普通紅色を帯びる。葉は枝先に集まってつき、披針形で長さ15~20cm、全縁で質が厚い。雌雄異株。春、葉腋に花被のない淡黄色の小花を房状につける。花後、楕円形で長さ約1cmの果実を結び、暗青色に熟す。樹皮の煎じ汁を駆虫薬に用い、葉は正月の飾りにする。(志(安乗))[会話] シシバ言うな(のは)正月に飾る、はあ(葉)の じくな(軸、茎、中心)が あっかあいのおを(赤いのを)シシバ言うわい(言います)。須賀利のぐも(蜘蛛)の話したやんない(したでしょう)。シシバい(へ)下って命拾いたもんで(ので)そんで(それで)シシバの魔よけや(だ)言うて まつるよおになった言うのを。うらじろを 都会へ行くと 祀(マツ)るやんな(でしょう)、あれは 裏な(が)しいろおて(白くて)表な(が)ああおい(青い)人間も 裏と表と無いよおに言うて(言うて)あの うらじろを祀んね(飾ります)。そや(て)て(そのようにして)それぞれ いわく(理故)が 有んねやろなあ(有るのでしょうか)。いわく(曰く)言うのは “因縁 曰く 古事だいでき(来歴) 言うやんかい(言います)。言い伝えとか 訳とか 訳やわい(です)。

ししばば(尿糞)【名詞】大小便(志、鳥、北、尾)[会話] しよんべ(小便)の事 シシや(だ)言うし(言いますし)、はこの事 バシバや(だ)言うし、そんで(それで)シシババ。“うかうかと 道に昼寝は出来ぬもの いずこの誰が ばばをひるやら” 言うて。亀な

(が) 道端い(で) 昼寝したや(して居たら) それい しば(柴、木の葉)のはあ(葉)な落ちて 柴、拂ろて 糞、垂れたや(たら) 亀のごおたや(甲羅です)。亀に 聞いたや(たら) 亀ななあ(が) “うかうかと 道に昼寝は出来ぬもの。いずこの誰が ばばをひるやら” 言うて 背中へ ばば(糞) ひられたもんで(されたので)。そしてしたや(そうしたら) こんだ(今度) 通り掛かった人な(が)、亀な(が) ばば 負いねたまま(背中に乗せたまま) ほおとたや(匍つて居たら) “長の道中するけれど、ばばな 匍うのは今が見始め” 言うて 亀の背中に糞なひつて有んのを(有るのを) 亀な(が) 匍おとるもんで(匍つて居るので)。**じじばば**(ぢぢばば)【**名詞**】祖父母。爺。婆。(志、津) [会話] ジジババはお爺さん お婆さん。

じじばばひのこ(ぢぢばばひのこ)【**俚諺**】老人は温かくして居たいので火の側を離れない。子供風の子、爺婆火の子。(上、阿)

じしばや(ぢしばや)【**名詞**】地芝居 その土地の者によって行なわれる芝居 素人芝居 [会話] 地芝居の事、ジシバヤ。あやなんけ(お前はなんだ) 俺ん(に) 金かっておって(借りて居て) 俺、殺すんけ(か) 言うて、ま斬られても転ばせんもんで(ないので) 斬られたや(ら) 転ばんけ(転びなさい) 言うたや(言ったら) 転ぶまで またんけ(待ちなさい) 言うて。腹、切っても ちいな(血が) 出てきやせんもんで(来ないので) ちいな(血が) 付いとる(ている) 綿もてくね(持って行くのです) 腹、切ったに(から) ちわたもて(持って) 来い言うて、越賀の地芝居や(です)。地芝居な(を) 越賀よおする(よくします) 千本桜言うのなあ 狐忠信そんな(それが) 十八番でなあ(得意で、そればっか(ばかり) しよおった(して居ました) 狐忠信初音の鼓。言うのを。

じじむ(ぢじむ) (地染)【**自マ五**】にじむ、墨、染料等が、紙や布に染み出て抜がる。にじむの訛(大言海) (桑郡、員、三、四、鈴市、伊) [会話] ジジム。にじむ言うのなあ(言うのです)。よお(よく) じゅじゅんで来たやら(とか)、ジジンデ来たやら 言うて。ジジンデ来た言うなあ(言います) にじむ事を。

じじむさい(ぢぢむさい) (爺穢)【**形容詞**】むさくるしい 汚い

しじめ(蜷)【**名詞**】しじみ貝。しじみの変化した語。シジミ科に属する二枚貝の総稱。殻は三角形で、殻長約4cmに達する。殻の表面はオリーブ色又は黒色で輪脈があり、内面は紫色を帯びる。(志、鳥(国崎)、上、

阿) [会話] しじみがいうなあ(言います)。蜷言うのをなあ シジメガイ言うの(言います)。ほおた(ああ) ちょおいと(少し) 呉れたばかやなあ(ばかりだ)、シジメガイ 一杯程 呉れた。物ちよいと(少し) 呉れると ほおた こんに(こんなに) ちょおいとや(少しだ) シジメガイ 一杯程無いなあ(有りません) 言うて。蜷貝 ちっさいもんなあ。せめて あさり貝 一杯呉れるとええんけど(よいが) 蜷貝 一杯程よか(より) 呉れやへん(呉れない) 言うやんかい(言います)。

じじもじ もじもじ。じつとして居られなく、落ちつきのないさま。[会話] いじもじ、もしかもしゃと、こお いごいてばっかなあ(動いてばかり)、一緒に座っても もしよもしよと いごいてばっかおると(居ると) よけ(あまり)、ジジモジすんなまあ(するな) 言うて。

しじゅう(始終)【**副詞**】ある動作が頻繁に行われるさまを表す。たえず、常に、いつも。[会話] シジウ あの家い(へ) 出入りしとる(している) 言うてなあ、じよおく(いつも) あの家い(へ) 行とる(行っている)、じよつく まあ おれげい(俺の家に) きとんね(来ているのだ)、じよつくや(と) 言うね(言うのです)。シジウ言うな(のは) じよつくやんな(です)。じよつく あいな(あんな) 事言うとんね(言っているのだ) 言うて、まあ 言うた様な事ばっか(ばかり) 言うとるとなあ(言っていると) 歌うととも(歌っても) じよつく あのひた(人は) あの歌うととんね(歌っているのだ) 言うたりな、シジウ言うのを じよつく言うのなあ(です)。

しじゅうぐれ(しじふぐれ) (四十暗)【**名詞**】四十才位になって視力の衰える事。(志(布施田)) [会話] 四十になると、めえな(目が) めえぬく(見えにくく) なってくんのなあ(来るのです)、シジウグレやなあ(四十ぐれだなあ)。ごおじゅう(五十) になって来ると めえな どいらい(大変) めえのくうて(見えにくくて) ごおじゅうぐれやなあ(だ) 言うて。

しじゅうくんち【**名詞**】四十九日 人が死んでから四十九日目に当る日 法事を行なう 七、七日

しじゅうのしざかり。しじゅうのしざかり **ごじゅうのござやぶり**【**俚諺**】四十才位で性欲も激しく嬉びも多きさま(志(布施田))

じじゅむ 染む にじむ(志(甲賀))

じしょ(ぢしょ) (地所)【**名詞**】土地(上、阿) [会話] 土地の事を ジショ言うなあ(言うのです)。ジショ

を皆 あの家や (は) 買い集めて言うて 土地の事
を ジショや (だ) 言うんな。

ししょお (ししょう ししゃう) **【支障】【名詞】** さしつかえ [会話] さしつかえ、さしい。シショオが出来て 言うやんかい (言います)。此处 向いてこお (向つて来よう) 思たら (思ったら)、まあ シショオが出来て、今日は 行かれざったんよお (行けなかった) 言うて 用事な (が) 出来て来た 言う事を。

じじんできた 滲みできた にじんで来た じじむ参照 [会話] にじむ言うのを ジジンデキタ。

じしんなよる (ぢしんなよる) 地震が揺る

しずえ (尻居) **【名詞】** 鍋釜を置く時、下に敷く物。鍋敷。尻据えの意か (志 (布施田、鶴方、立神、甲賀、国府)、鳥) [会話] シズエ言うのは、鍋すえ。鍋や釜を据える。昔や (は) 炭で真っ黒になりおったもんで (なって居たので)、竹でこさえて貰いおったね (作って貰って居たのです)。わあ (輪) にして。そやけど (それだけれども) きい (木) で こしやえんの (作るのです) 板でなあ。鍋の炭な (が) 落ちるもんで (ので) 受ける もんやなあ (物です)。受け皿やなあ (です)。鍋つかみと シズエと。昔や (は) ひいたくさん (竈の前) に、置いて有りおったわい (有りました)。炭な (が) 真っ黒になって落ちるもんで (ので)、シズエせな (しなれば) 炭だらけやれ (だ) 言うて。四角の きい (木) で 四隅 棧打って あれ シズエなあ。シズエ言うのは 尻据え言うのを シズエ言うねやろ なあ (言うのでしょうか)。鍋据えをなあ 鍋据えるもんやけど (物だが) シズエ シズエ言うて。

しすぐる 完了する。一つの物事を終える。修業、見習いなどを終える。[会話] 仕上がった言うのを、シスグル。まあ よお (よく) あれも (彼も) シスグッタなあ 言うんなあ (言うのです)。病気も シスグッテ、そんでも (それでも) よお なったなあ 言うやんかい (言います) 全快したの (のを) せんぎり (完全に) 難儀で びんぼしととも (貧乏していても) かねもちやん (金持家) になって来ると、まあ あの家もシスグッテ あやれまあ (あれ) 今しや (今は) 世な (が) よおなつて (よくなって) 来たなあ言うしなあ 仕上げる 言う事や (です)。

しずまる (しづまる) **【静】【自ラ五】** 乱れたり、騒いだりしていたものが、静かな状態になる。おさまる。落ちつく。[会話] 樽入れの時 樽もてて (持って行って)、その家へ 置いていて (ておいて) 来ると、酒 みんなな (皆が) 頂いて、隣の方へも 配って、そし

て シズマツタとこ (所) で、二、三日の内 ん (に) 樽返し いてこなはざん (行って来なければいけない) 言うて 行くの (のです)。

じせつ (時節) **【名詞】** ある状態になる時。物事を行う時期、又そうするのにふさわしい機会。[会話] 時とジセツを 待たんせ 言うてなあ、その時 な (が) 来る迄 待て 言うの なあ (です)。その時 ん (に) なるとま ええ (よい) 事な (が) 来ても、わり (悪い) 事な 来てもな ジセツやよつてなあ (だから)。時とジセツや (だ) 仕方無いわ言うてな。

しぜん (自然) **【名詞】【形容詞】【副詞】** ひとりでになるさま。おのずから。[会話] シゼンニ まあ あげん (あんなに) なつてたね (なつていったのだ) 言うてなあ、なつと 言うたてて (何んと言っても) 聞かせんし (ないし) まあ ほつときや (放っておけば) シゼント また なおつてくられ (来る) 言うてな、なりゆきに まかさな (なげれば) しゃあねえわれ (仕方が無い)、まあ あして (あんなにして) ほつときや シゼント また よお (よく) なつて来るとか シゼント なあおて来るとか言うてな。

しぜんと。しぜんに ひとりでに しぜん参照

しそい (仕添) **【志添】【名詞】** 葬式の時の欠損を、あきと言ひ、そのあきを 近親者が埋めるために金残を出す事。葬式の時、香資以外に金銭を出す。多くは香資を出す人が恩を受けた人の葬儀に際し、喪主に後の負担が掛からないように出す。香資をすると、喪主はその香資を出した人の葬儀に、それに見合う額を返さなければならぬが、仕添は計算外になる。(志 (志島)) [会話] 葬式な (が) あくと (欠損を生ずると) シソイ せな (しなれば) 言うて、足す (不足分を出す) のを シソイ せな 言うて。あく言うのは、かね (金銭) が 足らん (不足する) で くんの (来るのを)、葬式の費用で 香資な (が) すけのおて (少なくて)、いりよお (費用) が よけいって (多く必要として) それを あいた (不足した) 言うの (のです)。そいてそれい シソイすんの。香資は香資で しといて (しておいて)、又 シソエ 言うて すんのを (するのを) シソイ言う (言います)。何でもだ 足す時だ (不足を補う時に) シソイ や (だ) 言うやろなあ (言うのでしょうか)。葬式の時は 別ん 言う なあ (特別に言います)。葬式の時や なあ (は) 別ん なあ (特別に) 香資より 出てくと (出て行くのが多いと) シソイ せな なあ (しなれば) あいた よつてん (から) 言うて。シソイ すんのは (するのは) 濃い (血縁に近い) 親戚だけ、親、兄弟

でなあ 親しいもん (者) でも、そおせな (そうしな
ければ) 香資どんだけ (どれ程) 集まったやら (か)
どんだけいたんやら (どれだけ必要だったのか) 濃い
親戚や (で) なかったら 判らせんもん なあ (判らな
いから)。ほかのもん (他の人) は そげん せん でも
(そんなにしなくても) ええけどだ (よいが)、濃い親
兄弟とか 親しいもん (者) ら シソイ 皆 もろて
(貰って)。助けやいや よって (助け合いだから) もろ
たり (貰ったり) やったり かため事 よってん (お
互いさまだから) 助けやいや (です)。

しそえ【名詞】 しそいに同じ。(志 (布施田))

しぞおぬれ (しぞうぬれ ぢざうぬれ)【名詞】 ずぶ濡れ、
頭から下まで濡れる事。(志 (布施田)) [会話] どこ
もかも ずぶぬれん (に) になってくんの を (来るの
を) ジゾヌレん (に) になった言うてな。 きもんな
(着物が) 雨ん (に) 濡れると びたつとひつついて
地藏さんみたよん (のように) すべつとな ってく やん
ない (なっていくでしょう)。そやもんで (それで) ジ
ゾヌレ言うんやろ (言うのだろう)。

しぞくない (仕損)【名詞】 1) 失敗。やりかたを間違え
たり、結果がよくなかったりして思う通りにならない
事。しそこないの訛 2) 怪我 [会話] 1) 失敗した
事。仕事し とも (して居ても) ちよいと、まあ は
よせな (少し早くしなければ)、あらくたい して お つ
ら (手荒く、手抜きしていたら) シゾクナイや (です)。
おもわく (考えて居た事) より はざんもんで (駄目
なので) しぞこないしたねえ (したのだ)。おもわく言
うな (のは)、考えとか わがとな おもとる 事 (自分が
思って居る事)。わがとな こにして (こんなにして)
しよお思とん のおに (思って居るのに) それより う
まくい かせんもんで (上手に出来ないの) シゾクナ
イや (です)。

しぞくなく 失敗する

しぞこない (しそこない) (爲損)【名詞】 失敗 しぞく
ないに同じ (志 (布施田)、上、阿)

しそこねた。しぞこねた 失敗した。する事が出来な
かった。[会話] 仕事も シソコネタ言うてな 失敗の
事をな (です)。

しぞこねる 失敗する (熊) [会話] しぞこないしてま
あ言うて。失敗する事を シゾコネル言うてな。仕事
も シゾコネル言うてな、失敗の事を シソコネタ
言うの (のです)。言葉でもなあ 言いそこねたて やら
(とか) 言う時な (が) 有るやん かい (有ります)、は
よ こげん して (早くこんなにして) 言わな はざん の

ん (なければいけないのに) まあ ゆいそこねたて
(てしまつて) 言うて おくれる事をなあ 言いそ
かねたて 言うて な。

しそこのた 失敗した。する事が出来なかった。[会話]
失敗の事を シソコネタ言うの (のです)。

しそひ【名詞】 しそいに同じ。

した すると言う 動詞の連用形シに助動詞タがついた
もの。調査シタ。幾らシタ。

したい (額)【名詞】 したい、額。(鳥、桑市、員、三、
四、鈴市、鈴郡、亀、上、阿、張、名、南) [会話]
シタイ言う人も有るし、みけん (眉間) 言う人も有る
し シタイ言うて、したい な (が) ほん と やん なあ
(本当です)。

じたい (辞退)【名詞】 遠慮する。断る。[会話] 遠慮す
る言うのなあ (言います)、ジタイし と く わい (してお
きます) 言うて。呼ん で く よ 言う たり (招待してくれ
る言ったり)、なん や か や く よ (色々くれよう、あげ
ましょう) 言うても、まあ ジタイし と く わい 言う て、
よ ば れ て く (招宴に行く) のを、気 の 毒 な と (だと)
ジタイし と く わい 言うたり。なん や か や 貰 て も (貰
っても) 取り ん (に) 来 い 言う と、ジタイし と く わい
気 の 毒 な よ つ てん (だから) 言うて 遠慮すること。

じたい (自体)【名詞】【副詞】 元来、本来、もともと。
[会話] それ ジタイ そげ な ね よ つ て (そんなのだ
から) 言うてな。わり と こ な (悪るい所が) 有るとな
あ、も と ん な つ と る (元になっている) 事をなあ、そ
れジタイ まあな い か れ と ん ね よ つ て (駄目なのだ
から) は ざん やん か (駄目だ) 言うてな。

じだい (時代)【名詞】 頃、一定の期間。[会話] 今 し
(今) の ジダイは言うて、今 し の ジ ダイ は ほん
(本当に) 嫁 な (が) たい し よ (大将) で、婆 家
来言うてな。年寄りの 愚痴 や (です)。その頃言うん
か その 時 や わ な (です)。ジダイな (が) かわ や (代
れば) 世も変る言うてな ま 変 つ て 来 た ん よ つ て
な あ (のだから)。

しだいおとり【名詞】 次第次第にすいじゃくすること。
死に際

しだいに (次第)【副詞】 だんだんと

したいほおだい (したいほうだい) (爲放題) 自分のした
いよおにする。自分の思うままに行動すること。気儘
に振る舞うこと [会話] わが ま ま ん (に) し たい 事
し と ん の を な あ (しているのを) シタイホオダイにし
て言うて。

じだいまん (時代物)【名詞】 1) 古くから伝わって居る

物 2) 小説、映画などで江戸時代を表した物 時代物の訛

したいやろ したいだろう

したいやろけど したいだろうが

しだいよわり 次第に衰弱すること だんだんに弱ること

したえ【名詞】額(鳥(加茂)、員、三、四、鈴郡、鈴市、一、名、伊) [会話] おでこの事シタエ言うて“ひ”やのおて(でなくて)“し”や(です)。

したおび(下帯)【名詞】褌

したがこえる 美食に慣れる 口が肥える(南)

したがりがや【名詞】何でもしたい人 何にでも手を出す人

したぎ(下着)【名詞】上着の下に着る衣服。肌に直接つける衣服。[会話] パンツや(だ)とかな、中い(へ)着る、肌い(に)付けんのを(るのを)シタギや(だ)言うなあ。きもん(着物)の重ね着、シタギ言うわい(言います)。中 二枚重ねるとなあ 上着とシタギとでなあ。

したぎき(下聞)【名詞】あらかじめ 大略の事を聞いておく事 ないぎき

したく(支度)【名詞】準備、下ごしらえ、食事の用意をする事。食事。武家が人を訪問する時につける服装の意から出た語(志(布施田)) [会話] ごっつお(御馳走)のシタク。ま 夕飯のシタクせんならんよって(しなければいけないから)はよいかなはざんわれ(早く行かなければ駄目だ)言うてな。夕飯を炊いたり こそえたり(作ったり)すると 夕飯のシタクせんならんよって 言うて。あした(明日) 結婚式やのん(だのに)シタクしやなはざんわれ(しなければ駄目だ)言うたりな、用意する言う事や(です)。

したくする 準備する。用意する。

したくる 一生懸命にする。力一杯する。[会話] しいまくったる言うのなあ。なんでも(何でも)あや、いっったんに(彼は一度に)しいまくったて(てやって)くたばって(疲れて)言うてな、今日は 二日でする仕事 一日で しいまくったたれ(てやった)言うてな いっしょよけめ(一生懸命)で したのおをな(のを)シタクル言うたり。

したけ【名詞】波が上は静かだが、底の方で荒れて流れが早くなっている。海の荒れる前兆。下気、下の方で気配が有ると言う意か。(志)

したごさえ。したごしゃえ【名詞】下準備 前もって七、八分迄作っておく事 [会話] シタゴサエ、シタゴシ

ヤエ、一緒やわい(です)。あした(明日)の ごっつお(御馳走)の シタゴサエしとく(しておく)とか、あしたの仕事の だんどり(準備)をなあ 宵からしとくのをなあ(しておくのを)、シタゴサエしとかな(しておかなければ)言うて。あした(明日)たあ(田)植えやよって(だから)シタゴサエもして うって(耕して)えぶり(土をならす道具)も突いてしとかなはざん(しておかなければ駄目だ)言うて、たあ(田)植えて 人 頼むねよってん(のだから)シタゴサエしとかなはざん 言うて。

したごしらえ(したごしらへ)(下梯)【名詞】下準備、前もって準備をしておく事。[会話] ごっつお(御馳走)の したくとか、シタゴシラエを、なんやかや(色々)用意する事。金の支度するとか、ごっつおの支度するとか、用意する事なあ(です)。

したさく(下作)【名詞】小作 地主の田畑を借り年貢を納めて耕作する事

したさくづくり【名詞】小作をすること

したさず(舌刺) 舌を刺激する。[会話] さいらな(秋刀魚が)ちょいと(少し)塩のあままい(甘い、少ない)の 喰うてすと(すると)、舌な(が) 苛々とする。シタサス言うやんない(言うでしょう)。

したし(親)【形容詞】親しい、仲がよい。[会話] 親しい。こいごし(こいごいしい)友達なあ(です)濃い友達。シタシ 友達もこさえて(作って)言うやんかい(言います)。こいごし言うのは 仲よお(よく)する 仲好し 一番仲好しの人らを一番シタシ友達を言うね(言うのです)。

したし(浸)【名詞】ひたしもの、ひたし。浸し物。ゆでた野菜に醤油、鰹節などをかけた料理。おひたし。(上、阿) [会話] なあ(菜)茹でても、なあ(菜)のシタシ言うなし(言いますし)。なあやとか(菜だとか)、人参のはえ(人参の発芽したばかりのもの)とか、シタシにしよおや(しましよう)言うて。人参のシタシや(だ)、なあ(菜)のシタシや言うて。ゆがいといて醤油で あえるのを シタシ言うなあ(言います)。味噌であえる(混ぜ合わす)と味噌あえ。

したじ(下地)【名詞】1) 醤油。日本特有の調味料。うま味の他に甘味と塩味があり、特有の香気有る赤褐色透明の液体。大豆、小麦と塩を加え発酵させた物を絞った汁。吸物の土台の意味で、醤油又は醬油を主にした、だし汁や、つけ汁。(志(鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、一、上、阿、張、名、南、熊) 2) 汁、おつゆ。(志、鳥、桑市、北) 3) そば、うどんの汁

(志 南、4) 壁士を塗るための基礎 基礎になるもの 5) 下心 6) 酒を前もって飲んで居る事 7) 物事が成立する土台となるもの。生まれつき持って居る性質。[会話] 3) シタジなあ (ですか) 素麺喰うのん (のに) だし入れて 醤油さいてすんの (さして、入れてするのを) シタジ。素麺のシタジとか、2) 吸もん (物) する時 シタジも こさえといて (作っておいて) 言うて。醤油で味付けしたのを シタジ言うの (言うのです)。醤油その物は シタジとは言わへん 醤油は醤油。味付けしたのをシタジ。だし出して、味付けしたのを、シタジ言うね (言うのです)。素麺のシタジや (だ) とか、うどんのシタジや とか言うて、言うて見ると 出し汁い (に) ちょいと (少し) 醤油入ったのおや (物です)。醤油ちょぼと (少し) 落してなあ 味付けしたのをシタジ。魚な (が) 有ると素麺のシタジにええねなあ (良いのだなあ) 言うて、魚 煮付けといて (ておいて)、それい (へ) 醤油さして 素麺喰うのんなあ (食べるのに) ごっち (魚名、かさご) や、鱈を 素麺のだしや (と) 言うてしおった (して居ました)。魚のだしやなけな (でなければ) 言うて、魚のだしやなけな 喰わんもんや (食べない物だ) おもて (思つて)。かみ (昆布) を 短こお (かく) したりして シタジこさえよおったもんで (作っていたので)、ごちのあっさりしたのおや (のとか) 鱈や (が) 有ると、こや (これは) 素麺のだしに言いおったの (言っていました)。ごちな (が) 有ると、こや 素麺の出しにええなあ (よいです)。ごちのだしな (が) 一番おいしいて、素麺のだしにええんなあ (良いのだ) 言うて 魚でししおった (していました)。

じたじた【副詞】 ぬれて居るさま。じめじめするさま。湿っばいさま。水分の多いさま。[会話] ジタジタも じめじめも よお (よく) 似たよおな意味やけどなあ (です)。言い方 違うだけで意味や (は) したたりも 一緒やわい (です)。したたりのおを (のを) 言うんけどなあ (言うのですが)。じめじめとまあ言うて、雨な (が) 降ると 乾かんと (かずに) じめじめと、何処 行ても (行つても) じとじとしとると (して居ると)、じめじめと、うっとしなあ (うっとおいしい) したたりなあとか。びちょびちょと したたりなあとか言うね (言うのです)。皆 一緒の意味やなあ (です)。

したた 1) してしまった。2) してやった [会話] 1) しょんべ (小便) シタタ言うてな、子供らな (が) 畳の上い (に) しょんべたれたたれ (小便してしまつた) とか、シタタとか言うてな。はこ (大便) シタタ

そやれ言うたりな してしもた (しまった) 言うの シタタ言うてな。

しただあ しました

したためる【他ラ下一】 1) 注意する。2) 水をきる。物の水を除く、液をしたたらす。[会話] 2) かたげて (傾けて) 汁 無いよおんしたんの (にしてやるのを)、洗るといて (洗つておいて) かたげて 汁な (が) 無いよおんすんのを (ようにするのを) シタタメル、水切ったる (てやる) 事。1) シタタメル言うのは 叱る事を言うんやる (言うのでしょうか)。シタタメル言うのは 意味な (が) 違うけどなあ (違います)。子供をお前 そいな事 (そんな事) したら いかんやんかあ (いけないで無いか) 言うのを、シタタメル。くたためる (叱責する、やり込める) 言うのとは よお (よく) 似たよおなもんやなあ (ものです)。くたためる言うな (のは) 苛めるよおな 言い方をすると くたためる言うんやよつて (言うのだから)。シタタメル言うのは どっちか言う と 注意する。くたためる言うのは、怒つて そいな事したら 言うて くすべるよおな くすべる 嫌味言うとか そんな (そのような) 言い方すんなあ (します)。同じよおな 言葉やけど (だが) ちょいちょい (少しずつ) 又 意味も違う時も有んねてや (有るのです)。

したたらし【形容詞】 濡れている

したたらん 一杯にならない。不足している。[会話] 荷物な (が) 一杯ん (に) ならんとなあ (ならないと)。荷物な (が) シタタランで にいな (荷が) 出されやへんねてわれ (出せないそうだ) 言うてなあ。にげな (人間が) 足らんで言うのも、言うしなあ。シタタラン言うて 一杯ん (に) ならせん (ならない) 言う事をなあ。

したたり【形容詞】 湿っばい。湿気を含んでじめじめしている。(志、北、熊、南) [会話] シタタリ言うね (言うのです)。シタタリなあ言うて、塩に漬けると、雨降時 (ドキ) や (とか) 曇つて来ると じとじとしとくの (来るのを) シタタリなあ言うて。じとじとしとつと (して居ると) ほおたまあ (ああ) こや (これは) しおたれて来て (塩気を含んで来て) シタタリわれ (です) 言うて。塩のもん (物) は じっきん (すぐに) したたれて来んの (来るのです)。塩したもん (物) は、曇つて来たり 雨がちょいと (少し) 降つて来ても シタタリなつてくんねてや (来るのです)。雨降りやどきや (などでは) 別ん (特に) シタタリのなあ (のです) 塩気な (が) 有ると。したたる言うの

は 滴な (が) 落って来る (落ちて来る) 塩気な (が) 有ると べつん (特に) シタタリのなあ (のです)。言うとなあ シタタリ 滴な (が) 落って (落ちて) 来るよおな 気持やわな (です)。なんか 其処らに ふきんやどきな (などが) 掛けて有っても びちよびちよと 乾かん (かない) のを、乾きな (が) 前なのおを (のを) シタタリ言うのなあ (言うのです)。そやって (だから) 雫な (が) まだ ええごとと取れやへん (充分に取れない) よおにしとんのを (して居るのを)、まだ シタタリわれ こや (此れは) 言うよってん (言うのだから)。まだ えごと乾かんで (充分乾かないで) シタタリわれ 言うて、さんざりならせん (ならない) 事をなあ。ほすと (すると) ごとばなぬぐうた (青洩拭った) のは 塩気な有るもんで (ので) シタタリ 雨な (が) 降ると びちよびちよして。

したたりなあ。したたりのお 湿っばいですね 雨の日の挨拶 (志、南)

したたる【自ラ五】 1) 滴が落ちる。2) 水分を多く含んで居る。濡れて居る。3) 男女が仲よくしている [会話] 1) なんやかやな (いろいろ) 垂れて来ると、シタタル言うしなあ (言います)。2) 体な (が) じめじめ してくんのも (来るのも) したたり言うし、塩もん (物) 置いとくと (ておくと) まぜな (南風が) 吹いたり 雨な (が) 降ったり すると じめじめ してくんの シタタル言うのなあ (です)。夏ん (に) なると、汗かくと、おおた したたりなあ言うやんかい (言います)。雨な (が) びしよびしよ 降る時やたらなあ (だとか)、秋風な (が) 吹いて来ると さんざりするしなあ。まぜな (南風が) 吹いて来ると したたりて言うて。シタタル言うのは湿っばい じとじととして 気持ちな (が) わり (悪い) 時やなあ (です) 3) 惚気たりすんのでも (するのでも) シタタリよおななあ (ようだ) 言うやんかい (言います)。いちゃいちゃ しとんの (しているのを) 見るとなあ、シタタリよおななあ。

したたるい【形容詞】 湿っばい。したたり参照 (志 (鶴方、神明、志島、国府)、北)

したたれ 1) してしまった 2) してあげました

したたれる【自ラ下一】 湿気を帯びる したたる参照

したたんかい。したたんな (女性語) 1) してあげたのですか 相手に 2) してしまっただか 失敗など

したたんかれ してやったのか

じたつく 水分が多くじっとりする

したづみ (下積)【名詞】 1) 荷物が下になること下に積まれる事 2) 普通より劣って居る者 [会話] 1) に (荷物) を 下い (へ) 積むと、底積まして言うたり、シタヅミなって言うてなあ、下い (に) なると おらんのばな (俺ののを) シタヅミン (に) して、わがとらんな (自分ののは) 上積ん (に) して言うてなあ。2) そして にげ (人間) でも 出来んもな (者は) シタヅミや (だ) 言うてな。がっこな (学校が) 出来んと (出来ない)と あやまあ (彼は) がっこ でも シタヅミやよって (だから) なんも (何も) 出来んて言うてなあ。

したて 1) し始め。2) してしまつて 3) してあげて [会話] 1) 海女の稽古シタテや (だ) 言うのを いなごや (ぼらの子だ) 言うて。

したて【名詞】 壁の基礎のため、竹を組み合わせた物。(志 (鶴方、神明、立神、志島、国府)) [会話] 壁塗る時 中へ竹やって、なあ (縄) で 捲きつけんの (付けるのを) シダテ。壁ん (に) 土 付ける時ん (に)、土な (が) 落ってかんよお (落ちていかないよう)、竹い (へ) シダテ縄言うて ざらざらと のおた (なつた) の巻き付けるやんな (でしょう)。あや (あれは) 土ななあ (が) 落ってこんよおん (来ないように) ああしてすんの (するのです)。壁い塗つても、土な (が) 竹だけでは ずるとして来るもんで (ので) そんで (それで) シダテナア (したて縄) 言うて (言つて)。シダテ 巻き付けんのおを (るのを) シダテカク言うんやんかい (言うのです)。シダテカキ行く言うやんない (言うでしょう)。そすと (すると) 土ななあ (が) 竹や (だ) 言うと ずるずるとおつてくもんで (落ちて行くので) 縄 巻き付けると 落つて来やへんやんない (来ないでしょう)。竹が主やなしに (でなくて) 縄の方が主かい (おも、主役ですか)。竹が主やけど (です) 竹はしつかりしとて (して居て) そいて (そうして) 又、竹は 土付けても腐らせんの やんかい (腐らないのです)。何年、何十年経つても 竹は腐らせんわい (腐りません)、めつたんなあ (絶対に)。土い (へ) 埋めると生きて来んねよつて (来るのだから)。そやもんで (それなので) 腐らん程度に 竹をして 土な (が) 落つてこんよおに 縄を捲くのなあ (です)。竹は腐らせんねやんかい (腐らないのです) ほか (他) のきい (木) でも 何んでも 土い (へ) しとたら (して居たら) 腐つてくわい (行きま

す)。そやけど(しかし)竹は土へする程 生きてくんねよって 竹すんねわいなあ(するのです)。シダテタケ言うて 壁い(へ)塗り込んでても(でやっても)腐らんよおん。

しだてかき 壁の下地になる竹を組み出す作業 しだて参照(志(鶴方、神明、立神、志島、国府))

しだてかく 壁の基礎になる竹を組み出す

しだてくれえ して上げて下さい。して下さい。[会話] 責任 おおて(持って) こや(此れは) わしなするわい(私がします) しとくわい(しておきます) 言うてすると、そんなら(それでは) お前ん(に) まかすよって(から) お前な(が) シダテクレエ 家い(に) もてて してくれえ(持って行ってして下さい)。

しだてだけ【名詞】 壁土をつけるために組む竹。壁の基礎のために組み合わせる竹。しだて参照(鳥)[会話] シダテダケ言うて 壁へ 塗り込んでても(でやっても)腐らんよおん(ように)。

しだてて しても。してしまっても。[会話] じたばたシダテテ しよおな(仕方が) ないやんかあ(です)。

しだてな 1) したそうだ。2) してしまった。[会話] 1) する(行く) しやれた(された) シダテナ。

しだてなあ してしまった

しだてなあ。しだてなわ【名詞】 壁を塗る時、竹を組み合わせるのに使用する粗製の縄。[会話] しだて(前出) かく時の シダテナワ。シダテナア(縄) 言うの(のです)。シダテナワ言うのを シダテナア。して縄 言うな(のは) 正月に飾る しめ縄 言うな(言います)。しめ縄は 正月にすんのなし(するのですし)、シダテナワ言うな(言うのは) 壁塗る時 中い(へ) しだてかくの。

しだてのけた してしまった。知らずにしてしまった。[会話] わり(悪い) 事 シダテナケタよお言うて、したた(してしまった) 事を、シダテナケタ。してしまった事を したたよお 言う。知らんとしたる(知らずにしてやる) 事を シダテナケタ。

しだてのける 知らずにしてしまう。[会話] したてし もた(しまった) 言うのをなあ、シダテナケル 言うてな。こやまあ(此れは) えらいわり(大変悪い) こと シダテナケル言うてなあ 失敗したると(てやると)。

しだてもん【名詞】 仕立物。注文して特別に作った物。縫いあげた衣服。(桑郡)[会話] きもん(着物) を こしらえて貰らうと シダテモン 仕立屋い(へ) やれ 言うてな、シダテモン もて(持って) 来て きれえ

まあ(着なさい) 言うてな。

したてや しました

したてや【名詞】 仕立屋。着物を作ってくれる人。

したてる(仕立)【他タ下ー】 1) 乗物などを用意する。

自分のため特別に舟などを用意させる。新しく船を造る 2) 衣服などを自分のために作る 3) 特別に用意する 4) 教へ込む 教育する [会話] 3) いしよ(衣装) も着せて、シダテル、だしたてて(出発させて) 言うて 仕度(準備) する言うのを、シダテル言うの(のです)。したてて だしたてたたれ(出発させた) 言うて 行け言うてな、出したる(てやる) 事をなあ。だしたてて ま だくやれ(楽だ) 言うてな。荷物 シダテル言うてな 荷物な(が) したたらんで(一杯にならなくて) 言うて、荷物な(が) 一杯んならんなあ(にならないと) 荷物な(が) したたらんで にいな(荷が) 出されやへんねてわれ(出せないのだそうだ) 言うてな。1) 舟 雇うのも シダテル、あの家い(へ) 舟したてて まあ 言うて そして 舟出す家は、舟したてて(新しく作って) 今日 は 出船やてわれ(だそうだ) 言うて。

したとこな したが然し(一(美杉村))

したない したくない(志)[会話] 気持ちな(が) わり いて(悪くて) 仕事な(が) シタナイ時、物くそ おて(気分がすぐれなくて) なんも(なにも) シタネエネ(ないので)。

したないわい。したないわな(女性語)。 したないわれ したくありません

したながし(下流)【名詞】 屋外に有る流し 特に汚れのひどい物、土などを流すのに用いる

したなこえる 美味に慣れる 舌が肥える 口が肥える(志、鳥、松、伊)

したなめずり(したなめづり)(舌舐)【名詞】 1) 食物を欲して、又食べた後で舌で唇をなめまわす事。2) 人を見下げる [会話] 1) ああ 旨まかった シタナメズリ。食うて シタナメズリ しとんない(している) 言うて まだ 食いたいんかして(のか) シタナメズリ しとられ(している) 言うて。2) そして 人あなざる(侮どる) 事もなあ シタナメズリして言うてなあ 見下げるとなあ おおた おらばな(俺を) 舐めとんね(ているのだ) シタナメズリ しとんね(しているのだ) 言うてなあ。

したに(下荷)【名詞】 積み上げた荷物の下の物。[会話] にい(荷) をのお 下い(へ) 積むと、シタニとか、上い(へ) 積むの(のを) うわに言うて。底い(へ)

積むと、シタニ、底積みとか 底積して言うたり、下積になってまあ言うてな、下い (に) なるとなあ。おらのぼな (俺のをば) 下積ん (に) して わがとらんな (自分ののは) 上積ん (に) して言うてなあ。

したねえ したくない。したくない参照

したのねのかわかんうち 言うてすぐ 注意したのにすぐ注意された事を行なう

したば【名詞】 1) 下座 2) 風下 3) 潮の流れて行く方 [会話] 2) ひい (火) 焚いとる (ている) どこ (所) いて (行って) シタバい (に) 座ると けぶりな (煙が) 皆 行くやんない (行くでしょう)。

したばた【副詞】 忙しく立ち廻るさま。騒ぎ回る事。ヂタバタ (七転八倒) の義 (大言海) [会話] ジタバタすんなまあ (するな) よけ (多く) 言うて、ジタバタしたてて (しても) しょおな (仕方が) 無いやんかあ (です)。ジタバタ よけ (あまり) すんなまあ 言うて、慌てるよおな意味やわい (です)。なんやかやすんの (するの)に、焦って ジタバタしたてて、しょおな無いやんかあ 言うて、焦る事やるなあ (でしょう)。あれもせんならん (しなければいけない)、これもせんならん、まあ 忙しよ (忙しい) 言うて。立ってもむこても (座っても) おられやせんよおん (居れないように) 忙して (しくて) 気持ちが なつて来る時を。仕事で 焦る時ん (に)、焦ったてて そげん (そんなに) ジタバタしたてて、しょおな無いし 落ち着いて せえまあ (しなさい) 言うて。焦ると失敗するし、あんまり (あまり) そげん ジタバタせんと (せずに) 落ち着けまあ (落ち着きなさい) 言うてなあ。

したばたらき【名詞】 1) 他人の下で働くこと、又、その人 (熊) 2) 仕事の準備をする事 [会話] 1) シタバタラキ。しゃかんや (左官屋) 塗るし、土こねてやんの (やる人を) しゃかんやの シタバタラキ とかな、大工の シタバタラキとか言うてな 手間取りすんのを (するのを) シタバタラキ。

したばっち【名詞】 ズボン下 袴下

したばなし【名詞】 会議、縁談などで正式の話し合いの前に予め話し合つてまとめておく事。予備会談

したび【下火】【名詞】 火を焚く所以外に有る火。[会話] シタバイ言うのは、ひい (火) を あっちゃえもったり (あちらへ移したり) する時な (が) 有るやんな (有るでしょう)。おらげも (俺の所も) ひい (火) 焚きつけてくれ (下さい) 言うて。ひい (火) 持つと 火のついとんのな (ついているのが) こぼれるやんな それを 知らんと (知らずに) 踏んだると (でやると)

シタバイ 踏んでやけざった (やけどした) 言うて。

したび【下火】【名詞】 1) 火勢の衰える事 2) 物事の勢いが無くなる事

したまあり 下働き

したまい (したまえ、したまへ)【下前】【名詞】 着物を着て前を合せた時、内側になる部分。又それが下の方に下つて来ている着方。したまえ。[会話] 着物かたげて (傾けて) 着るのは、かたみだり (肩乱)。うわまい (上前) シタマイ (下前) どっちゃ (どちら) でも 上げて着る時な (が) あるんなあ (有るのです) かたみだりに 着て言うて。

したまわり 下働き

しためる 1) 容器を斜めにして上澄みを流し、上澄みと沈殿物とを分ける。(志 (甲賀)、度) 2) 撓わめる (志) [会話] 1) シタメル 汁を しぼんのおを (しぼるのを) シタメル。鍋を 蓋を 押さえといて (ておいて) 汁 しぼんのおを (しぼるのを) シタメル うね (言うのです)。そすと (そうすると) 落ちて来るやんかい (でしょう)。いなん (いらぬ) 水あ (は) 出てて (出て行って) そすと (そうすると) 鍋 蓋しとらへんと (してないと) 芋も 皆 ころでくもんな あ (転んで行きます)。ごろごろと、ころでくもんけど (転んで来るのだが)、蓋をてえ (手) で 押さえといて (ておいて) シタメタレ (てやれ) 言うて。そやけど (それだが) 一番美味しいとこや (所です)、一番美味しい 栄養な (が) あんねやんかい (あるのです)。そやよつて (それだから) これは飲むと 美味しいんやんな (美味しいのです) あんもおて (甘くて) 美味しいねてや (のです)。

したもんで したので それで

したや【下屋】【名詞】 床下、階下、縁の下など家屋の下側。(志 (浜島)、飯、度、北、南) [会話] 縁の下の事なあ (を) シタヤ。床の下を シタヤや (だ) 言うて。シタヤい (へ) 突っ込んだけ (でおけ) 言うて。なんやかや 外い (に) なる (丸太) でも、杭でも有ると 皆 シタヤい (へ) 突っ込みおったの (居たのです)。シタヤな (が) 物置きみたよおん (のように)、床 たっこおしといて (高くしておいて)、シタヤい (へ) なる (丸太) もなんもかも (なにもかも) 皆 突っ込んで。兄貴のとこい (所へ) 嫁に来や (来れば) シタヤ ものん (物) もろても (貰つても) 言うて、昔や (は) 言いおったの (言つて居ました)。弟は なんも (何んにも) 無いとこ (所) から、わがとらんな (自分達が) 建てなはざんけど (建てなければいけない)

いか)、兄貴の家行きや(行けば)縁の下のもん(物)もろても言うて、昔や(は)言いおったの。今しゃ(今は)兄貴のとこい 嫁のきてな無い(来る人が無いのです)。親 見やんならんもんで(見なければいけないので) 憐れやなあ(です)、親もなあ。段々(次第に)自分らも親ん(に) なんねけどなあ(なるのだが)。おや(俺は)親やどよお(だぞ)言うて、親ならなえええ(なんだ)言うて、今しゃ(今は)言うて来るよつてなあ(来るから)。昔や(は)親や(だ)言うて 天皇陛下みたよおに(のように)位な(が)有るよお(ように) 思いおったやんかい(思っ

したや 1) 順態の仮定条件を表す。そうすると、そうしたら、それなら。2) 助詞 動詞の連用形につき、した所が。[会話] 1) 此れシタヤ、此れしたらな(してやらなければ)言うて、こんだ(今度は)此れせえよお(しなさい)言うて。何したら 何々したたら(してしまつたら) 何々せえよ 言うて 何シタヤ。此れシタヤ 此れしたれよお(しなさい)。

したやんな。したやんない したでしょう したのでしょう [会話] おまや(お前は)此れをシタヤンナシタヤンナイ言うて。

じだらく(自堕落)【名詞】 身持が悪くふしだらな事。又だらしなさま。(鈴市、鈴郡、伊) [会話] ジダラクな言うて、なんもかも そこらこら 広げさがして(散らかして) ええもん(よい物)でも ほっちらかして(放り散らして) 大事にして来たもんやのん(物だのに) 言うても そこらい(に) ほりさんぼん(放り出して)して。だらしな言う事。無頓着で、物を丁寧にする事も判らんと(判らずに) そこらい(へ) ほりっぱなして(放りっぱなしにして) 汚れても、濡れてもなあ 洗お(洗おう)ともしやへんしなあ(しないし)、片付けよ(よう)ともしやせん(しないのを)、ジダラクな言うのなあ(言うのです)。身持ちなわりのおも(性に対し無節操であるのも) ジダラク。ジダラクで 浮気して あっちゃいいてな(あちらへ行つては) おなごしい(女しい、女と寝る) こっちゃいいてな(こちら行つては) 男しいすんのを(するのを) ジダラクで言うて おなごな(女が) だらしのおて(なくて)とか言うてなあ(言います)。

じだらくもん【名詞】 自堕落者 だらしの無い人間、怠け者(安) [会話] 自堕落でまあ言うて、なんやかや(いろいろ) 引き摺りさがしとるとなあ(ていると)。そして はつきりせん(しないのを) 折り目 切り

目 よおつけんと(つけなくて)、あや(彼は) ジダラクモンで なんしたてて(何しても) 言うて。

したらざ してあげます

したらざつた 1) しなかつた。 2) してやらなかつた [会話] 1) おら(私は) 寝しょんべ(小便) シタラザツタ。

したられ 1) してあげます 2) します

したらんか。したらんかい。したらんかな(女性語)。したらんかれ 1) してやりなさい。2) しなさい。[会話] 2) 此れ したれ(してやれ) 言う。したてくれえ(してやって下さい) 言うのをな シタランカレ 言うて、此れ シタランカレ 言うて。おら(俺は) ややれ(嫌だ) 言うて、シタランカレ 言うて、めえれえ(命令) で言う人も有るし、したてくれえ(してやって下さい) 言う人も有るしなあ。シタランカイ 言うて 頼む人も有るしなあ。1) あの人ん(に) シタランカイ 言う時もあるしなあ。

したる してやる。終える。(志(立神)、安) [会話] シタルと したやんか(ではないか) 言うの(のです)。

したるい【形容詞】 湿気が多くうっとうしい

したるてや してあげます

したるね。したるわい。したるわな(女性語)。 してあげます [会話] そいなこた(そんな事は) いつでも おんな(俺が) シタルワイ。するわい(します) 言うて。

したれ 1) してやれ。しなさい。2) しました [会話] 1) 自分が大將ん(に) なって、あれシタレ、これシタレ 言うて、さいふる(指揮する)。

したれまあ しなさい してやれ [会話] 此れ しええまあ(しなさい) 言うて、したれ 言う事を 後でまあ つけて、シタレ 言うのも 一緒や(です)。

したろ 1) してあげましょう。(尾) 2) しなさい [会話] 1) 此れシタロ、シタロカイナア言う時もあるし。しよお、おもとる(しよう思っている) と、まあ此れシタロ言うてな。おら(俺は) 此れくたる(食べてやろう) そんなきや(それでは)。向おの人に だい(どれ) わしな(私が) シタロ言う時もあんの(有ります)。それを わしな(私が) こしらえたるわい(作ってあげます) 言うばやい(場合) も、だい(どれ) わしな シタロ言うし、自分一人だけしとんの(も) (しているのも) 此れ シタロ言うて。2) 子供らん(に) 此れシタロ言うて せえ(しなさい) 言う時ん(に) 此れ したれ 言うのを シタロ言うのなあ(のです)。

したろか してやろうか。してあげましょうか。したろ

かい参照張、

したろかい 1) してあげましょうか。2) しません[会話] 1) シタロカ シタロカイ言うのは 人ののおを (のを) すんのなし (するのです) したろ言うと わがと (自分) だけすんの (するのです)。子供らん (に) こちょこちょ言うて こしょぐるやんかい (くすぐります) こちょこちょシタロカ言うて。

したろかいなあ 1) してやろうか したろ参照 2) しようか

したろかれ しないだろう

したろん してやる。してやるぞ。[会話] こちょこちょシタロン 言うて、よお、くすぐりおったわ (よくくすぐって居ました)。

したわし(したはし)(慕)【形容詞】 心が引かれてなつかしく、或いは恋しく思うさま。[会話] 懐かしいすんのを (かしくするのを) 言うねやろなあ (言うのでしよう) シタワシ、言うてなあ。

したんか。したんかい。したんかな(女性語)。したんかれ したのですか(志) [会話] 此れ シタンカイ言うてな、こさえたんかい (作りましたか) 言うて。まだ せんとおられ (していません) 言うて。

したんごたんの まめのかきやでできる むすめ ひとりのかきやでできん【俚諺】 娘の監視は難しいの例え。幾ら広くても田畑の垣は出来るが、娘の行動は縛る事が出来ない。

じだんだ(ぢだんだ)(地団駄) 悔しがる。小児がむずかる。じだんだふむ参照

じだんだふむ(ぢだんだふむ) 小児がむずかる、だだこねる。(伊) [会話] ジダンダ言うと 足踏みすんのなあ (するのを) ジダンダフンデ言うて。こららなあ (子供達が) こおやっておって (立って居て)、いやや (嫌だ) 言うて こげんするやんかい (足を上下に踏みつけるします) あれを ジダンダ。あしずりや(だ)とか。そいな (そんな) 事したらはざん (駄目だ) 言うても、いやや (嫌だ) 言うて、甘えるよおん (ように) 言うて、だだこねて ジダンダフムやんかい (踏みます)。ジダンダフンダリ 足ずりしたり。足ずり言うな (のは) こしてこしてすんの (座って前後に交互に足の裏をすべらす) 足ずりして言うて。

したんてわい。したんてわな(女性語)。したんてわれ したそうだ。[会話] あげん (あんなに) して シタンテワレ言うてな。てわれ言うてな。あの家や(は) ごっつお (御馳走) シタンテワレ言うたりな、仕事よけ (沢山) シタンテワレ たら (とか) 言うてな し

たそおだ言うのを。

したんのん 1) してやるのに 2) したのに [会話] 1) おんな (俺が) シタンノン、おんな すんのに (俺がするのに)。のな (お前が) そいな (そんな) 事 せんでて (しなくても) 言うて。

したんやて したそうだ

したんやろ したのだろう

したんやんな。したんやんない したのでしょうか

しちがつ(しちぐあつ)【名詞】 七月(南)

しちくどい【形容詞】 非常にくどい。しつこい。ひちくどい。シチは接頭語(広辞苑)(度) [会話] シチクドイ言うななあ(言うのは)、言うた (言った) よおな 事を。なあ (お前は) どげな事 (どんな事) するよつて (から) はざんわれ (駄目だ) 言うて、又 暫くすると のな (お前が) あげんしたよつてん (あんなにしたから) はざんわれ 言うて、言うた事 繰返すの (のを) シチクドイ言うの (のです)。繰返して言うと シチクドイ事 言うな言うて。繰返して繰返して言うのな (言うのを) 怒ってすんの (するのを) シチクドイ。

しちしちにち(七七日)【名詞】 死後四十九日 なななぬか しじゅうくんち参照

しちどはんのつかい【名詞】 宴会の招待の使者。一、二度は儀礼的なもので七回招待の使者が来て、八度目の招待の使者と途中で出会う事。[会話] シチドハンノツカイ言うて ななくら行といて (七度行っにおいて) 半は途中でおおてするよおん (逢ってするように) シチドハンノツカイ使い。

しちぶ。ひちぶ(七分)【名詞】 薄ばか。六分、八分とも。[会話] シチブ言うな (のは) にげなあ (人間が) ちよいと (少し) 火薬な (が) 足らんのなあ (のを) シチブや (と) 言う。知恵な うっすいのおを (薄いのを) 火薬なたらんねなあ (不足して居るのだ) 言うやんかい (言います)。あや(彼は)、火薬な (が) 足らんね、もやしな (が) 足らん言うて、一寸に 詰ません (詰まない) よおに ちよいと あんごしの (馬鹿なのです)。ジチブか八分のな (のが) 有るやんかな (有ります)。ちよいと あんごしなあ (馬鹿なのは) あや (彼は) まあ シチブやよつてん (だから) 言うて。八分やよつてん 言うて。あんごしなあ (のは) あや (彼は) 阿呆やよつてん (だから) 言うけどなあ (けれど)。その阿呆の手前なあ (です) ちよいと ましな、ちよいと こあんごしよおなのおを (のを)。あや(彼は) シチブやてやら (だとか)、もやしな (が) 足らんでやら 火薬な (が) 足らんでやら、言うの

(言うのです)。なんか(何か) おかしげな(変な) 事言うて来ると つじつまな(が) あわん事言うて来ると あやあれ(あれ) もやしな足らんねよってん(不足して居るのだから) あいな事ばっか(あんな事ばかり) 言うどられ(言うて居る)。此の時 シチブ言うたり 六分言うたり その時ん(に) よって あんごしのおを(馬鹿のを) シチブとか 八分とか あや(彼は) 八分やれ(だ) 言うて。あやまあ(彼は) 寸に足らわんのやれ(のだ) 言うのなあ(言うのです)。あやまあ(彼は) 八分やよって 言う事 見よまあ(見なさい) 言うて。寸足らずやよってなあ(だから) 言うて。一寸に 満たん(満たない) 言う事や(です)。シチブ言うのは 一寸より(よりも) ちよいと足らんの(少し不足しているのを) 一文に足らん 一文に詰まん(詰まらない) 言うのなあ(のです)。

しちむつかし【形容詞】 非常に難しい。面倒である。シチは接頭語(広辞苑) [会話] それもはざん(駄目だ) これもはざん 言うてな、人のした事を 非難すんのなあ(するのを)、あのひた(人は)、まあ、シチムツカシ なんしたてて(何をしても)、人のするこた(事は) 気に入らんで シチムツカシ事言うて そいな(そんな) 気むつかし事言うの(のを)。

しちめんどお(しちめんだう)(七面倒)【形容詞】 面倒くさい。面倒でわずらわしい。[会話] シチメンドオな言うの(のは)、なんやかや めんどくさいなあ(面倒くさいです) 言うのを、シチメンドクサイ言うなあ(言います)。ものすご(大変) めんどくさい時にシチメンドクサイ。

しちめんどくさい(しちめんだうくさい)【形容詞】 面倒くさい。わずらわしい。しちめんどおに同じ。

しちや(七夜)【名詞】 出産七日目の祝い。命名祝い。ひちや(志、鳥(相差)) [会話] なあつけ(名付け、命名) シチヤなあ(です) 子供の。なぬか(七日)になると シチヤや(と) 言うて、しよったけど(して居ましたが)、今しや(今は) いつでもだんねえの(かまわなないので)。昔やなあ(は) 七日な(が) 来るとシチヤや(だ) 言うて 必ずなあつけしおったのなあ(名付けして居たのです)。今はなあ いつでも わがとらな(自分達が) かってなええ時すやええけど(都合の良い時すればよい)。シチヤ 生れたこお(子)で、しよなぬか(初七日) 言うのが 死んだ時ん(に) 初七日。

しちやかまし【形容詞】 やかましい。むやみにやかましい。無用と思われる程うるさい。[会話] シチヤカマ

シ言うのも一緒。くそやかましとか ロやかましとか よけ(あまり) ぼえぼえと 此れしたや(したら) はざんのん(駄目のに)、こいな(こんな) 事して。又、そやれそこい(それそこへ) 何 置いたら はざんのん そげんして(そんなにして) 置いて、そやあれ(それ) 雨ん(に) 濡らしてとか言うて、まあなあ(もう) 色々な事言うて たしなめん(たしなめる)のを ロやかましい言うのなあ(言うのです)。此の時 しちめんどおも シチヤカマシも 面倒やかましをしち言うのは 一緒の意味で。シチヤカマシ しちめんどくさい言うて 一緒の事やけど(だか) 言い方によって 腹の立つとる(て居る) 時 まあ なつと(なんと) 言うてええやら(よいのか) 判らんよお(ように) 言うて、色んな事言うて わがとな(自分が) 出まかせん(に) 言うて来るわい(来ます)。物置の米も 噛んだる(でやる) よおに言うて。隣の初種も喰たるよおに言うて、ごおわかす時や(腹の立つ時は)。そや(それは) いっしょけんめ(一生懸命)に、喋るとか ものすごごおわかすと(大変腹立てると) 隣の初種も 喰う。ごおな湧いて(腹が立って) ごおな湧いて くそごおな湧いて まあなん(何)してええやら(よいのか) 判らん程ごお湧かして まあ隣の初種でも 喰たるか(食べてやろうか) 思うよ ごお湧かして なんもかも かぶりついたる(噛みついてやろう) 思う程 ごおな湧くのを 隣の初種も 喰たる(食べてやる) 位 ごおな湧いた言うの(のです)。

じつ【名詞】 術(松、多、伊、尾) [会話] あのひた(人は) ジツ使うよおななあ(ようだ)。上手でとか、偉いとか言うの(のを) ジツ使ことる(使っている) くらいやなあ(だ) 言うて よお言うやんかい(よく言います)。

しっかり(確)【副詞】 1) 多いさま。沢山、程度の甚だしいさま。非常に、大変。(志(鶴方、神明、立神、志島、) 桑郡、員、津、南) 2) 一生懸命 3) 賢い。性格が強固だ。[会話] 3) シッカリしとんなあ(して居る) 言う(言います)。賢いのおも(のもの) シッカリしとる(して居る)。こんじよな(根性、性格が) シッカリしとんなあ あや(彼は) 言うて。人間な(が) こんじよくさりの人も シッカリしとる言うしなあ(言います)。賢い人も シッカリしとる。あの頭 シッカリしとんなよってん(して居るのだから) 言うて 頭のええ(よい) 人も。そいて(そうして) こんじよのどいらい(大変) わりのおは(悪いのは) あやまあ

(彼は) こんじよな (が) しとて (して居て) えげつない (非道い) 事言うなあ言うて。1) シッカリ喰とけよお (食べておきなさい) 言うてなあ。なんやかや物 からげるのおも (括るのも) シッカリ からげとけよとか。シッカリ喰とけ (食べて行け) 言うのは よっけ (沢山、充分に) 喰え 言う事やわい (です)。よっけ言うのは 充分に 沢山食べよ 言う事。 せんざり (充分に) 喰え 言う事。シッカリ、くくつとけ 言うのは シッカリからげとけよお言うの (言うのです)。 ゆわえとけ (結んでおけ) ゆわえんのおを シッカリからげとけよお言うて。ゆわえる からげる事を シッカリゆわえとけよお言うね (言うのです)。シッカリ言うのは、かとお (堅く)。帯 締めても そや (それ) シッカリ締めてとけよお言うて かとお (堅く) めったに (絶対に) ほどけんよおんせえ (解けないようにしなさい) 言う事やなあ (です)。飯 喰うても腹の隙な (が) 無いよおに シッカリ喰とけ 言うて 隙間な (が) 無い程 喰とけ 言う事やわい (です)。

しっかりもん (確者) 【名詞】 意志が強く、信念のある者。性格や気持ちのしっかりした人。(上、阿) [会話] シッカリモン。頭のええ (よい) かしこおて (賢しくくて) 人のわり (悪るい) 事は言わず あや (彼は) しっかりした 賢い人やなあ (だ)、シッカリモンやなあ 言うてなあ。

じっき (ぢっき) (直) 【副詞】 じき、直き、時間や距離の近い事。又そのさま。(志 (磯部、甲賀、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、桑市、津、一、飯、松、張、伊、尾、南) [会話] ジッキ言うと すぐ言う事やなあ (です)。まあ ジッキに言うてくんね (来るのだ) あげな事 (あんな事) をてやら (とか)、まあ ジッキん (に) 行て来たてやら 近い事をなあ ジッキ言うの (のです)。ジッキのもん (もの) に 行て来たやんか (です) 言うて、ジッキなもんや 言う (言います)。ジッキ言うのは 時間も短い。そや (それ) あしこい (あすこへ) そこい (さき程) いたかおもや (行つたか思へば) ジッキん (に) 行て来たない (行つて来た) 言うて、ジッキに言うねよつて (言うのだから) 近い事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。時間も場所も ジッキなもん に したたやんかあ (してしまつたでないか)、短い時間に したた (してしまつた) 言う事やわいなあ (です)。

じづき (ぢづき) 【名詞】 1) 建物を建てるため、土地を搦き固める事 (志 (布施田) 南) 2) 渚 [会話] 1) どおづき、ジツギ言うし (言います)。2) 沖から 陸

い (へ) くんのなあ (来るのを) ジツキい (へ) 迄言うてなあ、地続きや (だ)。沖から、ジツキい戻つた 言うてなあ、ないざ (渚) へ 来る事を ジツキい (へ) 戻つた。

じっきなもん (ぢっきなもん) すぐに、短時間。[会話] ジッキナモンに行て来たなあ (行つて来た) 言うて。仕事でも ジッキナモンにしたたやんかあ (してしまつたでないか) 言うて、短かい時間にしたた (してしまつた) 言う事や (です)。

しっきりなし 【形容詞】 間なし 時間的に隙の無い事 (安) [会話] 間なし 言う事をなあ。シッキリナシに 車な (が) 通つて 喧まして (しくて) 言うて。

じッキん (ぢッキん) (直) 【副詞】 すぐに。間もなく じきにの転 (志 (布施田、浜島)) [会話] 洩 すすり 込んでも ジッキン 出て来て。ジッキン あげん (あんなに) 言うてくんね (来るのだ) 言うたり、ジッキン 泣いてくんね 言うたりな ちよいと した (少しの) 事でも泣くのをな、ジッキン 泣いてくんね なきた (泣き虫) 言うてなあ。

しっくり 【副詞】 物事が程よく組み合つて、調和の取れている状態。ゆっくり落ちついた状態 [会話] あのひと、此のひととは、シッキリ、いかせんねてわい (いかなのだそう) 言うて。仲な (が) わりのおも (悪るいのも) 言うな (言います)。話もシッキリせえ まあ (しなさい) 言う時も有るやんかい (有ります)、ゆつくりとせえ 言う事を。話も 落ち着いてせえ まあ (しなさい) 言う時、慌てた様な時な (が) 有るとシッキリと 話もして 決めなはざんわれ (なければいけない) 言うて。

じっくり 【副詞】 落ち着いてゆつくり 物事をするさま。十分に。(津、上、阿、尾) [会話] 仕事 ジックリ。てえ (手) 静かにする 言う事やなあ (です)。ジックリと 仕事も出来やせんわれ (出来ない) のらな (お前達が) ぐじゃぐじゃ 言うて。ジックリ物を考えると、考えとかなはざんわれ (ておかなければ駄目だ)、考える時も ジックリ考えよ 言うて、しっかり考えよ 言う事やろなあ (でしょう)。落ちついて ジックリ考えよ 言うし (言います)。仕事でも わさわさしとると (して居ると) 出来やへんもんで (出来ないの)、のらな (お前達が) そげん (そんなに) 言うと 仕事も しんみり出来やせんわれ (落ちついて出来ない) 言うて。しんみりしとらな出来やせん (して居なければ出来ない) 言う事やなあ (です)。

しっけ 【名詞】 湿気

しつける (爲付)【他下一】1) し慣れて居る いつもし
て慣れている 2) 教育する 躾をする

しっこ【名詞】小便(鳥、桑市、張)

しつこい【形容詞】1) 執拗だ、くどい 2) 味が濃厚
過ぎる 3) 煩わしい しつこい参照

しつたか 関係ない 知らない(度、南)【会話】そい
なこた(そんな事は) シツタカ言うてなあ。知るかれ
(知らない) 言うのをな、そいな事 おらな(俺が)
シツタカ、シツタカレ、言うて かれを付けんのなあ
(るのです)。そいな(そんな) 事 シツタカレ、おら
(俺は) 言うて、そいなまん(そんな物は) ほらくつ
とけ(ほっておけ) 言うて、言う時ん(に) も シツ
タカ言うて、おら(俺は) そいなこた かんげやあ、
ねえね(関係は無いのだ) 言う時ん(に) 使う言葉や
なあ(です)。

しつたかお(知頓)【名詞】1) 知らないのに知っている
と言った顔つきや態度。(南) 2) 知人、知って居る人
【会話】₂₎ シツタカオやよってなあ(だから) 言うて、
しのくい(難かしい) 事でも、こげん(こんなに) し
てくれえ(下さい) 言うて、シツタカオやよって(だ
から) 無理や(だ) 言われやへんわれ(言えない) 言
うて、出来やせんけど(出来ないが) 言うて しぶし
ぶ してくれとなあ。

しつたかおする いかにも知って居るように振る舞う

しつたかれ 知るものか 知った事か【会話】そいな
こた(そんな事は) シツタカ言うてなあ。知るかれ(知
らない、関係ない) 言うのを そいな(そんな) 事
おらな(俺が) シツタカ シツタカレ言うて かれを
付けんのなあ(るのです)。

しつたふう(知風)【名詞】知ったかぶり 知らないのに
知って居る格好をする

じつちら(ぢつちら)。じつちり(ぢつちり)【副詞】
落ちついて居るさま。(志(布施田、浜島、鶴方、神明、
立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(鳥羽、加茂)
度、桑市)【会話】ジツチリ言うな(のは)、静かにし
とらな(して居なければ) まあ言うてなあ(言うて)、
ジツチリしとれまあ(して居なさい) 言うて。子供ら
な(が) わさわさすると ジツチリしとれまあ 言う
なあ(言います)。大人でも、そわそわしとらんと(し
て居ずに) ジツチリして、根気な仕事出来やせんわれ
(出来ない)。そわそわしとて(して居て) 言う。

じつちりする(ぢつちりする) 落ちつく。静かにする。
じつちら参照。【会話】行儀よおしとらへん(よくし
ていない) 言う時ん(に)、一つも(少しも) あのかあ

(子は) ジツチリ シトラヘン(していない) 子やな
あ(だ) 言うやんかい(言います)。もしよもしよ も
しよもしよしとて(していて) 落着きな(が) のおて
なあ(無くて) しとる(している) 時ん(に)。おおた、
あのかあ 一つも ジツチリシトラヘンヤンカア(し
てないでないか) しんぎょおん(神妙に) しとれまあ
(していなさい)、ジツチリシトレ 言うて、ジツチリ
スルは その反対や(です)。

シツチン【名詞】織物、朱珍、縺子の地合に数種の絵緯
糸を用い浮組織として、模様を織り出したもの 唐音
シチン(七糸) 緞の略。ポルトガル語 setin、フ
ランス語 sat in、オランダ語 sat ijin(大
言海)(員、三)【会話】シツチンオリ言うなあ(言
います)。シツチンの帯言うやんかい(言います)。昔な
あ シツチンの帯言うたら(言ったら) どいらい(大
変) 高級品やった(でした)。シツチンやてやら(だと
か)、博多やてやら あついたやてやら 言うて、そい
なのおを(そんなのを) 帯ん(に) しめると シツチ
ンの帯やてわれ(だそうだ) 言よおった(言って居ま
した)。

しつっこい【形容詞】1) 執拗だ。くどい、あくどい。
2) 味が濃厚過ぎる。3) つきまどってうるさい。煩
わしい。【会話】₁₎ シツッコイ言うて(言うて) 人間
な(が) しのこい(しにくい) のも言うし、₂₎ 食べも
んな(物が) あぶらな(油、脂が) おいかつたり(多
かつたり) するとなあ、ほおた(ああ) シツッコイな
あ言うて、シツッコイ あんまり こや(これは) シ
ツッコイなあ言うて 油の濃いのおを(のを)。₃₎ に
げ(人間、人) も なんやら(なにか) シツッコイよ
おな、それ 男な(が) おなごん(女に) つきまどう
のなあ シツッコ つきまどって言うやんかい(言
います)。₂₎ ぜんざいでも あんまり(あまり) 甘い
のも シツッコイ言うの(言うのです)、油こいばかや
なしに(ばかりで無くて)。どくらし言うてなあ、さと
な(砂糖が) あんまりよけ(あまり多く) きいとと
(効いて居ると) どくらしなあとか シツッコイなあ、
あんまり効き過ぎとて(て居て)。そいで(それで) 効
いとらんと(て居ないと)、遠いわれ(遠いです) 山田
(現、伊勢市) やよって(だから) 榎本な(砂糖問屋
が) 遠いなあとか、さと船な(砂糖船が) 沖走つとら
れ(走って居る) 言うしなあ(言います)。よけ(多
く)効いとると どくらしなあ シツッコイなあ言う
てなあ(言います)。醤油味でも さと(砂糖) 味でも
あんまり 濃いのおを(のを) シツッコイ。どくらし

言うのは 一緒やなあ (です)。さとな (砂糖が) あんまり よけ 効いとると (て居ると)、どくらしなあ言うて。きもん (着物) でも、色な (が) こおい (濃い) ので あのいら (色は) どくらし色やなあ (だ)、シツコイ 色見ると どくらしなあ 言うて。そやよつて (だから) あんまし (あまり) 濃い 事をなあ。

しつつかこい 【形容詞】 執拗だ、あくどい、味が濃い
しつつかこいと同じ [会話] シツツラコイ言うてなあ、
幾ら 断わつても こげんしてくれ (こんなにして下さい) こげんしてくれ 言うて、そやま 出来やせん
われ (それは出来ません) 言うても なつとかしてく
れえ (して下さい) 言うて、しつつか 言うて来て、
シツツラコオテ まあ言うて しつつか 言うのをな。

じつて (十手) 【名詞】 捕り物に用いる鉄性の鉤の有る棒
じゅつて

しつてとり 【名詞】 綱を揚げる人の後で揚げた綱を整理
する人。[会話] シツテトリ 綱たぐれよお言うて、
引いたのおを (のを) 後ろから たぐつて 輪にして
置くのなあ (です) シツテトリ。

じつと 【副詞】 1) 静かに、動かずに。2) 度重なり又は引続くさま。たびたび、始終。(志 (神明、立神)、鳥、度、松、一、多、上、阿、張、名、伊) [会話]
1) 静かにしとれ (して居れ) 言う事。静かに ジット
しとれまあ (して居なさい) 言うやんかい (言います)。
静かにしとれまあ 言うのを ジットしとれまあ 言うて。
子供らわるうの (叱るのを)。ジットしとれまあ
ほん もそもせんと (せずに) 言うて、わるうね
(叱るのです)。2) 再々言うのか 度々言うのか ジ
ット 来とる (来ている) 言うて、ずっと (引き続いて)、
ジット 来とる (来ている) 言うなあ (言います)。

しつとく 知っておく、聞いておく

しつとり 【副詞】 1) 静かで落ち着いた味わい有るさま。
女性の静かな中にも、うるおいやほのかな色つぼさの
あるさま。2) 湿気がある。 3) 柔らかくなる [会
話] 2) 3) 若布をなあ、干すと、はさ (竿) から 外
すと、がしゃがしゃしとて (していて) 夕方 迄置いと
くと (ておくと) シツトリなるよつてん (から)、やい
こお (柔らかく) なる言うのなあ、シツトリなつてか
ら、せな (しなければ) 皆 ぼろぼろん (に) したら
れ (してしまう) 言うてな。シツトリなる言うのなあ、
しなぼれ (しおれる) 事なあ (です)。シツトリして
から せえ (しなさい) とか、荒布 積むのも こや
(これは) シツトリせな 積まれやせんわれ (ませ
ん) はっしゃんどて (乾いていて) 言うて。乾き過ぎ

とると (ていると) そげなもん (そんな物) 積んだら、
皆 へしよつたられ (折ってしまう) 夕方 迄置いとく
と シツトリなつてくられ (来る) 言うて。そして
シツトリならんと (ならないと) 潮うたな (海水与え
なければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて 海から 潮
汲んで来て 潮 うつてしとくとなあ (しておく) して
シツトリなつて。

じつとり 【副詞】 湿気を帯びているさま。[会話] ジツ
トリ言うのも、しつとりも 一緒やわい (です)、じと
じとしとる (している) 言うてな、やいこいのおな
(柔らかいのです) この きんこあ (切干しは) じと
じとと 旨いわれ (です) 言うて、よお 言うやんかい
なあ (よく言います)。やいこおて (柔らかくて) 粘り
気な (が) あんの (有るのを)。

しつとりしとらん 1) 落ちつきがない。2) 似合わない。
3) 水分が少なく乾燥して居る。[会話] 3) がさ
がさ言うて シツトリシトラン。

しつとるやろ 知つて居るだろう

じつぱ (ぢつぱ) 【名詞】 立派、美しいさま。非常に素晴
らしいさま。(志 (布施田、甲賀)、三、鈴郡、鈴市、
松、上、阿、度、尾) [会話] 立派な事。立派言うの
を ジツパ 言う (言います)。ジツパ なあ (だなあ)
言うて、ジツパ なきもん (着物) 着て あやあれ (あ
れ) 言うて 立派 言う事や (です)。り と じ の 違い や
(違いです)。

じつぱな 【形容詞】 立派な 立派である (志 (甲賀)、北、
南) [会話] 立派な言うのを ジツパ 言うの (の
です)。ええもん (よい物) 見ると おおた ジツパ な
あ (だ) 言うてな。きりもん (着物) でも ええ (よ
い) の着ると ジツパ きもん (着物) 着て おた、
ええ なあ (よい) 言うて。

しつぱり 【副詞】 1) 一生懸命、念を入れてきっちりす
る。(志 (布施田)、尾、桑市、員、北、南) 2) いつ
も 終始 (桑市、員、北、尾、南) [会話] 1) シツパ
リとせな (しなければ) 言う (言います)。シツパリ仕
事もせな はざん なあ (しなければ駄目だ) 言うなあ
(言います)。言うな (のは) いっしょけんめ (一生懸
命) で まあ せえ (しなさい)。シツパリと言うな (の
は)、いっしょけんめ で 油断 せんと (せずに) する
言う事やなあ (事です)。念入れて きっちりする そ
わそわしとらんと (して居なくて) しんみりとする言
う事。

しつぺ 【名詞】 竹篋 漆篋の宋音 竹製のへら 禪僧が
人を打つのに用いた 転じて指を揃えて張り打つ事

しっぺい

じっぺ【名詞】嘔吐

じっぼ【名詞】十本(北)

しっぼり【副詞】1) 濡れて居るさま。充分に、さんざん。(桑市、員) 2) 熱心なさま。一生懸命。(上、阿) [会話] 1) シッポリ汗かいた言うてなあ(言つて)、シッポリ濡れたとか。ほおたまあ(ああ)汗シッポリやったよお(でした)言うて、汗よけ(沢山)かくと、そげん言うわい(そんなに言います)。汗シッポリかいて こや(これ)言うて、背中な(が)びちよびちよしとるわ(して居る)言うて、そいな時(そんな時)に言うの(言うのです)シッポリ言うなあ(言うのは)。彼女と逢引きすんのも(するの)シッポリ濡れたい言うやんかい(言います)。

しっらい【失例】【名詞】疾患、欠点 [会話] シツライな(が)有る言う。体な(が)わり(悪るい)、なかん(中に)シツライな(が)有るかして(と見えて)元氣な(が)無いなあ、言う時んなあ(に)。内科な(胸、腹が)わり(悪るい)となあ 顔よお(よく)したりしとるやんない(しているでしょう)。あのひた(人は)体ん(に)シツライな(が)有るかして 元氣な(が)無いなあ言うてな。病気だけやなしん(で無くて) きもんやそいなもんでも(着物などでも)わりとこな(悪い所が)有ると、これも なんやら(なにか)シツライな(が)出来て来たなあ言うたりな。

しっらい(しっらひ)【設】【名詞】設備 設け整える事

しっらう(しっらふ)【他八五】支度する。準備する。

しっらう【自動五】病気になる

しっらえ【名詞】設備 しっらいに同じ

しっらえる(しっらへる)【他ア下一】1) 買う、新しく作る。(鳥) 2) 準備する 用意する [会話] 1) 買うとか 2) 用意するとか、用意する言うよおな 意味やなあ(です)。シツラエとかな(ておかなければ)頼んどかな 言う事かいなあ(でしょうか)。

しっらい 1) 執拗だ(志(布施田)、員、阿、張、名) 2) 味が濃厚だ 3) 煩わしい [会話] 1) シツラコイ、断つても 此れしてくれえ(して下さい)、てや(言へば) おや(俺は) まあ 出来やせんわれ(出来ません)、そんでも なっとか(それでもなんとか) してくれえ 言うて そや出来やせんわれ 言うても そんでも、こんして(こんなにして) してくれえ(して下さい) 言うて シツコオ言うのをな、何回も言うと シツラコイ言うてな。出来る迄責めん(る)のを

なあ シツラコオテ おぞげやれ(嫌だ) 言うて。3) そして 又 彼女に惚れとて(ていて) 男な(が)いくら断つても、言うてくんの(来るのを)、つきやあるいて(つきあるいて) シツラコイ言うてな、好かん人な(が) そげん(そんなに) してくると シツラコイ おら(俺は) ぞおぞおする様なわ(だ) あの人見ると言うて。

…して そうして(志、安、一) [会話] ソシテなあ言うなあ、そしたやなあ(そうしたら) あの人なあ(が) こげん(こんなに) 言うてなあ 言うてな、そおして言うのを シテ言うの(のです)。

してえな して下さい

しておくれ して下さい。(志(片田)) [会話] 休憩、一服(休み)を、お茶の時間や(だ) 言うて おちゃん(に) シテオクレ言うて。

しでかす【偽出】【他サ五】している するの卑語

しでがみ【名詞】注連縄に吊げる紙 シデ(垂)の義(大言海)(志(布施田))

してかんかい。してかんかな。してかんかれ して行きなさい [会話] まあ行くわい(もう帰ります) 言う と ゆっくりシテカンカイ言うて。

してく していく。[会話] 兄貴は、親な(が) 譲った もん(物) 引きつんで(ついで) シテクけど(が)、分家シテクと やしきもろても(土地貰つても) 親な(が) 家 建ててくれな(くれなければ)、わがとら(自分達)で 建てなはざんし(なければいけない) 生活も わがとら(自分達)で、してかなはざん。

してくれ して下さい(鳥) [会話] 此れ シテクレ、これ シテクレエ言うて。したや、したるわい(そうしたらしてあげます) 言うて、のな(お前が) してくれるかあ(してくれますか)、言うて わしなしたるわい(私がしてあげます) 言うて。

してくれえ。してくれまあ。してくれまあえ して下さい(鳥) [会話] 此れ シテクレマア おや よおせんわれ(俺は出来ません) 言うてな、わがと(自分と) よおせんことな(出来ないことです) 此れを お前な(が) シテクレマア。

してくれや して下さい

してくれやせん してくれない

してくれるか してくれますか(安(美里村)) [会話] 此れ シテクレルカイ。此れ シテクレルカナ(してくれますか) 言うのを、此れ シテクレルカイ。シテクレルカてや(と云えば)、おら(俺は) そいなもん、ややわい(そんなもの嫌だ) 言うて したないとな

(したくない)。
してくれるかあ。してくれるかい してくれるかな し
てくれますか してくれるかな参照 [会話] シテク
レルカイ言うて シテクレルカナ (してくれますか)
言うのを。
してくれるかい して下さい
してけつかる して居るの卑語 (北) [会話] あげ (あ
んなに) シテクツカル、なんもせんと (なにもせず
に) あそで (遊そんで) ケツカル言うて。けつかつて
みよ言うてなあ けつかつて見よ、おつて (居て) 見
よ どいらい (大変な) 目ん (に) したろん (してや
るぞ) 言うて。
してこい して来なさい。
してこおに して来ましょう (安)
してこおよおなきなする したい気持ちになる [会話]
便所ん (が) おりとおて (したくて) シテコオヨオナ
キナスルけど (が) 言うてな、出て来るよおな気な
(が) するけど 行っても出やせん (出ない)。
してこます する してやる (張、伊)
してしもた してしまった [会話] シテシモタ言うの
したたれ (してしまった) 言うて。
してた していった (阿) [会話] ひとり なった
(自然になって行った) 言うの、シテタ言うのなあ
(です)。人のしたな (したのは) したた (してしまっ
た)、自然になってたのおわ (のは) シテタ言うねんな
あ (言うのです)。
してて していって してしまつて して行った [会
話] こげん (こんな) シテテ、うちやれてて (壊れ
てしまつて) 言うのを、こげんなつて (こんなにな
つて行って)、こげん シテテ言うて、誰かしたたのお
をなあ (してしまつたのを) こげんしたて (こんなに
してしまつて) まあ言うて、ひとりん (自然に) なつ
てくと (行く) シテテ まあ言うて、こげん シテ
テまあ はざんわれ (駄目だ) 言うてな。
してな しては
してな。してなあ。してなわ。【名詞】注連縄 [会話]
シテナ言うのは 正月に飾る 注連縄。
してぬけた してしまった (伊)
してのけた してしまった
してみやがれ して見る 卑語
してみられ して見ます
してもおた 1) して貰つた 2) して貰つて居る
[会話] 1) シテモオタネ これを言うて。2) 仕事、今
日は 家ののおな (のが) よけ (沢山) 有つて、よお

せんで (出来なくて) あれん (彼に) シテモオタ 言
うて。手伝つて貰らつとる (ている) 事を シテモオ
トネネ言うて。
してもおとる して貰つて居る [会話] してもろたね
(してもらつたのだ) これを言うて。仕事、今日は
家ののおな (のが) よけ (沢山) 有つて、よおせんで
(出来なくて) あれん (彼に) シテモオトネネ (もら
つて居るのだ) 言うて。手伝つて貰つとる (ている)
事を シテモオトル言うて。
してもおとんね して貰つて居る してもおた参照
してもらお して貰らおう [会話] 此れ シテモラオ
カイナア、もらお、おもとる (貰らおう思つている)
時ん (に) なあ、シテモラオ言うてな。ま、此れシテ
モラオ おらま (俺は) わがとよおせんよつてん (自
分が出来ないから) 言うて、おもとる (思つている)
事をなあ。
してもろた。してもろたね して貰つた してもらつ
たのだ してもおとる参照
してやられる 1) してやる事が出来る 2) 一杯くわ
される。だまされる。負かされる。[会話] 2) あれん
(彼に) やりこめられた シテヤラレタ言うて。
じでんしゃ 【名詞】自転車
しと (溼) 【名詞】湿水、しとうつ、潤す、遣水、撒水。
湿気を物に与える時の水。“しとど”古くは“しと”
とか“しとどに”の形で用いる。雨露などに、びっし
より濡れるさま。涙などでぐっしり濡れるさま。(志、
鳥、飯、桑郡、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、一、久、
松、上、阿、張、名、度、伊、尾、熊) [会話] 水
そこらい (その辺に) 撒いたり シト打たな (なけれ
ば) 言うて。がさがさしとるもんで (ので) シト打た
な 言うて。めえ (若布) 取り込むと、そや (それ)
ぼろぼろなつてくない (になつて行く) シト打たな
(なければ) 言うて。あらめ (荒布) 積んだりする時
でも。荒布積んだり、めえ (若布) を 干してあんの
ん (有るのに) 取り込むのおん (のに)、がさがさしと
て (して居て)、そや (それ) シト打たな 皆 ぼろぼ
ろんしたられ (にしてしまう) 言うて。水 ちよいと
(少し) 湿りつける。しめりけやんのを (湿気やるの
を)。藁も シト打つて 打たななあ (打たなければ)
はしこおて (はしかくて、折れやすくて) 使われやせ
んわれ (使えない) 言うて。今頃 (11~12~3月
頃) 打つと シトやらな (やらなければ)。冬は ちよ
いと (少し) 水をじよる (如雨露) で、しゅと しめ
りけやらんと (やらないと) はしこおて (かたくて)

皆 ふしな (節が) へしよれて (折れて行って)、はざんもんで (駄目ので)、ちよいと シトやって、蓆で巻いとけ (巻いておけ) 言うて。ちよいと (少し) しめりけやんの (やるのを) シトやる言うのなあ (言うのです)。蓆で巻いとく (ておく) 言うのは しばらく 時間を こおなあ うめあうよおん (平均になるように) なじまして。うめあう 言うのは なじます 言う事や (です)。乾いとるとこ (て居る所) と しめつとるとこ (湿って居る所) と いきあうよおん (ように) 巻いとくと (ておくと) さいご (その時には) そんな (それが) 丁度ええ (よい) 調子に なんねてや (なるのです)。

しと 【名詞】人 ひと (志、鳥、桑郡、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、一、久、松、上、阿、張、名、度、伊、尾、熊) [会話] 人言う事を あのシト。ひ、と、し、となあ。

しといき 1) 一時、しばらく。2) ひところ、過ぎた一定の時期。(鳥)

しといた しておいた。[会話] して有ったのは、シトイタ。しといて有る。

しといたられ して置いて上げます

しといたる。しといたるわ。しといたるわい。しといたるわな (女性語)。しといたるわら。しといたるわれ しておいてやる。[会話] シトイタルワ言うてな、しといてくれるかい (しておいてくれますか) 言うて。シトイタルワ言うて。して、おいとくとなあ (ておくです) すぐやなしん (でなくて) 今日やのおても (で無くても)、あした (明日) でも シトイタルワ言うてな。

しといたれ 1) してやれ。しておいてやれ。2) しておきました [会話] 1) 此れ シトイタレ言うて命令する時や (です) 此れ シトイタレヨオ あした (明日) やらんならんよって (やらなければいけないから) 言うて。

しといて 1) しておいて。(志) 2) して下さい。[会話] 2) 此れ しておいて下さい言うのを、シトイテ言うの (のです)。わがと (自分が) よおせん (出来ない) 事な (が) 有ると 人に頼んで。1) こいな (こんな) 事シトイテ言うて、こいな事、してしまつてどん (下手) な事、シトイテおつてまあ言うてな。

しといてえ しておいて下さい。[会話] しといて下さい言うのを シトイテエ、此れシトイテエ言うて。今しやのおても (今で無くても) だんねえ (かまわな) 事やわな (です)。今し、してほし (欲しい) 事、

これ してくれえ (下さい) 言うて 言うんなし (言うのですし)、シトイテエ 後でも ええ (よい) 言う事や (です)。

しといてくれえ しておいて下さい。[会話] しとく此れ しとくわい言うて、わがと (自分) する時は しとくわい。人にしてもらう時は しとけとか しといてええ シトイテクレエ、言うて。

しといてた。しといてたない していった しておいていった [会話] あの人な (が) 此れ シトイテタん どお (のだ) 言うて。

しといてて してしまつて行って して行って [会話] こいな (こんな) 事 シトイテテ言うてな。しといて (しておいて) 言うな (のは) 今し (今) した事を言うんなし (言うのです)、シトイテテ言うな (のは)、しといて (しておいて) ほつといていた (捨てておいて行った) 後の事でなあ、シトイテテ まあ こげな (こんな) 事を言うてな。

しとうつ 湿気を与える、打ち水をする しと参照 (志 (布施田) 南、熊) [会話] シトウツ言うな (のは)、はっしやんどんのおえなあ (乾燥しているのへ)、荒布 積んだりする時なあ、潮 (海水) を汲んで来て じよろでやるの、シトウツ言うの (のです)。しめり (湿気) やる事をなあ、シトウツくと (うっておくと)、したたりなつて (湿気を含んで) やいこお (柔らかく) なつて、しなほれて ええわれ (しおれてよろしい) 言うの (のです)、荒布 干したの がしやがしやしとてな (していて) みんな (皆) ぼろぼろん (に) なつてくんやんか (行くのです)、そやよつて (それだから)、そげん (そんなに) して、なつてかん (行かない) よおに シトウツのなあ (のです)。

しとかせん して置かない しない

しとかせんねど 何故しておかないのか しないのか [会話] 目下の人にや (には) 此れせんかれ (しなさい) 言うて、此れもしとかんかれ (しておきなさい) 言うて。此れもなえ (何故) シトカセンネド言うて。

しとかな しておかなければ (南) [会話] 此れ シトカナ あしたん (明日に) になると 忙がしよつて (から) 今日のうちん (間に) シトカナ言うて、先い (へ) しとく (しておく) 事を シトカナ言うてな。

しとかんか。しとかんかかい。しとかんかな (女性語)。しとかんかれ しておきなさい

しときや しておけば [会話] どやつてでも (どうやつても) シトキャええわれ (よろしい)。

しときやがれ して置けの卑語

しとく。しておく(久、阿、伊)

しとくてない。しとくてわい。しとくてわな(女性語)。

しとくてわら。しとくてわれ しておくそうです

しとくど しておきます [会話] こんげん (こんな) シトクド言うてなあ。

しとくら 1) 一度 ひとくらの訛(志(御座)、鳥(国崎)) 2) 過去のある時期 [会話] 1) 一回言う事をシトクラ言うの(のです)。シトクラん(に) 食うたらんと(食べてやらずに)、ぼちぼち 食わなはざんわれ(食べなければ駄目だ)言うのなあ。しぎり出し(少しずつ出す)、しといて(しておいて) 食うのと(食べるのと)、シトクラん(に) 食いまくったてまあ 言うて。一ぺんに 食べたらんと 言うのを ヒトクラん(に) 食べたらんと 言うのなし(です)、仕事でもシトクラん(に) そげんせんでも(そんなにしなくても) ええわれ(よろしい)、ぼちぼち しやええわれ(すればよろしい) 言うてな、シトクラ 言うの(のです)。しとこっばい 言う時も 有るし、しとこっばいん(に) 皆 したたよお(してしまった)、しとこっばいん(に) ほばくったたれ(食べてしまった) 言う時も有る。

しとくわい。しとくわな(女性語)。しとくわら。しとくわれ しておきます したてくれえ、おいなかず参照

しとけ しておきなさい。(阿、張) [会話] 此れ シトケ、しておきなさい言うのを シトケ言うね(のです)。すぐやのおても(で無くても) ええけどな(よいが)、シトケ言う時はなあ。後でも ええけどな シトケ言うてな。

しとけ(人気)【名詞】人の気配 [会話] シトケな(が) 無い言うてな 人な(が) おらん(居ない) 事な(です) だれんもおらん(誰も居ない) 家、此の家や(は) シトケな(が) 無いねよお(のだ) 言うてな。

しとこ しておこう。しておきなさい。

じとこ(ぢどこ)(地所)(地末)【名詞】岩盤、土地が岩で有る所。(志(布施田)) [会話] ジドコ 言うなな あ(のは) かつたいとこなあ(堅いとこです)。ぐわ れて来るとこ(くずれて来る所)を くるぼくや(だ) 言うし、ぢいな(地が) かいたると(表面を取り除くと) 岩な(が) 出て来るわな(来ます)。ジドコ な(が) 出て来て かつとおて(堅くて)、そすと(そうすると) そのかつたいとこ(堅い所)へ つくりつ ちな(耕作する土が) 置いて有ると みずつきや(と) 言うてなあ。水な(が) すいてかせんもんで(吸収されないので)。あしこの(あすこの) 畑や

(は) みずつきや(だ) 言うて、いつ迄も びちよび ちよしとて(して居て) ものできな(出来具合が) わり もんで(悪いので) ジドコで水すきな(が) わり われ(悪いです) 言う(言います)。そして うめしよ(埋処) のとこや(所だ) 言うと じつきん(すぐに) 水な(が) しいてくもんで(すいて行くので) が ら が ら 畑や(だ) 言うて、そすと 又 その が ら が ら 畑は 雨な(が) 降つても、芋うよ(植えよう) 言うと じつきん(すぐに) が ら が ら ん(に) な つ て う る お い な(潤、湿気が) じつきん 切れてくね(行くのです)。あんまり(あまり) 水すきな(が) よ お て (よくて)。そすと(そうすると) 雨な(が) よ け(沢山) 降る時はなあ が ら が ら は ええんなし(よいのです) ひ で り ん(晴天続きに) な つ て 来 る と、が ら が ら わ なん も か も(すべて) 皆 乾 い て く ん ね(きます)。そすと ジドコのとこは(所) 水 持 ち な(水の保持力が) よ お て ええ ね け ど(よくてよ) ひ で り ん(晴天続きに) な る と。ジドコは 家、建 て て も な あ、家 な(が) 狂 な(が) 出 来 や せ ん ね け ど な あ(出来ないのですが) 重 み(重量)の掛 か る と こ(所)は か た ぐ。家 な(が) た て つ け(戸、障子が) 合 わ ん よ お ん(に) な つ て 来 る と そ す と(すると) こ や な あ(此れは) う め し よ や よ つ て ん な あ(だから) 言うて よ お 言 う わ い(よく言います)。う め し よ 何 代 も 何 年 も 何 十 年 も、晒 し て 有 る と こ (所)は、ええ ん け ど、じ か(直接、近々) 埋 め た と こ (所)は、家、建 て る と 狂 な(が) く ん の な あ(来るのです) か た ぎ な(傾きが)。ジドコは、その 点 は か た ぎ が 来 ん で ええ ね(来なくてよいのです)。そ ん だ い(その代わり) その 座 敷 い(へ) ひ え な(湿気が) あ が ん の(あがるのです)。

しとこか しておきましょうか

しとこっばい 一遍に 一度に しとくら参照

しとごみ(人込み)【名詞】人の込み合うこと。又その場所、雑踏、ひとごみ [会話] シトゴミん(の) 中 押 し 割 つ て 言うてなあ。人 な な あ(が) よ け(沢山) 寄 つ と る こ と(ている)、シトゴミん(に) 中 も 押 し 割 つ て 入 つ て 来 て 言うて、シトゴミや(だ) 言うて。

しとしきり 一時 いっとき

じとじと【副詞】【形容詞】ひどく湿気を帯びているさま。濡れているさま。湿気を含んで濡れているさま。しととの転(大言海) [会話] 雨 な(が) 降 つ て、道 や(は) び た び た や れ(だ)。あ し こ ら(あのあたり) 通 る と じ と じ と し と ん ね よ お(しているのです)。

しとそばえ【**名詞**】すぐ人になれなれしくする(鳥)

しとた しておった。して居た(志) [会話] あれ シトタ、仕事して シトタ。仕事しとる(して居る)言うのを しとる シトタ言うて。

しとたのん していたのに。[会話] 仕事シトタノン、あのひた(人は) おんな、いた(俺が行った)時や あげんして(あんなに) 仕事シトタノン、まあ 死んでたんでわれ(いったそうだ)。

しとたや していたら。[会話] 仕事シトタヤ。こげんしてしとや(こんなにしてしておれよ)、ひっくりかえってたんでない(たそうだ)言うて。仕事シトタヤ言うてな。しとたのん(に) あの人な(が) ひっくりかえったんでわれ(のだそうだ) 倒れたんでわれ 言う時な(が) 有るやんかい(有ります)。

しとだる(四斗樽)【**名詞**】容量四斗の樽(南)

しとたんどお(しとたんどう) していた。していたのだ [会話] しとりました(しておりました) ました言うの(のです)。おんな(俺が) 行た時ん(に) こげん(こんなに) して シトタンドお言うて。

しとたんなあ していた。していたのですね [会話] おんな(俺が) 行たおりん(時に) こげん(こんなに) シトタンナア そやよって(だから) よお(呼ん)でも 返事せらつたんなあ(しなかったのだね) 言うなあ。

しとたんよお していたのです [会話] しとたんなあ言うて 人な(が) しとる(している) 事。シトタンナア言う時も有るし、シトタンヨオ言うて。

しとつつも 少しも

しとつてくる 湿気を帯びる [会話] 湿気な(が) 有るとなあ、浜辺は 潮風な(が) 飛沫な(が) 吹けて来るもんで(ので) 濡れたよおな 気持ちでなあ。ぴとぴとと 気持ちな(が) わりなあ(悪いです) さんざりとしとると(さっぱりしていると) ええねけどなあ(よいのだが)、シトツテクンのなあ(来るのです)。天気のええひい(よい日)は さらっとしとんねえけど(しているのだが) 雨降りん(に) になると シトツテクルの(来るのです) 湿気呼んでくんの(帯びて来るのです)。

しとつとる 濡れて居る 湿気を帯びている

しとつに 一緒に

しとて して居て。(志) [会話] こじよっこり(こじんまり) シトテ ほん かわいらしなあ(本当に可愛らしいです)。

しとて したくて

しとても していても。[会話] 帯シトテモ、しよろけて来ると ぞれてたれ。

しとなった 成長した ひとなった

しとなった したくなった(名)

しとなる【**動詞**】成長する。育つ。一人前になる。

(志(志島、国府)) [会話] おっきい(大きく) なる言う事 シトナル シトナリ過ぎてまあ言うて。

しとなる したくなる(名)

しとのもん 人の物(鳥)

しとばか 少し程、少し。[会話] 枝 シトバカ、はろたれ(拂ってやれ) 言うのを。切れもん(物) です時は 切つたれ(てやれ) もんだれ(もいでやれ) 言う時は、手でへしよつたり(折つたり) 裂いたりする。

しとめ【**名詞**】人見知り ひとめ(志(甲賀))

しとめする 人見知りする ひとめする(鳥(鳥羽))

しとや しておれば [会話] こげん(こんなに) して、シトヤ ひっくりかえってたんでない(ていったそう) 言うて。

しとや 一人は あの人は ひとや

しとやせん して居ない。して居ません。[会話] しとんね(しているのだ) 言う時もあるし シトヤセン言う時も。

しとらな していなければ(志、四、伊、尾、熊)

しとらな 人達が ひとらな

しとらむすこ【**名詞**】一人息子 ひとらむすこ

しとらむすめ【**名詞**】一人娘 ひとらむすめ [会話] 餅のない ぜんざいと掛けて、シトラムスメ解く、心はそこ(底、其処)は、あんじる(飴汁、案じる)ばかり。

しとらめ(ひとらめ)【**名詞**】1) 後家、一人身、独身者。

2) 人の目 世間 [会話] 1) シトラメ言うて 一人もん(者) 後家やなあ(です)。

しとらん していない(志) [会話] なんも(何も) シトラン。遊んで、仕事シトラン 言う事やわい(です)。なんもせんとおる(なにもせずに居る) こと シトラン。

しとらんと していないで(鈴市) [会話] うかうかシトラント なんでも(なにでも) せなはざんわれ(しなければ駄目だ) 言うて そげん(そんなに) シトラント なんやかや(いろいろ) せなはざんわれ。

しとり(瀼)【**名詞**】水分を含んで湿って居る事。又その水分。(志、鳥、鈴市、安、一、名、上、阿、度、伊) [会話] 荒布や もお(藻) 積むのも シトリな(が) 来んよお きい(木) で台 組んで。

しとり【**名詞**】一人、自然に。(上、阿)
 しとりご【**名詞**】一人子 兄弟のない子供 ひとりご
 しとりごと (ひとりごと)【**名詞**】私語 一人語 (志 (越賀))
 しとりでん (ひとりでん) 自然に (志 (浜島)、鳥) [会話] シトリデン こげん (こんなに) になって来た言うてな。自然になって来た言うの (のを) シトリデンまあ こげん になってたね (こんなに になって行ったのだ)。
 しとりどこやない その事をして居る所では無い。他に もっと大切な事が有る
 しとりゃ していれば (尾)
 しとりゃ 一人は ひとりゃ
 しとる して居る。(志、鳥、桑郡、三、四、松、尾) [会話] 芋な (が) 煮えんと (えずに) かっとおて (固くて)。喰うと ごじごじシトルもんで (ので) ごじごじ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。
 しとる (湿)【**自ラ五**】湿気を帯びる。湿気を帯びて、柔らかくなる。(志 (布施田)) [会話] はえ (南風) の吹くと こい (所へ) そんなり (そのまま) 蓋さんと (せず) 置くと シトッテ 来て。せんべや だけでも (煎餅などでも) しびてた (湿気を帯びた)。口あけて 置いとくと なあ (ておくと) シトルと、しびてて (湿気を帯びて) うまのおてなあ (旨なくて) ぱりぱり言う音 な (が) せんとはざんし (しないと駄目です) あられでも 豆でもなあ。
 しとるやろか しているだろうか
 しとるんか して居るのか
 しとんね しているのだ [会話] こげん (こんなに) シトンネ。此れ なぶつトンネ、いろトンネ、おや まあ ねぶつトンネ (寝て居るのだ) 怒つトンネ 言うてなあ、泣いトンネ 言うたり、しとんのを。
 しとんねど しているのですか [会話] どげん (どんなに) シトンネド、なと (なんと) シトンネド 言うて何をしていますか 言う事をなあ。
 しとんねんなあ して居るのです [会話] シトンネン ナア、しとんねどお、しとんねやんかあ言うのも 皆 一緒や (です) して居るのです 言う事。
 しとんの しているのです (安)
 しとんの 他人の物
 しとんのお していますね。
 しとんのや しているのだ (鈴市)
 しとんのや 人の物です
 しとんのん して居るのに [会話] おや (俺は) こげん、いっしょけんめん (こんなに一生懸命に) 仕事シ

トンノン、なあ (お前) 遊んどんのおか (でいるのか)。
なあ 何処い (へ) いとたんど (行っていたのだ)、おや (俺は) まあ 御飯の支度もして ちゃんとシトンノン なんもかもさめてかれ (なにもかも冷めて行く) 言うてな。

しな【**名詞**】1) 品格 格好 様子 2) 物 [会話]
 1) ひん (品) 作んのも (作るのも) シナ作る、あのひた (人は) シナツクリやなあ (だ) 言うて よお言う なあ (よくいます)。ひんつくる言うな (のは)、きもん (着物) 着ても 後ろ見い 前見いして あっちゃ (あちら) 撫で こっちゃ (こちら) 撫ですんのなあ (するのを) 後ろ見い 前見い 尻撫で 頭撫ですると ほん (本当) 出しなに ひん作って あやあれ 言うし (言います)、伊達こきや言うて。

しな【**助動詞**】**【接尾語**】接尾、動詞について、その際、その途上の意を表す。時を表す。出シナ、起きシナ。動詞について、その動作と同時にこの意を表す。(員、三、鈴市、安、松、多、上、阿、張、南) [会話] 起きる きわ (際) を 言うねなあ (言うのです) あんで (あれで)。シナ言うな (のは) オキシナにとか、ネシナにとか言うて、寝る時に言うの (のを) ネシナ。キシナにとか オキシナや (だ) とか 出る時も デシナ家から出る時。きわの事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。デシナやとか 仕事の シシナやとか。デシナい (に) 誰それが来て言うて。

しな しない しなさい (志、鳥、桑市)

しなう (しなう)【**自ワ五**】構む 歪む (志 (布施田))

しなかつた 殺してやった。殺してしまった。[会話] 死んでた (で行った) 言うのを シナカシタタ。餌やらんと (やらずに) おったもんで (居たので) 言うて。

しなかつ 死亡させる。殺す。(桑市) [会話] 殺したた (てしまった) 言うのを、シナカス言うて。水やらんとおって シナカス 言うて、餌もやらんとおったら シナカシタタネ (てやったのだ) 言うてな。死んでた (でいった) 言うのを シナカス 言うて。

しなかつた 悪い物 [会話] つぶもん (豆類) でも、砂 な (が) まぜつたり (混じつたり) シナクたな (が) 有つたりすんの (するのを) 分けるの (のを) しわける (分別する)。

しなだま【**名詞**】金銭、へそくり [会話] シナダマよけ (沢山) 持つとて (ていて) 言うて、金よけ (沢山) 持つとんのを な (ているのを)。シナダマ言うの (のは)、お金やわい (です)。お金や (とか) へそくりしとる (している) 事や (です)。シナダマ よけ

貯めとんねてない (ているのだそうだ) 言うてな。おらん、ばあやん (俺の婆さま) 死んでたや (行ったら) シナダマ なんも (少しも) 無かった言うしなあ (言います)。

しなだれかかる【自ラ五】 寄り掛る (志 (布施田))

しなだれる【自ラ下一】 媚びて人により掛る

しなつくり【名詞】 外見をよく見せようとする人。しな参照

しなびる (萎)【自バ上一】 水分が無くなり皺がよる しおれる しなふの転 (大言海) (北)

しなびれた しおれた

しなびれる 萎縮する しおれる

しなぼれてた 萎れていった。萎れた。[会話] なあ (菜) でも、ちよいと (少し) 日に干したると (てやると)、シオレテタとか言うて、シナボレテタとか 同じ意味やけどな (です)、シナボレテタとか 萎れてたとか。

しなぼれとる しおれている (志 (甲賀))

しなぼれる 1) しおれる。しなびる。しおれる、萎れる。生気を失う。枯れそうになる。(志 (御座、鶴方、甲賀、国府、安乗)、鳥、久) 2) 元気を失ってしょんぼりする 気がくじける。[会話] 1) シナボレル言うて、乾いた糸瓜の 屋根から 下 (サガ) がったよおん (に) して、かあな (皮が) シナボレル言うて、皺な寄ると。あんやれまあ 皺な (が) 寄って 乾いた糸瓜の 屋根から下がったよおん (に) しとられ (して居る) 言う。2) ほいて (そうして) しゅつとしとん のも (して居るのも) シナボレル。シナボレテ なん かまあ (何か) ちよいと (少し) 考え事して、きいな (気が) 沈ん どる (で居る) 時なあ (に) シナボレトル (て居る) 言うて。 そすと (そうすると) 畑のもん や (物とか) 草や (とか) ちよいと (少し) 虫な (が) 付いたり、日な (が) 照って来ると シナボレルのなあ (のです)。くび かたげて (傾けて) 羽根たらしたよおん (ように) はあな (葉が) 垂れて。羽根垂らす 言うのは、にげな (人間が) 元気な (か) 無いと あやあれ (あれ) まあ 鶏な (が) 羽根垂らしたよおななあ (ようだなあ) 言うて 鶏な (が) ぐ あいな (具合、調子、健康状態が) わり (悪く) なって来ると、羽根たらあんとして 来るやんかい (来ます)。 そやもんで (それなので) にげ (人間) も 元気な (が) 無いと、あや (あれ) 羽根垂らして来て あ や (彼は) なつたらあねなあ (何か有るのだなあ) 言う。

しなもん (品物)【名詞】 1) 品物。物。2) 陰部 (志、鳥) [会話] 1) 今しや (今は) おいだし そげんよば せん (そんなに招待しません)。シナモンで呉れんね (呉れるのです)。

しなもん【名詞】 しな者 人を罵って言う語

しなやか【形容詞】 弾力があってよく撓む。[会話] さわ (竿) でも、布団干したら やぐうて 曲って、はざんわれ (駄目だ) 言うて、シナヤカナもん (物) をやぐい。

しなり 仕方 仕振り

じなり (ぢなり) (地形)【名詞】 一面に、肌一面、全体。[会話] 冷たい水につけると、始めのうち (間) は、ポツンポツンとしとて (して居て) そんな (それが) 重なって来ると ジナリン (に) 高張ってくんのなあ (高くなって来るのです)。なんやかや (いろいろ) あいなしん (隙間なしに) 出来ると ジナリン (に) なって来たない (です) 言うてな たつかいとこ (高い所)、ひつくいとこ (低い所) なしにしてくとなあ (して行くと)、ジナリン (に) なつとんね (なっているのだ) いうてなあ、土地の格好言うやんか、家 建てん (る) のん (に)、ジナリン (に) しとかな (しておかなければ) 言うて。

しなる【自ラ五】 撓む

しなれとる (死) 死んで居る

しなれとる 何回もして慣れて居る

しなれる 死ぬ。死ぬ事が出来る。死別する。死ぬ。(志) [会話] まあ あれん (彼に) シナレてなれ言うて、兄貴ん (に) シナレてやら (とか)、子供ん (に) シナレてやら 言うて、先立たれる事なあシナレル言うて。

しなれる (爲慣)【自ラ下一】 何回もして慣れて居る

しにあと (死後)【名詞】 死んだ後。

しにおった 死ぬ程であった

しにがね (死金)【名詞】 1) 無駄に使った金銭 有効で無い金の使い方 2) 死を考えて貯えた金銭。(志 (布施田))

しにぎたない なかなか死なない。[会話] ほおたるぐさ (つゆ草) は なかなか絶えやせん (ないので)、シニギタノオテ (なくて)、むしくって (むしって) ほつとくと (ほおっておくと) 芽な (が) 出てくんの (くるので) 絶えのくいね (にくいのです)。

しにぎわ (しにぎは) (死際)【名詞】 死のうとするまぎわ 臨終

しにくい (為難)【形容詞】 困難である。しがたい。やり

にくい。おおじょう参照 [会話] 仕事しても えら かったりすると (大変だと)、シニクイ。

しにぐそ (死糞) 【名詞】 死ぬ時に出る大便。[会話] シニグソたれた言うて、仕事して えらいと最後 (大変だとその時) シニグソたれたよお言うて。

しにぐそたれる 力を入れるので脱糞する 死ぬ程努力する (志)

しにくち (死口) 【名詞】 人の死ぬ事 続けて人が死ぬと、シニクチあいたと言う

しにくちあいた 続けて死人の出る事

しにざま (死様) 【名詞】 死んだ時の様子。死ぬ時の有様 [会話] シニザマな (が) わり (悪い) 言うて。死んでく (で行く) 時ん (に) 不幸におおたり (遭ったり)、あんまり (あまり) しやわせ (幸) でなかったり、シニザマな (が) わり (悪る) かったなあ あの人は言うてなあ。

しにぞこない (しにぞこなし) (死損) 【名詞】 死ぬべき時に死なない事。老人。[会話] シニゾコナイやよって (だから) 言うて。病気してだ まあ ほざん (いけない) 言うのな (が) 助かると、あの人あ (は) シニゾコナイやとか。怪我して 重傷やったけど (だったか) 助かると シニゾコナイや (だ) 言うて。

しにどき (死時) 【名詞】 死ぬべき時期 死ぬ時

しになき (死泣) 【名詞】 死ぬ程、激しく泣く事

しになきしとる 激しく泣いて居る

しにぼくろ (死黒子) 【名詞】 老人の皮膚に生ずるほくろや、しみ。[会話] ほくろな (黒子が)、ほしほしな (点々が) 出てくるやんかい (来ます)、年寄り。シニボクロ言うて 黒斑病な (です)。黒斑病な (が) まあ よけ (沢山) 出来て来た。足でも一杯 (沢山) 出来とる (て居る) 人な (が) 有るやんかな (有ります)。だいこ (大根) のはあ (葉) の 針な (が) あんの (有るのを) 喰うと、取れてく (て行く) 言うて、だいこば (大根葉) を 針な (か) じゃんじゃん出とる やんない (出て居るでしょう) だいこばな おっきな って来ると (大きくなると) 針な (が) 付いて。あざな (が) 取れてく (取れて行く)。

しにみやげ (死土産) 【名詞】 1) 冥土へのみやげ。2) 得がたい経験 [会話] 1) シニミヤゲに 何かし とかな (しておかなければ) 言うて。死んでく (死んで行く) 迄 あれもして これもして思とんの (思つて居るの) シニミヤゲ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。死んでく迄 あげんも (あんなにも) したい、こげんも (こんなにも) したい 思とんのおを (思つて

居るのを) シニミヤゲ言うんやろなあ。

しにやまい (しにやまひ) (死病) 【名詞】 1) 命の助からない病気 2) 非常に困難な事 金儲けかシニヤマイか

しによく (死欲) 【名詞】 1) 死ぬ前になって急に強まる物欲。(上、阿) 2) 死ぬ前に物欲からはなれる事 [会話] 1) 死んでく (で行く) 前ん なって来ると、欲 してすると あやまあ (あれは) シニヨクやなあ (だ)、じっきん (近々に) 死んでく んかして (死んで行く) と見えて シニヨクや (だ) 言うてなあ (言います)。死んでく (で行く) 前ん なると どいらい (大変) 欲 する人な (が) 有るしなあ (有りますし)。そとまあ (すると) 死んでく 前ん (に) どいらい (大変) じゃけん (邪険、意地悪) な人な (が) 人に親切したりすると あやまあ (あれは)、死んでく んかして ほとけごころ な (佛心が) 出て来たれ (来ました) 言うて。死んでく 前ん なってくと (になつて行く) シニヨクやとか (だとか) 言うて、まあ ものすごい (大変) 欲 したり すんのなあ (するのです)。そすと あやまあ (そうするとあれは) シニヨクやなあ (だ) じっきん死んでく ど (間もなく死んでいくぞ) あや (彼は) 言うて。

しにる (死) 死ぬ (員) 【会話】 シニル。死んでく (で行く) ま シニル 思いをしたよお (しました) 言うてな。ま 苦労 したり えらいめえん (大変な目に) 遭うと、シニル 思いや ったよお (だった) 言うてな。

しにるよおな 死ぬ様だ 大変苦痛だ (志 (布施田))

しぬくい 困難だ。むづかしい。(鈴市、鈴郡、北) [会話] このしごた (仕事は) シヌクイなあ言うて。なん でも (何でも) 難かし (しい) 事な (が) 有ると、こやまあ シヌクイ言うて。そやよって (だから) にげ (人間) でも あやまあ (彼は) ほん (本当に) シヌクイ人やなあ (だ) 言うて、つきやいのくい (つきあいにくい) 人をな。

しぬる (死) 死ぬ。(桑市、安、津、一、上、阿、張、名) 【会話】 更年期やのおても (でなくても)、シヌル迄 ぶらぶらしとる (している) 人な (が) 有りお った (有りました)。

しね 【名詞】 わだかまり、心に思う事。根性。(志 (布施田) [会話] にげ (人間) でも しつこい と、ちよいと (少し) シネな (が) 有るよおな にげや (人間だ) ねちこおて。

しねおった 1) 死ぬ程大変だった 2) 死ぬところだった

しねかい 【形容詞】 執念深い。しつこい。[会話] ねつ

うて(しつこくて)、ねっつて シネカイ いつ迄 しねな (わだかまりが) 有って 味噌ん (に) 骨な有る よおん (ように)。

しねなある わだかまりがある。心に残る。[会話] シネナアル言うのは、なんやら (何か) あっさり言わんと (言わずに) 言いたいよおな、言いたない (言いたくない) よおにしとんのおを (しているのを) シネナアル。

しねなのこる わだかまりがいつ迄も続く。[会話] しねな有って言うて、いつ迄 ねっこい (執念深い) 事言うて、恨み事言うたり (言ったり)。あんな こげん (彼がこんなに) 言うて ごおなわく (腹が立つ) 言うて、いつ迄言うとなあ、いつ迄 あげん しねもつとんね (ているのだ) 言うて 機嫌な (が) 治らんと (ずに) 恨む様な事言うたり したりすると あげん (あんなに) いつ迄、しね 持つとて (ていて) いつ迄 忘れたらんと (てやらずに) おるとなあ (居ると)。それ言うると (言っている) 人あ (は) あのひた (人は) シネナノコッテ いやらしねてや (嫌らしいのだ) 言うて。

しねもつとる 執念深く思っている。いつまでも恨んでいる。

じねんじょ 【名詞】 1) 自然薯 2) いつもの事だ 慢性の病気 (志 (布施田))

しの 死のう 死にます (北)

しのぎ (凌ぎ) 【名詞】 1) 生活。やりくり。しのぐの連用形の名詞化。2) 一時押えの食べ物 [会話] 1) しよたいな (世帯が) 裕福ん (に) なって来たのも シノギやすなって来た (やすくなって来た)。

しのぐ (凌) 【他ガ五】 1) 耐える。我慢する。2) 困難に耐えて苦労する。努力する。[会話] 1) 雨風シノグだけでもええわれ (よろしい) 言うてなあ。家もよお建てんと (建てられなくて) まあ ほん (本当に) 掘立小屋でも 雨風シノグだけでええのん (よいのに) ほしなあ (欲しいです) 言うて。2) こおとん (儉約、質素) して、シノイデ そして 生活しとる (している) 時も有るしなあ (有ります)。

しのくい しにくい 容易でない。する事が難しい、やりにくい。(志、度) [会話] しにくい事を シノクイ。ほおた、こや (あゝ此れは) どいらい (大変) シノクイなあ むつかして (むつかしくて)。仕事な (が) ほおた (あゝ) こやまあ (これは) 土な (が) おもとおて (重くて) シノクイわれ (です) とか、かっとおて (堅くて) シノクイわれ 言う時も使うし てざいく

(手細工) する時の難かしのを シノクイ。しぬくい事を シノクイ言うて、仕事な (が) こやどいらい (これは大変) シノクイなあ言うて。難かして (難しくくて) シノクイ言うの (言います)。

しので 撓んで 忍のんで

しのに (死) 死にましよう

しのび (忍) 【名詞】 隠れる 隠す 目立たないようにする事。動詞しのぶの連用形の名詞化。[会話] シノビヌイ言うな (のは) 隠して縫うた後をなあ。くけて針を中い (へ) 入れといて (ておいて) 忍ばして はながって (はね上がって) 来んよん (ように) 上いは ちっちょお (小さく) めえ (目) 出してなあ 中は、なあごお (長く) 引っ張ってすんの (するの) シノビや (だ) 言うて。シノビな (が) 入れんと (ずに) あって、はぐんで (膨れて) 来た言うて、シノビ 入れんとおると (ずにいると) 表な (が) 皺な (が) よって だるんでくんの (弛るくなって来ます) 仕立てな (が) わりと (悪るいと)。

しのびいと 【名詞】 目立たない様に縫う糸 [会話] とじ糸言うな (のは) 上で結ぶやんない (でしょう)。シノビイト言うな 上い (へ) わからんよおん (ように) しばとくの (くくっておくのです) シノビイト言うの (のです) しのびとじ。

しのびとじ。しのびぬい 【名詞】 表面に糸が表れないようにして縫う事、又その様に使う縫い方。糸を見せない縫い方。

じのり (ぢのり) (地海苔) 【名詞】 土地で取れた海苔。特に太平洋側のもの。[会話] ジノリの鮪くれ (ください) 言うて、ジノリの鮪は 美味しいねえけど (のだが) ぎん海苔 (湾内の海苔) は 色もわりし (悪い)、匂もねえし (無いし)。

しば (柴) 【名詞】 1) 小枝の薪。たきつけ (志 (的矢、布施田)、南、度、熊) 2) 落葉 [会話] 2) シバ言うのは きい (木) のはあ (葉) の事なあ (を)。シバ かりや (刈りと) 言うなあ (言います)。1) 爺やん (さん) 山へシバカリ言うて。たきもんにするのは はぎ言うのなあ (言います)。はぎ言うのなあ (が) シバで、割木言うのは はぎの ふつといとこなあ (太い所です)。きい (木) のふつとい ぼくたん (丸太の) とこ (所) を 割木んすんの (にしますのです)。枝葉を取るのを はぎ言うのな (言うのです)。かみやま (買山、山の立木を買って燃料にする) いて (行って) はぎな (が) いくら出来て ぼく (木) が いくら出来て その、はぎ、もんで (もいで) するのを

ぼく言うのやし(言うのですし)、そいで(それで) その ぼく切つてわんのを(割るのを) 割木。ぼく言うのは 切つて枝はるた(拂った) 後の 残つたのおを(のを) ぼく。

じば(ぢば)(地場) 地面、地中 土地の状態(志(布施田)、北) [会話] 白根言うのは きいのねえな(木の根が) ジバ、ほおとるやんな(這つて居る、張つて居るでしょう)。

しばいごや【名詞】 芝居小屋、劇場、映画館、しばやごや(上、阿) [会話] 舞台の事を シバイゴヤ言うて。昔や(は) 小屋や(だ) 言うて。今しや(今は) 舞台言うけど(が) シバイゴヤみたいなあ(のようだ) 言うてな。蓆で皆なあ 垣してしよおつたもんで(して居たので) そやもんで(それで) 蓆張ると シバイゴヤみたよなあ(のようだ) 言うて。

しばいづみ【名詞】 四杯積、大漁、四艘の舟で、船団を組み、網漁をする時、獲物が四艘の舟すべてに積まれる事。[会話] さいら(秋刀魚) 今日 風な(が) よおて(よくて) 大漁で シハイヅミやてわれ(だそう) 言うて、よお、言よおつたわな(よく言っていました)。四杯へ一杯積んで来るとなあ、さいら かんじよすんのん(計算するのに) 朝までえつ(つづ) かかつとんねやんかい(ているのです) そして かんじよしてなあ(数えて) 十萬獲つた 十五萬獲つた言うて、シハイヅミして来ると そんだけつ(それだけづつ) 有るなあ。そして、しよおぶかぶつてなあ、てのぐい(手拭い)をなあ 端をあつこお(赤く) ちよいと(少し) 染めてなあ しよおぶや(だ) 言うて、ネルの てのぐい(手拭い)を かぶよおつたの(かぶつて居たのです)。今日は しよおぶやてわれ(だそう) 言うて、今日は しよおぶかぶつた 言うて。今年や(は) しよおぶ五つ かぶつたてやら(とか)、六つかぶつたてやら 言うて 言よおつたの(言ったのです)。

しばごみ【名詞】 落ち葉、落ちた松葉 [会話] たきつけん(火をつける物に) 使う 松のはあ(葉) まつごみ。松ごみとか、シバゴミ、柴のごみを シバゴミ。

じはだ(ぢはだ)(地肌)【名詞】 1) 生まれつきの肌。化粧などしていないそのまゝの肌。2) 土地の表面。[会話] 1) ジハダ わが(自分の) 肌、ジハダ わしら(私は) まあ 真つ黒。

じばたばこ(ぢばたばこ)【名詞】 椿の葉などで、蓬の葉の乾燥させたもの、刻みたばこなどを巻いた物。(志、員、度、北、南、熊) [会話] よごめ(蓬) で よご

めたばこ 吸うのを、ジバタバコ 言うて。椿のはあ(葉) へ 巻いて 吸うのを あや(あれは) はまき。はまきやけどなあ(ですが) しば(柴、木の枝) のは あ(葉) で 巻くのお(のを) ジバタバコやわい(です)。椿のはあ(葉) で 百姓どこ(農村地帯) 行くと、ひがないちんち(一日中) くわえとるわい(くわえて居ます)。よごめを干しといて(て置いて)、もおで(揉んでのを)、それをこめといて(詰めて) つけて(火をつけて) 仕事すんのも(するの) 離さんと(離さず) それ くわえとんの(て居るのです)。此の辺の人は 椿のはあ(葉) で 吸わせんの(吸わないのです)。やごだい言うて、榮螺のこいな(こんな) ちっちゃあいのおえ(小さいのへ) 穴あけて 竹さいて(さして、刺して) 吸う。婆さんらな(達が) 巾着 こしらえとて(て居て) それい(へ) よごめを 干して、もおだの(揉んだのを) 入れとて、ばあばあ 吸うて、吸うたあと 頭へ やごだいさいて(さして) しとりおつたわい(して居ました)。頭へさいて、ほいて(そうして) 又 それ 取て(取つて) 来て、巾着から、よごめ出して それこめて 吸うとりおつたわい(詰めて吸つて居ました)。ほんと(本当) の 煙草やなしん(でなくて)。ほんと の 煙草 あの さざえがめ 詰めよ言うたら(詰めよう言つたら) 五銭で ちっちゃあい(小さい) 萩(刻み煙草の名称) 一つ、こおて来ると(買つて来ると)、わしらな(私の) 爺やんら(は) それを 一週間も そのおを(それを)、雁首(煙草の先、煙草を入れる所) へ ちよいと(少し) 詰めてして 吸うとりおつたけど(吸つて居たが)、やごだや(は) さざえがめなよつて(だから) よけは いるやんかい(沢山入ります)。いくらちっちゃおても(小さくても)。そやつて(だから) よごめやなけな(でなければ)、婆らな(婆さんが) ぜん(銭) 出して よおかおかい(よく買えない)。こお(粉) もろて来て(貰つて来て) 吸う時も有りおつたけど(有つたが)、男の人らな(が) 煙草入れ こおな(粉が) 出来ると、それ もろて(貰つて) 来て 吸うとる(吸つて居る) 人らも 有りおつたけど、そやけど(しかし) さざえのぶく 入れよ(入れよう) 言うたら、そやよつて よごめを干しといて、しいおつたの(ておいてして居たのです)。

しばや(芝居)(芝屋)【名詞】 しばいの事。近世、明治に用いられた語。芝居とは舞台に対し見物人の居る所(大言海) (志(浜島、布施田、鶴方、国府、安乘)、鳥(浦村、石鏡)、員、松、度、伊、尾、南、熊) [会

話 芝居言うの (のを) シバヤ言うて、シバヤ見に行こや (行きましょう) 言うて。〇〇小父な (が) 受けて来て (請け合って来て) すると 寺の下い (へ) 蓆をみんな (皆) 張んねやんかい (張るのです)。上と下と二枚に 続けて張って、そのあいを (間、隙間) ひっちゃけて (開いて) のぞきんいてなあ (に行って)、〇〇小父ん (に) 水かぶせられあるいて (られて)。木戸 (入口、木戸銭) 出すの、ぜんな (銭が) 無いやんな (でしょう)。そやって (それだから) のぞきに行くね (行くのです)。蓆を ひっちゃけといて そすと (そうすると) 廻って来んねなあ (来るのです)。芝居小屋の掛の人ら (が)、その人ら (が) 来ると 隠れて又 そのあい (間) に のぞいて のぞきん行こや (覗きに行きましょう) 言うて しいおったの (して居たのです)。

しばやごや (芝居小屋) 【名詞】 芝居を興行する建物。

しばやする 1) つくり事をしたり、言ったりして人をだます。2) 準備が上手である。【会話】 1) 芝居すんのを (するのを) シバヤスル言うんなあ (言います)、わり (悪い) 事を しこむ (企む) のも あんな (彼の) しばいやどお (だ)、シバヤシトシネドオ (しているのだ) 言うてなあ、人を誤魔かしたり てんくら (騙す) したりすんのを (するのを) 芝居しとる (している) 言うてな。

じばら (地腹) (自腹) 【名詞】 1) 地腹。ぢばら、生まれつきな腹。2) 自腹、自分の金銭。(志 (布施田)) 【会話】 2) ジバラ切って 今日はのらん (お前達に) おごつたるわ (てやる) 言うて。自分がかね (金銭) 出す事。わがとな (自分が) かね出すの (のを) ジバラキル。1) あの人 ジバラな (が) おつきいもんで (大きいので) 言う。もとから (始めから) の腹な (が)、おつきいのなあ (大きいのです)。ジバラな (が) おつきい 言うて あや (彼は) ジバラな (が) おつきいもんなあ (大きいから)。

しばらえる 支える 耐える 辛抱する (志 (布施田))

しばらくぶり 久し振り (鳥)

しばり (四張り) 【名詞】 大敷網 しばりこぎ参照

しばりこぎ (四張り漕ぎ) 【名詞】 大敷網の水夫 【会話】 大敷の シバリ言うてな。よてんばり (四点張) するもんで (ので) シバリ言うんやるなあ (言うのでしょう)。シバリん (に) 乗とて (ていて) 言うてなあ。そいな (そんな) のを シバリコギや (だ) 言うてなあ。働きん (に) 行くと シバリん (に) 乗とよおつたわい (乗って居ました)。

しばりつける (縛附) 【他カ下一】 くくりつける くくつて放れない様にする

しばる 【他ラ五】 紐や縄などを巻きつけて結ぶ。ゆわえる。くくる。(北、尾、南) 【会話】 くくる。縄で シバル言うて、 縄 巻いといて (て) しばんの (るのを) シバル言うし (言います)。シバルも ゆわえるも からのげも 一緒や (です)。そや (それ) はよ (早く) それ からのげとけ (ておけ)。縄でからのげとけ ゆわえとけ シバツケ 結んどけ 皆一緒の事や。

じばれ (ぢばれ) (地腫) 【名詞】 傷口やできものの周囲の皮膚が一面に腫れる事。(桑市) 【会話】 傷な (が) 腫んで来て あっこおなる (赤くなる)、じいな (地が) 腫れて来た ジバれな (が) して来た言うてな。

じばん (ぢばん) (地盤) 【名詞】 1) 大地の表面。地殻。土地の固い所 2) 活動するための足場、根拠地。【会話】 1) ジバンな (が) ゆるだ (弛んだ)、さがった、ジバンな (が) 沈下する言うてなあ テレビで言うやんかい (言います)、井戸の水 吸うたると (吸上げてやると) そげんしてくんかいなあ (そんなにして行くのでしょうか)。地下水をなあ、使うと 多少は何年かのうちにや (間には) 沈むわいなあ (沈みます) 水を皆 吸い込んだんねよつてなあ (でやるのだから) 2) そして 商売しても ジバンな (が) 固まつとるよつて (ているから) あの家や (は) ええわれ (よいのです) 言うて 商売も はんじょしとるとなあ (繁盛している)。

じばん (襦袢) 【名詞】 襦袢、じゅばん。肌着、直接肌につける肌じゅばんと、装飾的意味を持つ長じゅばんが有る。ポルトガル語 Gi b a o の転。16世紀頃日本に入った。汗にヌるる (濡) 半衣の意 (大言海) (志 (片田、畔名、国府、船越、志島、鶴方、浜島、布施田、甲賀)、鳥 (国崎、坂手、加茂)、桑市、員、三、鈴市、津、一、松、多、上、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) 【会話】 じゅばんの事、肌着の事、さらし (晒) のジバン。着物着る時に なかい (中に) 着る肌着。今し (今) で言うと シャツの事。シッヤツみたいな (のような) もんやわい (物です)。晒で ジバン言うて、今しや (今は) シャツな (が) 有るけど シャツ無かつたよつて (から)、昔や (は) 皆 ジバンこさえよつた (作って居ました)。ジバン一つになって言うて。長ジバン言うのは 長いし 着物の下い (へ) 着る、裾い迄有んの (有るのを) ナガジバン。腰迄おな (のが) ジバン。晒のジバン言うて、きもん (着物) の下い (へ) 着いおつたの (着て居たので)

す)。私らな (が) 若い時は その晒のジバンが 上着 やったわな (でした)。モス (織布の名称) の襟かけて モスの袖付けて、あっかいしごき (赤い腰紐、細紐) を この位ばかりの (5~7cm程の、ばかりの) 巾に こしらえといて (ておいて)、それをしといて (しておいて) こんだ しいろい (今度は白い) 前掛けすると 紅白にして、わしら (私は) そいな (そんな) 時や (は) ものすご (大変) はがねならす (銅鳴) 時分ん やって (年頃であって) 伊達のさかり (盛) で。伊達のさかりで ちんば (跛) も引きおったね (引いて居たのです)。“伊達の盛りで 跛引く”言うて、そいな ときや、なつとしたら (そんな時はなんとしたら) めえ (目) 引いて貰われるかゝい (か) おもて (思って)、あっかい しごき リボンに引いて結んで (大きく蝶結びにして) しいろい (白い) 前掛け 白いひぼやん ない (紐でしょう)。紅白で 又 綺麗なんてやなあ (なのです)。しょおしょお (少々、少し) 器量な (が) わりいでも (悪くても) よお見えんねてや (よく見えるのです)。そやもんで (それなので) 伊達こきや (者は) そやって (そうして) 伊達こきおったの (居たのです)。伊達の盛りやもんでなあ (ですので) なつと (何と) したらええどおもて (よいか思って) 伊達な (が) こおじて (昂じて) 跛ん (に) なって 昔や (は) そげん (そんなに) 言いおったのなあ (言っているのです)。伊達の盛りで跛引く言うて、やつし (て) (綺麗にして) あやれ言いおった。やつし ころば かして (転ばして) 伊達こいて、ひんつくってしとん の (うわべよく見せてして居るのを) 言うのなあ (言うのです)。私らの小さい時や (は) 年寄りの人らがジバンだけで 下は 腰巻で。腰巻 絞りのなかね (腰巻) とか ちゅうがたとか言うて ちよいと (少し) はいからな人ら (は) モスのなかね (腰巻) 着る。朝鮮いた時や (行った時は) モスのなかねこおて (腰巻買って) 晒のジバン、釜山の町を 大阪でも そげんして (そんなににして) 歩いたりしおったね (歩いてして居たのです)。ジバン一つで 歩きおったね 前掛け着て。ふだん (日常) 此の辺の人の 普段着みたい な (のような) 格好になって。夏 腰巻きと ジバンでおりおったなあ (居ました)。どこかへ行く時でも。盆 (盂蘭盆会) になると こんだ (今度は) あたらし (新しい) 晒のジバンこさえて 襟な (が) 有って、花がらの (花模様の)。ほおた (おゝ) 此の柄ええなあ (模様よい) 言うて 襟 付けて、伊達こきおったなあ (しました)。冬ん (に) になると 着物の袖口い (へ)

ちよいとのぞかして (少し見せて)、全部すると お金 がいるもんで (要るので) この先だけ こやって (こななに) して 着物のなあ。半巾のモスの袖 着物の裏へ 引掛けて 伊達こきおったの。あんた (貴女は) 伊達こきやなあ (だ) 言うて、モスのおを (のを) 着物の先い (へ) こおして 着て行くと。若い時や (は) なつとなと しとんね (して居るのです)。“若い時や 二度無い きんだま 三つ無い”言うて。若い時や 二度来やせんねよってなあ (来ないから) なつとなと せなあ (なんとでもしなければ)。

しび【名詞】魚名 しびまぐろ びんなが、サバ科小形の鮪で全長1m位になる。胸鰭が、第2背鰭の後端に達する程長いところからの名。背方は青黒色で、腹方は銀白色、肉は赤味が少ない、とんぼしび (志 (片田、御座) 北)

しびたれる 1) 湿気を含んで柔らかくなる 2) 元気をなくす、萎縮する [会話] ② シビタレル言うやん かい (言います)。なんやら (なにか) すつたよんしと ると (くすぶつたようにして居ると)、思案したよんし とるとな シビタレル (ている) とか、しびたれと る とか言うてな。なんか (何か) まあ 心配事な (が) 有ってなあ しおれたよんしとると。① せんべ やだけでも (煎餅などでも) シビタレル、口あけとく となあ (ておくと) しとって (湿気を含んで) 来ると しびてて (湿気を含んで行って) うまのおて なあ (旨く無くて) ぱりぱり言う音 な (が) せんとはざん し (しないと駄目です)、あられでも 豆でも しびて ら (湿気を含んで行ったら) うまない。そやよって (だから) にげ (人間) も しびとるとはざん ねてや (ているといけななのです)。

しびてく 湿気を含んで柔らかくなる (志 (布施田))

しびてて 湿気を含んで柔らかくなって [会話] せん べやだけでも (煎餅なども) シビテテ うまのおて (不味美くて)。

しびと (死人)【名詞】死んだ人。(志 (布施田)) [会話] 死んだ人 なあ (です)。しかばね しかばねの事を シ ビとと。重たいもん (重い物) 持つと ほおた (おゝ) シビ みたい なあ (ようだ)。

しびといろ (死人人色)【名詞】死人の青ざめて気持ち悪い色。紫藍色 [会話] シビ トイロ 言うと、なん や (何か) うるみ 色 なあ (です)、色のわり (悪い) のを。死 んで く と (で行くと) う ず で く や ん ない (紫色になるでしょう)。そやもんで (それなので) う ず だ の お を (のを) 見ると シビ トイロ や なあ (だ) 言うのなあ

(言うのです)。うるみ色言うな (のは) 紫な (が) 濃
いなったの (濃くなったの)。くちびるな (唇が) さぶ
いと (寒いと) くろうお (黒く) なって来るやんな
(でしょう)。あいなの (あのようなのを) うるみ色言
うて、くちびるな (が) さぶいかして (と見えて) う
るみ色ん (に) なって来たれ (来ました) 言うなあ
(言います)、あげなのおを (あんなのを) シビトイロ
言うてなあ。

しびとくい。しびとくらい【名詞】 水死人に寄り集まり、
屍肉を食べる魚を言う 特定しない

しびなあ【名詞】 鮪延縄漁

しびなあこぎ【名詞】 しびを獲る漁船の乗組員。しび縄
漕ぎ [会話] シビナアコギ、しびなあ (鮪延縄)、
ごけなあ (後家縄) 言うてな。昔や (は) しびなあ行
くと 沖乗り (沖遠く行く) するもんで (ので)、まあ
時化な (が) して来て、よお (よく) 後家ん (に) なる
もんで (ので)、シビナア ゴケナア 言よおったん
なあ (言って居ました)。後家んなんのな (になるの
が) おいて (多くて)、海で死ぬのな (です) しびなあ
おとしもんで (怖いので) しびなあい (へ) のんな
(乗るのは) 若いもん (者) だけより 行からったわ
い (行きませんでした)。沖乗りするもんで (ので) 若
いもんやなけな (者でなければ)。しんしょもち (世帯
持ち) は うっかりして 後家ん (に) なったら
(なったら) ひまのかあやよってん (大変だ
から) 言うて、よお言よおった (よく言っていました)。
鮪を 釣りん (に) 行く人を シビナアコギ言うて。
鮪を、ながのお (延縄) で はえといて (延べてお
いて) さあ 時化な (が) した言うてもなあ それ
揚げな (なければ) 言うて 欲張とるもんで、そん
で やられんねやわいなあ (災難にあうのです)。そや
よって (だから) しびなあ 行くと ごけなあん
(に) なる言うて。

しびなあごけ【名詞】 しびを獲る漁船に乗って遭難した
乗組員の未亡人。[会話] シビナアゴケ言うて、しび
なあ行くと 後家んなんね (になるのです)。流れて
(遭難して) 後家んなんのな (になるのが) 多いもん
で (ので)。

しびなあごけなあ【名詞】 鮪釣りは危険で妻を未亡人に
する事が多いから しびなあこぎ参照 (志)

しびや【名詞】 冬季の曇った寒い日。[会話] 今日は
シビヤや (だ) 言うて。冬の頃んなつとなあ (になる
と) さぶうて (寒くて)、雪な (が) 降りそおん (に)
なって来ると、今日は シビヤやなあ 言うて。シビ

やで さぶいなあ (寒い) 言うて。

しびよお(しびやう)【死病】【名詞】 かかったら必ず死
ぬ病氣。死にいたる病氣。[会話] こお (子) 墮して
しくじって (失敗して) シビョオみたいん (のよう
に) なって。

しびよお(ぢびやう)【持病】【名詞】 1) ひどく悪くな
らないが、常時又は周期的に苦しみ悩む病氣。身につ
いた治りにくい病氣。2) 身についた悪い癖。

しびよおもち(ぢびやうもち)【名詞】 一定の病氣を持っ
ている人 (南)

しびりかみ【名詞】 しびれ 麻痺 しびれがみに同じ
[会話] しびれがみな (が) きれたてやら (とか)、し
びれて来たてやら 言うてな。じっと (長く) 座と
ると (ていると)、足な (が) しびれて来ると しびれ
がみな (が) きれて言うてなあ。しびれかみ言わんと
(言わずに) シビリカミや (です) シビリカミな き
れて まあ言うて。

しびる【他ラ五】 湿気を帯びる。空気中の湿気を帯びて
軟かくなる。しめり気。びる：接尾。名詞又はそれに
準ずる語について、その物らしく振舞う。その物らし
い様子をする。それに近い状態になる様を表す。(南)

[会話] シビル言うな (のは)、あられとか、かりかり
つね (平常) しとんのな (して居るのが)、雨な (が)
降ったり 口あけといたり (ておいたり) すると や
いこお (柔らかく) なってくと こや (此れは) シ
ビトテ (て居て) うまないわれ (うまくないです) 言
うて、あられでも かりかり、音な (が) せんよおな
ってくと (しないようになって行くと) シビテテ (て
しまつて)、せんべ (煎餅) でも 音な (が) しやせん
のなあ (しないのを) シビル言うて。やいこい言うの
は 柔らかい。そやけど (しかし) シビタのおは (の
は) 又やいこさな (が) 違うんてや (違うのです)。か
つとおて (堅くて) がりつと言わんと (言わずに) へ
しおつても (折つても) ぼんと言わんと ぐにやんと
して、へしおられやせんのなあ (折れないのです) シ
ビルと (て居ると)。せんべ (煎餅) も すぐのおりや
(時は) かん言うて へしおれて、嘔んでも ぱりぱ
り言うけど (けれど)、シビルと その音な (が) しや
せんのなあ。

しびれ【名詞】 麻酔 (鈴市、安、津、南) [会話] シビ
レ言うて、医者い行て (へ行つて) シビレさす。しゅ
じゅつ (手術) する時ん (に) 痛みとめんののなあ
(止めるのに) シビレな (が) 効かんで (なくて) ま
あ 痛とおて (痛くて) 言うて 今しで (今で) 言う

と 麻醉なあ (です)。

しびれえ。 しべれええ (しびれえい、しびれえひ) 【**名詞**】シビレエイ科の海魚。頭と胸鰭の間に大きな発電器官がある。背鰭は一基、腹鰭の後縁はへこまず丸い。皮膚は柔軟、体は背鰭共褐色で時に白点や黒点がある。

(志、鳥)

しびれがみ (痺) 【**名詞**】痺れ、しびれ、しびれる事。麻痺する事。末梢神経、中枢神経の障害。血行障害に依って起こる一種の知覚障害。しびれるの連用形の名詞化。しびれる：手や足の感覚が無くなり、自由に動かなくなる。【**会話**】シビレガミ、座とると (て居ると) 足な (が) しびれてて (て行って) わじわじとして来るやんない (でしょう) あいなの (あんなのを) シビレガミな (が) きてて言うて (言つて)。そいて (そうして) こめかみ (側頭部) へ すくで (藪くず) を こおしてやって (貼ると) シビレガミな (が) 治る言うて。蓆のおを むして 千切といて (ておいて) 貼って シビレガミな (が) きた言うて。

しびれぐすり (痺薬) 【**名詞**】 麻醉に用いる薬

しびん (尿瓶) 【**名詞**】 洩瓶。しゅびんの転。尿瓶。病人などが排尿するための瓶、尿器。【**会話**】 しょんべ (小便) とる あつかい (赤い)。今しや (今は) ガラスやけど (だけれど) 昔や (は) せともん (瀬戸物) で 丸たい (丸い) 茶色の 青な (が) ちよいとまじったよおな (すこしまじったような) あいなのやった (あんなのでした) シビんは。

しぶ (渋) 【**名詞**】 物おしりする。けち。(張、上、阿)

じぶ。 **じぶ** 【**名詞**】 1) 魚のすき焼、魚をぶつ切りにし、野菜、豆腐などと共に煮たもの。(志、鳥 (本浦)、松、北、南、熊) 2) すき焼き、水炊きの類【**会話**】 1) ジフ言うのなあ (言います)。いがみ (魚名ぶだい) でジフするとうまいわれ (美味だ) 言うて。すき焼やけど (ですが)、ぶつぶつと 生 (ナマ) の魚切ついて (切つておいて) なつば (菜っ葉) や、葱や、豆腐や、なんやかや入れて、ぐつぐつ炊くと うまいのなあ (のです)。ジフでなあ その したじ (汁) を 吸うのな (が) 又 うまいんてや (美味しいのです)。どいらい (大変)。2) すき焼 肉をすき炊しても 昔の人ら (は) ジフや (だ) 言うわ (言います)。ジフしょおや (しましう) 言うて。蟹で 蟹すき言うのするけど (するが) あれも ジフやわいなあ (です)。なんやかや (色々) 入れてすんねうて (するのだから)。魚だけやなしに (でなくて) 肉でも 今し (今) 言う

と 水炊きや (です)。水炊きのちよいと (少し) したじ (醤油) 落として したじ (汁) 吸うのな (のが) どいらい うまいねてや。水炊きやとか (だとか) 蟹すきやとか (だとか) あいなのお (あんなの) よお (よく) 似たよおなのおやわい (の、物です)。

しぶい (澁) 【**形容詞**】 1) 柿の澁のような味がする。舌がしびれるような感じだ。2) 華やかでなく、落ちついた趣がある。地味で深い味わいが有る。3) 不機嫌な顔付きである。にがりきって居る。4) けちだ。金品を出しおしむ。(阿、上、南) 【**会話**】 1) 柿がシブイ 言うし。4) にげ (人間) も シブイ言うやんか (言います)。にげも よくしんぼ (欲張り) を シブイ。2) 着物のがら (模様) でも シブイがらやなあ (模様だ) 言うて。こや シブウテ (これはしぶくて) どいらい (大変) ええがらやなあ (よい模様だ) 言うて。おとなし (おとなしい) のを あんで言うんやろなあ (あれで言うのでしょうか)。人間も よくしんぼを あや (彼は) シブチんや (だ) 言うて。3) 苦虫 唾み潰したような顔も シブイカオ。あや (彼は) シブヤやれ (けちだ) 言うて シブヤノゴンロクやれ 言うて。権六言う人な (が) シブかったんやろ (のでしよう)。シブヤノゴンロクやてやのお (だと言うのは) あんまり (あまり) むつかし (むつかしい) 人を 言うのお (言います)。

しぶがきくうたようなかお 【**名詞**】 洗面を作つて居る

しぶがきにたねおおし ちょうじゃにこなし 【**俚諺**】

渋柿に種多し 長者に子無し 貧乏人の子沢山 【**会話**】 金持ちの家や (は) こおなすけないし (子が少ないし)、びんぼや (貧乏家) は かいしょ (甲斐性) ものおておつて、こおばつか (子ばかり)。シブガキニタネオオシで こおな (子が) よけ (沢山) 有つて すけべみたよんしとるけど (助平のようにしているが)、跨ぐと こおな (子が) できて言うて。無いもな (者は) いくら寝ても 出来やせんもんなあ (出来ません)。わしら (私は) たまん (時々) 寝ても こおな (子が) 出来るもんで (ので) べつんも (特別に) すけべみたよん 人な (が) 見ると 思うやろなあ (だろ) う 言うて。

しぶくうたよおなかお 【**名詞**】 洗面をしている 難かし気な顔 【**会話**】 柿の渋、シブクウタカオやなあ (だ) 言うて。顔よおしとると (洗面していると) シブクウタカオしとるなあ (しているのだ)、言うてなあ。昔や (は) 医者な (が) 無いもんでなあ (ので) てえ (手) くじいたり (捻挫) したおりんなあ (時

に) 柿の渋を 飲め言うて、柿の渋のおだや (飲んだら) その渋な (が) のまよかい (飲めるものですか)。柿の渋 あんでええんかなあ (あれでよいのでしょうか) なんかなあ (何か) 効き目な (が) あんのかしてなあ (有るのか) 柿の渋 飲むとええんでわれ (よいそうだ) 言うて。シブクウタヨオナカオ言うななあ (のは) 顔よおしとる にげや (人間です)。渋柿 食う様ななあ 言うて こんじよくさりみたよん (意地悪のように) して 顔も しかめやあるいて (しかめて) まいのき (眉) しわ寄せて 怒つとる (ている) 人な (が) おるやんかい (居るではありませんか)。おおた シブガキクウタヨオナカオしとんなあ、たら (しているとか) にがうり 食うた様ななあ 言うて、むつかし (難しい) 顔しとるとなあ なんか (何て) 旨いもん (物) 食うたおや (時は) 旨いなあ 言うて 舌鼓打つけど 旨無いと こや (これは) まずい 言うて 顔よお (洗面) するもんでやるなあ (するのででしょう)。

しぶくる (渋) 【形容詞】 1) 渋みを感じる。(志 (布施田、立神)、上、阿、張、名) 2) 渋々する。いやいやする。面倒がる。(志 (鶴方、志島、甲賀)、員) 3) 出ぬくい下痢 4) 睡くなる めえなシブクル [会話] 1) 口な (が) シブクル 言うて、舌ななあ (が) とじるよおなやんない (でしょう)。渋柿 食うたら、味噌でもなあ ひねみそ 三年も 四年も経つとなあ シブクンネ (くります)。おつけ (味噌汁) 食うてもなあ 後でシブクンネ ひねみそん (古味噌に) なって来た、こや (これは) しよい (醤油) 炊かなはざんわれ (なければ駄目だ) 言うてなあ、ま、二年位のおは (のは) 旨いねけどな (のだが)。昔や (は) いくたあ (幾樽) 言うて するもんで (ので) ひねんし といて (古くしておいて) くよおつてなあ (食べて居て)。そしてまあ シブクッテ 来ると まあ こや (これは) しよい 炊いたらなはざんわれ 言うて しよいん 炊くと 又 旨いねてや (のです) その ひねみそ は。

しぶくろ (ぢぶくろ) (地袋) 【名詞】 床の間の脇の違棚の下などにつけた袋戸棚 (上、阿、南) [会話] 床のまあ (間) の 横ん (に) あんのをなあ (有るのを) ジブクロや (だ) 言うんなあ (言うのです)。ええ (よい) 床のまあん (間に) なるとなあ、そいなのおな (そんなのが) あんの (有るのです)。ほかんな (他のは) すんとんとしとてやんない (していでしょ) 掛軸 掛ける だけやけどなあ (だが)、ちよいと

した (少しの) 段に しといてあんね (してあるので) す) それを ジブクロ 言うんなあ (言うのです)。

しぶち 【名詞】 しぶき、飛沫、細かな粒となって飛び散る水。しぶきの訛 (志 (布施田、鶴方)、多) [会話] シブチな (が) 掛る言うてなあ (言つて)、ぼったんぼ ったん 上からしじくな (濡が) 落ちると ぼっぱつ と跳ぶのを シブチ。波な (が) 今日はえろおて (大変大きくて)、そや (それ) シブチでえらいわれ (大変だ) 言うし、ほいで (それで) なんやかや ぼたんぼ たん落ちて あわおちな (泡落ち、飛沫が) 跳ぶのを、シブチな (が) 掛かって言うの (言います)。シブチな (が) 掛られ 内 (ナカ) 入れな (入れなければ) 言うの (言うのです)。上から おつて (落ちて) 来る しずくは滴やけど (だが) 下い (へ) 落ちて 火花ん (に) なって跳ぶのを シブチ。

しぶちん 【名詞】 欲深な人。しぶい参照 (志 (浜島、布施田、鶴方、志島)、鈴市、安、一、松、上、阿、張、名、北、尾、南) [会話] 欲で けちんぼ で 出し (物を出す事) しぶる のを シブチン。

しぶとい 【形容詞】 我慢強くへこたれない。ねばり強く頑張る。頑固だ、強情だ。(志 (布施田、甲賀)、鳥 (鳥羽、答志)、飯、南) [会話] シブトイ 野太い。野太いのを シブトイ。ものすごい (大変) 野太いのお (のを) シブトイ 言うけどなあ (言います)。シブトイ あいつは シブトオテ (たくて) たいがいの (普通) 事しても こたえやせん (応じない、通らない) 言うて。野太いとか シブトイ とか。

しぶや 【名詞】 雲つて肌寒い日 しぶや 参照

しぶや。しぶやのごんろく 【名詞】 1) けちな人。吝しく家。2) 文句ばかり言う人。[会話] 2) あや (彼は) シブヤやれ (だ)、シブヤノゴンロクやれ 言うて。あんまり (あまり) むつかし (むづかしい) 人を シブヤノゴンロクや (だ)。

しぶり (渋) 【名詞】 滑らかに進まなくなる。しぶるの連用形の名詞化。

しぶりばら (渋腹) 【名詞】 痛みを伴う下痢。しばり腹参照。

しぶる (渋) 【自ラ五】 1) 滑らかに進まなくなったりする。(志 (布施田) 2) 気が進まなくためらう。(志 (布施田) 3) 下痢するが少しより出なくて痛む (志 (布施田) 4) 出し惜しりする。(志 (布施田) [会話] 4) なんやかや (いろいろ) シブル 言うてなあ。吝な顔すると シブいなあ あや (彼は) 言うて。シブクッテ まあ 出すのを 出し惜しみすんのを (す

るのを) シブル言うやんかい (言います)。

しぶをふく 渋を塗る。[会話] はんぼ 紙を あつう として (厚くしておいて) それい (それへ) シブヲ フキオッタ (ました)。

じぶん (時分) 【名詞】 頃、時。(志 (甲賀、鶴方)) [会話] わしらな (私の) 子供のジブン、さいらな (秋刀魚が) よけ揚がって (沢山獲れて) 猫またぎや (だ) 言うて 猫も喰わせんの (食べないのです)。

じぶんかって (自分勝手) 【名詞】 自分のためだけ因って、他人の都合は考えない事。自分の都合だけ考える事。[会話] わがとな (自分) 勝手な事ばっか (ばかり) 言うて、ジブンカッテナ事して言うて、わがと したいよおん (に) する時。人ん (に) 相談せんと (せずに) ジブンカッテナ事ばっかして 言うやんかい (言います)。気儘言うよおなもんやわい (ものです)。わがとな 思うよおんなあ (に)、人な (が) するこた (事は) 吝つて わがとな (自分が) するこた わりいても (悪くても) まあ それ 通してく (行く) にげ (人間) をなあ。

じぶんつかい (じぶんつかひ) (時分使) 【名詞】 1) 客を招待した時、その時刻を知らせる使者。 2) 二度目の招待 [会話] ゴジブンツカイ 言うて、使いにいて (行って) もひとくら (今一度) 行くと ゴジブンツカイな (です)。今日は おれげや (俺の家は) 兄ん子な (兄が) 御目出たやよって (だから) まあ 気の毒なけど (だが) 来てくれえ (下さい) 言うて、宵に ひとくら (一度) 言うとして (言っておいて) 行て、こんだ (今度は) また もひとくら (今一度) 支度な (が) 出来たよってん (から) 来てくれえ 言うの (のを) ゴジブンツカイ。ゴジブンツカイも 来やへんのん (来ないのに) 行かよかれ (行けるものか) 言うてな、にへんめ (二度目) に行くのを ゴジブンツカイ 言うね (のです)。支度な (が) 出来たよって 来てくれ 言うてなあ。義理で 呼ぶ 家や (は) てえねえ (丁寧) に言わんと (ないと) 一回や そこらでは (では) 呼ばれて 行きのかかったんやろな (にくかったのでしょうか)、そして てえねえに 結婚式やどけ (など) 必ずゴジブンツカイ しよおったもんなあ (して居たものです)。にげな (人間が) いて (行って) 初めは おれげや お目出たやよって ご苦労してくれえ (下さい) 気の毒なけど なんも (なんにも) 無いけど (が) 言うて 使いまあつてく (廻って行く)、そすと こんだ (すると今度は) 夕方頃ん (に) なるとなあ 早よ ゴジブンツカイ まあらな

はざんわれ (廻らなければいけない) 言うて、どいらい (大変) 気にしよおったなあ (して居ました) ゴジブンツカイ を てえねんに。そのひい (日) になあ ゴジブンツカイやなんや (だにだ) 言うて。

じぶんと 【名詞】 1) 自分、自分が、自分自身。(一、久、上、阿、張、度、熊) 2) ひとりてに、自然に。[会話] ジブント 言うな (のは) わがと (自分) 言うのんなあ (のに)。わがとばっか (自分ばかり) 食うて言うてなあ。わがとばっか したり 食うたりすんのを (するのを) わがとばっか 言うの (のです)、自分ばっか 言うのんなあ (のです)。

じぶんどき (自分時) 食事時。 ごじぶん参照 (志 (鶴方、志島、甲賀、安乗) 南、熊) [会話] ジブンドキ めしどき ゴジブンドキ 言うの (のを) 飯喰い 時を、ジブンドキや (だ) 言うなあ (言います)。ゴジブンドキやなあ (ですね) 言うて 入って来て 今晚は言うて、入ってくと (行くと)、夕飯喰うとると (食べて居ると) ゴジブンドキやなあ 言う。

じぶんとな 自分が。[会話] わがとな (自分が) 言うねんなあ (言うのです)。ジブントナ 言うの (のを) わがとな ええよんばっか (よいようにばかり) 言うたり、したりして あのひた (人は) 言うて、ジブントナ ええよんばっか する言うの (のを)。

じべた (ぢべた) (地辺) 【名詞】 地べた、じびた、地面のくだけた言い方。土地の表面。地面。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥、桑市、員、三、鈴市、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会話] ジベタ、土の上を ジベタや (だ) 言うてな。ジベたい (へ) 座って そや (それ) 言うてな。なんも (なんにも) 敷かんと (ずに) ジベたい (へ) 置いたら 汚いやんか (でないか) 言うてなあ。なんもかも (なんにもかも) 土の上い (へ) 置くと なあ。ジベタや 言うて、直接 地面の上い (へ) 座つとんのを なあ (ているのを) ジベたい (に) 座って。

しば 【名詞】 下の方。下流。[会話] シボな (が) 水んつかつとて (につかっている)、いつ迄 水な (が) 引かんで (引かなくて) 言うて 下 (下流) の事を言うんやろ なあ (言うのでしょうか)。

しばおたい (しばうだい) (仕放題) 【名詞】 やりたいだけ、好きな事をする事。又そのさま。[会話] なんでも (なんにでも) わがと (自分) したいよんしとんの なあ (ようにしているのです)。シホオダイ (に) して、まあ わがと (自分) 酒のみたきや (たければ) 飲

む、博打な(が) したきや (したければ) 打つして、人の言う事聞かんと(聞かずに) わがと (自分) したいよんして(ようにして)。あのひた (人は) わがまましてきたんよって(来たのだから) なんもかも (すべて) シホオダイやもんなあ(だから) 言うのなあ(です)、シホオダイ言うてなあ。ええ (よい) 事でも わり (悪い) 事でも わがと 思うよんして(ようにして) シホオダイやもんなあ(だから) 言うてな。

しばける ずれる。ずり落ちる。解ける [会話] 縛ったもん (物) が シボケテクと (て行くと)、ずるけてくなあ (て行く) 言うて。

しばしとる(思慕) 夢中になって居る。[会話] 惚れて曲がって、のぼしとんの (夢中になっているのを) シボシトル言うてな。 のぼしやがとる (のぼせ上っている) 言うの(のを)。

しばひし【名詞】 魚を突く銚 先端で四本になって居る [会話] シホビシ言うななあ (のは)、爪な (が) しば (四本) 有ってすんのなあ (するのです)。

しばり。しばりばら【名詞】 痛みを伴う頻回の下痢。しぶり。しぶり、種々の疾患で、直腸や膀胱が刺激に対し非常に敏感な状態になると、排便排尿の回数が増加するが、此の状態が激しくなると、便意、尿意が頻繁となり、排便排尿したばかりでもすぐ便所に行きたくなり、常に排便排尿したい感じが続く。此のような状態をしぶりと言い、実際に排便排尿は殆ど行われず痛みを感じる。[会話] シボリバ (絞腹) 言うね(言うのです)。はこな (大便が) にかにか どいらい (大変) 気持な(が) わり (悪い) 時なあ(です)。そいで (それで) くだしもせん と(下痢もせずに) なめなめみたいなのお (粘液のようなのを) たれる (排泄する) 時な(が) 有るやんない(でしょう)、そいなのおを (そんなのを) シボリバ言うのなあ。シボリバラ その腹な 痛いのおななあ (のが)、きゅうと どいらい (大変) 痛のおておって (痛くなくていながら) その気持な(が) わりのなあ (悪いのです)。便所 (大便) も、シャーと下らんと (下らずに) ちびちびと なめみたいなの (粘液のようなのを) すんの (するのを) シボリバラ。シボリバラやよって(だから) さるさこん とて来て(取って来て) 飲ましとけ (せておけ) とか、うめずる 飲ませとか言うてなあ。医者屋い (医師に) そげん (そんなに、あまり) かからせんやんない (診療を受けないでしょう)。そやもんで (それで) とりくさな (薬草で) 治しよったの (治して居たのです) シボリバラを。

しばる(絞る)【他ラ五】 1) 内容物から水分を除く、又は取る。締めつけて中の液を出す。2) 腹が痛む、下痢をする。[会話] 1) 飴 シボルとか、醤油シボルとか。醤油シボル言うななあ(言うのは) 味噌を 釜い (へ) 掬って来て、釜で炊いて 水も入れて、それを ひとくら (一度) にやかし として(煮て、沸騰させておいて) それを、木綿の袋を のおて (縫って) それい (へ) 入れ として(ておいて) シボルと下へ 落ちんのおな (落ちるのが) 醤油で、それを又 シボッタのお (のを) 一回なあ ぐつぐつ 炊いて とんがらし (唐辛子) とか 入れて炊く の(のです)。餡 やとか(だとか) 醤油 やとか(だとか) 皆 水あけたる (あけてやる) 言うの(のを) シボル。餡でも 小豆炊い として(ておいて) 潰し として(ておいて) それを あるて (洗って) 立派 にして 滓は取ったて (てしまつて) その とごったのおを (沈んだのを) 袋でシボツテ 水はほったて (捨てて) 中の のおを (のを) さと (砂糖) 入れて 餡に炊く の(炊くのです)。そいなのおを 餡 シボル言うねな(言うのです)。ところてんでも てぐさ (天草) 炊いて、こんだ (今度は) ざある (ざる) で 漉したのを 袋い入れとしてシボツテ、すう (酢) 入れて 冷すと ところてん。そおすると 水気 (みずけ) 無しにする言う事。みずけ (水分) を シボッタ水 を 取ったると (てやると) 中へ みい (身、実) が残るやんない(でしょう) それを取って その汁はほったるの (捨てます)。袋にとまった(止った、残った) のおだけ 取るの (のです)。ところてん は シボッタ滓は ほったて (捨てて) 汁を 風にあわして (合わせて、当てて) 冷まして、ところてんになんの (なるのです)。物によってシボッタ滓を ほったんのも 有るし、そのみい (中身) 取るのも有るし。しなもん (品物) によって ところてん や(とか) 小豆 は 滓はほったん の。醤油でも 絞った汁は 置いといて (ておいて) その 二番 炊きした後は ほったんねよって (捨てるのだから)。**しばるよおな** ずぶ濡れのさま 汗を沢山かくさま しばる程(志(布施田))

しま(島)【名詞】 1) 海の岩礁。(志(布施田)、鳥(桃取) 相差 国崎、尾) 2) 暗礁。(南) [会話] 1) 海 ん (の) 中の 岩ん (に) なつとんのおは シマや言うし、シマの下言うて。シマの下の おおび (鮑) 獲る言うて。

しま【名詞】 領地 領域

しまあじ(鱈鱒)【名詞】 魚名。あじ科の海魚。全長約1

mに達す。アジに似ているが、体高が高く、体側中央に黄色の縦帯が有る。縦鱗は側線の後半分にだけ発達、本州以南に分布。美味。(志、鳥、度)

しまあじのおぼ【名詞】 かすみあじ。アジ科ギンガメアジ属の海魚。体は高く、主上顎骨は目の中央下に達しない。成魚は緑色で黒色斑が散在する。

しまい(しまひ)(仕舞)(終)【名詞】 しまの連用形の名詞化。しまい、仕舞、終い。今迄して居た事を終らせる。続いて居るものの最後。物がすっかり無くなる事。決まりをつける事。始末、清算。1) 大変だ。2) 死亡 3) 破産 4) 終り 5) 先端 末(上、阿) [会話] 4) 終りの事を シマイ言うね(言うのです)。こんで(此れで) 仕事が 終ると まあ(もう) シマイやなあ(だなあ) 言うて。1) そげな事(そんな事) したら シマイやんかい(ですよ) はざん(駄目だ) 言う事なあ(です)。シマイや(だ) 言うなあ(言います)。失敗したると(してやると) そいな(そんな) 事したら シマイやんかあ(だよ) 言うの。いかんよおになつてた(ていった) 事。間に合わんよおん(に) なつてた事、シマイや 言うて。さっぱり(完全に) シマイやれ(だ) 言うて。

じまい【名詞】 自分の出し分 自分の物 じまえ参照

しまいかんじょ【名詞】 働いた時期の最後の計算。給与。[会話] ひとしろ(一人前) シマイカンジョ^ン(に) なつて、当ると(配当をうけると) ひとしろ祝いや(だ) 言うて。

しまいご【名詞】 末っ子。(松) [会話] 子供らを大事にすると そやまあ(それは) シマイゴで てんまのこしやれ(大事だ)。

しまいごつお【名詞】 宴会の後方付の時の御馳走。宴会の残り物とする。

しまいこと。しまいごと(しまひごと)(仕舞事)【名詞】 後始末。食事の後かたづけ。(志(布施田)、上、阿) [会話] あとじまいなあ、ごつお(御馳走) した後も シマイゴトで、仕事も ひろげさがしとでも(散らかしていても) おくよんなると(終えるようになると) シマイコトも 早よせな(早やくしなければ) まあ、おかんならんのん(終らなければならないの)に 言うてな、終る時に。仕事片付けんのをなあ(るのを) シマイコト^{なあ}(です)。シマイコトも 早よしたらんかれ(早くしてしまいなさい) 言うてな、御飯食うた後 ひろげとると(散らかしている) シマイコト^{せんと}(せず)に まあ 何時迄 座とて(ていて) 言うて、姑婆な(が) 気に入らん事や(で

す)。御飯、食べた後の片付けも そして どんな仕事でもなあ、最後をなあ 片付けん(る) のをなあ あとしまいも えごとせんと(十分にせずに) 言うてな。ひろげさがしとくと。シマイゴトも あとしまいもあとしまつても、一緒や(です) 意味はなあ。ごつお(御馳走) した後、シマイコトも てつたわんとなあ(手伝わずに) 言うて、あと片付けん(るのを)、シマイゴト言うて 濁り打つ人も有るけど おかた(大体) 濁りうたんと(打たずに) シマイコトを言うて。

しまいこむ(しまひこむ)(仕舞込)【他マ五】 1) 物などを人目のつかない所にしまう。大切に保管する。2) なくす(上、阿) [会話] 1) シマイコム、言うな(のは) とつとくの(しまつておくのを)。なんもかも出さんと(すべて出さずに) シマイコンデ 見せやせんない(見せないのだ) 言うてなあ。かこたると(しまつてやると)、きもん(着物) でも シマイコンダテ(でしまつて) まあ そこらこらい(その辺に) 置かせんねない(置かないのだ) 言うてなあ。つかおおもたてて(使かおう思つても) まあ どこやらい(何処かへ) シマイコンダテ まあ言うて。

しまいこんだて 片付けてしまつて [会話] 片付けたて(てしまつて)、判らせんとなあ(ないと)、シマイコンダテ 判らせんわれ(ない) 言うてなあ。入れたこた(事は) 入れたねけど(のだけれども) まあ その入れたとこな(所が) 判からんで まあ どこやらい(何処かへ) シマイコンダテ わからへんねよお(判らないのです) 言うて。

しまいぶろ(しまひぶろ)(仕舞風呂)【名詞】 最後に入る風呂 終り風呂

しまいこんだる 隠してしまう 隠す 片付けてしまう

しまいに 終りに ついには

しまいにや 終りには

しまいや 困つた事だ 大変だ(志(布施田))

しまいんなる 1) 終りになる 壊れる 2) 無くなる 3) 亡くなる 死亡する

しまう(しまふ)(仕舞)【他ワ五】 仕事などを終える。終り迄すませる。仕事が終る。使つて居た物、外に出て居た物を納める所に納める。片付ける、解決する、けりをつける。家事の処理をする。1) しくじる、仕損じる。2) 死亡する。(鳥、鈴市、安) 3) 破産する。4) 悪くする。いためる。そこなう。(志、鳥(答志和具)、度、北、南、尾) 5) 終る 終える(一、安、北) 6) 整理する(志(布施田)、桑郡、員、北、南)

7) なくなる 失う (張) [会話] 5) 仕事をシマウ言う、しまいも有るし。1) 失敗喰うて しまいやなあ (だ)、しもたなあ (しくじった) 言う事も有る。しもた事したよ言うて。5) 仕事を シマウとか、6) たなもと (台所) シマウとか 寝どころ (布団) シマウとか。6) 着物でも 箆笥に入れたりすんのも (するの) シマウ言うて、着物 たとで (たたんで) しもとかなはざんわれ (しまっておかなければ駄目だ) 言うてなあ (言います)。2) シモテタ (しまってしまった) 言うので 死んでた (でしまった)。まあ シモテテ (しまってしまった) 言うて 死んでて (でいって) 言うの (のです)。6) シマウかたなわからん 乱雑にして居る。

しまえ。しまええ 終りなさい [会話] シマエ言う事を、早よおけ (早く終れ) まあ言うて。早よ (早く) シマエエ言う事を おけ まあ 早よ 言うて。

じまえ (ぢまへ) (自前) **【名詞】** 自分の出し分。自分の物。自分に関するものの費用を自分でまかなう事。[会話] わがとら (自分達が) 自分の力ですの、ジマエですの言うて。ジマエで あや (あれは) わがと (自分) でした 言うてなあ。親方や人のてえかせんと (手借りずに) わがとする事を ジマエで言うて。

じまえ 手作り (南)

しまおや。しまおやんかい。しまおやんかな (女性語)。
しまおやんかれ 終りにしましよう。終りましよう。
[会話] 仕事をおこやんかれ (終りましよう)、シマオヤンカレ言うの。藁仕事 しとでも (していても) シマオヤンカレ まあ (もう) 十時やのん (だのに) 言うて。

しまが (織蚊) 【名詞】 やぶ蚊。胸部、背面に白い縦條が有る。

しまかげ (鳥影) 【名詞】 海底の暗礁で暗くなった所

しまかげなたつ 夕刻、日が西に傾くと海底の岩の東側に影が出来る事、又そのため東側が暗くなること。[会話] 日な (が) 正面におる時や (は) 明るいいんけど (のだけれど)、ちょいとかたぐと (少し傾くと) 島の影が出来て くらごおて (暗くて) シマカゲタツテは ざんよお (駄目だ)。

しまき 【名詞】 波、風が強い時生ずる小さな海水のしぶき。波煙、潮煙。しは風の意 しまき本来の意味は激しく吹く風、即、風巻 (志、鳥 (国崎)) [会話] 時化で シマキな (が) 立った言うて。なみけぶりな (波煙が)、波な (が) 島 うちつけといて (打って) しおけぶりな (潮煙が) 立つのを、シマキな (が) 立った。

しまくったた 一生懸命にした。

しまくる 一心にする

しまくろめ 【名詞】 いしだい くろめ参照 (志、伊)

しまざいら 【名詞】 さより サヨリ科の海魚。全長約40 cm、体形はサンマに似て細長い。下顎は著しく長く、くちばし状に突出し、その前端は赤い。背側は青緑色、腹側は銀白色、肉は白く淡白で、春から秋が特に美味。(志、鳥、尾、南、熊)

しまざいらとばす 騒ぐ 騒ぎに行く [会話] わしら (私達) を連れて、電車い (へ) 乗せて、そすと (すると) 此処い (へ) 降りんねど (るのだ) そや (それ) 言うて、わいわい言うて 乗ったり降りたりすんのな (するのが) おもしろいもんで (面白いので) シマザイラ トバシンん行こや (に行きましよう) 言うてなあ、そえんして (そんなにして)。しまざいら言うて、魚な (が) 有るやんかい (有ります) 飛ぶのな (のが) シマザイラトバスのん (のに) のらな (お前達の) くんの (来るのを) 待ちかねとんねど (待ちかねているのだ) 言うて。

しまじ 【名詞】 しまあじ しまあじ参照 (志)

します 【名詞】 魚名。あら スズキ科の海魚。スズキに似た魚で体長1mに達し、えらぶたに鋭い棘が有る。背は灰白色に紫色を帯び、尾鰭と第二背鰭に黒斑が有る。岩礁帯に住む。ひらすずき スズキ科の海魚。スズキによく似るが、体高が高い事、背鰭軟状数の多い事、下顎の腹面に一列の鱗の有る事で区別される。(志、鳥 (石鏡)) [会話] 魚で しまん (岩礁の) 中ん (に) どえらいのおな (大きいのが) おんね (居ます)。それを シマス言うて。おおびとんのん (鮑獲るのに) どいらい (大きい) シマスが おるよお (居る) 言うて、シマスのすくむ (隠れる) しま (岩礁) の下は 其処へばっか (ばかり) 入るのなあ (入ります)。それで 突き手 (もりで突いて漁をする漁夫) の人らに 言うたると (言つてやると) その人ら来て そこを あじる (自分の秘密の漁場) にして。

しまだか 【名詞】 たかのはだい (志、鳥)

しまつ (始末) 【名詞】 1) 儉約。しまつする。儉約する。(志 (浜島、的矢、布施田)、鳥 (桃取、坂手、国崎、答志、加茂、神島)) 2) 片付ける。3) 支度 [会話] 1) 金をシマツする言うのも有るし、2) 人をシマツする言うな (言うのは) 映画で あれシマツせえ (せよ) 言うて言うのも有るし。片付けんのおを (片付けるのを) えごつと (充分に、立派に) シマツせないかんわれ (しなればいけません) 言う シマツも有るし

(有ります)。だだくさに せんと (せずに) 丁寧に使え言うの シマツする言うのなあ (言います)。ぜん (金銭) も、ばあばあと使わんと (使わずに)、シマツ せな 言うて。稼ぎ (収入) が無いのに そげん (そんなに) ばあばあ使こたらは ざんわれ (駄目だ)、シマツして使わな (なければ) 言うて。シマツする言うのは丁寧にする言うのと、大事に使う言う事もシマツや し (です)。金も だだくさに使わんよおせえ (ようにしなさい) 言うのもシマツ。そして 芝居でするとにげ (人間) を やったれ (殺せ) 言うの それがいいち (一番) 悪いなあ。

しまつする 1) 儉約する (志 (浜島、的矢、鶴方)、鳥 (桃取、坂手、国崎、答志、加茂、神島)) 2) 整理する (志 (片田)、上、阿) [会話] 1) 紙一枚も シマツシナサレ。紙一枚も 末は、あなたとわしの物言うて、儉約することなあ (です) シマツ言うのなあ (です) こおとにする言うてな シマツシテ、こまかいと なあ (細かいと) こおとな家やよってなあ (だから) 言うて。あの家や (は) どいらい (大変) こおとなね もんな (質素なのだから) 餅 搗いたてて (ても) さと (砂糖) つけて食わせせんしなあ (食べさせないし) 言うて、とびき餅や (は) さと (砂糖) 付けてく わな、うまないわい (食べなければ旨くありません)。そやけど (しかし) くざけ餅でも なんも (少しも) さと つけやせん (つけません) 言うて。2) 後のもん (物) を片付けて えごとする (よいようにする) 言うのも えごとと (十分に) シマツシトカナは ざんわれ (しておかなければ駄目だ) 言うしなあ (言います) 仕舞うのをなあ。

しまつにおえん 手の施しようが無い 処置なし (上、阿、張、名)

しまつもん 【名詞】 儉約家 けちんぼ (志、鳥 (国崎))

じま (自儘) 【名詞】 わがまま、きまま、自分の思うようにする事。[会話] ジママ、きまま 我儘言うの、気儘言うけど (言います)。

しまもと 【名詞】 島の波で洗われて居る所、島の近く。

(志) [会話] しおあびん (海水浴に) いて (行って) シマモト 行くと、ぐちゅぐちゅん (渦に) 巻かれた。

しまり (締) 【名詞】 きつちり閉じて居る事。ゆるみのない事。[会話] 尻の穴な (が) 開いとるもん (ているから) はざおかれ (駄目だ) 言うて。あや (あれは) シマリな (が) 無い よおんなつて くんやろなあ (ようになつて行くのでしょうか)。

しまりや (締屋) 【名詞】 儉約する人 吝な人

しまる (締) 【自ラ五】 1) 儉約する。(名) 2) 改心する。[会話] 2) 人間な (が) ぐれとんのおな (て居るのが) 真面目になつた シマル言うし (言います)。

1) 節約すんの (するの) あや (彼) こおと (質素) に すんね (するのだ) 言うとか そいな時 (そんな時) に シマル。

しまわかす 1) し終わる 2) 壊してしまう 破損する 3) し損じる 失敗する

しまわす 1) し終る 全部終る 2) 片付けさせる 3) 壊す 失敗する [会話] 1) なんもかも (何も彼も) 皆 仕事を シマワシテ 終ると。仕事も すまして (済ませて)、だくやなあ (楽だ) 言うて。

しまわた (島綿) 【名詞】 島、舟を島に乗り上げた時。[会話] シマワタや (だ) 言うな (のは)、島 かつた いんけど (固いのだが) わがとら (自分達が) ややげてくと (乗り上げて行くと)、綿みたいん (のように) やいこいよつて (柔かいから) ええわ (よるしい) 言うよおな調子で 大袈裟に言っておた。

しまわる 爲終る

じまんこき 【名詞】 自慢ばかりして居る人 (志 (浜島)) [会話] 自慢話 よけ (沢山) するとなあ、自慢たらしてなあ、まあ あの人 ジマンコキでなあ言うの (のです)。自慢ばっかしとる (ばかりしている) 人をなあ。

じまんし 【名詞】 自慢ばかりする人 (志、鳥 (答志)、南) [会話] わがとななあ (自分が) おら (俺は) なんしたてて (なににしても) 人ん (に) 負けやせん (ない) とか、おらな (俺が) これ したな (したのだ) 言うて、わがと (自分が) した事でもほめてな、鼻ん (に) かけん (る) のなあ (です)。自慢するのなあ (です) わが身 ほめるは あんぼんたん言うてなあ、昔の人ら言うけど (が) そえんして (そんなに)して) わがみ ほめん (る) の 自慢するなあ、なんでも (なにでも) まあ わがと したこた (事は) よおて (よくて) ええ (よい) ええ 言うて、まあなあ 自慢すん (る) のなあ 鼻い (へ) 掛けて こや (これは) わしなしたね (私がしたのだ) 言うて、わいらな (お前達が) そえん (そんなに) したら わしな (私の) する様な事よおしよおかいてやら (出来ませんとか) 言うて自慢すんのなあ ジマンシ言うわい。

じまんたらし 【形容詞】 自慢たらしい、いかにも自慢しているようである、自慢したい気持ちが溢れている [会話] ジマンタラシ言うて、自慢話 よけ (沢

山) するとなあ、ジマンタラシてなあ あの人 まあ
自慢こきでなあ言うの (のを)、ジマンタラシ言うのなあ
あ (のです) 自慢ばっかしとる (ばかりしている) 人
をなあ。

じみ (ぢみ) (地味) 【名詞】 1) 質素 2) 目立たない
(志 (布施田))

しみくい 所々まだらになる事 毛織物をしみが所々食
べてまだらになっている事

しみだれ 【名詞】 しみつたれ。金品を出し惜しりする事。
けちくさいさま、又その人。

じみち (ぢみち) (地道) 【形容詞】 【名詞】 1) 堅実に、
手堅く着実な事。2) 地面の出で居る道。舗装してない
道路。[会話] 1) ジミチに行く。**じみ** (地味、篤実、
落ちついて居る) な人を、ジミチとも言うなあ (言いま
す)。じみな りちぎな (篤実、律儀) にげな (人、
人間です)。いちがい (真正直) な人を ジミチやなあ
(だ) 言うて。

しみつたれ 【名詞】 1) 吝ちん坊 (伊、南) 2) 汚れた
様子、元気の無い様な人 [会話] 1) シミツタレやなあ
あ (だ) あのひた (人は) 言うてな。欲な人をなあ。
あのひた (人は) シミツタレやなあ 言うて。2) なん
やかや (いろいろ) しょぼくれたよん としてもなあ
(元気がないようにしていても) シミツタレみたよな
なあてやら (のようだから) 汚れたふう としても (格
好していても)、おおた シミツタレやなあ あのひた
言うて 嫌な 感じな (が) する事を。

じみよお (じゅみょう、じゅみやう) 【名詞】 寿命 命の
長さ (桑郡、松、多、北、尾) [会話] ジミョオ言う
と、命の事やなあ (です)。ジミョオの有る限り言うね
やよつてな (のだから)、命の有る限り言うねやるやなあ
(のでしょう)。寿命言うのを ジミョオ言うねない
(のです)。

しみる (染) 【自マ上ー】 1) 液体が物に染み込む。
2) 痛む。3) 物事に興が増す。話がはずむ [会話]
2) 目にシミルとか、冷たいもん (物) 飲むと はあ
(歯) へ シミルなあとか、身にシミル寒さやとかな
あ。なんでも きつい事な (が) 有ると、おおた
(あゝ) 身にシミル言うてやなあ (言います)。1) イン
クでも 墨とかでも こぼした時に シミル言うて。
3) 話が はずんで来るのも。話がシミル言うて 盛ん
になって来ると。まあ、あや シュンデキタレ (来ま
した) 言うて、踊りでも いきつて来ると (盛り上か
ると) 踊りな (が) シュンデキタレよつて (から) 見に
行こか (行こうか)。いきる言うのは さかんになる事

なあ (です)。“踊り シュンデキタ。ところてん 出
しやれ” (盆踊りの音頭の一節) 言うて みんな
(が) ふとつて来る (盛んになる) 事 シミル言うて。

しむ (染) 【自マ五】 物事が佳境に入る。興が増す。

しむける (仕向) 【他カ下ー】 ある行為をする様に働きか
ける

しむす 【名詞】 もんつき フェダイ科の海魚。背鰭軟条
下の側線上に眼径大の一黒斑がある。幼魚では体側に
6~7条の黄橙色の縦線が有る。体長50cm。(志)

しむつ 【名詞】 海魚 たかさご

じむね (ぢむね) (地棟) 【名詞】 棟 屋根の最上部に設
ける長く太い棟木 (志 (布施田)) [会話] ジムネ。う
ちの (家) 一番 すつてんじよに (頂上に) やるのな
あ (揚げるのです) ジムネ。ジムネ 揚げたれ (てや
れ) 言うて、家、建てるよおになると ジムネな
(が) あがると ジムネあげたれ (あげました) 言う。
昔 たちまいに 棟揚げする時な (が) 有りおつたな
あ (有りました)。たてまいすると ジムネな (が) あ
がると 御神酒で 祀りおつたなあ (祀 (マツ) りま
した)。

しめかざり (注連飾) 【名詞】 注連繩 シルクメナワ (尻
久米繩) シルクメは後籠の義、シリへ (後方) を過ぎ
る意の約略。引き延べて、内外の界の標とする繩。内
外を境して不浄を入れない意。

しめこんどる 閉じて入れないようにしている

しめし (濕) 【名詞】 乳児或いは病人などの大小便を始末
するため、腰より下にまとう布片を言う。纏綿。るる
きぬ (衣) の意。襦袢、むつき。(志 (神明、国府、鶴
方、甲賀、安乗、浜島、磯部)、鳥 (国崎、坂手、答志、
加茂、神島、菅島)、桑郡、桑市、員、安、多、上、阿、
張、度、伊、北、尾、南) [会話] おむつの事言うや
んかい (言います)。シメシ、昔や (は) おむつ言うて、
むつきもそや (それ) 取り替えなはざんわれ (いけない)
言うて。もつぱ (着物の一種) を、いなん (不
要) よおなのおを (のを) さしこ (刺子) にして よ
け (多く) 刺すと むつきみたいななあ (のようだ、
みたいだ) 言うて。糸で 十文字に あっちこっち
し 基盤に 刺しおつたね (刺して居たのです)。きれ
な (が) わりもんでなあ (悪いので) じつきん (すぐ
に) 破れてくもんでなあ (て行くので、今みたいに
(今のように) 新しのしやへんし (しないし)、着やれ
んきもん (着れない着物) になってくと そや (それ
は) むつきにするよおな きれやよつて (布だから)、
悪なつてくと (て行く) むつきのきれや (だ) 言う

て。今しや (今は) さんさら、たんもん (真新しい反物) 切ってするけど、昔や (は) きもん (着物) の着られんよおになってた (なつて行った) のおや (物とか) なかね (腰巻) の破れ、皆 つんで (修理して) むつきにしのおったの (して居たのです) そやよつて (だから) 悪りのおな有ると むつきみたいななあ 言いおったの (言つて居たのです)。さんさら言うのは新しい。今しは (今は) あたらし (新しい) さんさらの たんもん 切つて、それ (それを) ざくざく むつきになう (縫う) けど、昔や (は) 着るもん (物の着やれんよおん (着れないように) なつてたのお (なつて行ったのを) むつきやんかい (です)。そやよつて (それだから) 皆 刺子にしのおったね (して居たのです)。刺子言うとは 十文字に 雑布を 刺すやんない。あげん (あんなに) して、刺すやんない (でしょう) あつちやこつちや (あちらこちら) 刺しおつたね (刺して居たのです)。さいとくと (刺しておく) いかつちいもんで (強いので)。

しめし (示) 【名詞】 1) 叱り懲らしめる事 2) けじめ
しめしをつける 1) 見せしめにする 2) けじめをつける (上、阿)

しめす (湿) 【他サ五】 神佛の燈火を消す (志 (甲賀)、鳥 (鳥羽)) [会話] 消すのをなあ、シメス言うの (のです)。つける時やなあ (は) お燈明あげとけ (ておけ) 言うて。しまいにや (終りにには)、そや (それ) 危ぶないよつて (から) お燈明 シメセヨオ言うてなあ。けえせ (消せ) 言う事をな ま そや寝やんならんよつて (寝なければいけないから)、お燈明も シメシトケよお言うてなあ。

じめつく 【自力五】 湿気を帯びる じめじめする

しめつばい (湿) 【形容詞】 1) 湿気が多く、じめじめしている。じとじとして居る 2) 人々の話や気分には活気が無く、沈んで居る。[会話] 1) シメツポイ。しめりつばい言うのは よお (よく) 似た事やんかい (です)。言いよおな (が) 違うだけ、理屈は 一緒やんかい。じとじと、したたりのおを (のを) じめじめしとる (して居る) とか シメツポイとか。

しめなあ (しめなわ、しめなは) 【名詞】 注連縄 しめかざり参照 (北) [会話] しょうがつ (正月) の 注連縄言うのを シメナア言うて シメナア、なわなはざんわれ (編まなければいけない) 言うてなあ。

しめらかす (湿) 【他サ五】 湿らす 濡らす (鈴市、安、伊) [会話] 濡らす事を シメラカス言うの。えごと (十分) 藁も シメラカシトカナ (湿しておかなければ)、

なわれやせんわれ (編めない) 言うてな、藁を えごと 水 含ましてなあ しとくと (しておく) やいこお (柔らかく) なつてなあ、ないよいもんで (編みやすいので) シメラカシトカナ 言うて。

しめり (湿) 【名詞】 雨が降る事。雨を待ち望んでいた時や、望んでいて適当な降雨のあった時。(伊賀地方) [会話] シメリな (が) 有るうち (間に) なんやかや (いろいろ) 植えたらなはざんわれ (てやらなければいけない) 言うたりなあ。うるおいな (が) したよつてん (したから) 言うて。言うとなあ シメリな (が) した言うのを。雨な (が) 降つて来ると、今日は ええ シメリやなあ (だ) ええ (よい) うるおいやなあ 言うて、同じ意味やけどなあ (だが)。

しめりけ (湿気) 【名詞】 湿気 [会話] しとつと ひとり りでに (自然に) シメリケがして来る したたり (しめつばい) 言うて。

しめりつばい 【形容詞】 湿気を帯びやすい。[会話] シメリツポイ言う時は、しめりやすい。湿気を帯びやすい言うよおな事言うのやし (言うのですし)。しとつとして来るのは、したたり 言うのなし、濡れたので無しに (無くて) しとつと ひとり りでに (自然に) しめりけが (湿気が) して来る、したたり 言うてなあ (言います)。

しめる (締) (絞) 【他マ下一】 1) 殺す。生き物を殺して料理する。2) 魚の鮮度を保つため首筋を切る。3) 戸を閉じる。4) きつく結ぶ。5) 人をいじめる。6) 魚油をしぼり取る。7) 終わりにする [会話] 4) シメル言うのは、何か しばつと いて (縛つておいて) シメル。財布の ひぼ (紐) も シメル言うのも有るやんかい (有ります)。3) とお (戸) を シメル言うのも有るし、5) 人をなあ 苛める 言う時も有るなあ (有ります)。シメトカナは ざんわれ (ておかなければ駄目だ) ひとばか (少し) 言う時も 有る、あや (彼は) あんまり (あまり) 行き過ぎとるよつて (えらぶつて居るから) シメトカナは ざんわれ 言う時に使う時も有る。6) 魚シメル言うのは 昔や (は) 油取んのん (取るのに) さいら (秋刀魚) シメル言う。炊いといて (ておいて) 油 取んのん シメルけど (けれど)、さいら な 昔や (は) よけ (多く) 揚りおつたもんでなあ (獲れたので) 油 取んのん (取るのに)。締め率は こやしになるやんない (肥料になります)。そやもんで (それだから) しめおつたわい (て居ました)。炊いといて どいらい (大きい) 桶に 入れといて さいら の 締め率 買おて (買って)。こや

し (肥料) に それ干し といて 白で びしゃ いて (潰して) 畑へ 振りお けて (振って居て) そして しめ汁は 油に取りお ったの (取りました)。²⁾ 魚な (の) 首のとこ (所) しめ殺す の (のを) シメル言うて。 しめとかな (しめておかなければ) あんまりか ったいの (あまり堅いのは) うまないわれ (美味くないです) 言うて。¹⁾ 鶏や だけでも (なども) 首シメテ つるくすのな あ (吊すのです) シメトケ言うて。 かみ や しゃぐり (くくり方) して トコトットト ばたばたすんのな あ (します)。

しめる (瀧) 【自ラ五】 濡れる

しも (下) 【名詞】 1) しもぎ、下座、下の方角。反対語 かみ、上。2) 腰より下、陰部。(志(布施田) 3) 大小便(志(布施田)) [会話] ¹⁾ しば 言うて 江田 (字名) の シモ (下) の方を しばや (だ) 言いお つてな あ (言っていました)。下の事を あや (あれは) 言うねやろな あ (言うのでしょうか)。江田の かみ (上) から 来て 今しの (今の) 銀行の方を しば や言うて。 しばな (が) 水で つかつとて (て居て) 言うて シモの事を しば 言うんやろな あ (言うのでしょうか)。上座へ 座るの (のを)、座敷も 床の間の方を かみ、床の間より下を 下座や 言うし (しもぎと言います)。いなさ (東南) の方を いなさかどや (角だ) 言うし、いなさかどへ 座って やれよお (十分に食べなさい)、ごつお (御馳走) よけ喰うと (沢山食べると) いなさかどへ そや 引つ込めよお (それ引き入れよ) 言うんや かい (言います)。いなさかどは こく ながりしとるし (小暗がり、薄暗くして居るし)、かみの方は 偉い人が 座つとる (座って居る)。シモの方は ちよいと (少し) こや こやつとした (一般の) のお な (人が) 座るの やん かい (です)。そおすと えん りよ (遠慮) 無しに 食べられる もんで (ので) いなさかどへ 座れ 言うの (のです)。

しもいそ (下磯) 【名詞】 紀州方面に海女で出稼ぎに行く事、又その場所。[会話] シモイソ 言う な (のは)、熊野の 方い (へ) 海女ん (に) 出稼ぎに行くの (のを)。紀州の 方い (へ)、長崎や 尾鷲や 言うて、そい なと こ (そんな所) へ 働き ん 行き おつたの (に行って居たのです)。雇われて 行く の (行くのです)。親方 な (が) 磯場 おとしとて (入札して) 磯場 こおとて (買っていて、その人ら な (が)、やとて (雇って)、いて (行って)、こおとる (買っている) だけの磯場をか ずき おつたの (居たのです)。それを シモイソ。春は二月頃から いて (行って) 九月頃迄、盆迄 いて来といて

(行って来ておいて)、春磯。盆から 秋磯 言うて 秋に行くの (のを)。九月迄 (です)。この 辺り みたい ん (のように) 口あけ無しで、親方 な (が) 磯場 こおとる もんで (買っている)ので、その 親方 んやと とても おて (に雇って貰って) 採った もん (物) は 親方 ん (に) 売って、そして 炊くのは (炊事は)、わがと らな (自分達が) 鍋も てて (持って行って)、まま ごと みたい ん (のように) して 炊いて、みん な な (が) 並べと いて (ておいて)、一斗 鐘切つといて、それで 別々 ん (に) 炊いて 食い よつたの (食べて居たのです)。そいな時は 納屋を かつて くれとる もんで (借りてくれている)ので、自分 なも てた (が) 持って 行った) 布団 へ 寝やれた (に寝れた)。あと さし しや せん (しません)。頭と 頭と 敷き 合わせて 寝て 一部屋 へ、倉庫 みたい なと こか つて くれる わい (のような所借りてくれます) 海女 小屋 や (だ) 言うて 其処で 炊いて くう て (食べて)。

しもごえ (下肥) 【名詞】 人間の糞尿を肥料としたもの。[会話] 昔は シモゴエ かけ おつた もんで (たので) それから うつ り おつた ね (感染しました)。

しもごやし 【名詞】 大、小便を肥料とすること、しもごえ [会話] 肥料の事 こやし、尻から でん の もな あ (出るのも) シモゴヤシ、しもごえ。

しもぎ (下座) 【名詞】 席の中で最も下手にある座。下位の人などの着く座席。[会話] 上座、シモザ、結婚式 い (に) よば れて くと (招待されると) 上座と シモザと 有る やん かい (有ります)。床の間の方は 上座 や (だ) 言うて、上座 い (へ) 座つて まあ 言うて よば れて くと。いなさかど い (東南の隅へ) 早よ (早く) 座つて やれよ (食べなさい) 言うて、いなさかど や 言うて 隅の 方 な (が) 有つて なあ あや まあ (彼は) いなさかどで、やり 込ん ど られ (一生懸命食べている) 言うて なあ。

しもじも 一般庶民(志(布施田))

しもせんくせん しないのに

しもた (仕舞) 【感動詞】 1) 失敗した時に発する言葉。しまった。(志(布施田)、鳥、鈴市、安、松、上、阿、張、名、伊、北、南、熊) 2) 片付けた 3) してしまった した 終った (志、鳥、桑市、四、鈴市、亀、久、一、飯、多、阿、張、度、伊、尾、北、南、熊) [会話] ¹⁾ 失敗 した て (してしまって) 此れは えらい (大変) シモタ 言うて。

しもたた 1) 失敗した 壊してしまった (志(布施田)、南) 2) 片付けてしまった 3) 汚した [会話] ¹⁾ シモタ 言う時は 失敗した。³⁾ 茶碗で 御飯を まけ

たても (こぼしてしまっても) シモタタ言うて、な
んやかや (いろいろ) 汚したてもなあ ま こや (こ
れは) シモタタレ まあ言うて。

しもたや 1) 終わったら 2) 片付けたら [会話] 1)
終わったら言う事。シモタヤ 雨な降って来て丁度よか
ったなあ言うのなあ (です)。

しもたや (仕舞屋) 【名詞】 貧乏な家 汚ない家 シマウ
タヤの転 (広辞苑) (上、阿)

しもたやろ 片付けたであろう

しもたる 1) 壊してしまう 悪くする (志 (浜島、
鶴方、立神、甲賀、国府、安乗)、多、度、北、尾、南、
熊) 2) 片付けてしまう (多) [会話] 1) まあ そげ
ん (そんなに) したら シモタルやんか (でないか)
言うてな。てえねえ (丁寧) にせな (しなけいお)、て
あるお (手荒く) したりするとなあ、そや、シモタラ
レ そげな (そんな) 事したら言うてなあ。壊したる
とか (てやるとか) わるうしたる (悪くしてやる)
とか、汚したる とかな、そやまあ (それ) そいな
(そんな) 事したら シモタンド言うてな。せともん
やどけ (瀬戸物など) 持つとて (ていて) 手荒な事す
るとなあ そいな 事したら シモタンド そや 言う
て 壊したんど (てやるぞ) 言う事をなあ、それも言
うしな (言います)。なんでも 悪くしたる 事をなあ、
新らしもん (物) でも しわくしゃん (に) したりす
るとなあ おおた シモタタナ まあ言うて。

しもたるな 壊すな

しもたんど 1) 壊してしまうぞ、悪くしてしまうぞ
しもたる参照 2) 片付けてやる、後始末をしてやる
3) 片付けてやった

しもたんな 1) 壊すな 悪くするな 2) 悪くして
しまう [会話] 1) 道具 こおて (買って) 来ても、
買ったてやのんなあ (だのに)、シモタンナ そや (そ
れ) 言うて。 こおて 来て 新しのおを (新しいの
を) シモタンナヨオ こおて 来て すぐやどお (だ
ぞ) 言うて。

しもたんな 1) 片付けたか 2) 片付けるな

しもつきひいて (霜月一日) 【名詞】 陰暦十一月一日、山
の神の祭日。

しもて (下手) 【名詞】 下の方。[会話] 上手 むいてや
ってけ (進め)、シモテへ やれ (進め)。

…**しもて** しながら。[会話] なんやかや (いろいろ)
シイモテ、仕事シモテ 歌 うととる (歌っている)
とかなあ。仕事シモテ あや (彼は) なんやかや (な
にかかか) しやほやと くうとんねない (食べている

のだ) 言うてなあ。

しもてく 死んで行く。しもてて参照

しもてた 死んだ。しもてて参照 (志 (甲賀、国府、安
乗))

しもてて 死んでしまって。[会話] 死んでた (で行っ
た) 言うのなあ (です)。まあ シモテタネ (のだ) 言
うてなあ。シモテクは 死んでく (で行く) 言うて、
シモテタ言うて 死んだ後。シモテテ まあ、死んで
て (でいって) 言うよおなもんやわいなあ (ものです)。
昔や (は) シモテタんでなあ (そうで) 言うて、悔み
ん (に) 行きよおったもんなあ (行きました)。

しもとく しまっておく 取っておく 保存する 片付
ける (志、鳥、松、多、伊、北、尾、熊) [会話] シ
モトク言うな (のは) 片付けとく (ておく) 言うのを、
シモトク言うのなあ (です)。ととくね (しまってお
くのだ)、ととつけ (しまっておけ) 言うてなあ、シモ
トケ言うのなあ (です)、きもん (着物) もだ とと
きの きもん 言うな (のです) とって置くのをなあ
ととときのきもん言うし。なんやかやを、シモトケ
(なにもかもしまっておけ) 言うのも ととつけ 言
うてなあ、ととつけ そげん (そんなに) みな ひと
くらん (一度に) 出したらんと (てやらずに) 言うて
な。

しもとて 1) 死んで居て 2) 壊れて居て 3) かく
して居て 片付けて居て しまつて居て [会話] 3)
あんな (あれが) 無いか言うて まあな あの子な
(が) シモトテなあ おら (俺は) 何処んあんねやら
(に有るのか) 判らせんわれ (です) 言うて。

しもとる しまつて有る 保存して有る (熊) [会話]
シモトンネなあ、片付けてあんね (あるのだ) 言うの
をなあ、なんもかも (なにもかも) 皆 シモトル。何、
それな (が) 無いか言うて まあなあ あの子な
(が) シモトテなあ おら (俺は) どこん (に) あん
ねやら 判らせんわれ 言うて。

しもとる 壊れている

しものやまい 【名詞】 婦人科の病気 [会話] シモノヤ
マイ。今し (今) で言うて婦人科や (だ) 言うんけど
(のだが)、昔や (は) 婦人科や (だ) 言うよおなこた
(事は) 言わらつたやんかい (言わなかったです)、あ
の人な (が) みえもん (帯下が) してなれ言うて、
おりもん (おりものが) すん (る) のなあ。淋病や
どけ (など) 同じ シモノヤマイでも シモノヤマイ
とは言わせん (言いません) 淋病や (だ) しょかちや
(だ) 言うてなあ。

しもぶくら (下張) 【名詞】 顔の頬が膨らんで居る事
じもん (ぢもん、ぢもの) 【名詞】 その土地での産物、地物

しや。しやあれ 【感動詞】 それ、尊敬の助動詞、しやるの命令形、しやれの転。命令を表す。敬意は薄い。
[会話] そや それ言うの (のを)、シヤ それもてけ (持って行け) 言うのな (のです)。シヤ これもてけ言うて。そや (それ) 言うのを シヤ 言う。シヤもこやも 一緒やわい (です)。こや 此れ持てけ。こや言うて 別んも (特に) 野暮なよおなし (ようです)、シヤ言うて ちよいと (少し) おとなし (おとなしい) よおに 聞こえるなあ (聞こえます)。シヤや (とか) こやや (とか) 言うて。

しや すれば (志、桑市、四、鈴木)

…しや 【感動詞】 接尾。わたっしや、失敗、過失。[会話] ワタッシャ言うのも有る。ワタッシャヨオ、しもたたよお (失敗した)、男の人らな (人達が) よお言うなあ。ワタッシャヨオ言うのは、失敗したた事をよお言うなあ (よく言います)。わりもん (悪い物) 見ると 男の人ら (が) アタッシャヨオ あの顔見よまい (見なさい) とか言うの 聞いた事有るてや (有ります)。あの器量で タッシャヨオ言うて、男の人らな (が) 言うのを。おなご (女) は そいな (そんな) 事言わせんけど (言わないが) 男の人な (が) タッシャ言うてな。わたしらな (私達が) まままま言うて言うな (のは) アタッシャヨオ、ひまのかあやれ (大変だ) 言うのな (のが) まままま言うて。

しや (社) 【名詞】 組、仲間。(志 (甲賀、安乘)) [会話] あいら (彼等) あれ (彼) と シヤで、シヤやもんで (だから) ほかのもん (者) 入れよかい (入れません) 言うてなあ。仲間や (だ) 言うのなあ (のです)。あいらと 組や (だ) 言うの (のを)、シヤや (だ) 言うて。じよおし (漁師) でも 仲間としとのお (のを) シヤアバイ言いおった (言っていました)。シヤアバイや (だ) 言うて、仲間でしとる (して居る) 人らを。〇〇屋 (屋号) な (が) どこやら (どこか) 仲間としとて (して居て)、シヤアバイな (が) 来た そや (それ) 言うて、仲間や言わんと (と言わずに) シヤアバイ言うて。シヤアバイネが 来たよお (来ました) 言うて。お前 どこ舟ど (どこの舟ですか) 言うて わしや (私は) シヤアバイや (だ) 言うて。〇〇屋舟に 乗とる (て居る) もんな (者が) あんたどこどい (何処ですか) △△かい、なんどい (なんですか) 言うて シヤアバイや 言うて。

しやあ 【名詞】 小便。じゃあに同じ。幼児語 [会話] シヤア やつてくよか (させてやろうか) 言うたりな、しい (小便) やつてくよか 言うたりな、シヤアせえ (しなさい) 言うてなあ、こおして やつとて (いて) シヤアシヤア、ぶう言うて へえひった (屁した) 真似してな。

じゃあ 【名詞】 蛇。(志 (布施田)、鳥 (答志)) [会話] 蛇の事も ジャア言うし。

じゃあ。じゃあじゃあ 【名詞】 小便。幼児語。[会話] 子供 しっこ (小便) させるの、ジャア言うやんかい (言います)。子供のしょんべん (小便) も ジャアしたれ (してやれ)。しいやつたるか (小便させてやろうか) 言う時も有るし、ジャアたれたれ (してやれ) そや (それ) 言うて。おしっこせえ 言うの (のを) ジャアしたれ 言うて (言って)。ジャアさせおったなあ (させて居ました)。ジャアジャア言う時も有るし ジャアジャアしたて (してしまつて) そや。家の内へたれたると (してやると) まあ しり (尻) たれたたんなあ (してしまつた) 言うて。

しやあこ 【名詞】 耳の聞こえない人。副詞 何事にもこだわらないさまを表す語からか。

しやあしやあ 【名詞】 1) 下痢。びいびい、しやあしやあ。2) 小便 [会話] 1) おなか (腹) とおった時 (下痢した時) しやあ言うて (言つて) 下るやんない (でしょう) それを シヤアシヤア。腹な (が) 下つて、シヤアシヤアやよお (です) 言うて。シヤアシヤア言うのと びいびい言うのと びいびい言うのも有るしなあ (有ります)。びいびい言うのは ちよいと (少し) 下るのな (のが)。シヤアシヤア言うのは じゃあと 水だけ出て来る時な (が) 有るやんかい (有ります)。

しやあしやあ 【副詞】 1) 立派な振る舞い 2) 恥を恥とも思わないさま。あつかましいさま。(志 (布施田)) [会話] 1) 立派にしてなあ 道を しゅうしゅう歩いてくの (て行くのを) シヤアシヤア 歩いてるなあ (て居ます) 言うやんかい (言います)。

じゃあじゃあ 【副詞】 【名詞】 1) 小便を言う幼児語。2) 多量に水などが流れるさま。雨の降るさま。

じゃあじゃあぶり 【名詞】 大雨、多量の雨の降る事。
[会話] 雨な (が) ざざ降りとか ジャアジャアブリとか だだ降りとか。

しやあせ 【名詞】 幸 幸福

しやあせん しない (志 (立神)) [会話] しやせん、シヤアセン言うてな、言う人なあんな (有ります)。そい

な (そんな) 事 シャアセン言うてな、しません言うのを しゃせん (しない)、シャアセン言う人も有るんなあ。

しゃあない 仕様がな。仕方がない。しゃあ、しよう、しょお、仕様。しは、動詞するの連用形から、やり方、方法 手段。仕様がな。他に方法が無い。あされる程ひどい。手に負えない。ねえ、ない。(鈴市、安、一度、北) [会話] しょおことなしゃわれ (だ)、シャアナイワレ (ありません) 言うて、何んでもええわれ (よい) 言うよおな 言葉やなあ (です)。

しゃあないわ 仕方が無い [会話] シャアナイワとか、しゃあねえわ言うて。しゃあねえわ したた (してしまった) 事なあ (を) 言うて 仕方が無いわ 言う事をなあ (です)。

しゃあねえ 仕方が無い (志 (立神)、多、伊) [会話] シャアネエナア言うて、ほんおとっしや (本当に) まあ こげな (こんな) 事したて (してしまって) シャアネエナア言うてな、仕方が無いなあ言う事をなあ、しゃあないわ (です)。

しゃあねえわ 仕方がない。[会話] しゃあねえも 一緒やわい (です) しゃないわとか シャアネエワ言うのも 仕方が無いわ 言う事を。

しゃあばい【名詞】 仲間の人間、友達 社輩か [会話] じよおし (漁師) でも 仲間て しとるのおを (のを) シャアバイ。仲間や言わんと (だ言わずに) シャアバイ。

しゃあべえ【名詞】 ものの言えない人 [会話] ものよ お言わん (言えない) 人 おしべえや (だ) とか シャアベエや (だ) とか言うて。

しゃあら。しゃあれ【感動詞】 それ (志 (船越、波切、甲賀)) [会話] シャアレ言うてなあ そや (それ) 言うのをなあ。シャアレ言うてなあ、そや 言うたり しや言うたり それえ (それ) 言う事やなあ (です)。シャアレ それしもたたなま (壊してしまった) 言うてなあ。うちやったたれ (壊してしまった) 言うのなあ (です)。シャアレマア そやれまあ言うてな 年寄りの人らなあ シャアラ言うて しやら 此れ ましもたたね (壊してしまったのだ) 言うてな、しやらてやら (とか) こやらてやら 言うてなあ。

しやあるいて して

しやい (しあい、しあひ)【名詞】 試合 しあいの訛

しやええのん すればよいのに [会話] さっさと シヤエエノン。

しゃかじお【名詞】 四月 (旧暦) の潮のよくひく時、あ

まなきじおの後に来る潮のよくひく時を言う [会話] あまなきじおの後は、しんがつ (四月) は、お釈迦さんやもんで (なので)、シャカジオや言うて、こや (これは) シャカジオで、よおひくねなあ (よくひくのだ)、しんがつのよおか (八日) は、お釈迦さんのひい (日) やもんで、シャカジオやなあ言うて、よおひくわい (よくひきます)。あまなきじおやとか、シャカジオや言うて、よおひくねてや (よくひくのです)。あまなきじおな済むと、こんだ (今度は) 此の月や (は)、こや (これは) シャカジオやよつて (だから) よおひくねやれ (ひくのだ) 言うやんかい (言います)。

しゃかしやか【副詞】 1) すばやくするさま。さっと。2) 慌て者 [会話] 1) シャカシャカせえまあ (しなさい) 言うんかい (言うのですか)。ちやかちやかせえまあ 言う人も有るし (有ります) シャカシャカせえまあ 言う人も有るし。うなし (同じ) 意味やけどなあ (です)。シャカシャカしたらな (してやらなければ)、のそのそしとて (して居て) さっさとせえ (しなさい) 言うのを シャカシャカ せえまあ 言うたり (言ったり) ちやかちやかせえまあ 言うたり うなし 意味やけど。

じやかじやか【副詞】 沢山 次から次へと

しゃかしやかあるき【名詞】 小幅で早く歩く事

じやがたらいも【名詞】 馬鈴薯 ジャガタラは、ジャワ島バタビヤの旧名 (志 (畔名、国府、片田、越賀、御座、布施田)、鳥 (坂手、相差)、桑市、桑郡、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多、上、阿、張、南、熊)

しやがった したの卑語 (志 (波切)) [会話] あいな (あんな) 事 シヤガッタ言うて。したて (してしまって) 言うのを シヤガッタ言うてなあ。やあがるをつけんね (つけるのです)。シヤガッタ言うて わり (悪い) 事やなあ (です)、まあ 腹な (が) 立つとる (ている) 時や (は) そいな (そんな) 事 シヤガッタ言うてなあ、こいな (こんな) 事 しくさつて (して) とか言うて。

しやがって 卑語 して行って [会話] しやがる、シヤガッテ、しくさる、てやら (とか) 言うななあ (のは) 一緒の事したて (してしまって) 言うのを シヤガッテ言うて。

しやがむ【自マ五】 腰を落とし、腰を曲げてかがむ、うづくまる、かがむ (志 (浜島)、鈴市、伊) [会話] シヤガンドレ (でおれ)、しやまあ、頭な (が) つかえられ (つかえる)、ちよいと (少し) まあ、あの家い (へ) いたや (行ったら) シヤゴマナ 入いられやせ

んてやら (ないとか) 言うてなあ。ちっちゃい (小さい) 家い (へ) 行くとなあ、あの家い (へ) 行くとシャガマな (なければ) おらな、せえな (俺の背が) 長いよって (から) あったま (頭) つかえて シャゴマなはざん (なければいけない) 言うて。

しやがる (仕上) 【自動五】 仕上る なしとげる 出来上る

しやがる 卑語 する (三、鈴市、多、上、阿、張、北) [会話] しやがって。シャガルてやら (とか)、しくさって、てやら 言うなあ (のは) 一緒のこと。こいな (こんな) 事 したて (してしまつて) 言うのを、しやがって言うて。シャガル、しとる (している) 言うて しくさる 言うのも よお似とる (よく似ている) 事やわい 一緒の事やわい (です) まあ わり (悪い) 言葉なあ (です)。

しやがれ せよ しなさい 命令形 (鳥、張)

しやがれごえ 【名詞】 暖れた声 (志 (甲賀)、鳥、津、熊)

しやかん (しゃくあん) (左官) しやかんや (しゃくあんや) (左官屋) 【名詞】 壁塗り職人。サカン (左官、左官) の訛 サカン 王室の修理などに無官の者は入られず、ために木工寮のサクワン (属) として、入らせた事に依る (大言海) (志 (浜島、布施田、立神、国府、安乗、甲賀)、鳥 (浦村)、桑市、員、三、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、松、飯、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] 壁塗りがい (ですか)。左官屋の事をシャカンヤ言うね (言うのです)。“左官 土捏ね しよおな (性格が)、合わん” 言うて、喧嘩ばっかしとる (ばかりして居る)。土な (が) こや (これは) 捏ね方な (が)、やいこいわれ (柔らかいのだ)、かったいわれ (堅いのだ)、言うて、シャカン壁塗りは言うし、土捏ねは そげん (そんなに) シャカンの言う通り 出来やせんもんで (出来ないので) 左官と土捏ね 性が合わぬ言うて 喧嘩する もんで (ので)。喧嘩しとるとなあ (して居ると) 左官屋と土捏ねみたいやなあ (のようだ) 言うて よお言うね (よく言います)。

しやがんな 卑語 するな (三、張)

しやしきしやしき 【副詞】 1) 物事をすばやく、又は手ぎわよく処理する事を表す語。てきばき。2) はっきりしている事を表す語。しっかりしている事を表す語。しやしきり。3) 歯切れよく物を噛む音。物を細かく切り刻む音を表す意。[会話] 1) シャキシヤキモンやなあ (者だ) 言うて。元気な (が) ええ (よい) のをな

あ、シャキシヤキしとて (して) まあ言うて。子供でも シャキシヤキモンやなあ 言うて はっきり言うとなあ。そして 物事すんの (するの) でも てきばきと するこおな (子が) 有るやんない (有るでしょう)、それをなあ シャキシヤキモンやなあ こや (これは) 言うて 褒め言葉や (です)。2) 物事がはっきりしとる (している) すつきりしとる (している) 事を シャキシヤキしとる。

じやしきじやしき 【副詞】 1) 痛み の表現。2) 物を切る時の表現。[会話] 1) なんやら (何か) 体に入つて (入って居て) ジャキジャキ突かれ (突く) 言うけど なあ (言います)。2) ジャキジャキ切つたれ (切つてやれ) 言うて。木 切つたりすんのも (するの) 言う。体 なんか (何か) 物が 刺さつとると (て居ると) ちやしきちやしきすられ (します)。ジャキジャキと うしなあ (言います)。

しやしきしやしきもん 【名詞】 しやしきりもん 元気が有り物事をてきばきと進める人。(志 (布施田)) [会話] シャキシヤキモンやなあ (者だ) 言うて、元気な (が) よおて (よくて)。はきはきしとる人をなあ。なんでも (何事も) のそのそしとらんと (して居なくて)、てきばきしたり ものも はっきりといいのくい (にくい) 事も うたり (言つたり) すると、あのひた (人は) しやしきりしとるよってんなあ (して居るから)。

しやしきつと 【副詞】 正しく きちつと 姿勢よく 元気よく (上、阿)

しやしき (癩) 【名詞】 1) 腹痛。腹部に発作性の激痛を起こす病気。現在どの病名に当てはまるか不明であるが、胃痙攣、子宮痙攣、胆石症、腎結石、潰瘍穿孔、虫垂炎などが考えられる。発作は一回で終わる事なく、何回も繰返し生ずる。苦痛が積り重なって生じた病氣と言う意味で、癩の文字が作られたのであろう。癩は国字。シャクは積の呉音から。(志、桑市、名) 2) 物事が気に入らなくて気持ちがむしゃくしやすること、又そのさま。[会話] 1) シャクな (が) おこつた (生じた)。2) あのひた (人は) わり事 (悪い事) 言う シャクや (だ) なあ言うて シャクにさわつた 言うし。1) 病氣の シャクな (が) おこつた (おきて来た) 言うて、昔や (は) 持病な (が) おきると 持病のシャクや (だ) うやんかい (言います)。腹の痛いのおを (のを) さし込んで来たたら (とか) よお (よく) 昔の人ら (は) うやんあ (言います)。せんな (疝が) 入つたとか すんばこな (が) さし込んで来たたら (と

か) シャクな (が) おこつて 此処 (上腹部) へ突き上げて来たとか、昔の人のことわざやなあ (口調です)。腹の痛いのの (の) シャクな (が) おこつた言うて。せんシャクや (だ) 言うて、昔や (は) せんシャクでもみきつた (もがき死にした) 言うて、今 (今) 言うて 盲腸や思うんてや (虫垂炎だと思ます)。なんや知らんけど (何か知らないが) 腹な痛おて (痛くて) せんシャクで もみきつた言うて、急に死んでく (で行く) 人。せんシャクで もみきつたんで (で行く) われ (そうだ) 言うて。医者は無いし わりなつて来たてて (悪くなって来てても) 痛い痛い言うて、もがいて死んでく (で行く) のを せんシャクで もみきつた言うてなあ よお言いおつたてや (よく言っていました)。²⁾ シャクに障る言うのは、すかん (嫌な) 事言うて、わがとな (自分の) 気に喰わん事言われると おおた (ああ) シャクななあ (しゃくだ) 言うて、シャクに障つた言うて よお言うなあ (言います)。あの人の言うこた (事は) シャクに障つてまあ言うて。気に障る事を 気に入らん事言われると、おおた (ああ) あの人な 言うこた シャクに障つたなあ言うて。

しゃく (杓) (柄杓) 【名詞】 ひしゃくの、ひの省略 ひしゃく、ひさくの転、ひさく、ひさごの転、ひさご、ひさこの転。瓢箪、瓢箪を縦半分に分けて水を汲むのに用いた道具。ひしゃく、水 (液体) を汲み取るための道具。木、竹、金属などの椀状の容器に長い柄の付いた物。(志、鳥 (加茂)、員、三、鈴市、安、名、伊、南) [会話] 柄な (が) 長いやんかい (の) です)。コエビシャクも 有るしなあ (有ります)。昔や (は) てん どりから 汲むのな (のが)。竹を節 (ふし) のとこを (所) 底にして、それい (へ) ええ (柄) 付けて てんどりのシャクや (だ) 言うて こしらえて貰いおつたの (て居たのです)。てんどり言うて 茶釜 文福茶釜の 茶釜 あれを てんどりや (だ) 言うて、そして コビシャクや (だ) 言うて 汲むのを 据えといて (ておいて)。コエビシャクも有るし ミズビシャクも有るし それから コビシャクも有るし。おつけ (味噌汁) もる (盛る、よそう) 汁じゃくし。しゃくしは ご飯もるのを (よそうのを) しゃくし。シャクは水を汲むのおを (のを) 深いよおしとるのお (ようにしているのを) シャク。シャク言うて 水 もんの (よそうの)、しゃくし言うのは 飯もんの。おたまじゃくし言うな (のは) 汁もん (物) もるのん (に) おたまじゃくし言うて きい (木) くつたのを (割り抜いたのを) おたまじゃくし言うのなあ (言うのです)。

おたまじゃくし言うて きい (木) を削つて ええも きいで 一本のきいで してあんのを (あるのを) おたまじゃくし。おたまじゃくし、汁もんのに (擲うの)に。昔や (は) 汁やとか (だとか) おじやとかすると、おたまじゃくしや (とか) 汁じゃくしや (で) おかい (粥) や、おじやは、コエビシャク言うて 畑でなあ おりや (大小便) をかえる (取り出す) 言うの、コエビシャク。その コエビシャクで えなが (柄長) 言うて、たたき コンクリ (コンクリート、セメント) の 大きなおな (のが) こしやえて (作つて) 有つて ええな (柄が) なががあい (長い) の エナガ ジャクや (だ) 言うてなあ そんでかえるの (それで汲むのです)。たあご (担桶) から かえんの コエ ジャクシ。

しゃく (酌) 【名詞】 給仕 (熊) [会話] お酒つんだり (注いだり) ちやあつんだり (茶注いだり) すんのな あ (するのです) シャク。シャクしてくれ (下さい) シャクとれ (しなさい) 言うて、結婚式や (だ) とか 言うて 若いもん (者) を 頼んで よおしよおつた わい (よくして居ました)。

しゃくいど (尺井戸) (杓井戸) 【名詞】 浅い井戸。[会話] シャクイド言うななあ (言うのはですね) 井戸が わなしん (側、囲い無し)に。杓で 汲みおつたやんか な (居たで有りませんか)。つるべ (釣瓶) にせんと。浅つさいもんで (浅いので、井戸側せんと (せずに)。地べた (地面) たたき (セメントで固めてある) で 杓で汲むのなあ (汲むのです)、浅つさいもんで。杓で 汲む程 浅つさい井戸なあ (です)。側な のおて (が 無くて)、巾広お (広く) してあつて そやもんで (それだから) 杓で汲まれる。たいがい (大体) 雨な (が) よけ (多く) 降ると 杓で汲みおつたもんで (汲んで居たので)、そいな (そんな) 井戸を、シャクイドや (だ) 言うて (言います)。井戸は浅つそおて (浅くて) 溢れて来る程 水な (が) よつけ (多く) 有つて、あや (あれは) シャクイドや (だ) 言うて、杓で水汲むね (のだ) 言うて。

しゃくし (杓子) 【名詞】 固体のものすくう用具。御飯をすくう用具。しゃく参照 (志 (志島、甲賀)、鳥 (坂手、国崎、答志)、尾、員、四、鈴市、亀、松、阿、張、名、南) [会話] しゃく言うて 水もんの (汲むのを)。シャクシ言うて 飯もんの (よそうのを)。

しゃくしがい (しゃくしがひ) (杓子貝) 【名詞】 いたやがい。イタヤガイ科の二枚貝。浅海の泥砂底に住む。形は帆立貝に似て、片面は平で、一方は浅く湾曲する。

殻長約12cm、巾が広くて低い放射肋が8~13條あり、板葺き屋根の棧に似ているので此の名がある。貝柱は美味で、殻は細工して杓子などに使われる。深い方の殻に、柄をつけて杓子を作った。[会話] 帆立貝の事をなあ シャクシガイ言うのなあ (です)。シヤクシガイはなあ それをなあ 貝を 杓子 (に) して、竹でなあ ええ (柄) 付けて 杓子、汁杓子、そやもんで (それで) シルシヤクシガイ言うねやろなあ (言うのでしょうか)。

しゃくしな (杓子菜) 【名詞】 野菜。葉柄の基部が肉質となり太く、上部が細くなり、その形が似ているところから。(三重県全域) [会話] シヤクシナ言うのなあ (言うのです)、ずいきな厚うて (茎が厚くて)、はあな (葉が) しゃくしみたいにしとるわい (杓子のようにして居ます)。なづけん (菜漬け、葉の漬物)に すんのん (するの)に あいなのな (あんな物が) ええの (よいのです)。ずいきな (が) 厚うて、しいるおて (白くて) よけあんのな (沢山有るのが)。ずいき言ううと 茎の事。はっぱやなしん (葉で無くて)。

しゃくせん (借錢) 【名詞】 借りた金。借金。金を借りる事。[会話] 借金の事を シヤクセン 借金するとシヤクセン あの家や (は) よけしとて (沢山して) て 言うて。

しゃくとり (酌取り) 【名詞】 1) 酒席に出て酌をする人。2) 結婚式の三々九度の酒をつぐ子供。[会話] お酒つぐのな (です)。2) 結婚式やどけ (などで) 嫁さんにつぐの シヤクトリヤとか (だとか)、1) 座敷 (招宴の座)に 皆 つき廻るの シヤクトリヤ (だ) 言うの (言うのです)。シヤクトリな (が) よけ (多く) 有って言うて (言って)、よばれてくと (招待を受けると) 結婚式い (に) いても (行っても) 若い子な (が) つぎん廻んのなあ (つぎに廻ります) あんな (あれが) シヤクトリ言うのなあ (言います)。

しゃくなかす。しゃくやかす 引く [会話] 樽 漕ぐのん (に) 前へ 行くよおん (ように) なると、落つてくやんかおもて (だろう思って) おとして (怖くて) 尻あとへ置いて、尻シヤクヤカスよおん (ように) して なんどお (なんだ) その漕ぐな (のは) 言うて。

しゃくにさわる 腹が立つ。気に障る [会話] あの人な (が) 言う事な (が) すかん (嫌で) で、シヤクニサワル まあ言うて。気に障った言う事やわいなあ (です)。あの人な (が) 言う事な (が) えろおて (きつくて) シヤクニサワルなあ。

しゃくにん (酌人) 【名詞】 酌をする人。しゃくとりに同じ。[会話] 酌とる人 結婚式に 酌とん (する) のでも シヤクニン言うてなあ。しゃくとりも 一緒や (です)。

しゃくのたね (癩種) 【名詞】 腹を立てる原因

しゃくはち (尺八) 【名詞】 口淫。男根を口に含み舐めて女性器の代りとする性戯

しゃくびのし 【名詞】 金属製で柄杓形の裁縫用具。炭火を入れて布の皺伸ばし、髪つけに用いる [会話] シヤクビノシ言うて めつば、みたよおなのおに (のようなの)に ええな (柄が) ついとて (付いていて) それな真鍮でして有って、ひいな (火が) じかん行かんよおん (直接行かないように) 中にぐじゅぐじゅ (渦) 丸丸ん (に) すじな (線が) してあんね (してあるのです)。それん (に) 堅炭入れて 皺とんのん (取るのに) 今しの (今の) アイロンの代り。

しゃくやかす 引く しゃくなかす参照

しゃくやがり 借家に住む事 家を借りて住む事

しゃぐま (赤熊) 【名詞】 櫛も入れずぼうぼうとした髪、乱髪。しゃごま シヤグマ (赤熊) バクの尾の毛を赤く染めた物、転じて赤毛で乱髪を言う (志 (布施田)、尾) [会話] シヤゴマ。シヤグマ言わんと (言わずに) シヤゴマ。もしやもしやしとるの (して居るのを) シヤゴマ言うて、頭も くしゃくしゃになつとると (なつて居ると) あや (あれ) 頭シヤゴマやなあ (だなあ) 言うて。シヤゴマ 男のもん (物、性器)を “頭 きんか (金柑頭、禿) で もた (根元は) シヤゴマ” (どつき唄の一節) 言うのな (言うのです) 唄に。くしゃくしゃ しとるの (のを) シヤゴマ言うて、あやシヤゴマみたいにしとる (して居る) 言うて。

しゃくやちん (借家賃) 【名詞】 家賃 [会話] うち (家) 貸しとて (て居て) その金な (かねが) 入つて 来るやんかい (来ます)。シヤクヤチン。

しゃくもち (癩持) 【名詞】 癩持ち よく腹痛をおこす人 [会話] いいな (胃が) わりのおを (悪いのを)、りゅういんじやくな (が) あつて言うて いつでも言うてるにげ (いつも言っている人) を シヤクモチで言よ おつたわい (言っていました)。

しゃくらかす 強く引く

しゃくられる 強く引つ張られる

しゃくりきる 強く引く [会話] ど (樽) 漕ぐのん (に) ひきまあして (引き廻して)、しゃくれまあ言うてなあ、力 入れてする シヤクリキル。

しゃくりとばす 強く引く

しゃくる (扶る) 【他ラ五】 荒々しく取る。強く急に引く。ひきたくる。サク (逆) に関係するか、サ (逆) クル (繰) の意か (志 (布施田)、松、多、尾) [会話] おこせ (寄せ) 言うてなあ (言って)、そや (それ) 言うて やっても (与えても)、じんじょおん (尋常、おとなしくに) 取らんと (取らずに) シヤクル。シヤクリトバシテ来た シヤクッテオコシタ言うて。うた (ああ) あれん (彼に) やったら シヤクッテタンヨオ (て行った) 言うて、きゅつと とんのを (取るのを) シヤクル 言うわい (言います)。力入れて とんのを、シヤクル言うて。ひったくる (引きたくる) 言うのを、ひったくる 持っとなのおを (持って居るのを) すうと ひったくつてとか シヤクツとか ひったくる言うのを シヤクル言うの (言うのです)。魚釣とる (て居る) 時にでも、魚な (が) シヤクッテ おこしたけど (が) 離れてた (て行った) 言うて。こつきに来る時 (餌をつつきに来る時) こついて (つついて) ちよいと (少し) 餌 引っ張るのを シヤクツタけど (けれど) 離れてたれ (て行った) 言うて。

しゃくれる 【自ラ下一】 中央がへこみ、両端が高くなって居る

しゃけ 【名詞】 鮭 さけの訛 (志 (畔名)、鳥、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、松、多、上、阿、度、伊、北、尾、南) [会話] 鮭の事かい (ですか)。鮭の事を シヤケ言うなあ。シオジャケ (塩鮭) とか、シヤケな (が) うもおてなあ (旨くて) 言うて 鮭の事 シヤケ。

しゃけ 【名詞】 酒 [会話] 酒 シヤケ あぜる (なまると) 人なあ (がです)。

しゃげ 仕上げ 仕上り [会話] シヤゲ なんもかも (すべて) はんぶ (半分) して はんぶせんと (半分しないで) おったり (居たり)、えごつとじっばん (完全に立派に) しがらんうちんのおをなあ (間のを) シヤゲを ごろおじやれ (見なさいだ) 言うて。なんやら (何か) おかしげなよおなあ (変なようだ) 言うやんない (言うでしょう) そすと (すると) しとる (している) 人な (が) そんでも (それでも) シヤゲを ごろおじやれ 言うて まあ 仕上げると 立派なる言う事をな なんやかや じっばん (いろいろ立派に) 後で なおす事 シヤゲや (だ) 言うてな。

しゃげかん 【名詞】 しあげかん

しゃけど 【接続助詞】 しかし、しかしながら。(志、北) [会話] もじらん (クラゲの一種に) あたったと (当ってやると) 他の もんみたいん (物のように) あ

んまり やめやせん (あまり痛みません)、シヤケド いらいらすんのなあ (するのです)。

しゃける 裂ける (志 (立神、安乗)、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、飯、多、上、阿) [会話] 裂けてた言うけどなあ (言います)。股さいたんど、たら (てやるぞとか) 言うてなあ。竹を 二つん (に) 割って 裂いた たてやらなあ (てしまったとか)、なんやかや (いろいろ) きさいたててやら (裂いてしまったとか) 言うて。二つん (に) わからかすのをなあ (割るのを) シヤケル言うて。

しやげる 仕上げる 完了する

じゃけん (邪見) 【名詞】 意地悪。しによく参照 [会話] 死んでく前ん (に) どいらい (大変) ジャケンな人な (が)、人に親切すると 死んでくんかして (行くのか) 佛心な (が) 出来たれ (た) 言うて。

じゃこ 【名詞】 1) 小さなえび。じゃっこ参照。ザコ (雑俣) の訛 (大言海) 雑魚がザッコ、ザコ、ジャコと変った (方言俗語語源辞典) 2) 小さな種々の魚もじゃこ参照 (志、鳥、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、上、阿、張、名、尾、南) [会話] 1) ジャコ 掬りん (に) 行く言うて もお (藻) のもとや (根元とか) 浮いとるとこん (ている所に) ちっちゃあい (小さい) ばちばちすんのな (するのが) それ 餌んすんのん (にするのに)。

しゃごどる かがんで居る 身を低くしている (志 (布施田))

しゃごどれ かがんで居れ

しゃごま 【名詞】 しゃぐまに同じ (志 (布施田)、尾、南)

しゃごむ 【自マ五】 かがむ、しゃがむ、かくれる。(志、上、阿) [会話] きい (木) の下や 物の隅へ シャゴム、雨な (が) 降って来ると 早よ (早く) シャゴメ 言うて (言って)。シャゴメ 早よ (早く) 雨やまそや (やましましょう、止むのを待ちましょう) 言うて。ちっそお (小さく) なって こげんして (こんなにして、腰をかがめ、両手を胸の前に持って来る) しとんのおを (して居るのを) シャゴム。濡れると はざんもんで (駄目なので、ちよいと、ちっそお なって (少し小さくなって) シャゴンドレ (て居なさい) やんでく (で行く) 迄 シャゴマシトケ (ておけ) 言うて。腰を落して ちっそおなつとる (小さくなって居る) ちぢこまった (縮まった) よおにしとるの (して居るのを)。

しやさけ。しやさけん。しやさけんだ だから

しやざった しなかつた (志 (浜島)、鳥 (加茂)) [会話] シヤザツタ。あや (あれは) なんもせらつた (少しもしなかつた)。なんも (全く) しなかつた言う事。なんも (少しも) シヤザツタのん (のに)、せだつた (しなかつた) 言うて、シヤザツタ 言うて。

しやさって 【名詞】 しあさって、四日後。今日、明日、あさって、しあさって。(鳥 (長岡)、上、阿、張、名) [会話] あした、あさって、ささって、しさって、四日目の事を シヤサツテ しあさって (四明後日) しさって言うて 四日目を。

しやされた さされた。させられた。[会話] ほつといてたもん (ほおっていた物) を、後のもんな (者が) 始末すんのを (するのを) しりのごい (後始末) シヤサレタ。

しやされる さされる。させられる。(尾、南) [会話] 仕事さされる言う事を シヤサレル。そいな (そんな) 事を おらは したねえけど (俺はしたくない) が シヤサレテ、これ せえ (しなさい) 言うて したらなはざん (しなければいけない) 言うて シヤサレル言うてなあ。

しやじ (匙) 【名詞】 匙、さじ。(三重県全域) [会話] シヤジ投げた言うて。おめこ (女性器) 蜂な (が) さいて (刺して) 桃のよおにはれた 医者に見せたら あらまあ 大きな おそそだえ言うて シヤジ投げた。スプーンの事 シヤジ言うて (言います)。医者な (が) シヤジ投げたんでわい (たそうです) 言うて。医者な (が) まあこや (此れは) この病気や (は) はざん (駄目) 言うて 医者な (が) シヤジ投げた言うて。

しやじき 【名詞】 棧敷、さじき。(志、三、鈴郡、鈴市、松、上、阿、張、名、伊、尾) [会話] シヤジキ言うな (のは)、あげやにして有とこ (所) を、シヤジキや (だ)。二階に してあるとこな (所です) 舞台の上へ 二階になつとる (なつて居る) のを シヤジキ。あげや言うて (言つて) 一段上つて、二階に段して芝居見るよおになつとると (なつて居ると) シヤジキや (だ) 言うて。舞台小屋言うて シヤジキ組んで上へも ちよいと (少し) 段上げてしとんの (して居るのを) シヤジキ組んで言うて、シヤジキで見とた (見て居た) 言うて。

じやしき 【名詞】 1) 座敷、古く室内が板敷の頃しとね、畳、円座などを置いて座つた所から言う。2) 畳を敷きつめた部屋、特に客間。3) 宴席

しやじけ 【名詞】 大雨 曝風雨 (志 (鶴方、甲賀、国府、

安乗)、鳥 (鳥羽)、度、北) [会話] 雨な (が) シヤジケ出して言うて、土砂降りの事をなあ、シヤジケタ言うてなあ。雨な 時化込んでくんのを (来るのを) 雨な シヤジケて来て まあ言うてな。暴風雨みたよん (のように) そいな (そんな) 時ん (に) のおな雨も風も えらい (大変だ) 言う時ん (に)。どじけて来た 言う人も有るしなあ、雨な (が) どじけて来たてやら シヤジケて来たてやら (とか) 言うてな。

しやじける (車軸) 雨風が吹きすさぶさま。大雨。(志 (鶴方、志島、国府)、鳥) [会話] 雨な (が) よけ (多く) 降る事を シヤジケル。どしや降りすんのを (するのを)、雨な (が) シヤジケテ来たれ (来ました)。急に あけ出して来るのなあ (を)、あや (あれ) 雨な (が) シヤジケル言うて (言つて)。あけ出して来る言うのは ざあざあと 大降りする事を あけ出して来る。雨な (が) あけ出して来て言うて。曇り空で 今にも 降りそおになつて来ると ぶらさがつとる。くらがあり (暗い) 雲な (が) 出て来ると、ぶらさがつてきたれ (来ました) はよ (早く) 逃げな (なければ) 言うて、そおすると 大降りで ざあざあ降りになつて来たのを どしや降りとか あけ出して来た言うて (言つて) シヤジケテキタ。風な (が) なしん (無くて) 降るだけでも シヤジケル シヤジケテキタ言うて。ちぶいて来た言う時も有るしなあ (有ります)。風な (が) よけ (多く) 吹いて来ると 風な (が) ちぶいて来た言うし、雨な (が) よけ (沢山) 降ると どじけて来た言うて。

しやしとけ させておけ

しやじなげとる 見捨てている 見切つて居る しやじ 参照 (志 (布施田))

しやじなげる 見限る

しやじまのおこ 【名詞】 老人 卑語 見にくい馬鹿の意か おこは鳥藩か、鳥藩国の人のはわが子の肉を解きて人に食らわし、己が妻の美しからんには譲りて人を嬉ろこばしめる如き愚劣の風習あり。しやじまは、じゃんか (じゃんか) あばた痘痕と関係有るか。じゃんば じゃんばのおこ。姑。[会話] シヤジマノオコ言うて、爺やん (さま) の事、シヤジマ言うて、あや (あれ) シヤジマノオコな (が) 言うて、昔の人ら言いおつたの (言つて居たのです)。爺やんの事 シヤジマノオコや (だ) 言うて。シヤジマ言うのは あんまり (あまり) ええ (よい) 言葉やないの (のです) ちよいと (少し) あのお爺さんすかんなあ (好ましくない) 思た (思った) 時ん (に) そお言う事が 出て来るの

(のです)。気に入らん(ない)とか すかんおもた時 (嫌だ思った時) シャジマな (が) 言う言葉使うんてや (使うのです)。爺さんは シャジマ言うけど (が) 婆さんは シャンバ言うの (のです) あの シャンバノオコな (が) 言うの (言います)。此れも あんまりええ 言葉や無いの。シャジマや (とか) シャンバや (だ) 言うな (のは) わり (悪い) 言葉やわな (です)。とと (夫) の事を キンヤノオコ言うたね (言ったのです)。かかさん (主婦、妻) は シャンカ わいげ の シャンカ 言うて。

しゃしみ【名詞】 刺身 さしみの訛 切るを忌みて刺すと言うか、作ると言うも同じ さは肉 (大言海) [会話] 刺身言うけどなあ。べろなまあらん (舌が廻らない) 人な (が) 有るとなあ、シャジミ 言う人もあんね やろなあ (有るのでしょう)。

じゃじゃ【名詞】 わがまま勝手、駄々。(志 (鶴方、甲賀、安乗)、鳥) [会話] ジャジャ馬の事言うんやわな (言うのです)、気儘言うな (言うのは)。ジャジャ 言うのは あやまあ (彼は) ジャジャやよってん (だから)、我儘言うて なんでも すばすば 言うのを あや (彼は) ジャジャやよってん 言うて。

じゃじゃいう。じゃじゃこねる 気儘を言う。(志 (布施田)、鳥) [会話] 駄々こねる 言うけど、ジャジャコネル も言うかい。駄々こねて まあ言うてな 子ららな (子達が) こねると 駄々こねる 言うし。

しゃしゃげる 差し上げる。上にあげる。[会話] 男の人らん (に) シャシャゲテ もおて (もらって)、わがた (自分は) 二階におて (居て) 引きず って。

じゃじゃぶり【名詞】 どしゃぶり、大雨。(上、阿) [会話] 雨な (が) ざざ降り とか ジャジャブリ とか。だだ降り言うたり (言ったり)、うなし (同じ) 意味やけど (だが) 言いよおな (言い方が) 違うだけ、じゃあじゃあなあ (です)。盆の前の ざあざあ 降り。ざあざあ降りや (だ) とか ジャジャブリや (です) じゃあじゃあとか言うけどなあ (言いますが)。盆の時は 盆のざんざ、盆の前のざあざあ 降り言うて 盆の前のざあざあ 降りで 曇って 来たら ざあ と 降って 来て な (来ては) 止んでき (で行き) 夏の雨やよってんなあ (だから)。盆の前のざざ降りやなあ (だ) 言うて いったんぶり して来ると。いったんぶり言うのは ひとくら (一度) 曇ったおもと と 思 っ っ 居ると) ざあ と 降 っ っ 来て ばたん と 止ん っ っ くのなあ (で行くのです)。

しゃしゃなみ【名詞】 さざなみ 細波 小波 風が吹い

て立つ、細かく小さな波 [会話] 風な (が) よおて (よくて) 今日 は すべつ と られ (すべっている) 言うて。風も なんものおて (少しも無くて) シャシャナミ も なんものおて しとる (している) 時な (が) 有ると、今日は 風な (が) よおて (よくて) すべつ と んねよお (すべっているのだ) 言うて。波な (が) シャシャナミ で 大波な (が) たたんと (立たずに) かざ なく れだけやれ (だ) 言うて、シャシャナミ のことを かざ なく れ。風な (が) よつけ (沢山) 吹いて来る時 うねりな (が) して来るやんない (でしよう)。今日は 西の風やよ っ っ っ (だから) かざ なく れだけやれ (だ) 言うて。ちよいと (少し) しぶ いて しいろお (白く) なる 波な (が) しゃしゃ しゃし とると (していると) かざ なく れだけや 言うて。

しゃしゃら【名詞】 細い針金や竹を丸く束ねたもの 掃除をしたり海苔を採集したりするのに用いる。ささら(上) [会話] 針金を よつけ、ほっそい の (沢山細いのを) 縛 っ っ っ てなあ (ておいて)、かなみ (金網) 掃除す の なあ (するのです)。シャシャラ で こそげ たり あま の りか いたり す の なあ (掻き集めたりするのです)。針金 の シャシャラ で あま の りか く と なあ、よお (よく) かけ んね (採れます)。島ん (に) ひつ っ っ いとん の (ているのを) しゃ しゃ しゃ っ と す と す と。針金 な なあ (が) ほ っ っ そ お い の お を (細いのを) よ っ っ け ま る け て (沢山東ねて) 縛 っ っ っ て (ておいて) 先 広 げ と い っ っ て しゃ しゃ っ と す ん の (するのです)。

しゃしゃらぎ ささら 細い竹 針金を束ねたもの [会話] 杓 縦 ん し と い っ っ っ (にしておいて) シャシャラ ギ で 飯 ば ら い っ っ (ばらばらに) す る。

しゃしゃらごえ【名詞】 かすれた声。しおからごえ参照 [会話] 噎 れた よ お な シャシャラ ゴ エ ほ っ っ そ お な し (細くです)。

しゃしゃらもない 味もシャシャラモナイ つまらない 少しも無い (北)

しゃしゃり 出る【自ダ下】 出しゃばり出る 偉ぶって 前に出る 他を押し除けて前に出る

しゃしよ させよう [会話] なん やら シャシヨ おも とん の ん ひ ま の か あ や れ。

しゃしよか 1) させよう 2) させないであろう

しゃしよかい。しゃしよかな (女性語) 1) させましようか 2) させないでしょう

しゃしよかれ させないでしょう

しゃしんや (写真屋)【名詞】 写真店 写真撮影を業とする家。写真材料を売ったり、現像、焼付け、引伸ばし

をする店。[会話] 写す人をなあ シャシンヤ。
しやす させる 性交させる (志 (布施田)、南)
しやす 容易である [会話] 仕事な (が) 出来やすい言う事を シャスイなあ言うて。こいななあ (こんなのは) シャスウテ (くて) ええけど (よいが)、こやむつかしてなあ (これは難かしくて) 言うて。しいよいのおを (のを) こいなのおやったら (こんなのだったら) シャスウテ (くて) よお (よく) するけど (が) 言うてな。出来やすいのを シャスイ言うて出来にくいのを しにくい (しぬくい)。
しやす させる [会話] 無理な事を あれせえ (しなさい) これしえ (しなさい) 言うて シャスル。
しやせ [名詞] しあわせ、幸せ、幸福、めぐり合せがよい事又そのさま。めぐりあわせ、運命 事の次第、始末 (志 (布施田)) [会話] 幸せがええ (よい) 言うの (のを)、しやせがええ言うの (言うのです)。しやアセ言うの。今日は しやせなよおて (がよくて) 大漁やった (だった)。なんか (なにか) ええ (よい) 事な (が) 有ると しやせな (が) よかったなあ言うて、幸せがよかった言うの (のを) しやせ言うの (言います)。
しやせがええ。しやせなええ 運がよい 幸運である [会話] 運な (が) ええ (よい) 言う事をなあ。おおた (ああ) どいらい (大変) しやせなエエナア、今日はまあ しやせなヨカッテ 大漁やったよお (でした) 言うてな。運な ええ となあ 調子よお (よく) 行くとなあ、しやせなヨカッタよお 言うて。今日はまあ しやせなワリイテ (悪くて) なんもはざあらったよお (全く駄目でした) 言うて。運な ええ とか めぐりあわせな ええ とか言う事。今日はしやせなヨオテ、よかったよお 言うて、なんでも (なにでも) ええ 事な (が) 有ると しやせなエエ 幸せ言うのをしやせ言う。
しやせなわり 不幸だ 不運だ しやせがええ参照
しやせん しない、しません、しはしません、せん、否定 行かせん、買わせん、泣かせん。(桑郡、員、三、四、鈴郡、松、多、尾、南、熊) [会話] 仕事すんのんなあ (するのに)、なんも (なんにも) しやせんやんか (でないか)、したやんか言うの (言うのです)。したると (してやると) したやんか、せんと (せずに) おるのお (のを) しやせんやんかあ しやせん。しやせん、しややったやんか (しなかったではないか) とか、せだった (しなかった) とか しやへんやんか (しないではないか) とか うなし (同じ) 意味やけ

ど (だが)。せだった しなかった言うのを せだった。
しやせんかい。しやせんかな (女性語) しませんか [会話] お前もしやせんカイ言うて、すんねやんない (するのでしょうか) 言うて。
しやせんない しない
しやせんね しない [用例] おらしやせんネ (私はしません)。あんな (彼が) しやせんネ。
しやせんねない しないのだ
しやだん (社壇) [名詞] 神をまつる所 [会話] あんな (彼が) ごおなわいて (腹立てて) 来たら、宮も しやだんもあるかれ (有りません) ちゃちゃもちゃやれ (茶々無茶苦茶だ)。
しやちこぼる。しやちこぼる【自ラ五】緊張する 正座する 緊張して堅くなっている。怒って居る (志 (甲賀)、鳥 (鳥羽)、多、北) [会話] シャチコバル 言うな (のは) べつん (特に) こわばって こわごわ (恐る恐る) しとんの (して居るのを)、かつたい (緊張する) よおん (ように) なってく (て行くのを) シャチコバツテ こやあれ (これ) 言うてなあ。あや (彼) 怒って シャチコバツトラレ (て居る) 言う時も 有るし、あんまり (余り) 怒って、ちゃんになって 人の言う事 聞かんと (聞かずに) しとんと (して居ると)、あや (あれ) 怒って こわばつとられ シャチコバツトラレ 言うて。ちゃんになる いごかんと (動かずに) ひつついとんの (て居るのを) 起こすと (はずすと)、こやれ (此れ) ちゃんになつとて (なつて居て) 言うやんかい (言います)。かつたい (堅い) とんの (取るのに) とりのくうて (取りにくくて) ちゃんになつとられ (なつて居る) 言うもんなあ (言います)。にげ (人間、人) も いごかしても (動かしても) いごかん (動かない) 程 怒って、かつとおなつとる (なつている) 時や (は) あや (あれ) シャチコバツテ、ちゃんやれ (だ)。シャチコバツテ ちゃんになつとんねよつて (なつて居るのだから)。あんな (彼が) 何事 言うたてて (言つても言つた所で) ちゃんになつとるもん (なつて居るから) 聞こかれ (聞かない)。
しやつかける 引つ掛ける
しやつきり [副詞] 1) 気持ちがびんと張り切っているさま 2) 気持ち態度がしっかりしているさま [会話] 1) シャツキリしとんなあ (している) 言うななあ (のは) はつきりしとる (している) 言う事をなあ。あや (彼は) ちゃつきりと まあ がいい (大変) はつきりとええなあ (よい) 言うて、はきはきしとる

事をなあ、シャッキリしとる 言うてな。

しゃっきりもん【名詞】気を利かせて立ち廻る者。しつかり者。はっきりとして居る人。(上、阿) [会話] シャッキリモン(者) 言うのは、しゃきしゃきと 今日はどおたらで(どうで) しゃっきりと 重々し 丁寧に言うたらんと(言うて居なくて)、ちゃっかりと 言いのくい(言い憎い) 事も パッパツと言う人を シャッキリモンや(者だ) 言うの(のです)。

しゃっくり (吃逆)【名詞】しゃくりの急呼 さくりの変化した語。サクリ、サクル(吃逆)の名詞形、サクル(決)である(大言海) 横隔膜がけいれん性の収縮をおこし、声門が突然開いて音を出す現象(志)

じゃっこ【名詞】1) 小さなえび 2) 雑魚 [会話] 2) ジャッコモ とと(魚) なみ言うて、ジャッコでも魚なみになるんやろなあ(なるのでしょうか)。わしら(私)でも人間 あんたでも人間 そいなのおを言うんやろなあ。ジャッコ言うのは 小っさい魚や 雑魚を言う。1) 餌にするえび あれも ジャッコやなあ(です)。ジャッコエビ言うの 餌にするのなあ(のは)。よお(よく) たんぼ(真珠筏) のとこ(所)に。ジャッコエビや(と)言うよってん(から) あれも一緒のジャッコやわいなあ(です)。

しゃつら【名詞】顔をののしって言う語

しゃつぶ つんと怒る事。立腹。しや：接頭、動詞、形容詞、副詞について語勢を強めるのに用いる。ぷり：振り、状態、動作のあり方、仕方を表す。ぷりぷり：怒って機嫌の悪いさま [会話] シャツした。怒る事を シャツした言うて。あやまあ(彼は) 怒っていた(行った) 言うのなあ(のを) シャツして いたたない(行ってしまった) 言うのなあ(言うのです)。こららでも(子供でも) 怒つとるとなあ わるわれて(叱られて) シャツして こやあれ(これは) 言うて。シャツして あやあれ(あれ) 怒って ふぐの腹みたいん(のように) シャツして言うて。

しゃつぶし【名詞】少しの事でも腹を立てる人 [会話] ちよいとした(少しの) 事でも 怒って来るやんない(でしょう)。そいな(そんな) 人を シャツシ。

しゃつぶする 怒る ふくれる [会話] シャツスル 言うな(のは) 怒る。ごおわかして(腹立てて) ぶうんとしてくと(して行くと) 言うた事な(が) 気に入らんでなあ(なくて) あや(彼は) ま シャツシテ、ま あんな(彼が) あげん言うたや(あんなに言ったら) がいな(大変) 気に障ったんな(のだ)、シャツシテ行たどよ(行ってしまった) 言うてな。気に障る

事 シャツスル言うの(のです)。

しゃつぽ。**しゃつぽん**【名詞】1) chapeau(佛) 帽子 しゃつぽ(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(浦村)、一、多、上、阿、張、名、度、伊、尾) 2) 不漁 失敗[会話] 1) 帽子の事なあ(です)。2) じよおな(漁が) なんもなあ(なんにも) 大漁よおせんと(出来ない)と、あの金(配当金) 当らん時(受取れない時)も、シャツポン かぶつた。シャツポンやつたよお(でした) 今年は言うて。漁な(が) 無いと シャツポンやつて(だったので、今年はなんもはざんだつたね(全然駄目だった) 言うて、なんも 金 当らん(貰わない) 年を シャツポンかぶつた言うね。

しゃつぽぬぐ 降参する 負けました 頭があがらない

しゃて (舎弟)【名詞】弟 しゃていの末尾母音の省略(志(浜島、鶴方、神明、立神、志島、国府)、松) [会話] 弟の事を シャテ言うなあ(言います)。

しやな しなければ(桑部、桑市)

しやなぐつてた 1) 全部食べていった しやなぐる参照 2) 全部持って行った

しやなぐる【他ラ五】1) 全部食べる 2) 全部持て行く(志(鶴方、神明、立神、甲賀、国府)) [会話] 1) シヤナグル よけ(沢山) 食べる事をなあ。シヤナグツテタ(て行った)、なんもかも(すべて) シヤナグツテタない(ていった) 言うの(のです)。よけ 食べてた(て行った) 言う事なあ(です) 全部食べたた(てしまった) 言う事をなあ。あんのを(有るのを) 大体あらしたよんしてくと(荒したようにして行くと) なんもかも(全部) シヤグツテタない言うね(言います)。2) 全部 なんでも しなもん(品物)でも、なんもかも(すべて) ごつそりもてくと(持て行くと) なんもかも(すべて) シヤナグツテタないやらなあ(ていったとか)。

しやなげてた 全部なしにした しなぐる参照

しやなげる 残りなく掬いあげる。さらえる。(志(甲賀)) [会話] シヤナグツテタ(て行った)、シヤナゲル言うな(言います)。おつけ(味噌汁) のみい(味噌汁の中に入れる野菜等) の とごつとるのおを(沈んで居るのを) シヤナグツテ喰うとか、なんでも よけ(沢山) 喰うと あやまあ(彼は) シヤナグツテタナイ(行った) 言うて。全部 引き上げて 喰うた言う事やなあ(です)。シヤナグツテタ 言うんやよつて(言うのだから)、底から シヤナゲテキタ。シヤナゲ

テもって(盛った、よそった) シャナグツテ喰うたとか よお言うわい (よく言います)。

しゃにむに (嘘二無二) 【副詞】 無理やり

しゃね 【名詞】 さね。陰核。突起物(板、戸等を密着させる為に、片方につけた細長い突起。一方にはそれに合せて溝を作る)。さね参照(志(布施田)、員、三、鈴郡、鈴市、津、松、多) [会話] シャネ 戸のかま ちに 出とるやんない (出て居るでしょう)、あれ シャネイリ言うやんかい (言います)。戸な (が) ぴちつと合うよおん (ように) 戸い (に) よお (よく) こん だけばかの (此の位の) そして、こつちや (そうしてこちら) の かまちにや (には) 溝ん (に) なって こつちやにや シャネな (が) 出とて (出て居て) それやよってん (それだから) シャネイリン (に) すると 風な (が) 通させんし (通らないし) 雨もしみや せんので (漏らないので、雨戸 シャネイリンすんの (にするのです)。シャネ言うと 真ん中い (に) 出と んのを (出て居るのを) 言うねやるなあ (言うのでしよう)。おなごの人の あれも シャネや (だ) 言うて (言って)、さあ言うて 無いよん (ように) なって くもんで (ので) シャネ言うてわい (言うそうです)。“長の つゆりん (梅雨に) 腐らん (ぬ) もん (物) は 川の飛び石と ぼぼのシャネ” 言うて つゆり で 腐らせん (腐らない)。つゆりな (が) しても めったん (絶対に) 腐らんもん (物) は 川の飛び石と ぼぼのシャネ 言う事やなあ (です)。ほかのもんやったら (物だったら) 腐るけど (けれど) 石は めったん 腐らへん (腐らない)。

しゃねいり 材木同志を継ぐ時の穴

しゃねこんく いやしい人

しゃねこんくなにがらいついた うずくまっている状態 [会話] 鯉を鯉節ん (に) 取った後、骨を炊いといて (ておいて) 脂とんの (取ります)。締め粕して粕はびしゃいてやんのなし (つぶしてやるのです) 脂取った後を 干しおって (干して居て) そと (すると) しゃねこんく 言うのな (が) 来て、煮がらのみ (身) 喰いおったんやるなあ (食べて居たのでしよう)。シャネコンクナ ニガラヘツイタよおな 言うて しよずくなつとると (うずくまっていると)。

じゃばら。じゃばら 【名詞】 大きな腹 [会話] 腹な (が) おつきいの (大きいのを)、どいらいの (大きいのを) ジャバラ。ジャボバラとも言うしな ジャバラとも言うしな。腹はジャボバラ ロヤたるみ言うやん かい。たるみ言うて たるみ言うみいな (箕が) ある

わい (あります) めえな (目が) あらくたいのおな (粗いのが) あって かつこ (格好) の 悪い人 ら見ると あやれまあ (あれ) 腹はジャボバラ ロヤ (は) たるみ言うて かつこおわりなあ (悪るい) 言うて 言よおった (言って居ました)。

しゃび (錆) 【名詞】 さび：錆、一般に金属は空気中の水分、酸素、二酸化炭素などの作用に依ってその表面に酸化物、水酸化物、炭素塩などを生じ、光沢を失う。金属面のこのような生成物をさびと言う。(志(鶴方、神明、立神、安乗)、鳥、四、鈴市、安、津、一、多、上、張、名、度、伊、北、南) [会話] 錆の事。カナ シャビかい (金錆ですか)。シャビ、地金 (じがね) が 出て来る。もと (始) の 地金にや (には) シャビが 浮く言うて。鉄やよって (だから) シャビ 浮いて (生じて) 錆の事 シャビや (だ)。

しゃびおとし 【名詞】 錆をこすり落すための物、軽石など 又それで磨くこと [会話] シャビオトシ 言うな (のは) 軽石やなしん (でなくて) さんごじみたいん (珊瑚のように) しとるのな (しているのが) 有るや んない (でしよう)。あんで (あれで) シャビオトシ すると 素敵ん (に) なんの (なるのです) なべすりや (だ) 言うて。

しゃびき 【動詞】 釣りの方法。魚が掛る様に釣り糸を引いて見る。さ(少し) 引くの転か [会話] 魚を シャビク のなあ (のです)。なんでもだ (何でも) 引つ張 んの (引つ張るのを) シャビイテ見よまあ (見なさい) 言うけど (言います)。引つ張る事 をシャビク言うて。

しゃびく 少し引く さ(小) 引くの意か しゃびき 参照(志(布施田))

しゃびくい 錆びている物(志(布施田))

しゃびる 【自バ上】 金属の表面に錆を生じる 錆がつく。(張、尾) [会話] 錆かく 言うの (のを) シャビル 言うねんな (言うのです)、シャビトル (ている) 言うのも有るしなあ。

しゃびれてきた 貧乏になる。落ちぶれる。さびれる。 [会話] ちよいと (少し) ふってん (貧乏に) なって来た家もなあ。まあ シャビレテキタ なあ あの家や (は) 言うてなあ。

しゃぶがら 【名詞】 元気がない者。勢いのない者。しおれている者。 [会話] シャブガラ 勢いの無いよおな のおを (のを) 元気な (が) 無いの (のを) しなほれ たよおん (しおれたよおに) しとんの (しているのを)。

しゃぶからせん 【名詞】 錆の出で居る様な使用に耐えな

い銭 びたせん [会話] シャブカラセンも無い言う
な (のは、穴な (が) あいとんのおえ (ているのえ)
しゃびな (錆が) ふいとる (出ている) よおな 一厘
銭や (とか) 二厘銭やんかい (です)。穴な (が) あい
たのおえ (のに) 腐って しゃびな浮いて (錆が出
て) しとんのな (しているの) 有るやんない (でし
ょう) そげなのおを (そんなのを) シャブカラセン言
うて びたせん言うたりなあ。

じゃぶじゃぶ 【名詞】 入浴 洗濯

じゃぶじゃぶ 【副詞】 大量に消費する時 ざぶざぶ

しゃぶり 【名詞】 疑似餌

しゃぶる 【他ラ五】 口のの内に入れて、なめたり吸ったり
する、なめる。ねぶる。しはぶるの訛 (大言海)
(志 (布施田)、津) [会話] シャブル言うななあ (の
は) 魚をシャブル。人間でも シャブル。骨シャブル
言うのを シャブル言うの (のです)。シャブル、人間
でも よけ (多く) シャブラレテ あやあれまあ (あ
れ) 瘦せて言うて。ととん (夫に) シャブラレカし
て (と見えて) 瘦せて あやあれ言うて。シャブル
赤ちゃんが ねぶりこ あれも シャブラシトケ (せ
ておけ) 言うね (言うのです)。ねぶるのおを (のを)
シャブル言うねなあ (のです)。こや (これ) いび
(指) シャブットラレ (て居る) 言うて いび なめ
とると (ていると)。

しゃべ 【名詞】 お喋りな人。多弁な人。(志 (片田、布施
田)、鳥 (答志)、桑郡、員、北、尾、南) [会話] あ
や (彼は) シャベやよってん (だから) 喋べとんな
あ (ている)。

しゃべくた 【名詞】 よく喋る人 お喋べ (志、鳥 (国
崎))

しゃべくる (喋) 【他ラ五】 さかんにしゃべる。口数多く
言う。サヘグ (喧話) サヤグ (喧擾) の訛り (大言海)
(志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島)、南、熊) [会
話] シャベクッテ言うて、しゃべん (る) のをなあ
シャベクル、よお (よく) 喋べん のをなあ、シャベ
クル。あやまあ (彼は) おしゃべやもんで (なので)
よお (よく) シャベクル言うてな。

しゃべり (喋) 【名詞】 多弁な人 よく喋る人 (上、阿、
張、南) [会話] よお (よく) しゃべん (る) のなあ
(です) シャベリやどお (だぞ)。言うてな。

しゃべりあるく 話す。喋る。

しゃべりまある (しゃべりまわる、しゃべりまはる) (喋
回) 【自ラ五】 あちこち喋って歩く。

しゃべりまくる 休みなく喋る

しゃべる (喋) 【他ラ五】 話す (桑郡、三、四、北、南)
[会話] 話すんのを (するのを) シャベル言うの (の
です)、話な (が) 上手な人なあ (です) あひた (人
は) シャベんのん (るのに) 上手で たんのしゃせん
なあ (あきない) あの人な (が) シャベんの (るの
を) 聞いとると (ていると) 言うてな。

しゃべろく (喋六) 【名詞】 お喋りの人。口数の多い人。
ろくをつけて擬人化した語 [会話] お喋で 口な
(が) えろおて (達者で) シャベロクで、口からい
(へ) 生れて来たよおな にげやなあ (人間だ)。

しゃへん しない。(志、鳥、安、松、阿、張、伊、尾)
[会話] しゃせん。しゃやったとか、せだったとか、
シャヘンやんか (ではないか) とか うなし (同じ)
意味や (です)。

しゃへんやんか。しゃへんやんかい。しゃへんやんかな
(女性語)。しゃへんやんかれ 1) しないでないか。
して居ないでないか 2) しません していません
[会話] 1) 仕事すんのん (するの) なんも (少し
も) シャヘンヤンカ言うの。

しゃべんな 喋るな 黙まれ (志 (布施田))

シャボテン 【名詞】 1) サボテン サボテンの訛
(志、鳥、三、鈴市、鈴郡、伊) 2) 大きな腹の人
[会話] 1) 針な (が) たつとんのも (立っているの
も) サボテン言うんかい。サボテン言うのを シャボ
テン言うのな (です)、シャボテンの一夜咲き言うて
ひとよさだけや (一晩だけです)。2) 腹な (が) おつ
きいと (大きいと) あや (彼は) シャボテンやなあ
(だ) 言うて 腹な (が) おつきいにげ (大きい人
間) 見るとなあ。

じゃぼばら 【名詞】 大きな腹 [会話] ジャボバラ言う
の (のは) 腹な (が) おつき (大きく) なってくると。
おらげ (俺の家) のかか (妻) は 尻は出尻で、胸は
鳩胸 腹はジャボバラ 口はたるみで言うて よお言
うてくるやんかい (よく言って来ます)。

シャボン 【名詞】 石鹸 スペイン語 Jabon、ポルト
ガル語 sabao、フランス語 savon (志 (布施
田、甲賀)、上、阿、張、南)

じゃぼん 【名詞】 果物 ざぼんの訛

しゃぼんよみ 【名詞】 盆の大念仏の時、死者の戒名を読
み上げる人。[会話] 写本よおで (読んで) そいで
(それで) 死んだ人の戒名言うといて (ておいて) 鐘
を かんかん叩く その読む人を シャボンヨミ。

じやま (ぢやま) (地山) 【名詞】 1) その土地にある山。
小高い所。(志) 2) 岩盤 ぢどこ [会話] 1) ジャ

マ一杯言うてなあ この山な (が) 見えんよん (ように) なってくねてわい (なって行くのだそうです)。沖い (へ) 漕んでくと (漕いで行くと) じいの山ななあ (が) おつきいうちや (大きい間は) ええねけど (よいのだが) 沖い (へ) 行くと じいな (地が) ひつくう (低く) なって 水と山な (が) たいたいん (同じ高さ) なってくね (なって行くのです)、それを ジャマ一杯言うてなあ。初めのうちや (間は) たっこお (高く) みえとんねけど (ているのだが) 沖い (へ) 沖い 漕ぎ出すと、ジャマな (が) おみ (海) とたいたいん なってくのなあ (行くのです) そすと ジャマ一杯なあ。

ジャマ (邪魔) 【名詞】 1) 干渉。妨害。2) 訪問。[会話] ジャマ 邪魔くさい言うて なんかも有っても 邪魔くさい言うて。① よっこらしよ わしも (私も) ジャマしよおに (しましよ)。わしらも 此処い (へ) ジャマしん (しに) 来とんね (来て居るのです)。こいら (此の人達) の より (集合して居るのを) ジャマして。わしらのよりや (私達の集りは) こんでええの (これでよいのです) なんも言わん (なんにも言わない) よりやよって (だから)。① そんでも (それでも) わがとらばか (自分達だけ) 楽しいん (のに) わしらな ジャマして。

ジャまくさい (邪魔臭い) 【形容詞】 煩わしい。面倒くさい。うるさい。(阿、名、員、上、張、南) [会話] めんど臭い、ジャクサイ、何んでも そこらい (そのあたりに) 有ると、ジャクサイ。此れ せえ言うても (しなさい言っても) めんどくさい (面倒臭い) 言うて。

ジャまくそ 邪魔、面倒なさま (張)

ジャマしたのお お邪魔しました。訪問した家から帰る時の挨拶 [会話] ジャマシタノオ 言うて 人の家い、いて (へ行つて) なあごお、おるとなあ (長く居ると) ジャマシタノオ 言うて、さよなら言う事やなあ (です)。まあ いつ迄 喋つてのお ジャマシタノオ 言うてな、じっきんいても (すぐに帰つても) そげん (そんなに) 言うて そんな (それが) 言葉でなあ。

ジャマしてのお お邪魔しました。訪問した家を出る時の挨拶 [会話] さよなら言う事や (です) ジャマシテノオ 言うて。

ジャマする 1) 干渉する。妨害する。2) 訪問する。(張) [会話] ② 今日 あんたげい (あなたの家へ) ジャマスルわい (です) 言うて、訪問する 言う事やなあ (です)。

ジャまたれ 【名詞】 邪魔をする者

しゃみせん (三味線) 【名詞】 1) 三味線。さみせん。

2) 四肢の運動の不自由な人 3) 誇大にものを言う。相手に調子を合わせる。4) 罰が当る 報いを受ける [会話] ④ シャミセンてや (と言へば) 猫のかあ (皮) で ばちな当るやんかい (撥が当たります)。そやよってあや (だから彼は) シャミセンやれ (だ) ばちな (罰が) 当られ (当たる) 言うて。② 楽器の シャミセンやなしん (でなくて) あや (彼は) シャミセン引いとて (引いて居て) シャミセン引いとる (て居る) 言うてなあ (言つて)。① 屁 (へえ) ひつても “屁は 鳴りもん (物) の かしら (頭) なり琴、シャミセンに 匂無し” 言うやんない (言うでしょう)。へえ (屁) も 鳴りもん (物) 言うけど (が)、琴、シャミセンには 匂 無いけど 屁にや (には) 匂な (が) 有るよって (から) 一番や (だ) 言う (言います)。② 跛 引いとるとなあ (て居ると) あや (あれ) シャミセン引いとんなあ (引いて居る) 言うけど なあ (言います)。跛 引いとると シャミセン引いとる。ひきがたりやなあ (弾き語りです) 弾き語りやつとられ (して居る) 言うてなあ。跛 引いとて (て居て) それいなあ (それへ) 歌 唄たりすると (唄ったりすると) あや (彼は) 引き語りやなあ (だ) 言うて。

しゃめる 【他マ上一】 1) 茶々入れる。人の行動をけなす。だめにする。こわす。(志 鶴方、立神、甲賀、安乗) 2) ふざける (北) [会話] ① 人な (が) しよおおもとる (思つて居る) 事を ジャメル事を ちゃちゃ 入れる。

しゃもじ (杓文字) 【名詞】 飯や汁を掬うのに用いる道具。特に飯を盛る道具。しゃく参照 (志 片田、国府、浜島、鶴方)、鳥 (相差、国崎)、桑郡、三、四上、張、名、伊) [会話] 杓子の事なあ (です)。シャモジ言うやんかい (言います)。飯よそう方が シャモジで、おつけもんな (味噌汁掬うのは) しるじゃくし。

しゃもんで それだから (志 (立神))

しゃやつた しなかつた。[会話] しなかつた、せだつた (しなかつた) とか、シャヤツタ 言うて。今日は 漁をしゃらつたなあ (しなかつた) 言うてな、せだつた言うのを しなかつたなあ 言うのを シャヤツタなあ あれ しよお おもたのん (しよう思ったのに) 言うて。

しゃやつたやんか 1) しなかつたでないか 2) しなかつた [会話] ② しゃせん (しない) シャヤツタヤンカ 一緒や (です)。

じゃらかす【他サ五】 じゃれる様にする

しゃらく【名詞】 落ちぶれる事。破産。斜：傾いて居る事。又そのさま。落：高い所から低い所へ位置が動く。以前の水準を保てなくなる。地位が下る。(志(布施田、浜島、鶴方、甲賀、国府)) [会話] あのうちや(家は) 零落して 家も売って 畑も売って しゃらくした言うて。しんしょ(身上、財産) しもた(しまった、無くした) 事を 倒産すると しゃらくして言うなあ(言います)。

しゃらくさい(洒落臭い)【形容詞】 生意気だ。(志(浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(鳥羽)) [会話] しゃらくさい事言うな 言うて 洒落た事言うと しゃらくさいなあ 生意気や(だ) 言うよおな意味やなあ(です)。

しゃらげる さらえる。全部持って行く しゃなげる参照(志(布施田)) [会話] しゃなげてた(て行った) 言うの(のです)、皆 もてた(持っていった) 言う事な(です)。飯でもなんも(少しも) 無いよん(ように) 食たるとなあ(食べてしまうと) おおた 飯も しゃなげてたない(て行った) まだ夕飯も有るおもととたや(思っていたら) しゃなげてた しゃなぐってたれ言うたりな。しゃなぐってたら(とか) しゃらゲルたら 言うて、まあ しゃなぐって からけつん(空っぽに) しといてたれ(しておいて行った) 言う時も有るなあ。

じゃらじゃら【副詞】 1) だらしなく、ふざけて、いやらしいさま。(志、鳥) 2) 表面が粗雑なさま ざらざら [会話] 1) ジャラジャラ よけ(多く、余り) すんなまあ(するな) 言うのも有るし(有ります)。2) なんやかや あらくたいのおな(荒い物が) 有ると、ジャラジャラしとる(して居る)。ざらざら 砂な(が) ざらざらしとるとか 肌もざらざらしとるとか そげなのおを(そんなのを) ざらざら言うし、鮫肌でざらざらしとられ(して居る) 言うて。じゃれんなまあ(ふざけるな) よけ(余り) 言うのと 又 ざらざらとは 違うなあ(違います)。ざらざら言うな(のは) 荒きたいのおな(のが) しとんのおを(して居るのを) ざらざら。肌な(が) わり(悪い) かつたりすると ざらざらしとる(している)とか ろざわりな(が) ざらざらしとる(とか)言うて 口い(へ) 入れても ざらざらすんのな(するの)が 有るやんかい(有ります)。そいな時ん(そんな時に) ジャラジャラ しとる言う(言います)。悪ふざけしとる時は じゃれるやんかい(です)。よけ ジャラジャラすんなまあ

言うて ちよおけると(ふざけると)。

じゃらじゃらす 1) ふざける(北) 2) ざらざらする。表面が滑らかでない。

しゃらった しなかつた [会話] シヤラッタ。なんも(なんにも) しなかつた言う事 なんもせん(なんにもしない) 事をなあ なんも シヤラッタのん(の)に 言うて。

しゃり【名詞】 舍利の転か1) 海草、貝、岩礁について居る小さな砂状のもの。貝殻、岩石の粉末。 2) ひざら貝の周囲にある小さな突起。[会話] 1) てぐさ(天草) 叩くのん(に) 来てくれ(下さい) 言うて、渡さんならんもんで(出荷しなければいけないので) 株やしゃりな(が) ついとんなあ(ついているのは) 植でつつくんてや(つつくのです)。2) 磯ばた(海岸) のすり ふち(周囲) にくるうと(くるつと) 粒々な(が) しゃりな(が) 一杯ついとて(ついで)。

じゃり(砂利)【名詞】 砂 ざり(礫)に同じ [会話] じゃり言うな(言うのは) かわながれ(川流れ、大水の出る事)で 水な(が) 流れた後で、あらくたい(粗大な) 砂だけ 残ると、ちつちやいなあ(小さいのは) 皆 流れたり とごつたり(沈んだり)して、あらくたいのな(粗いのが) 残んのおを(残るのを) じゃりな(が) 残つとる(て居る)。川のじゃりとか 浜のすその(海岸) じゃりとか言うて。ちよいと(少し) あらくたいのなあ 水な(が) 流れた跡で こまかい(小さい)のは 皆 流れて 土は そすと(そうすると) ちよいと あらくたいのおな 残るわい(残ります) それを じゃり。

じゃり【名詞】 子供を言う卑語(阿、南)

じゃりかご【名詞】 田の水の取入口に置く籠。ごみ、砂が田に入らないようにする。[会話] みなくちもとい(取水口へ) じゃりかご 受けとるけど(受けている)が ごみやどけ(などが) 掛って。

しゃりこおべ。しゃりこべ【名詞】 白骨化した頭蓋骨 されこうべの音便(大言海)(志、鳥、員) [会話] シヤレコべん(に) なった言うてな、死んで溶けて シヤリコおべんなつとるやろど(になっているだろう) 言うてな。そやけど(しかし) シヤレコべん(に) なつとてもなあ(ていても) きちつと しとるもんやなあ(しているのです)。そやけど 此の世の風見せると ばらつとしてくんけどなあ(して行くのです)。此の世の風ん(に) 当てたると じつぱんしとも(立派に) していても ばらつと ばらけてくね(壊れて行くの)

だ) 言うて、つぼ (墓) 掘る人らな (が) よお言うやんかい (よく言います)。

しゃりなこおんなつても どうしても、どうあつても、是非。[会話] どうしても言う事を シャリナ (舍利が) コオン (粉に) ナツテモ 行かな (行かなければ) 言う時な (が) 有る。

じゃりみち (砂利道) **【名詞】** 砂利のある道。小石のごろごろした道。(熊) [会話] ジャリミチ言うな (のは) 砂ななあ (が) よけ (沢山) 有る道をなあ (です)。じゃりばっかで (ばかりで) 歩かれやせんわれ (歩かれない) 足な (が) こしょおぼおて (憐れなくて) 言うてな。昔や (は) はだしか (裸足) で よお歩きよおったやんかい (よく歩るいて居ました)、して、足な (が) いとおて (痛くて) 歩かれやせんね (ません) ジャリミチや (は)。

しゃりむり (差理無理) **【副詞】** 無理に。どうあつても、否でも応でも [会話] シャリムリ 連れられてた (て行った) とか、シャリムリしやされた (さされた) とかなあ。無理んすんのを (にするのを) シャリムリ。嫌やがんのを (がるのを) まあ 無理ん 来い、来い言うて連れてくのを (て行くのを) シャリムリ言うて。

しやれ **【感動詞】** それ しやあら しやあれに同じ (志 (波切、志島)) [会話] それ言うのをなあ、シヤレ、シヤレ、此れもてけ (持って行け) シヤ (それ) 言うてなあ。此れもてきな (持って行きなさい) 言うて、シヤレ、此れもてけ 言うてな。

しやれ (洒落) **【名詞】** おしゃれ、またそのさま。立派にする事。しゃれるの名詞化 (上、阿、張、名、熊)

じゃれ **【名詞】** 砂利。田畑へおし入れた小砂。砂礫からか、砂と小石、しゃれき。(三) [会話] ジャレ言うのを じゃり言うたりするね、ねえんかい (言ったりするので無いのですか)。うなし (同じ) 言葉やねえんかい。一緒の言葉やわい (です) ジャレも じゃりも。畑でもなあ 水な (が) 押して (強く流れて) 上の土や (は) 流れて たあ (田) でも その通りやしなあ (です) みなくちもとい (水の取入れ口に) じゃり揚げに行かなはざんわれ (行かなければ駄目だ) 言うやんかな (言います)。みなくちもとい (へ) 砂利籠 受けとりおったなあ (受けて居ました)。そすと (そうすると) ごみやどけやだ (などは) それい (に) 掛る よつて (から)。川流れの 藻屑だよ き (木、気を兼ねる) に掛る言うなあ。川から 流れて来るやんない (でしょう)、藻屑な (が)、ごみくたな (が) そすと

(すると) 杭な (が) 打って有るもんで (ので) それい (に) 掛る きに掛る言うて。川流れの藻屑で きに掛る言うて なんやかや (いろいろ) きい (気) 掛けると言うわい (言います)。

しやれこき **【名詞】** おしゃれ、又そのさま。その人。(北、南) [会話] シャレコキ言うたら 伊達こきの事なあ (です) お洒落すんのを (するのを) シャレコキや (だ) 伊達こきや (です)。あや (彼は) 伊達こきで 伊達こいて あやあれ 言うて。ちよいとじっばんすると (少し立派にすると)。

しやれこべ (舍利頭) **【名詞】** されこうべ、白骨。風雨にされたれて肉が落ちた頭蓋骨。(鳥) [会話] シャレコベ言うね (言うのです)。シャレコベになつても言うて、白骨の事を言うんやる (言うのでしよう)。頭蓋骨だけ残つとんのを (て居るのを) シャレコベ言うて。しやれとる (されて居る、晒) なんも無いねよつて (なんにも無いのだから) しいろお、しやれて (白くされて) しいろおなつとるやんない (白くなつて居るでしよう)。そやよつて (だから) シャレコベ言うんやる。しやれとんねよつて (晒されて居るのだから) みい (肉) も かあ (皮) も 無しんしやれて (無しにされて) こべ (頭) だけ しいろお なつてしとんの (して居るのを) シャレコベ言うやんかい (言います)。しいろい (白い) と シャレコベみたよななあ (のようだ) 言うて。しやれとる 言うな (のは) されとる (晒している) しらけとる (白くなくて居る) 言うのなあ (のです)。

しやれこます。**しやれこむ** **【自マ五】** お洒落する。(志 (浜島、南) [会話] シャレコム言うな (のは) じっばん (立派に) して来ると、あや (あれ) シャレコマシテ来たれ言うて。こざつぱりしとる事を、シャレコンデ来たれ あのひた (人は) まあ言うてなあ。あのひた (人は) まあ、何時でも 身嗜みな よおてまあ (よくて) ほんとん (本当に) シャレコマシテナア言うて 綺麗にしとる 事をなあ。

しやれた された、やれた、やられた。[会話] 拳骨むくつておこした (で撲られた) えぐつておこした (つねられた) そげなのおを (そんなのを) シヤレタ言うのなあ (言います)。なんかシヤレテモ (されても) シヤレタ言うて。

しやれた する事が出来た

しやれたね された されたのだ しやれる参照

しやれてきた されて来た。[会話] シヤレテキタ言うて。わり (悪るい) 事をしやれて (されて) 来ると、

あの人ん (に) こいな (こんな) 事、シヤレテキタ言うてなあ。傷しやされても (さされても) 仕事さされても シヤサレテキタ言うしなあ されて来た、やられて来た、言うの (のです)。

しやれてく される

しやれとる されて居る

しやれとる 褪色している

しやれとる 洒落ている

しやれやせん。しやれやへん 出来ない (志) [会話] おおた こやまあ (これは) なんも出来やせんわれ (何も出来ません) 言うのをな、シヤレヤセン、出来やせん (出来ない) 言う事をな (です)。袋、作くろおもととも (思っている) 出来やへんと (出来ない)と まあ こいなもんなあ (こんな物) シヤレヤヘンわれ こいなもな (こんな物は) 言うて。シヤレヤセンも シヤレヤヘンも一緒や (です)。

しやれらった 出来なかった

しやれらったね 出来なかったのだ

しやれる 1) される。(志、亀、飯、多、張、名、度、北) 2) 出来る。することが出来る。[会話] 1) 親に かんど (勘当) シヤレル言うて。

しやれる (晒)【自ラ下ー】 される。曝れる。白くなる。色が失われる。サル (曝) の口語 [会話] シヤレル なんも (少しも) 無いねよって (のだから) しいうおシヤレテ (白く晒れて)、しいうおなつとるやんない (白くなっているでしょう) そやよって (だから) しやれこべ (されこうべ) 言うね (言うのです)。

じやれる (戯)【自ラ下ー】 ざれる、戯れる、ふざける。子供や犬、猫が人や物にまつわりついて遊ぶ。(志 (志島、鶴方)、鳥 (国崎)、熊) [会話] ふざけんの (ふざけるのを) 猫な (が) そばえたり、いんな (犬が) そばえたりすると よけ (多く) ジャレンナまあ (るな) 言うやんない (言うでしょう)。そばえる言うな、ジャレル事やわい (です)。猫な (が) そばえて言うて 猫を きれ (布) やって ちっちゃい時分に (小さい頃に) そげんして (そんなにして) ちよっからかすやんない (からかうでしょう) そすとさいご (その時) 猫な (が) ジャレルやんない (でしょう) そいなの (そんなのを) 猫 そばえかす言うて。

しやれん 1) 出来ない。2) してはいけない (熊) [会話] 2) 人が シヤレンよおな事しとるもんで (している)ので あの人な (が) しとる (している) 事 みずらいわ (見るのがつらいです) 言うて。

じゃろ【助動詞】 だろう (志、鳥、桑郡、員、久、飯、

松、多、阿、度、伊、北、尾、南、熊)

しやわせ【名詞】 しあわせ、幸、幸運で有ること、またそのさま、幸運に巡りあること (桑市、員、鈴市、鈴郡、松、多、度) [会話] シヤワセ。運な (が) ええ (よい) 言うの (のを) シヤワセな (が) ええ 言うしなあ (言います)。ちよおしな (調子が) ええ 言う事やわい (です) 運な (が) よおて (よくて) シヤワセで言うてなあ。結婚しても、だく (楽) にしとるか (しているか) びんぼしとるか (貧乏しているか) 言うと 楽んしとると (にしている)と シヤワセやな あ (だ) 言うし、びんぼしとると おおた ふしやわ せやなあ (不運だ) 言うてな。

しやわせなええ 幸福だ 運がよい (鳥)

しやわせなわり。しやわせわり 運が悪い。不幸だ。不運だ。[会話] シヤワセナワリ言うのは 運な (が) わり (悪い)。シヤワセナワリてなあ あの家や (は) 運な (が) わりて、わり事ばっか (ばかり) 続くと シヤワセナワリ。

しゃんか【名詞】 嫁、妻。しやじまのおこ参照 [会話] かかさん (主婦) は シャンカ、わいげ (お前の家) のシャンカ言うて とと (夫) は きんやのおこで、かか (嬢) は シャンカ。

しゃんがらごえ【名詞】 かすれた声。(鳥)

じゃんけいほい。じゃんけえ。じゃんけえほい。じゃんけんほい【感動詞】 じゃんけんをする時のかけ声。じゃんけんは、ジャクケン (石拳) の音便 (大言海) [会話] ジャンケンホイ あいこでしよ言う じゃんけんかい (ですか)。昔や (は) チッチンパア チッチノバア言うて しよおったけど (して居ましたが) 今しゃ (今は) ジャンケンホイ。チッチンパアしよおや (しましよ) 言うて (言って) チッチノバア言うて しよおったの (して居たのです)。じゃんけん言うやんない (でしょう) そやけど (しかし) 昔の言葉 チッチノバア言うて (言って) 今しは じゃんけん。“チンリンケー アイアイキユウ マケ (負け) カチ (勝ち) ホイ” 言うて そげん言よおったの (言て居たのです)。“チッチノバア アイコデシヨ 勝負デシヨ”

しゃんこだち【形容詞】 威勢よく立つて居る事。直立。ぴんこだち (伊) [会話] シャンコダチ ピーンと立つとんのなあ (立つて居るのを) シャンコダチ。ちんぼ (男性器、陰茎) でも ピーンと立つと ちんぼ シャンコダチして言うて。なんでも ピーンとしとんの (して居るのを) シャンコダチ言うのなあ (のです)。ぴんこだちも シャンコダチも 一緒やわい (です)。

ピンコ シャンコ言うて言うねよって (言うのだから)。
なんやかや (色々) 見物しとると (していると) 好きな おなご (女) のこおな (子が) おると 後ろから シャンコダチの ちんぼを 突いて言う 話な (が) ありおった (有りました)。ちんぼ きいん (木に) して。なんやかや 物 見物に行てなあ (行つて) おしよおじ (御精進、お祭り) とか なんや (なんとか) 言うて 行くやんない (でしょう)。そすとさいご (その時に) うしろい (へ) 来て シャンコダチ 突つておこすね (のだ) 言うて。なんでも ピーンと しとるもな (物は) びんこだちしとる (している) とか、シャンコダチしとるか (している) 言うて。ちんぼ きい (木) にして シャンコダチで かつとおなつとん (堅くなって居る)。

しゃんじ【名詞】爺 じいさん参照

しゃんしゃん【副詞】1) 終り。2) 元気がよい。健康である。(志 (布施田)) [会話] ₂₎ 平気で歩いて、しゃんと体 (からだ) 伸びてしとると (して居ると) シャンシャンとして 歩いて言うやんかい (言います・言うで有りませんか)。あやまあ (彼は) シャンシャンして 具合な (体の調子、健康状態が) わりおもて (悪い思つて) 弱々し、しとるおもとん (して居ると思つて居るのに) 元氣して歩くとなあ シャンシャンして 歩いてたない (行つた) 言うて。弱々し、よんしとたのん (ようにしていたのに) 見よまあ (見なさい) あやれ (あれ) シャンシャンして 歩いてく ない (て行きます) 言うて。₁₎ 打つておけ シャンシャン 終りやなあ (です) 目出度い時でも 打つておけ シャンシャン言うて てえ (手) よけ (多く) 叩くの 終りの事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

じゃんじゃん【副詞】1) どんどん、多いさま。2) 次から次へ 3) 突き刺すこと [会話] ₁₎ ジャンジャン 一生けんめ (懸命) で すんのも (するのも) ジャンジャンしたれ (しました) 言うやんかい (言います)。ちゃかちやかしたれ (早くしなさい) ちゃかちやかすんのも (するのも) ジャンジャンとしたれ (しなさい) 言うて、言う人な (が) 有るわい (有ります)。ジャンジャンやつて来て (飲食して) 言うて、男の人な (が) よお言うやんかい (よく言います)。物な (が) よけ (多く) 有る時も ジャンジャン。

じゃんじゃん【名詞】半鐘

しゃんせ。**しゃんせ** しなさい。しゃんすの命令形。しやせん参照。(志、南、熊) [会話] しや (それ) 此れ したれ (しなさい) 言うのなあ (言うのを) シャンセ

言うて。此れ せんかれ (しなさい) とか、此れせえ (しなさい) したれ とか。さんせ言う人らも有るけど (が) せえ言う事を、しなさい言うの、シャンセ言うの (言います)。丁寧に言うとき シャンセとか したらんか さんせとか。

しゃんと せえに (張、名) [会話] そいな (そんな) 事 シャントおけまあ (おきなさい) 言うて、すんな (するな) 言うのをな、せんと (せえ)に おけ言うのを シャントおけ言うのな (のです)。シャントおると (居ると) そいな (そんな) 事 おら しやせん (俺はしない) 言うて。

しゃんと【副詞】きっちりする、しっかりしたさま、ちゃんど。しゃんしゃん参照 [会話] からだな (体が) シャントしとる (して居る)。シャントしとんなあ (して居ます) あのひた (人は) 言うて。腰な (が) 曲つとんな (て居るのは) はざんけど (駄目だが)。棒のおだよんしとんな (飲んだようにして居るのは) シャントして ええな (良い)、言うて。真つ直にしとる 言う事かいなあ (でしょうか) 一口ん (に) 言うたら。

しゃんとして きっちりして

しゃんとする 1) 正しく背筋を伸ばし姿勢よくする。(伊、南) 2) 気持を張り切らず、元氣な気持になる。すつきりする。[会話] ₂₎ シャントスル言うの すつきりして ねぶとおて (寝むくて) ねぶとおて ねぶつとたけど (居眠りしていた)、ま あの人な (が) 話聞いたや (聞いたら) シャントシタよお (しました) 体な (が) ねぶたいのな (眠いのが) 治おつて シャントシタ言うのなあ はっきりなつた言う事をなあ。₁₎ 背筋も伸ばして しゃんと座れ言うのも 一緒に シャントセエ (しなさい) 言うてなあ 背筋も ぴんと伸ばして言うとき シャントスル言うてな。

しゃんとせえ きっちりしなさい しゃんとする参照

しゃんば。**しゃんばのおこ**【名詞】姑、老婆。しゃじまのおこ参照(志) [会話] しゃじまのおこ 男やんかい (です)。男の爺の事を しゃじま、婆の事シャンバとと (夫) の事は きんやのおこ。きんやのおこな (が) あやあれ (あれ) 言うやんかい (言います・言うで有りませんか)。そすと (そうすると) かか (妻、嬢) のこた (事は) しゃんかのおこなあ (です)。しゃんかや (と) 言うて、

しゅ。**しゅう** (衆)【名詞】人たち。あの人。(鈴市、安津、南) [会話] どこやらの (どこかの) シユウな (が) 来たやんか (来たでないか) 言うて。あの人 シユウな (が) やつて来て言うて、あの人 言う事な (を)

あのシュウヤ (だ) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。若いシュウは 青年団の事。そやけど (しかし) あのシュウな (が) 言うなだ (言うのは) 誰でも あの人 言うのなあ (のを) あのシュウな (が) 言う人な (が) あるわい (有ります)。

しゅいんでしとる 天下御免でして居る 恐れもなく自分勝手にしている

しゅう (しゅ) 【名詞】 朱、黄色を含んだ赤 しゅういろ (三、鈴市、鈴郡、松、尾) [会話] シュウに交じわれば 赤くなる言うて、しーろいのおでも (白いのも) これと一緒 (に) になると そげんなってく (そんなになって行く) 言う事やろなあ (でしょう)。ええにげ (よい人間) でも わりにげと つきやうと (交際すると) そすと わりにげ (悪るい人間) と うなしよん (同じように) なっくてくのなあ (なっくて行くのです)。ちよいと (少し) 赤いよおな きいろい (黄色) よおな色な (です)。

じゅう (ぢゅう) (重) 【名詞】 1) 重箱、又は重ねて有る容器。(上、阿、張、名) 2) 蒸籠 [会話] ① ひとくぼ (餅を搗く単位) 言うな (のは) 二升くぼも有るし、三升くぼも有りや、ジュウへ 一杯入れる 家も有る。

じゅういちにちのたびよごし (じふいちにちのたびよごし) 【俚諺】 十一日に降る雨。十一日はよく雨が降る。[会話] ジュウイチニチノタビヨゴシ言うて、十一日 ん (に) になると 必ずひりな (天気)が わりんでや (悪るいのです) ジュウイチニチノタビヨゴシな (が) 降るねなあ (降るのだ) 言うて。

しゅういろ (朱色) 【名詞】 朱の色。赤い色。しゅう参照

じゅういんじゃく 【名詞】 胸やけを伴なう腹痛 りゅういんじゃくと同じ

じゅうがつのころくがつ (じぶぐあつのころくぐあつ) 十月の小六月 (陰曆) 十月になっても、六月頃の様な暑い日がある事。又そのさま。[会話] ジュウガツノコロクガツや (だ) 言うて。十月でも 六月の陽気になあ。あつうてなあ (暑くて)。芋 掘るとなあ 汗水かいて 六月の陽気みたよな (のような) ひいな (日が) すんねてや (するのです) 十月 ん (に)。そすと あつうてなあ (暑くて)、芋 掘つとでも (いても) 汗水ながらかしてなあ (流して)、ジュウガツノコロクガツ言うてなれ (です) こいな (こんな) 時な (が) するもんやれ (ものだ) 言うて、五月か六月 みたよな (のような) 陽気言う事を ころくがつ言うてなあ。

じゅうくでたちばな はたちでみばな おくればなかよにじゅいち

じゅうくでたちばな はたちでみばな にじゅういちかよおくればな

じゅうくでたちばな はたちでみばな にじゅういちかよ **らおくればな 【俚諺】** 女性の婚期を表す語。十九で立花 二十で見花 二十一かよ遅花 [会話] ジュウクデタチバナ ハタチデミバナ オクレバナかよ ニジュウイチハ、言うて 二十一 ん (に) になると 遅花や った (でした)。二十一で結婚すると 遅花や (だと) 言われよおったもんなあ (言われて居たものです)。十七、八は血気で 十九は 一番嫁入りする時期や (です) そやもんで (それで) 十九で立花、十九で嫁んいて (に行つて)、二十でああ ええなあ (よい)。ええ 奥さんや (だ) 言うて そすとまあ、二十一 ん (に) になると、ちよいと (少し) 花な しなぼれて来て (萎れて来て) 遅花。娘な (が) 嫁ん (に) 行く時期なあ。

しゅうぎ (しうぎ) (祝儀) 【名詞】 1) 婚礼等の祝い事。

(志) 2) 祝い事に持って行く金品。(志、鳥) 3) 鼻肩の役者などに送るはな [会話] ① シウギ言うな (のは) 祝な (が) 正月の シウギとか たてまい (新築)とか 七夜とか 結婚式とか言うのも シウギする 言うし (言います)。ええ事 (よい事が) 有つて 祝いにやる ときや (時は) しなもん (品物) やる時も有るし お金でやる時 シウギ言うて、しなもん (品物) で やるときや 祝い (ゆわい) 言うてやるし。お金で ゆわい (祝) しょおか言う ときや シウギでするし しなもん でやる時や (は) ゆわいもん (祝物) に言うて ゆわいや (と) 言うて もてくわい (持って行きます)。シウギ 不祝儀と分ける時は ええ (良い) 事と 悪い事と。ええ時は シウギやし (ですし) わり (悪い) 時や (は) 香資とか 神さん (神様) で行く時や (は) 玉串料言うし。

しゅうぎもん (しうぎもん) (祝儀物) 【名詞】 祝い事の時に送る物品。祝う人、祝われる人、それぞれに使用する。[会話] めでたいもん (物) 言うんかな、ゆわい (祝い) 事に 出すもん (物) を 引き出もん にする もん をなあ シウギもん。

しゅうげん (しうげん) (祝言) 【名詞】 結婚式、嫁入りの儀式を行なう事 (名) [会話] 仲人言うな (のは) シウゲンする時に すんのし (するのですし) 世話やき言うな (のは) そげん (そんなに) なる迄 とりもち (仲に入つて) してくれる人を とりもち役 世話やき言うて。

じゅうごんちのかいばしら (じぶごんちのかひばしら)

【名詞】正月十五日餅を入れて作った粥

じゅうさんちしょおがつ。じゅうさんちしょんがつ (じぶさんちしょんがつ) 【名詞】十二月十三日 此の日から正月の用意に取りかかる おおそおじ参照[会話] ジュウサンチションガツ言うて、つばき作り始めたり 何んか (何にか) 正月の行事の事を しい (し) 始める。十二月の十三日ん (に) になると ちよいと (少し) しょんがつ (正月) の行事を 初めてする言う事 やるなあ (でしょう)。正月のはじまり (始め) の事を いわよおったんやろなあ (祝って居たのでしょ)。ジュウサンチションガツや (だ) 言うて、ちよいとした ごつお (御馳走) する家も あよおった (有りました)。

しゅうし (宗旨) 【名詞】考え方、意見。又その人の嗜好。[会話] シュウシ言うねやんかい (言うのです)。シュウシな (が) 違う言うて。宗教な (が) 違う言うのをだ シュウシや (だ) 言うてなあ。てんりん教 (天理教) とか こんこん教 (金光教) とか 色々 宗教な (が) よけ有るやんかい (沢山有ります)。シュウシな (が) 違う言うて。寺でも 禅宗か 門徒か 曹洞宗やてら (とか) シュウシな違う言うて。神さんでも シュウシな (が) 違う言うて、創価学会やたら (とか) エホバやたら (とか) キリスト教やたら (とか) 言うやんかな (言うて有りませんか)。人と人と 寄ってなんすと (何かすると) 考えな (が) 違う。あれと此れとの考えと。あや シュウシな (が) 違うねよつてん (違うのだから) 言うて。わがとな (自分の) 考えと むこお (相手) と 違うと、シュウシな (が) 違うんよつてん (違うのだから) 言うて よお言うてや (よく言います)。

しゅうじ 【名詞】泉、湧き水、岩の間から出る水。清水の湧き出る所。(志 (越賀、布施田)、鳥) [会話] シュウジ言うな (のは)、たあ (田) や、山い (へ) 行くと 隅の方ん (に) 綺麗な水な (が) 出て来るとこ (所) が 有るわい (有ります)。シュウジい (へ) いて (行って) 水 汲んで来い言うて。たあ (田) の山のはた (端) 取ったよおなとこん (所に) じつぱな (立派な) つめたあい (冷い) 水な (が) 出てくん (る) とこな (所が) あんねてや (有るのです)。そい なとこ (そんな所) を しとて (慕って) シュウジや (だ) 言うて。たあや (田とか) 畑や 行くと シュウジ行て 水 汲んで来て、ちゃあ (茶) 炊こや (湯を沸かしましよう) 言うて、汲みん (に) 行きよおつ

た (行きました)。シュウジの水は 年中 きれやせん なあ (絶えません) いくらまあ ひでりな (晴天) 来ても どんだけ (どれだけ) たまつとても (て居ても) たまつとる (て居る)。

じゅうじ (じふじ) 【名詞】子供の小さな蚊帳 [会話] 蚊帳言うけどなあ (が)、子供の 蚊帳になあ 四足ん (に) してなあ ふたんとたとで (畳んで)、開ろげると 蚊帳ん (に) なんのな、あよおったわい (なるのが有りました) 蚊帳 あいののを (あんなのを) ジュウジ 言うんやろなあ (言うのでしょ)。

じゅうしちやみ (じふしちやみ) (十七闇) 【名詞】陰曆十七日の夜の月の出る迄 じゅうひちやみ参照

じゅうじな 【名詞】蚊帳、夏、子供の午睡等の時に覆せる一畳位の大きさの折り畳み式の用具。まくらがや参照 [会話] 今し (今は) あいなもん (あんな物) 要らんけど (要らないが)、ジュウジな。蚊帳や言うて、コオモリ傘みたいん (のように) なつとんの (なっているのです) 食卓へ覆せる あれの おっきいのな (大きいのです)。

しゅうしなちがう 派が違う 意見が違う しゅうし参照 (志 (布施田))

じゅうじよ 【名詞】なにもかも充分に有って幸せだ。[会話] ジュウジョ言うのは なにもかも充分に有って 幸せや 言う事。

じゅうじよのよ 【名詞】幸福な時代、よ、世。[会話] ジュウジョノヨやれ (だ) 言うて、楽ん (に) なつてそして 気兼するもん (者) も 無しなあ (無しに) わがと (自分) 思うよん (ように) 出来るよん なんと ジュウジョノヨやなあ (だ) 言うて。

しゅうせん (しふせん) (集銭) 【名詞】銭を出しあつて飲食する事。(志 (布施田、鶴方、甲賀)) [会話] シュウセンしょおや (しましよう) 言うて、わりよて (割りあつて) なんかこおて (何か買って) 喰う時な (を) シュウセンや (だ) 言うの (言うのです)。なんでも 飯なら シュウセンして喰おや (食べましよう)。かしん (菓子) シュウセンしょおや 言うて、みんな (皆) 出しよて (出しあつて) すんののを (するのを) シュウセン。ぜん (銭) 出しよといて (出しあつておいて) 何でも こおて来て、喰うたり 飲んだりすんののを (するのを) シュウセン。阿弥陀くじ言うな (のは) 出しといて (ておいて) 後で くじ引いて あたのん (当るの) 阿弥陀くじ。シュウセンすんな (するのは) じよおり (草履) 作つたり (て居たり)、なんやかやすると さびしよつて (淋しいから) 今日は

あめがしん(飴菓子) シュウセンしよおや とか、三錢つな(ずつ) シュウセンしよおや 言うて。三錢なのお(なのを) 買うと、飴な 十五も買われよおつた(買えました)。一錢で五つつうつ(五ケ) この位(拇指大)の 飴な(が) 買われよおつたやんかい(買えたのです)。そやもんで(それだから) 三錢のシュウセンすると 口な(が) ほとる程喰われんね(食べられるのです)。口な(が) ほとる。飴がしん(菓子)を 口い 入れといて(ておいて) 喰うと三錢で 十五も買われるやんかい(買えるのです)。それで それ喰うと 口な(が) ほとって来んね(来るのです)。口な(が) ほとって来る迄 喰うたよお(食べました) 言うて、昔や(は) そんだけ(それだけ)のシュウセンするとなあ そげんして(そんなに) 喰われよおつたの(食べられたのです)。今しやったら(今だったら) なん千円言うてシュウセンもするけど(するが) 昔や(は) 十錢な(も) シュウセンしたら よお喰おかい(食べられません)。

じゅうそくのにはもたれるけどくそくのにはもたれん

【俚諺】十束の荷は持たれるけど糞苦の荷は持たれん。大便の辛抱は出来ない[会話] ジュウソク(十束)ノニハモタレルケド クソクノニハモタレン言うて、糞のしんぼ(辛抱)は 出来やせんもんでなあ(ないので)。ジュウソク言うて 十把の事なあ 十把のにい(荷)は 無理すや(すれば) 持たれるけど(が) 糞のにい(荷)は持たれん 言う事やわい(です)。クソクノニハモタレン、はこな(大便が) したいのは めったん(絶対) しんぼな出来やせん(辛抱が出来ない)。で ジュウソク(十束) 有る にいやったら(荷だったら) 無理からでも 重たいけど(重い) 休みもて行きや(ながら行けば) 出来るけど(が)、クソクノニは たれさがしたや(してしまえば) はざんのん(いけないのに) 思うよって(から) めったん(絶対に) よお持つとらん(持っておれません) 出したらな(てやらなければ) はこなしたい(大便がしたい) しんぼ出来やせんやんかい(辛抱出来ませんです) どげんも(どんなにも)。

しゅうたい(しゅうたい) (醜態) 【名詞】行動、態度などの恥ずべき様子、みぐるしいさま。[会話] シュウタイ言うたら 見にくい事やんかい(です)。酒飲んで シュウタイ晒しとる(ている)。見にくい体ん(に) なつとる 言う事や(です)。酒飲んで 酔おて そこらん(に) 転んどたり(でいたり) ぐれんそん(泥酔に) なつとんのを(なっているのを)。道でよお(よ

く) ころどりおつたやんかい(転んで居たで有りませんか) あいなのおを(あんなのを) シュウタイや(だ) 言うのなあ(です)。

じゅうたく 【名詞】充分にある事。ジュンタク(潤沢)の訛りか [会話] 物な(が) よおけ(沢山) 有る。あの家や(は) ジュウタクやなあ(だ)。十分に なんもかも(なにもかも) 有る言う事なあ(です)。ジュウタクやなあ あの家や 言うてな なんやかや(いろいろ) 物な(が) 豊富ん(に) なって来た家な(です)。

しゅうたん(しゅうたん) (愁嘆) 【名詞】悲しむ、意気消沈。(志(布施田)) [会話] シュウタンしとんなあ(している) あのだ(人は) まあ なんやら(なにか) 悩み事な(が) 有るかしてなあ(有るのか)。首かたげて(傾けて) なんやら もの思いしとるとなあ(していると) なんやら シュウタンしたなあ あのだ(人は) 言うてなあ。今日は シュウタン したよおんしとられ(にして居る) ぐんにやりと。

しゅうてんがに 【名詞】甲羅に紅色を持つ蟹 しゅうてんび参照

しゅうてんび 【名詞】1) 赤くなる事。しゅう、朱、赤、又はやゝ黄味を帯びた赤。てんび、天日、太陽の光、太陽の熱。(志(布施田)) 2) べんけいがに、川口近くの沼地などに住む蟹で、甲の巾が3cm位になり四角形でその前半及び缺足が赤い。陸上を走り回って居るが鰓で呼吸して居るので、常に湿った所に居る。(伊) [会話] ① 顔な(が) 酒のおで(飲んで) シュウテンビンしとられ(にして居る) 言うて、よおて(酔って) 顔な(が) あっこお(赤く) なるやんない(でしょう)。日に照られて あっこお なくても 今日は 照られて 顔な(が) シュウテンビンなつたない(になりました) 言うて、あっこお なる事を シュウテンビや(と) 言うて、② 蟹も あつかいがにな(赤い蟹が) シュウテンガニや(と) 言うのな(のが) 有るもんなあ(有ります)。赤がにな(が)。おばこ(おおばこ、野草)で“おばこやに 喰わんか” 言うて そや(それ) シュウテンな(が) 喰わえて来た 言うて 赤がに釣ると言よおつたてや(言っていました)

しゅうとおや(しゅうとおや) (舅親) 【名詞】舅、姑、配偶者の両親。

しゅうとかあやん(しゅうとかあやん) 【名詞】姑 嫁の義母 夫の母

しゅうとじいやん(しゅうとじいさん) 【名詞】舅 嫁の義父 夫の父

しゅうとじじ(しゅうとぢぢ)(舅爺)【名詞】夫の父(熊)

しゅうととおやん(しゅうととおやん)【名詞】舅

しゅうとばあやん(しゅうとばあやん)【名詞】姑

しゅうとばば(しゅうとばば)(姑婆)【名詞】夫の母を卑しめて言う語。(熊)[会話] 煮ても焼いても 食われん物は シュウトババか 挽き臼か言うてなあ。シュウトババむつかして(難かしくて) 煮ても焼いても くわれやせん(食べられません)。挽きも臼も あいな(あんな) 石なあ 煮ても焼いても 食われやせんやんない(食べられないでしょう)、そやもんで(それで) シュウトバアサンか 挽き臼か言うて むつかして(難しくて) 婆も爺も 一緒やわい(です)。

しゅうとめ(しゅうとめ)(姑)【名詞】小姑 夫の女姉妹しひとめの音便(大言海)(阿)

しゅうとめがかり(しゅうとめがかり)(姑掛り)【名詞】姑につかえなければならぬ嫁。[会話] シュウトメガカリ言うのは 嫁と姑の事なあ(です)。シュウトメガカリして言うて、婆な(が) 死んできや(で行けば) わがと(自分が) 姑ん(に) なって、こんだ(今度)は 嫁貰うと 交替やわい(です)。弁士交替も一緒に。そして シュウトメガカリ言うし(言います)。昔の人ら(は) そや(それ) いくせのはしやどお(幾瀬の橋だぞう) シュウトメガカリは言うて。今しのもんら(今の者)は いくせの橋よお渡らんやんかい(よく渡れませんか) 姑とよおおらんの(居られないのです)。そすと(すると) 昔や(は) 姑 いくせの橋 渡らな(なければ) 姑のなんな判るかれ(苦労が判らない) 言うて、姑ん(に) 掛る事を いくせの橋言うて 姑づかえすんのをなあ(仕えするのを) いくせの橋渡る 言よおった(言っていました)。いくせの橋言うなだ(言うのは) いっちむつかし(一番むつかしい) 親に 仕える事を言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

しゅうとめのあさわらい(しゅうとめのあさわらい)【俚諺】長続きしない。よい事が無い。[会話] シュウトメノアサワライ言うて、姑婆な(が) 朝笑うと その日はわり(悪るい) 事な(が) 有る言うてな。シュウトメノアサワライ まあ 長続きしやせん(しない) 言うてなあ。

しゅうとや(しゅうとや)【名詞】嫁の実家。(志(布施田)[会話] シュウトヤ言うて、嫁の親元 シュウトヤ。シュウトヤの門と くさむぎや(若い妻は) 踏みや(踏めば) 踏む程ええ(よい) 言うて 泊りん(に) 行きおったやんない(行って居たでしょう)。そ

やもんで(それで) 草妻も 踏みや(踏めば) 踏む程ええな(根が) 張って ええやんない(よいでしょう)、そやよって シュウトヤの門を ふまんよん(ように) なるとなあ、泊りん行かせんよってん(に行かないのだから) はざんやんない(駄目でしょう) そやもんで シュウトヤの門と 草妻や(は) 踏みや(ば) 踏む程 ええ 言う。

しゅうとやがよい(しゅうとやがよひ)【名詞】結婚しても嫁がすぐ婚家に行かず、実家に居るため、舅が嫁の実家に晩 泊りに行く事。(志)[会話] 結婚すると 舅さんな(が) しゅうとやい(へ) 泊りん(に) 行くのを、シュウトヤガヨイ。

じゅうにたけ(じぶにたけ)(十二竹)【名詞】子供の遊び。平に削った竹十二枚を手の甲に乗せ、手をずらしながら落して行き、その表裏の数などで勝敗を決める。(三重県全域)[会話] 竹 乗せて 遊び、よおしよおったやんか(よくして居たで有りませんか) おさへとか 何んとか言うて 子供の遊び ジュウニタケ。

じゅうにんとおほらとおちんこ【俚諺】十人十色、人それぞれで有る事 十人十腹十ちんこ(陰莖)[会話] 十人よや(集まれば) 腹な違うやんかい(考えが違います)。顔も違うし、ちんこ(陰莖)も違うんやろなあ(なのでしょう)。各人 顔も違う如く心も違うし、気持も違うしなあ それをジュウニントオハラトオチンコ。そして わがとな(自分が) 思う通りん(に) ならせんねよってんなあ(ならないのだから)、それを わがとな(自分が) 思う通りんしよお(にしよう) 言うとな むつかし(頑固だ) 言うて、人ん(に) 言われんならん(言われねばならない)。

しゅうねん(しふねん)(執念)【名詞】深く思い込んで動かない心。執着して離れない一念。佛教よりの語[会話] あのひた(人は) シュウネンブカイ言うて、恨み事なあ(を) よお(よく) 言う人をなあ。あのひた シュウネンブコオテ(深かくて) おとしねてや(怖いのだ) 言うて、あや(彼は) 鬼門え しよんべたれたのおより(小便したのより) おとしねてや 言うて。禱り事言うたり 祟り事言うたりして 来んの(来るのを) シュウネンブカイ人はなあ。シュウネンブコオテ 忘れんと(忘れずに) いつまでも、言うて ばっかおるとなあ(ばかり居ると)、シュウネンブコオテ いつまで 忘れたらんと(てやらずに) あんげん(あんなに) 昔の事言うて 言うのなあ、そげなの(そんなのを) シュウネンな(が) 深い言うてな(言うて)。

しゅうねんぶかい (しふねんぶかい) 【形容詞】 執着心が強い いつ迄も思つて居る しゅうねん参照 (志 (布施田))

じゅうの (じふの) 【名詞】 十能 炭火を運ぶ道具 じゅうのうの訛 (桑郡、員、上)

しゅうは (宗派) 【名詞】 仲間、考え方、しゅうしに同じ。派閥 [会話] シュウハ。宗旨な違う言う事、あや (彼は) 宗旨な (が) 違うねよってん (のだから) 言うて、キリスト教とか 天理教やたら (だとか) 言うて、仏でも禅宗や門徒や言うて 門徒物知らず言うて 宗教なあ (です)。宗教な (が) 違うねよってん (のだから) 言うてな、仲間言うのをな シュウハな (が) ちごとて (違っていて) 言うてな。はあ (派) はあな有って言うてな はあな ちごとんね (違っているのだ) 言うて 赤党や白党や言うて 昔や (は) よお言よおったない (よく言っていました) はあな ちごとて なあ。

じゅうはち。じゅうはちささげ (じふはちささげ) (十八 豇豆) 【名詞】 マメ科の一年草。西南アジア原産で食用に栽培される。茎はつるとなつて長く延びる、花は蝶形花で白又は淡紫色、果実は莢で長さ50~100cmになり垂れる。初めから色が淡く柔軟。若い莢を煮物などの料理に用いる。じゅうろくささげ。(三重県全域) [会話] みいなちよいと (実が少し) いったんなあ (入っているのは、剥いて 喰うと 美味いんでや (のです) なんもいっとらん (少しも入っていない) ほん (本当に) かあ (皮) だけんのおは (ののは) 味噌あえん (に) すると 喰われるわい (食べられます)。あの ジュウハチやどけ (など)。

じゅうはちばん (じふはちばん) (十八番) 【名詞】 得意、いつも行なう事。歌舞伎十八番より出た語 [会話] わがとな (自分が) 得意の事すると、あや (あれは) あんな (彼の) ジュウハチバンやよってん (だから) 言うてな。わがとな なんでも得意な有ってなあ、その得意の事をするとなあ、あや あんな ジュウハチバンやよって言うてなあ。

じゅうはちやみ (じふはちやみ) (十八間) 【名詞】 十八日の月のでるまでの暗い間

じゅうひちやさん (じふひちやさん) 【名詞】 十七日の月。 [会話] 十七日の月ななあ (が) 出て来ると、十七間や (です) ジュウヒチヤサン言うてな、ジュウヒチヤサンな (が) 出て来るの (のを) 拝むと 傷やみしやせん (化膿しません)。

じゅうひちやみ (十七間) 【名詞】 十七日、月が出て明る

くなる迄。十七日の月。[会話] ジュウヒチヤミ言うななあ (のは)、ジュウヒチヤミ拝むと 傷やみしやせん (しない) 言うてなあ。よさり (夜) あんで (あれで) 九時か十時ごろやわいなあ (です)。十七夜さんな (が) 出てくんの (来るのを)、待っててなあ (ていて)、きずやみさしてくれんな (させて呉れるな) 言うてなあ。傷な (が) 膿んでくんねてや (来るのです) 葉 つけやせんもんでなあ (つけないので、黴菌 入れてなあ じつきん (すぐに) 膿んで来てするもんで (するので) そすとなあ じゅうひちやさん拝むと 傷やみしやせん (しない) 言うて それ拝みよおったね (拝んで居たのです)。

じゅうめん (じふめん) 【名詞】 洗面 しめつら

じゅうもんじやもんじ 【名詞】 米印 海女の身に付ける 魔除け

じゅうやく (じふやく) (十薬) 【名詞】 どくだみ。初夏の頃、茎の上部に四弁花のように見える白色の四ケの総包の有る花の咲く多年草。特有の臭いがある。十薬。開花前に全草を刈り、乾して保存、煎じて利尿駆虫に、生薬を揉んで腫物、虫刺されに利用する。籾葉の転と言う。(志 (越賀、浜島、波切、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)、員、四、鈴郡、鈴市、安、津、一、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] ジュウヤク言うな (のは) 臭あい (臭い) あれを、昔や (は) ねぶと (根太、出き物) の薬ん (に) しょおったの (して居たのです)。あれを きりきりつと 十枚も 二十枚も 巻いといて (ておいて) 藁で、あっぱい (熱灰) へ 突っ込んで (ておいて) そすと (そうすると) そんな (それが) だろどろん (に) なんね (なるのです) 中な (が)。藁な (が) 燃えてくので (て行くので) その中な (が) 焼けて 膏薬みたよん (のように) なって、それを ねぶとな (が) 出来ると つけよおったね (付けて居たのです)。今しみたよん (今のよう) に 医者に 掛らせんし (掛らないし) わがとらな (自分達が) ジュウヤク 練ってつけおったね (付けて居たのです)。

じゅうよお 【名詞】 わがまま、自分勝手。気儘 (志 (布施田、甲賀)) [会話] よけ (沢山、あまり) ジュウヨオ言うて、子供らな (が) いじると、ジュウヨオ言うて まあ言うて。いじる 子供らな ぐずつて (駄々を言つて) あれしておこせ (呉れ)、此れして呉れ (下さい) ないもん (無い物) こおておこせ (買って呉れ) 言うのを ごねるとか いじるとか言うやんかい

(言います)。ジュウヨオ言う言うて ごねんのおを (駄々こねるのを) よけ (あまり) ジュウヨオ言うなまあ言うて。

じゅうりん【名詞】 柑橘類の一種。温州密柑(三重県全域) [会話] こおるいな (柑橘類が) 有って、うずきち言うの (のを) 植えて、ジュウリン言うのな (のが) うずきちやんかい (です)。

しゅうれえ(終礼)【名詞】 1) 終りの礼。授業の終り。
2) 終列車(上、阿、張、名) [会話] 2) シュウレエの間に合うよん (ように) 言うやんかいだ (言います) 列車い (へ) のんのんなあ (乗るのに)。終列車一番最後や (です)。1) 朝礼の反対で がっこな (学校が) 終ると シュウレエ。

しゅうろ(しゅうろ)【名詞】 棕櫚の変化した語。ヤシ科の常緑高木、九州沿岸地原産、幹は直立して高さ3~7mになり棕櫚皮と言う黒褐色の繊毛の有る古い葉鞘につつまれる。葉は幹の先端に叢生し、長柄を持つ。葉身は径60~90cmの扇形で線状の裂片に深く裂ける。裂片の先端はとがり中脈をはさんで多くは二つに折れる。雌雄異株、春、淡色の色の小花を多数密につけ、下部に大形の佛炎苞がある。果実は径約1cmの球形で黒熟する。材は床柱、欄干、樅木に用いられ棕櫚皮の繊維で、網、敷物、箒、たわしなどを作る。(志(鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、松、阿、張、名、伊、尾、南、熊)

じゅうろく(じふろく)【名詞】 じゅうろくささげ。じゅうろはちに同じ。(鈴市、南)

じゅうろくすじのきくすい(じふろくすじのきくすい)【十六筋菊水】 肛門 [会話] しん (尻) のけつ へえなと (尻でも) くろとれ (食べておれ)、はこなと (大便でも) くろとれ、しんの (尻) けつの 菊皿 (肛門) の いっけつ (一尻) の 酢いとこ (所) ねぶれ (舐める) 言うてなあ。ジュウロクスジノキクスイを ねぶってけつかれ (舐めておれ) 言うてなあ。ジュウロクスジノキクスイや (だ) 言うて、十六も すじな (筋が) あんのかいのお (有るのでしょうか) 有るやろん (でしょう) 巾着の口やってんなあ (だから)、口 絞ったや (絞ってやれば) 十六も二十も有るやろん。ぎゅっと しとるもんでなあ (しているから) 菊水みたよんしとるもんでなあ (のようにしている) ので、尻のけつなあ (です)。

じゅうろくやさん(じふろくさん)【名詞】 望月。陰曆十六日の夜

しゅうろぼおき【名詞】 しゅうろぼおきに同じ(鈴市、南)

じゅくし(熟柿)【名詞】 よく熟して柔らかくなった柿。(上、張) [会話] ずくし言うのなあ (です)、熟柿の事をなあ 柿の ジュクシ言うの (のです)。

じゅくじゅく【副詞】 1) はなはだしく濡れて居るさま。
2) 水分が多く、内部からにじみ出るさま。[会話] 2) こやまあ (これは) 膿な (が) 出てまあ、ジュクジュクしてくられ (来る) とかなあ。なんやかやなあ (いろいろ) 汁な (が) 出てくると、ジュクジュク出て来た言うてな よけ (沢山) まあ やいこお (柔らかく) なってなあ 汁な 出て来るとなあ ジュクジュク出て来た言うて。

じゅくす(熟)【自変変】 果物などが十分にうれる

しゅげえ(しゅげい)【名詞】 手芸 手先で作品を作る事

しゅこお(しゅかう)【趣向】 考え方、考え、悪だくみ。[会話] シュココな (が) 有る言うて、よお言うやんかいなあ (よく言います)。シュココな (が) 上手で言うて、シュココを こらしたとこやてや (所だ) 言うやんかいな。いっしょけめ (一生懸命) 考えて まあ した 言う事をなあ シュココな (です)。シュココを こらして うまい (上手に) 事 出来たなあ言うてな。

しゅじつ. しゅじゅつ(手術)【名詞】 治療の目的で人体にメスなどを用いて患部を切開、切断して処置する事。[会話] 手術、シュジツ言うなあ。シュジツしたんでなあ (したそうですね)。しりつ、したんでない (したそうだ) 言うてな。手術言うな (のは) 言いのくいもんで (にくいので) シュジツ、しりつしたんでない 言うてなあ。

じゅじゅ【名詞】 数珠 ジュズ(数珠)の訛 [会話] ジュジュ言うのを ずず (数珠) 言うの (のを)。

じゅじゅつなぎ【名詞】 数珠繋 数珠の珠を連ねた様に次から次へと連なる様

じゅじゅむ【動詞】 にじむ。(志(浜島、鶴方、立神、甲賀、安乗)、鳥、三、鈴市、松、伊) [会話] にじんで来た事を、ジュジュム。こやれ (これ) 下から ジュジュンデきたれ (来た) 言うてな、まあ 下敷な (が) すけなかつたかして (少なかったとみえて) ジュジュンデ来たれ こやれ (これ)。にじんで来た言うのをな ジュジュンデ来たれ 言うて。

じゅじゅんできた 滲みて来た [会話] にじむ言うのをなあ ジュジュンデキタ。

しゅずく【名詞】 しづく、滴。しじく参照(三、鈴市、伊) [会話] シュズクな (が) おって (落ちて) 来た。ぼたぼたと。水な (が) おって 来るとなあ、そやれ (それ) 手拭も えごつと (十分に) 絞らな (なければ) シュズクな (が) おつとられ (落ちている) 言うてな。

しゅすじ(主筋)【名詞】 主人筋、主人又は主人に近い関係の人。[会話] 上の偉い人、自分の仕えとる (ている) 人、主人の事 シュスジ。

しゅつちん【名詞】 織物 襦袢(三)

しゅつてとり【名詞】 役人 巡査 [会話] ジュツテトリ言うな (のは) 銭形平次な (が) 待てえ言うて 十手持って、してくんのなあ (来るのです) あんな (あれが) ジュツテトリ、今し (今) で言うと じゅんさん (巡査)。

じゅつない(術無)【形容詞】 苦しい つらい (志、鳥)

じゅつながる【自ラ五】 苦しがる 苦しむ

じゅつぼ【名詞】 十本(北) [会話] 飯 いっしょ (一升) 炊いて さいら (秋刀魚) ジュッポ じゅうごほ (十五本) くうんど (食べるのだ) 言うて。

しゅみこむ【自マ五】 浸み込む 染み込む 液体、匂い色素などが物の中に深く浸透する しみる。[会話] 磯臭い言うな (のは) 磯の臭いな (が) するわい (します)。ひい (火) 当って ひい (火) の けぶり (煙) の かざな (臭いが) 体い(え) シュミコムな なあ そんで (それで) 磯臭いんなあ (のです) 磯から来ると。

しゅみる 染みる (上、阿)

しゅむ(染)【自マ五】 1) 痛みを伴う知覚。染むの転刺激で痛みを感じる。(志(布施田)) 2) しむ(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(国崎)、員、三、鈴郡、鈴市、津、一、久、松、多、上、阿、名、度、伊、北、南、熊) 3) 物事の興が増す。踊りしゅんで来た、ところてん出しゃれ(盆踊り唄)(熊) [会話] 1) 傷い (へ) シュム。傷したや(したら) シュンデ言うて。しやまあ (それは) 膿むねやれ (化膿するのだ) 言うて。あしためん (翌日) になると ふち (周囲) ああおお (青く) なって、膿持って来て 傷病 (キズヤミ) するにげや(人は) そげんして (そんなんにして) 来よおったわい (来て居ました)。昔や(は) かやで (萱で) 切っても湯入れたりすると そやあれ (それ) まあ膿んで来たれ (来ました) 言うて、ふちな ああおお なって来よおったわい。そいなのおを (そんなのを) せんよお

(しないように) 言うて、十七闇を 拝みよおったの (拝んで居たのです)。

しゅもく(撞木)【名詞】 念佛の鉦を叩く、小形の木槌

しゅもく【名詞】 しゅもくごめ かせ参照(志、鳥)

しゅら(修羅)【名詞】 1) 甚だしく混雑する事。 2)

下に敷く台(志(布施田)、尾) [会話] 1) シュラやれ (だ) まあ言うて(言つて) ごっちゃかえす (混雑する) 事を シュラやなあ (だ) 言うて。なんもかも (何も彼も) シュラん (に) しといてたな (して行った) 言うな (のは) ごっちゃかえしとんのおを (て居るのを) おおたまあ (ああ) シュラやれ (だ) 言う時もあるし (有ります)。人な (が) ごっちゃかえす のもシュラ。2) シュラ言うのは 台の事を言うんやわい (言うのです)。シュラあげる言うのは ちよいと (少し) 隙間をあけるの (のを)。

しゅらあげる 台をして地面との間に隙間を作る。しゅら2) 参照

しゅりつ【名詞】 手術(張) [会話] 手術言うのを シュリツ言うねもんなあ (言うのです)。

しゅるし【名詞】 1) しるし 目印(三、鈴市、鈴郡、尾、南) 2) 大漁の時に立てて帰港する幟 [会話] 2) 今日は大漁で シュルシ 立てて来たれ (来た) 言うて、白い旗を 立てて来ると シュルシや (だ) 言うね (言うのです) 大漁旗を。

しゅるつ【名詞】 手術(上、阿)

しゅろぼおき(しゅろぼうき)(棕櫚帚)【名詞】 しゅうろぼうき 棕櫚の毛を束ねて作った帚。[会話] シュロボオキ言うなあ (言います)。しゅうろのかあ (皮) 剥んどいてすのを (剥いておいて作るのを) シュロボオキ言うて(言います)。昔や てえみたよん (手のように) 出とる (出て居る) はあ (葉) を さいといて (裂いておいて) 綱で編んで 箒にしよおった (して居ました)。シュロボオキ言うて(言つて) 竹の柄付けたり 座敷掃く 長箒 したりするし。はあ (葉) は 勝手 (台所) 掃いたりすんのんこさえよおったん なあ (するのに作って居ました)。あれを きさいといて (裂いておいて)。蠅叩きもなあ あれ編んどいて(編んでおいて) ピタピタと 今しや (今は) 皆、買うけど (けれど) 昔や(は) あんて (あれで) しよおったもんなあ (して居たものです)。

しゅん(旬)【名詞】 1) 魚貝類、野菜などの味のよい食べ頃の時期、出盛りの時期。(志(鶴方)、鳥、上、阿、南) 2) 物事を行うのに最適の時期。[会話] 1) なんやかや こんな (此れが) シュンのもんやなあ (物だ

なあ) 言うて 時期な (が) 来ると 西瓜でも胡瓜でも。しんがつな (四月が) 時期 五月な (が) 時期言うて その時のもんを (物を) シュンや (だ) 言うて (言うて)。季節をシュンのもんや (物だ) 言うて、その時期時期。四季のもん (物) を その時期時期に獲れるもんを シュンや言うて、胡瓜な (が) 獲れて来た シュンのもんや 言うて。

じゅん (順) 【名詞】 1) 都合。順序からの変化か。運の巡り合せ 2) 順番 (志 (布施田)、上、阿) [会話] 1) 今日は 休みやよってん (だから) 日待したるか (してやろうか) 言うて、わがとらな (自分達の) ジュン見て いつでもすんの (します)。

じゅんぐり (順繰) 【名詞】 順番に事をする事 順次

じゅんさん。じゅんさんさん 【名詞】 巡查、じゅんさんさんの訛 [会話] 昔や (は) ジュンサンを ジュンサンサン言よおった (言っていました)。今しや (今は) 警察や (と) 言うし 昔や (は) 巡查な (が) くらんど (来るぞ) そや。

じゅんじゅくじゅん 【副詞】 1) 連なっている事 2) 順調なこと

じゅんじゅん (順順) 【名詞】 順番、順序を追ってする事。[会話] 順番言うの (のは) 次から次い言うのなあ (のです)。ジュンジュンに言うて 順番に言うのをなあ ジュンジュン言うね (言うのです)。ジュンジュンにせな (しなければ) 言うて。

しゅんしゅんぐみ 【名詞】 植物 ぐみ 信州ぐみ [会話] シュンシュングミ言よおったてや (言っていました)。ほんど (本当) は しんしゅうぐみ言うんやろけど (言うのだから)。しんしゅうぐみ言うなあ (のは) 土手に生えとんのをなあ (ているのを) しんしゅうぐみ言うし、ちよいと (少し) まるくとおて (丸くて) よっけ (沢山) なんのなあ (なるのです) はあ (葉) より ももな (実が) よけなんのなあ (沢山なるのです) あからまかしといて (熟させて) 食うと うまかりおったやんかい (旨かったで有りませんか)。

じゅんじゅんに 【副詞】 順々に 次次に 順番に

じゅんたく (潤沢) 【名詞】 十分にある事 豊富な事

じゅんとお (じゅんたう) (順当) 【名詞】 順番通りで当然の事

しゅんできた 霽囲気が盛り上ってきた 興が乗って来た

しゅんでく 染みていく にじんで行く (志 (布施田))

しゅんとする 恐れ入る、かしこまる、元気を失う

しゅんなり 【形容詞】 元気がないさま

じゅんの (じふのう) 【名詞】 じゅうのう。十能、炭火を運んだり、掻き起こしたりする道具。金属製が多いが、中には木柄付きのものもある。大小さまざま。台の付いたのは台十能と呼ぶ。(志 (浜島、志島、片田、的矢、神明、立神、国府、安乗)、鳥 (国崎、桃取、坂手、答志)、多、度) [会話] ひい (火) 掬う ジュンノ。今しや (今は) あげな (あんな) 物 使わせんけど (ないが) スコップの ちっさいの (小さいのです)。昔や (は) あんな (あれが) なけな (無ければ) なかりおったんけんあ (ならなかったが)。ひい (火) 焚くもんで (ので)、消炭を 火鉢い (へ) 持てくのん (持って行くのに) そんで (それで) 掬って。堅炭言うて そげん (そんなに) よけ使わせんし (多く使わないし) ひいけ (火種) だけで。そやよって きい (木) 焚いたのおを、くどい (かまどで) 飯、炊いた後 ひい (火) そんで (それで) 掬って来て 火鉢へ 入れおったの (入れて居たのです)。ダイジュンは 堅炭やなあ (です)。おこしといて (火をつけて) 火鉢の火種に ダイジュンへ入れて いけん (に) いきおったもんなあ (行って居たものです)。

しゅんのもん 【名詞】 季節の物 (志 (布施田))

しゅんはずれ (しゅんはずれ) (旬外) 【名詞】 季節はずれ。好適の時期をはずれている事、時期季節に合わない事、又そのさま。

じゅんばん (順番) 【名詞】 順序 順を追って代る代るその事に当ること

じゅんよお 都合よく (志)

しよ (塩) 【名詞】 塩 (志、鳥 (国崎)、三、鈴郡、鈴市、安、松、多、上、名、張、度、北、尾) [会話] さいら (秋刀魚) の ショな (が) せんとあんの (せずにあるのを) 無塩 (ブエン) こおて来た (買って来た)、鯛の無塩や (だ) 言うて ショ せんとあんのを (せずにあるのを)。

しよ 【接尾語】 1) です 2) させよう しよう [会話] 1) ウレッシュョ オトッシュョ言うて おおた ウレッシュョ言うて 貰うとなあ。そして 怖い事な (が) 有ると おおた オトッシュョ言うて ショ付ける時な (が) あんなあ (有ります)。ショ言うのは すす言う事や (だ)。こわいよお言うのな おた おとしよ おとしかったよお (怖かった) 言う事やなあ (です)、おおた オトッシュョ言うて。

しよい しやすい、容易だ。(熊)

しよい 【名詞】 醤油 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、上、阿、張、名、南) [会話]

醤油の事を ショイや (と) 言うし、たまりや 言よ
おったなあ (言っていました)。味噌しこむ (作る) と
味噌い (へ) 籠を突っ込んどいて (ておいて) その中
から 掬ってくのを (くるのを) たまりや (だ) 言
うて。たまり 掬って来い言うて。そして (そうし
て) 炊いて 漉して ビンへ詰める (入れる) と シ
ョイ言うの (言うのです) 醤油や (と) 言わせんの
(言わないのです) ショイや (です)。味噌からすぐに
掬って来んのな (来るのを) たまりや (と) 言うね
(言うのです)。味噌ん (に) 貯つとるもんで (て居る
ので) 言うねやるなあ (言うのでしょう)。味噌樽ん
(の) 中い (へ) 籠を うどんを しゅつしゅつとし
とるみたよおな (して居るような) 籠を 突っ込んど
いて そすとなあ (すると) じっばな (立派な) 汁だ
け その中い (へ) 入るやろ (入るでしょう)。それを
汲んで来ると じっばな 醬油な (が) 出来とんね
(て居るのです)。そやもんで (それで) それを 一回
炊いたらと (てやると) どいらいええんけど (大変よ
いのですが) 炊かんとすんのな (炊かずにするのが)
たまりや。

しょいこむ (しょひこむ) (背負込) 【他マ五】 引き受け
る。引き受けても困る事を負わされる。【会話】 ショ
イコム言うな (のは) 負ぶのを、ショイコム言うのも
有るしなあ。借金を ショイコム 言う時も有るし。
なんでも (何でも) あれん (彼に) ショイコマサレテ
来たよお言うて、仕事でも引き受けて来る、引き受け
さされた言うわけやわい (です)。

しょいさし 【名詞】 醤油入れ (南)

しょいだる 【名詞】 醤油樽 醤油を入れて有る樽

しょいなげ (しょひなげ) 【名詞】 1) 背負投げ 背に負
って投げつける術 2) 破約、約束を破る事

しょいなげくわされた 急に約束を破られた

しょいなげくわす 約束を破る

しょいめし 【名詞】 醤油を入れて炊いた飯 (志 阿、
張、名) 【会話】 飯な (が) 煮えて来たとこいなあ
(所へ) 里芋やどけ (など) 入れて ぐつぐつ炊いと
いて (ておいて) にやがつて (煮上がつて) 来てから
なあ しょいさすの (醤油注ぐのを) ショイメシや
(だ) 言うてなあ。たまから (初めから) 入れたらと
(てやると) 米な (が) ひらかせんもんでなあ (膨く
れないので) たいがい (大体) 飯な (が) 出来上る頃
に しょい (醤油) をなあ ちょいと (少し) 味 付
けんのんなあ (るのに) すんの (するのを) ショイメ
シや (だ) 言うてなあ。なんやかや (いろいろ) ぐう

(具) 入れといて (ておいて) すん (する) のをなあ
五目飯食うよおななあ (だ) 御飯の上いしょい (醬
油) かけて食うのは しょいかけて食うた言うて、お
ら (俺は) まあ さいな (副食が) なんもねえし (少
しも無いので) しょい かけて 食うた言うて ショ
イメシ言うのは ちょいと (少し) 炊くのを ショイ
メシ言うてなあ 五目とまた違うね (のです)。

しょお (しょう しやう) (仕様) 【名詞】 1) 物事を行
う方法。2) します。

しょお (しょう、しやう) (性) 【名詞】 1) 性根。精神。
(志 (布施田)) 2) 正気。意識。ショオが戻った。
3) 霊魂。【会話】 3) ショオを入れとけ (ておけ)、
ショオ入れて貰え言うて。石碑でも 新しの (物) き
ると (作ると) 和尚頼んで ショオ 入れて貰う言う
やんない (でしょう)。2) 酒のおで (飲んで) ショオ
も無いわれ (有りません) 言うし。神さん (様) でも
祠をこおて (買つて) 弥宣さんたので (頼んで) ショ
オ 入れて貰う言うて。そすと (そうすると) 石碑や
どけ (など) きつた (作つた) 時や (は) 和尚さんた
ので お経貰るて (貰つて) ショオ 入れて貰う言う
やんない (言うでしょう)。1) ショオネな (性根が)
腐つとる (て居る) 言うのを あやまあ (彼はもは
や) ショオな (が) 無い言うて、ショオも たあい
(たわい。耐える力) も 無いよおな にげやなあ
(人、人間だ) とか。ショオ、腐つとる言うな (の
は) 心な (が) 腐つとる言う事を あや (彼は) ショ
オな (が) 腐つとんねどお (て居るのだ) 言うて 心
な (が) わりにげを (悪い人間を)。

しょお (しやう) (正) 【名詞】 よく似ている。(志 (布施
田)、上、阿、張、名、南) 【会話】 よお (よく) 似と
る (て居る) 事も あれとこれと ショオやななあ
(だ) 言うし (言います)。一緒の事を ショオやななあ
言うて。

しょお (しょう、せう) (小) 【名詞】 しょう 小さい
事

じょお (じょう、じやう) (滋養) 【名詞】 体の養いにな
るもの。転じてビタミン剤、ドリンク剤。【会話】 体
い (へ) 効くよおな もん (物) をなあ、栄養剤を飲む
こと。ジョオやつて言うてな 体い ジョオもやらん
と (与えずに) なんも (少しも) 言うてなあ。

じょお (じょう、じやう) (上) 【名詞】 1) 普通の物と
比べて、価値程度がそれよりすぐれていること。
2) 接頭語としてすぐれている事を表す。【会話】 1)
上等のもん (物) こや (これは) ジョオのもんや (物

だ) ジョオモンヤ (上物だ) 言うてな ええ (よい) 一番 品のええ (よい) もん (物) を こや (これは) ジョオモンヤ。

じょお (じょう、じゃう) (情) 【名詞】 1) 感情。物事に対しておこる心の働き、気持ち。2) 情け深さ。

3) 事情 真相 [会話] ① ジョオナ (が) 移るも有るし、ジョオナ (が) 移る あの人ん (に) ジョオナ (が) 移って まああのひた (人は) 心な (が) ええ ので (よいので) ジョオナ (が) 移ったよお言うてなつく事、すきん (に) なった言う事やわな (です)。

じょお (じょう、じゃう) 【名詞】 状 事態 状況を託して知らせる文書 手紙 書状 [会話] ジョオを 入れんねよってん (入れるのだから) 状袋言うて。

じょお (定) 【名詞】 じょう 定め おきて

じょお (じょう、じゃう) (錠) 【名詞】 門、戸、櫃など、開いたり閉じたりする所に差し込んで、開かないようにする金具。錠は後世の当て字。[会話] 錠の事 ジョオヤ (だ) 言うな (言います)。ジョオ 落しとけよお (掛けておけ) 言うてな、錠かけとけ 言うのをな。ジョオトダナの 錠も おとしとけよお 言うてな 掛けとけ (ておけ) 言うのを 落しとけ 言うてなあ ジョオマイ。

じょお (じょう、じゃう) (常) 【副詞】 1) つね、いつも、ふだん 2) いつもを表す接頭詞 ジョオ び (常日、いつも)

じょおあんばい (じょうあんばい、じゃうあんばい) (上塩梅) 【名詞】 味加減、湯加減、健康状態のよい具合であるさま。[会話] ジョオアンバイ やったなあ (だった) 言うて、ええ (よい) 事を よかった事なあ (です)。おた まあ 今日は ジョオアンバイ やったなあ 言うて ええ事な (が) 有るとなあ。

じょおい 【名詞】 醤油 [会話] しよい (醤油) ジョオイ こおて (買って) 来い 言うてな しよいや (です)。

じょおいれる (しよいれる) 1) 墓、位牌などに霊を移す。(志 (布施田)、鳥) 2) 改心する 3) 一生懸命にする 4) 懲らしめる [会話] ④ ジョオ イレトカナ (ておかなければ)、あや (彼は) まあ ぐたぐた しとて (していて) まあ 言うて、③ ジョオナ (が) ハイッタ よおなあ (ようだ) 言うて、なんでも (何でも) それい (へ) 熱中 すると、ジョオナ (が) ハイッタ くらい やなあ 言うてなあ。② 心 入れ替える 言うのも しよおね (性根) 入れ替え なはざんわれ (なければ駄目だ) 言うて 気持 を かえ (替えよ) 言う事を ジョオ イレカエナ なはざんわれ 言うて、①

石碑あらんの (新しいのを) すると ジョオ イレテ もらわな (なければ) 言うし。

しよおうしなう 1) うつつを抜かす 2) 失神する

じょおうち (じょううち、ぢやうち) (常打) 【名詞】 いつも劇場で興業していること。[会話] いつでも 映画 や芝居 しとる (している)、ジョオウチ 言うけど なあ (言います)。あしこ (あすこ) の じよおぶたい や (だ) 言うてなあ。

しよおおもて (しよおおもて) しようと思つて。[会話] これ ジョオオモト タヤ (思っていたら) まあ 言うて、オモテ (思つて) 言う時も 有る しなあ。 おもとた や 言う時も有るしなあ。ジョオオモト ンネ (思っているのだ) 言う時も 有る しな。なん か (何か) しよ おと しとる (している) 時はな ジョオオモト タね けど (思つて居たのだが) 言うてな。ジョオ オモト タン けど (ていたのだが) あん た な (貴方が) 来た の ん (の) に 遊び ん (に) 行 こ い ね (行きましょうか) 言うて 一緒 に。

しよおおもとたねけど (しよおおもとたねけど) しようと思つて居たのだが しよおおもて参照

しよおおもとたや しようと思つて居たら

しよおか (しよわか) 1) しましようか。2) しません。

[会話] ① 今日は あれ ジョオカ 言うて 雑談 やる か (しましようか)。しましよ おか 言うのを ジョオカ 言う の (言います)。ジョオカ 言うのは 今 から、しましよ おか 言う やん ない (言うでしょう)。ジョオカイ 言うのは そい な 事 (そんな事) は し ない 言う 事 や (です)。ジョオカイ 言うて (言います) しや せん (しないです) 言う事や。ジョオカイ 言うのは 私 な (が) だ い ま あ (どれどれ) ジョオカイ ナア (しましようか) 言う (言います)。わし な (私が) ジョオカイ ナア 言う時は 自分 が 仕事 を しよ お 言う時と 自分 の 物 に しよ お 言う時と。そして 私 や (は) 仕事 ジョオカイ ナア (始めようか) 言うのも有るし、私 や 此 自分 の もん (物) に ジョオカイ ナア 言うのも有る。② そい な こ た (そんな事は) わし ら (私は) ジョオカイ 言うて しや せん (しない) 言う事やなあ (です)。ジョオカイ 言うて 上 む いて 上 つ て く (語尾の発音が強くなる) と しや せん (しない) の な し (です)。わし な (私が) ジョオカイ ナア 言うのは わ が と (自分) する 言う事やなあ。ジョオカイ て や ら (とか) しや せん わ いて や ら 言うてなあ。お前 それ した やん ない て や (でしようと言え) そんな こ た (事は) わし や ジョオカイ (私はしません) 言うて。仕事すん の

も(するもの) わしな (私が) ショオカイナア言うのも有るし したないのに (したくないのに) ショオカイ (しません) 言うのも有るし みよおなんてや (変なのです)。

しよおかい(しょうかい) 1) しません。して居ません。しよおか参照 2) しましよか。

しよおがいた(しょうがいた) 【名詞】 生姜の入った六角形、板状の砂糖菓子。生姜糖(上、阿)

しよおかいなあ(しょうかいなあ) しょうかな。しよおかい参照

しよおがくさつとる(しょうがくさつとる) 根性が悪るい

じよおかげん 丁度よいこと

じよおがこ(じょうがこ) (常水夫) 【名詞】 いつも雇って居る水夫、転じていつも雇っている人、又出入している人 [会話] ジョオガコや(だ) 言うて、じよおく (いつも) 雇とる (雇っている) 人、ジョオガコや 言うて。そすと 医者へ いつも通よとる (通よっている) 人も ジョオガコやなあ (です)。

じよおがし(じょうがし じゃうがわし) (上菓子)

【名詞】 上等の菓子。生菓子。[会話] ジョオガシ、ええかしん (よい菓子) あの人な (が) 呉れるかしやん (菓子は) ジョオガシで 旨いなあ 言うて 上等のかしん (菓子) を、ジョオガシ 言うてなあ。

しよおかち(しょうかち、せうかち) 【名詞】 婦人の尿道炎、淋病、小便の出にくい病氣。始め症状より消渴と云い、痲瘍して飲を欲し、小便が出ない病(大言海) 後、婦人の淋病に転じた(大言海)(南) [会話] ショオカチの しょんべ (小便) 言うて ショオカチや (です)。あのひた (人は) ショオカチや (だ) チョロ チョロ しとると (して居ると) あや (彼は、あれは) ショオカチの しょんべ みたよなあ (のようだ) 言うて (言います)。熊さん 淋病 かか (婢) ショオカチ言うて かまよ おった (からかいました)。

しよおがつ(しょうがつ、しゃうぐあつ) 【名詞】 正月 しょうぐわつでなくて しよおがつ(三重県全域) [会話] しょんがつ (正月)、まあ いくつ寝ると ショオガツや(だ) 言うてなあ。盆よ来い来い しょんがつ (正月) は来るな 若い姉らに 年が行く言うて 盆や盆やと(だ) おもとるうちん (思っている間に) だんだん (次第に) 近寄る沖の舟や(です)。

しよおがつぎ(しょうがつぎ、しゃうぐあつぎ) 【名詞】 正月中に焚くための薪。常に心掛けて良質の物を準備しておく(尾、北)

しよおがつぎ(しゃうぐあつぎ) 【名詞】 正月用の晴着

しよおがつくさい 年末になって正月の気配がする。

しよおがつことば(しょうがつことば) (正月言葉)

【名詞】 改まった言葉。よそ行きの丁寧な言葉(正月には忌み言葉も有った)。[会話] ショオガツコトバ 言うて、昔は ついち (元旦) に 入る (他家を訪問する) 時かい (ですか)。“もろもお (もの申す)” 言うて “どおれ” 言よ おったんてわい (言ったそうです)。そんな (それが) ションガツ言葉なあ (です)。そいな つね (常、平常) 使わせんもんで (無いので) ションガツ言葉や (と) 言うて。そして しょんがつ には だ “明けまして 御目度う” とか言うて みんな (皆が) 改まるわいなあ (改まります)。ついち にや (元旦には)、そやもんで (それで) ショオガツコトバ 言うて。丁寧な言葉使うと ションガツ言葉や (だ) 言うて 昔は 袴 で “もろもお (もの申す)” 言うて、入ってくと (訪問すると) “どおれ” 言よ おった (言うて居た)。ショオガツコトバやなしん (で無くて) ションガツ言葉 正月言うのを しょんがつ 言うの (言うのです)。“しょんがつ つもの は よいもの や あつかい (赤い) べ べ 着て ちゃら 履いて 雪 より しいろい (白い) まま (飯) 食べて だいこ (大根) より おつきい (大きい) 糞 たれた” 言うて 子供の時分言 よ おったの (言うて居たのです)。普段でも 改まった ええ (よい) 言葉使うと ションガツコトバ で 言うて (言うて)。つね (平常、いつも) なら “早いなあ” 言うのを 正月 ん (に) になると “お早おさん” とか “お早お御座居ます” とか 丁寧な言葉使うでしょう。そして “明けまして 御目度う” 言うて みんな (皆) 年始する時 や (は) する やんかい (するで有りませんか)。そやもんで (それで) ションガツコトバ 言 うん やろ (言うのだろう) 思 う ねて や (思うのです)。普段でも ちよいと (少し) 改まると 丁寧な言葉使うと ションガツコトバ つ こ て (使って) 言うて 言 う わ な (言います)。つね 言 う な (のは) 日頃、普段の事 つね や 言 う て。

しよおがつどん(しょうがつどん) 【名詞】 正月、大晦日の豆蒔き。

しよおがつのもちくいかげ 【名詞】 正月過ぎに流行する風邪 流感

しよおがない(しゃうがない) 仕方が無い(志、桑郡、安)

しよおがねえ(しょうがねえ) 仕方が無い(志(立神、

国府、安乗) [会話] ショオナ (が) ネエわれ (無い) まあ そげん (そんなに) のおな言うてくや (お前が言ってくれば) それしたらな (してやらなければ) ショオガネエわれ 言うてな。そして 子供らな (が) 言う事 聞かへんと (聞かないと) しょおな無い子やなあ (だ) 言うて。仕方が無い言うの (のを) ショオナ (が) ネエわれ まあ言うて。しょおな無い けど (が) これしたらななあ (してしまわなければ) 言うて。

しょおかれ (しょうかれ) 1) しません 2) しないだろう

しょおかん (しょうかん、しゃうかん) (傷寒) 【名詞】
寒い 感冒 しょおかんかぜ参照

しょおかんかぜ (しょうかんかぜ) (傷寒風邪) 【名詞】
高熱を伴う疾患。[会話] 乞食のショオカン、ショオカンカゼ言うて。ショオカンカゼな (が) はやった (流行した)。乞食のショオカン ぼろ (襤褸、小雨) きて (着て、来て) 西やれ (西風だ) 言うて、ぼろな (小雨が) 来ると 西の風な (が) 後から吹いて来る やんない (でしよう)。

しょおがみそ (生姜味噌) 生味噌に生姜を刻んで入れたもの [会話] 生姜 こまこお (細かく) 千切りん (に) 刻んでなあ それ 味噌に まめんで (混ぜて) ショオガミン。

じょおき (じょうき) (蒸気) 【名詞】 1) 蒸気汽船。(志鳥(答志)、名、三、鈴郡) 2) 湯煙 [会話] 1) ジョオキ。汽船の事を ジョオキ言うし、2) 湯煙の事 湯気の事 ジョオキや (と) 言うし。紀州航路で 汽船な とおりよおったもんなあ (通って居ました)。あやあれ (あれ) ジョオキな (が) 来たれ (来ました) 言よおったなあ (言って居ました)。ジョオキな (が) とおられ (通る) 言うて、おらな (俺達の) 朝鮮行くの (のは) ジョオキで行くのやれ (行くのだ) 言うて。紀州航路言うて有って。大阪い (へ) 迄 紀州を 浦、浦をつけて行くので、紀州航路言うて。どこやあと (何処でも) ここやあと (此处でも) ちっちゃあい (小さい) 港でも 皆 つけよおった (着けて居ました) 鈍行や (です) 言うて。波切いなあ (へ) 行きよ おったんけどなあ (行って居たのだが) わしら 荷物な (が) 多いもんで (ので) 此処らで 乗せてもるて (貰って)。一人まわり (一人当り) 桶やてら (とか) 布団やてら 持って行て 櫃や行李や (だ) 言うて 一人まわり 三つ四つ (三、四ヶ宛) 有りおって (有って)、そんな (それが) みんな おつきいんやん

かい (皆大きいのです)。桶 こいなのおを (のを) ふたあつ (二ヶ) 重ねてすんねよって (するから) どいらいんやんかい (大きいのです)。そやもんで (それで) 荷物な (が) よけ (多く) 有るもんで (ので)。波切い迄行こ (行こう) 言うて 大八 (大八車) で曳いて 行きよおったんやんかい (行って居ました)。そやもんで えらいんやんかい (大変なのです)。汽船へのん (乗るのに) 波切い (へ) 荷物 曳いてくねやんかい (曳いて行くのです)。そやけど あんまり (あまり) えらいもんで (大変なので)。ふたあ組 (二組) も 山中組と 長崎組と ふたあ組な (が) いちにちん (一日に) 紀州航路ん (に) 乗るとすると 大勢やもんで 郵船会社へ交渉して 此処い (和具の浜へ) 着けて呉れ言うて 石ケの浜から 乗った事もあんの (有るのです)。波切い (へ) 行く時や (は) えらいんやんかい。家族づれで行かなほざんね (行かなければ駄目です)。荷物曳いて 行くねよって (行くのだから)。紀州航路で 浦、浦廻って 大阪い (へ) 行くのん (のに) みつか (三日) 位 かかよおった (かかって居ました)。浦々廻つとるもんで (て居るので)。

じょおき (じょうき、じょうき) (上気) 【名詞】 のぼせること。頭がぼうとする事。[会話] ジョオキする言うて、のぼせる。ジョオキして来た言うてなあ。ぞおき言うやんかい (言います)。暑いと最後 (その時) ぞおきしてくよおな (して行くようだ) 言うてな、暑つうて暑つうて ぞおきしてくてやら (して行くとか) 人な (が) 一杯 つんどると (混雑していると) おおたまあ ぞおきしてくよおな (して行くようだ) 言うてな。

しょおぎさし (しょうぎさし、しゃうぎさし) 【名詞】
将棋をする人 棋士

じょおきする (じょうきする) 1) のぼせる (熊) 2) 夢中になる

しょおきづく (しょうきづく、しゃうきづく) (正気付) 【自力五】 1) 気を失って居たり、ぼんやりして居た状態から正常な状態に戻る。2) 悪業をしていた者が、目覚めて正常な生活に戻る。[会話] 1) きい (気) 失のとるとなあ (失なって居ると) ま ショオキツイテ 来たかして (と見えて) そや (それ) いごいて来たれ (動いて来ました) 言うてな。2) それと まあ ぐれとてな 性根な (が) 治ると ショオキツイテ来たかして そや 言うてな ぐれとんのな (ているのが) 治りかけて来ると。

じょおきやく (じょうきやく、じょうきやく) (常客、上

客【名詞】1) いつもの客、常連。2) 上客、上等の客。[会話] ① あしこ (あすこ) の ジョオキヤクやなあ (だ) 言うて。買いもん (物) に じょおく (いつも) 来てくれる 人は、ジョオキヤク 言うしなあ。じょおく 遊びん (に) 来る人も ジョオキヤクやれ (だ) 言うてな。② どいらいええ (大変よい) 客 ジョオキヤクやなあ (だ) あや (彼は) 言うて じょおれん 言うな (のは) 飲み屋い (へ) 行く ジョオキヤク も常連言う。

じょおく (じょうく) いつも、常々、度々、始終。
[志 (布施田)] [会話] いつも言う事な、ジョオク来とんね (来ているのだ) 言うてな ここい (へ) ジョオク来とんね。芋飯 ジョオク食とる (食べている) とか言うてな。ジョック 言う時と ジョオク 言う時と一緒の言葉やけどな (だが) ジョック まあ よばれてのお (頂いて) 言う時もあるし、ジョオク あんたげ (貴方の家) で 世話ん (に) なってなあ言う時もあるしなあ。

じょおくんをわたす (しょうぐんをわたす) 家督を譲る
[会話] しんしょ (身上) 渡した言うて。財産を、ジョオグンヲ ワタス。将軍 (大将) の後を貰らうわけや (です)。

じょおげ (じょうげ、じゃうげ) (上下) 船の一回の航海。
[志] [会話] 船な (が) ひとこおかい (一航海) して来んのを (来るのを) ジョオゲ。ヒトジョオゲ フタ (二) ジョオゲ言うなあ (言います)。かと船な (艫舟が) ヒトジョオゲ いて来た (行って来た) 大漁やったなあ (だった) 言うて。今度 又 フタジョオゲめい (めへ) いたよお (行きました) 言うて。行てから (行ってから) 来る迄を ヒトジョオゲ。魚 釣つて 家い (へ) 渡しん (魚市場に出荷する) くんのを (来るのを) ヒトジョオゲ。

じょおけん (しょうけん、しゃうけん) (正絹)【名詞】まじり物の無い絹、又は絹織物

じょおこ (しょうこ、せうかう) (焼香)【名詞】死者や佛に香を焚いて拝む事。しょうこうの末尾母音の省略
[会話] 焼香する言うのを ジョオコ して来な (来なければ) 言うて。引つ張らんと (張らずに) ジョオコ 言うて。

じょおこと (しょうこと、せうこと) 1) なすべき方法、仕方、仕様。せうはセ (爲) むの音便 (大言海) センコトの転 (広辞苑) 2) する事 [会話] ② そげな (そんな) 事 ジョオコト なら、これを 皆 ジョオコト なら言うてなあ。じょおぶん なら (するのなら)

つらまし (辛い) よおななあ (だ) 言うて。したない (したくない) 事な (が) 有ると むつかし (難かしい) 事な (が) 有るとなあ。よけ (沢山) 仕事な (が) 有つてなあ これを 皆 せなはざんねかいな (しなければいけないのか) おもた (思った) 時ん なあ (に) おおた 此れ ジョオコト なら 言うてなあ。

じょおことない (しょうことない)。じょおことなし (しょうことなし、せうことなし)【名詞】1) 仕方なし。止むを得ず (志 (布施田、甲賀)) 2) 有つても無くてもよい事。[会話] ② “ジョオコトナシの まごぶしや (馬子節だ)” 言うて (言います)。ジョオコトナシやなあ (だ) そや (それは) 言うて、有つてもよしのおても ええのを (無くてもよいのを) ジョオコトナシやなあ 言うなあ (言います)。馬子節や (は) 有つてもおても ええ (無くてもよい) 事やなあ (です)。

じょおさい (しょうさい) (潮際)。じょおさいふぐ【名詞】1) しょうさいふぐの略。マフグ科の海魚。日本沿岸で普通に見られるフグの一種、全長約 35 cm、体色は暗褐色の地に青みを帯びた不定形の斑紋が有る。腹面は白い。マフグやゴマフグに似て居るが、しりびれが白いので区別出来る。卵巣、肝臓には猛毒、肉は弱毒性で少量ならば食用にしても危険は無い。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗、鳥)) 2) あちらこちら出歩く人[会話] ② 河豚 ジョオサイ 言う。和具のおなご (女) と ジョオサイフグ は おらんと かと (所は) 無い どこんでも (どこにでも)。どこい (へ) でも行くとな、あや まあ ジョオサイフグ で、どこい (へ) でも いとんね (行っているのだ) 言うて。よお (よく) 出歩く にげ (人間) をなあ ジョオサイフグや (だ) 言うて。あや (彼は) まあ ジョオサイフグ で 何処い (へ) でも まいこ ますねよって言うて。

じょおさいにおさめとけ (しょうさいにおさめとけ) 内密に事をしておけ [会話] ジョオサイニ、おだや かなあ 話を じょおや (しましよう) 言う事を ジョオサイニ オサメトキヤ (ておけば)。事、あらたてんと (荒立てずに) 言う時も ジョオサイニ 言う時な (が) あんなあ (有ります)。

じょおざかな (じょうざかな) (上魚)【名詞】大衆向きでない魚。上等の魚。[会話] うまない 魚、下魚 ぼつかより (ばかりより) よお食わんし (食べれないし) 言うて、ジョオザカナ よおくわんし おらまあ (俺は) 安い 下魚 ぼつか こおて 食とんね (買って食べ

ているのだ 言うて。

じょおさし (じょうさし、じゃうさし) (状差) 【名詞】
柱や壁などに掛けて、郵便物など書状を差し入れておくもの。[会話] 手紙さすの ジョオサシ言う。ジョオサシ使よおった (使っていました)。

しょおし (しょうし) (笑止) 【形容詞】 1) じれったいさま。(志 (浜島)) 2) ばかばかしいさま。恥かしいさま。[会話] 1) あや (彼は) ショオンやなあ (です) 言うて 鈍くさい (鈍な) 人を あや (彼は) なんさしても (何をさせても) ショオンでまあ言うて。下手な事するもんで (ので) ショオンなよおな (ようだ) 言うて。見とると (見て居ると) あげんもすや (あんなにもすれば) ええのん (よいのに)、こげんしたや (こんなにしたら) ええのん 思うやんない (でしょう)。そと (すると) あんな (彼が) しとるこた (事は) ショオンなよななあ (ようだ) 言うて。その時は 自分が代ったろ (てやろう)、あの人 が 頼りない じれったい言うよおな 気持ちん (に) なるなあ (なります) ショオンなよな (ようだ)。だれまあ (どれ) おんな (俺が) したろかいなあ (してやろうか) 思うよおな時をショオンなよななあ 言うて。

じょおし (じょうし) (漁師) 【名詞】 漁師。漁夫。魚を取る人。[会話] ジョオン りよおし言わんと (漁師言わずに) ジョオン言うね (言うのです)。

じょおじ (じょうじ、じゃうじ) (常時) 【名詞】 いつも、常に。(志 (浜島)、鳥 (桃取)、桑郡、員、鈴市、度) [会話] いつも言う事を ジョオジ言うのなあ (のです)。ジョオジ来て言うて。ジョオジ 世話ん (に) なっててやら (とか) 言うて。

しょおじあぶら (しょうじあぶら) 【名詞】 菜種油、動物鯨物以外から取った油。(志 (布施田、甲賀)、鳥) [会話] 菜種油を ショオジアブラ言うてな、昔や (は) たあいも (田へも) 夕方ん (に) なる と 虫な (が) 寄って来るよんなあ (ように) さんばあししといて (しておいて)、それい皿乗せて、ショオジアブラちよいと (少し) 落しといて (ておいて) としみしといて (燈芯入れて) それい ひい (火) つけとくと (つけておくと) 夕方ん (に) なる と それい 皆なあ 虫な (が) 寄ってくんね (来るのです) 飛んで火にいる夏の虫や (だ)。それで 夕方ん (に) なるとなあ、田持ちの人ななあ (が) そげんしよおった (そんなにして居ました)。

しょおじおとし (しょうじおとし、しゃうじおとし) 【名詞】 しょうじんおとし 忌み事の終り しょおじがた

め参照 (志 (布施田))

しょおじがため (しょうじがため、しゃうじがため) 【名詞】 しょうじんがため 物忌みする前 精進する日の前に御馳走を食べて精進に備える事 [会話] ショオジガタメ言うてな 盆の 十二日んなあ (に) ショオジガタメで言うてなあ、十二日ん (に) なる と ごつつお (御馳走) して くよおったわい (食べて居ました)。つね (平素) に 芋飯、麦飯ばつか (ばかり) く とるやんない (食べているでしょう)、十三日は 米の飯 炊くねけど (のだが) 十二日や (は) 盆な (が) 来やせんけど (来ないけれど) ショオジガタメや (だ) 言うて、そすと 十六日なる と ショオジオトシ言うて、しょおじな (進精が) 落ちて 魚 食うても (食べても) なん食うても (何食べても) ええ (よい) わけや (です)。ショオジガタメしたると (してやると) 魚は ショオジガタメしたよって (から) 言うて、盆中は魚のもん (物) せらったけどなあ (しませんでした)。

しょおじがみ (しょうじがみ、しゃうじがみ) 【名詞】 障子紙。障子を張るのに用いる紙。主に美濃紙をつなぎ合せて巻いた物を用いた。(熊) [会話] 障子を張る紙、ショオジガミ。

しょおしがる (しょうしがる、せうしがる) 【自ラ五】 気の毒に思う 哀れに思う

しょおじだこ (しょうじだこ) 四角な呷 (津、多)

しょおしな (しょうしな) 片腹痛い、生意気だ。(志 (浜島、甲賀)) [会話] ショオンシな程 ショオンシナ言うて そばはずかし言うのを、人な (が) ひん作ってすると はずかし (恥かしい) よおな 思いな (が) する時な (が) 有るやんな (でしょう)、人な (が) しとることを (して居る事を) そいなのおを (そんなのを) ショオンシなよおな (ようだ) 言うて そばはずかして ショオンシなよおななあ (ようだ) 言うて。そば (側) のもんらな (者が) はずかしね (のです) そいなのお (そんなのを) そばはずかし ショオンシナ言うの (のです)。

しょおじび (しょうじび) (精進日) 【名詞】 精進する日。肉食をやめて精進する日。斉日、忌日、神佛の命日。(志 (神明、立神、甲賀)) [会話] ショオジビ言うて 死んだ人の その 死んだひい (日) を ショオジビ、命日の事をなあ (です)。今日はまあ 爺やん (さん) の ショオジビやれ (です) 婆やんな (の) ショオジビやれ言うて、死んだひい (日) の事。死んだ ひい を 今日 三日に 死ぬやんない (でしょう)。そすと

(そうすると) 又、来月の三日な (が) ショオジビな あ。そして 二十三日な (が) 三のつく日を ショオジビにするわい (します)。昔は 精進しいおったんやろなあ (して居たのでしょうか) 丁寧に、なまもん喰わんと (魚肉類食べずに) そんで (それで) ショオジビ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。年忌は とりこし (命日より先に御祠をする事) するけど (が) 前の日にしたる (してやる) けど、後で ほんと (本当) のショオジビは又 別、ほんと の ショオジビは 三日に死んだら 三日が ショオジビ又 らいつき (来月) の三日な (が) ショオジビ 今日は 爺やんな (の) ショオジビやよってん (だから) 言うて。あのなあ 丁寧に うちな (家は) そのさんち (三日) になると十三日とか 二十三日 (にじゅうさんち) とか その三のつくひい (日) も 皆 ショオジビに 昔はしいおったけど (して居たが) 今はそんな事しやへんなあ (しません)。そいな (そんな) 事しとたら (して居たら) 古い家は 毎日が ショオジビや (だ)、そおやてや (そうです)。古い家言うて 五十年たつとしまいやんかい (終りです) 年忌は、そやよってん (だから) 五十年たった人は 抹消したんね (してしまうのです)。五十年迄は そげんして (そんなにして) 年忌とう (行う・申う) けど 五十年経つと 年忌とわんでも ええんやんかい (よいのです)。五十年すると しまいやもん (終りです) こんで (これで) 年忌は しまいやよって (だから) 言うてする家も有るし、まあ なんも (なんにも) 力な (が) 無いうちや (家は) せんでも (しなくても) 詣とくだ (ておくだ) けで (ておくだ) けで。力 言うな (のは) かねな (金銭が) 有って 爺やんな (の) しまい (終り) の 年忌やよって (だから) 配りもん (物) でも しょおやんかあ (しましよう) 言う家も有るし 力な (が) 無いうちや (家は) 和尚さん頼んで 念佛となえて そんでええんけどなあ (それでよいのです)。力な (が) 有って しまいの 供養やよって 言うてする人も有るし。かいしよ (甲斐性) の無いもな (者は) おっさん (和尚さん) と 念佛もろときや (貰っておけば) そんでええわけやわい (それでよいのです)。

じょおじょ (じょうじょ、ぢやうぢやう) (常住)

【副詞】常に いつも (志、尾)

しょおしよ (しょうしよ) (少少) しょおしよお 【名詞】 少し。多少。(三重県全域) [会話] 広の浜い (へ) かみのい (龜) の卵 掘りん行こや (に行きましょう) 言うて、ひととこ (一ヶ所) 掘ると ぎよおぎよし

(仰々しい、大変) 程 一つ 見つけると ショオシヨのものやあるかい (物ではありません)。木でも ショオシヨ 曲げても 粘りの有る時や (は) 弓みたいに (のように) なる。

じょおじょ (じょうじょ、ぢやうぢやう) (上上)

【名詞】この上なくよい事。最もすぐれていること。又そのさま。最上。[会話] ジョオジョやなあ (だ) こやまあ (これは) 言うて、一番 ええ (よい) 事なあ (です)。ええ 事すると こや (これは) ジョオジョやなあ 言うて、しなもんな (品物が) ええと おおた こや ジョオジョやなあ 言うて、ほして 結婚話でも まとまと ジョオジョやったなあ (だった) 言うて。

しょおしよのもの (しょうしよのもの) 【名詞】一筋縄でいかぬ者。(志(布施田)) [会話] あやまあ (彼は) ショオシヨノモンやねえわれ (者で有りません)。口な (が) えろおて (偉くて) あんなくちや (彼の口は) ショオシヨノモンやあるかれ (で有りません) 言うて。こんじよな (根性が) 偉いとなあ (しっかりして居ると)。こんじよの わり (悪い) のも言うし、心のわり 人や 口の偉い (よく喋る) 人を ショオシヨノモンやない (者でない)。並はずれて 偉いの ショオシヨノモン (者)。偉つそぶつて (偉ぶつて) わし (自分) 程えらいもん (者) 無い言うよおな顔をするやろ (するでしょう)、そんな時なあ (に) ショオシヨノモンや無いんてや (無いのです) 言うて。ものいい (話し方) でも する事でも 何でも 人よりなあ はぐれた (はずれた) 事 するときいご (する時) あや (彼は) ショオシヨノモンや (で) 無いねやれ (無いのだ) 言うて。子供な (が) おっちやくしとでも (横着していても) おっちやくよもな (横着者で) ショオシヨノモンや、ねえねてや (で無いのです) 言うて。目に余るよおな時に使うのなあ (使います)。

しょおしよのものやない (しょうしよのものやない) 一筋縄でいかぬ者だ しょおしよのもの参照 (志(布施田))

しょおじる (しょうじる、しゃうじる) (生) 【自ず上一】ある作用や事態がおこる。うまれる。発生する。[会話] 出来て来た事。ショオジル言うて、出来て来ると 最後 (その時) ショオジレキタナア言う。

しょおじん (しょうじん、しゃうじん) (精進) 【名詞】肉、魚をやめ菜食すること。物忌みすること。(志) [会話] 魚、食べんと (食べずに) ショオジンや (だ) 言うてな。なまぐさもん (物) 食わんと (食

べずに ショオジン料理や (だ) 言うて、魚 使わんとすんの (使わずにするのを) ショオジンリョウリ。なんも (少しも) さかなけしやせんと (しないと) ショオジンしとんね (しているのだ) 言うて。

しょおじんあぶら (しょうじんあぶら) 【名詞】 菜種油 植物からとった油 しょおじあぶら (志、度)

しょおじんおとし (しょうじんおとし、しゃうじんおとし) (精進落) 【名詞】 葬式や法事などの後の酒宴。

(熊) [会話] ショオジオトシ言うな (のは)、しょおじがため言うて、精進を みっか (三日間) なら 三日 なまもん (生物、魚、肉) を喰わんと、しいおつたの (食べずにして居たのです)。しょおじがためで 三日なら 三日精進すると ショオジオトシ言うて こんだ (今度は) それから先は 精進せんでええんやんかい (しなくてよいのです)。

しょおじんがため (しょうじんがため、しゃうじんがため) (精進固) 【名詞】 1) 肉食をやめ、菜食する事。物忌みすること。2) 盆の日の前日に、御馳走して食べる事。[会話] ① ショオジンガタメ言うて、こつごもん (十二月三十日に) になると 五目 (混ぜ御飯) して、盆には 十二日ん (に) になると ごつつお (御馳走) して 十六日ん (に) になると しょおじんおとし 言うて ごつつおしたの (御馳走したのです)。

しょおじんに (しょうじんに) (精進蟹) 【名詞】 蟹の一種。イワガニ科の中形のカニ。東北地方以南に分布し、岩礁の磯にすむ甲長4cm、甲幅4.5cm程の丸みを帯びた四角形で、前側縁は粗い鋸歯状となっている。全体に暗紫赤色で、はさみ脚は短く、橙赤色の顆粒が並び、歩脚の前縁には9~10個の鋸歯状の突起がある。食用。[会話] 網掛けい (に) 掛けて来る 蟹 あれショオジンガニ言うんやかなあ (言うのでしょうか)。あや (あれば) まあ ただ、がに がに言うてな、ほして てっぽがに言うななあ ごおたな (甲羅が) ちごどるし (違っている) おやまがに 言うのも ちごどるけど (違っているが) 網掛けい (へ) かかん (掛かるのは) がにや (だ) 言うてな。

しょおしんしょおめえ (しょうしんしょうめい、しゃうしんしゃうめい) (正真正銘) 【名詞】 まったく、嘘いつわりのない本物であること。全く間違いない事。[会話] ショオシンショオメエの しなもんやれ (品物だ) 言うてな。確かな なんも (少しも) 混じり気なしん (に) まぜりけ (混じり気) の 無いもん (物) をなあ、ショオシンショオメエや (だ) 言うて すばらしもん (素晴らしい物) をなあ。

じょおず (じょうず、じゃうず) (上手) 【名詞】 御世辞。おべっか。(志、員、上、阿、張、南) [会話] 口もジョオズで言うて、口な (が) ジョオズで お前なあ なんしたてて (なにをしても) ジョオズでなあ かしこおてなあ (賢くくて)、えろおてなあ (偉くくて) 言うて ジョオズ言うのを ジョオズ、お世辞 つこて (使って) 言うのな (です)。ジョオズ つこて 言うてなあ 口な (が) ジョオズで言うて。

じょおずいい (じょうずいい) (上手言) 【名詞】 御世辞を言う人。おべっか使い。[会話] まいすこいて (お世辞を言って) 上手言う人を、あや (彼は) ジョウズイイで 言うんかい (言います)。

じょおずぐち (じょうずぐち) 【名詞】 おべんちゃら (上、阿)

しょおずくなる (しょうずくなる) 屈む。 (志 (甲賀)) [会話] ううな (鶴が) つび (女陰) 干した くらいやなあ (だ) 言うて。あげんしとると (あんなにしていると) ショオズクナル そや (それ) たちやがとらんと (立っていないくて) ショオズクナッテ せえまあ (しなさい) 言うてな。

じょおずつこて (じょうずつこて) おべっかを言うて。

じょおずもん (じょうずもん) (上手者) 【名詞】 如才のない人。お世辞のうまい人。(上、阿、張、名、南) [会話] ジョオズモン。あんた (貴方は) おおた (あゝ) 金な (が) よけ (沢山) 有って、なんもえろおてなあ (なんでも偉くくて) かんもえろおてなあ 言うて 上手言うのを ジョオズモン 言うて。そやすやんな (誉める、おだてるでしょう)。それを ジョオズモン。誉めて 上手言うてすんの (するのを) ジョオズモン。

じょおずゆう (じょうずゆう) おべっかを使う。お世辞を言う。(志 鳥、坂手、阿) [会話] ジョオズユウ、言うななあ (のは)、人な (が) 満足するよおん (ように) 上手に言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。お前や (は) ほんとん (本当に) なんさしたてて (なにをさせても) 偉いなあ、りこお (上手) でなあとか言うてな、その人な (が) ええ (よい) ことばっか (ばかり) 言うのな じょおずん (に) 言うてな。

じょおする (じょうする) 錠をする 戸締りをする (熊)

じょおせき (じょうせき、じゃうせき) (上席) 【名詞】 上の人座るべき席。上座 (かみぎ)。[会話] ジョオセキ言うな (のは) 上手の席 言う事かい (ですか)。偉い人な (が) 座るとこ (所)。

じょおせき (じょうせき、じゃうせき) (定席) 【名詞】

いつも座る場所。[会話] じょおく (いつも) 座つとる (ている) とこ (所) をなあ、じょおせきや (だ) おらも (俺も) 此処な (が) じょおせき、じょおせき い (へ) 座る。

じょおそく (しょうそく、せうそく) (消息) 【名詞】

1) 便り、手紙。2) 動静、その時のありさま。[会話] 1) ショオソクを 絶ってしもた (しまった) 言うてなあ、便りな (が) 無いとなあ まあ ショオソク 絶つとんねよお (ているのだ)、どこんおんねやら (何処に居るのか) わからせんねよお (ないので) 言うて。飛行機でも ショオソクを絶って言うやんかい (言います)、通信な (が) 無いとなあ。

じょおぞく (しょうぞく、しゃうぞく) (装束) 【名詞】

身支度、いでたち、衣服、着物。(北、南) [会話] ショオソク言うな (のは) 着物。シロショオソクとか、いしょぞろい (衣装揃え) すると、ショオソク 見よまい (見なさい) 言うて 着るもん (物) を ええの (好いものを) 着ると ショオソクの ええの見よまあ とか。着物着る事を 服 着とても (て居ても) 言うけど (けれど) ショオソクな (が) ええなあ言うけど (よいと言います)。みなりなええ (がよい) 事を、言うんや (言います) ショオソク言うて。

じょおたい (しょうたい、しゃうたい) (正体) 【名詞】

性質、根性、本性。そのものの実際の姿。[会話] あんなのか (有るのか) 無いのか ショオタイ表せ言うて、わしらな (私達) 櫓拍子に言うな (言います)。ショオタイ言うのは その人間の 性質を言うんかいなあ (のでしょうか)。ショオタイな (が) 有るとか、無いとか言うやんかい (言います)。あのひた (人は) ショオタイもあんなかい (有るのですか) 言うやんかい。ショオタイも あんなかれ (有るのか)、のらくら見たいなのおを (のを) 言うんやかなあ (言うのでしょうか)。ショオタイも無いよおな にげやなあて (人だなあ) 言うやんかい。こんじよ (根性) とか、あんな (彼の) ショオタイ見たわい (見ました)。しよおね (根性) 見たとか 言うて、その人の性格の事を あんで (あれで) 言うんかいなあ。そお言うよおな 意味やるなあ (でしょう)。ショオタイ表して来たれ (来ました) 言うよってんなあ (言うのだから)。気な (が) わり (悪い) とか こんじよなわり (根性が悪い) とか言うのを。つね (平素) は 賢しこぶってし とるけど (して居るが) あや (あれ) ショオタイ表して来たれ 言うて、よお言うやんかい (よく言うて有

りませんか)。

じょおたいうしなう (しょうたいうしなう) 泥酔する

じょおづかい (じょうづかい、じゃうづかい) 【名詞】

いつも使って居ること、又その物

じょおつきめいにち (しょうつきめいにち、しゃうつき

めいにち) (祥月命日) 【名詞】 故人の亡くなった月の命日 (度)

じょおった した。していました。[会話] ショオッタ

“よ” な (が) つくのな (です)。おらまあ (俺は) 若いこら (頃は) こげん (こんなに) ショオッタレ、こえ (肥料) 持ったり ショオッタレ、しいおったも 一緒や (です) ショオッタ言う時も有るし しいおった言う時も有るし。

じょおづっぱり (じょうづっぱり、ちやうづっぱり)

何時も 絶えず (志 (布施田))

じょおって して居て して居たが [会話] 此処い

(へ) よって (集まって)、話し ショオッテしたけど (したが) 今しゃ来やせんわい (今は来ません)。

じょおづみぐい 【名詞】 つまみ食い [会話] つかみぐ

い (つまみ食い) も ショオズミグイも 一緒やわい (です) ちよいと (少し) こおして食うのを ショオズミグイや (です)。

じょおて (しょうて) 【名詞】 1) この前、過日。しよて

参照 (志 (立神)、鳥 (国崎)) 2) 最初 始め (上、阿、張、名) [会話] 1) ショオテ言うんなあ (のは) 此の前の事。じょつく 言うな (のは) 毎日の事。

じょおて (じょうて) 【名詞】 両手。[会話] 両方のてえ

(手) 言うの (のを) ジョオテ言うねなあ (言うのです)。ほんと (本当) は 両手言うんけどな (言うのだが) ジョオテや (です)。ジョオテ 挙げた言うて。

じょおてから (しょうてから) 始めから (上、阿)

じょおでき (じょうでき、じゃうでき) (上出来) すぐれた出来映え

じょおと (じょうと、じゃうとう) (上等) 【形容詞】

物などの性質。状態、品質、品性などが優れている事。立派な事。[会話] ジョオト 素晴らしい言う事やけどな (です)。上等言うて おを付けん と (付けずに) ジョオト言うて とで切ったんのなあ (切つてやるのです)。ジョオトやれ (だ) 言うて。も一つ 縮めて ジョットやれ (だ) 言うてな。その時、時に依って言葉使いな (が) ちよいちよい (少しづつ) ちごてくんのなあ (違って来るのです)、同じ意味やけど。そんなもん (物) ジョットやれ (だ) 言う時も有るしなあ、これしたらはざんねけど (いけないのだが) 言うて来

る時んなあ (に) そんで (それで) ジョットやれ 言う時な (が) 有るなあ (有ります)。

しょおどい (しょうどい) しょうか いかにしょうか (志)

じょおとおはくらい (じょうとうはくらい) 上等の物 超一級の物 (上、阿、張、名)

じょおとかい (じょうとかい) 上等ですか。大丈夫ですか。[会話] こんでええかい (これでよろしいか) 言うのな、こんで (これで) ジョオトカイ言うて。そや はざんけど (それはいけないうが) ま ええわ (よろしい) 言うて。人ん (に) 問うん (に) こや ええかな (よろしいか) 言やええねけど (言えよいのだが) ジョオトカイ言うてな ジョオトヤレ (だ) 言うて。

じょおとだな (じょうとだな) (錠戸棚) 【名詞】 鍵のかかる戸棚。[会話] 押入れん (の) 中ん (に) ジョオトダナ言うのな (が) こしやえてあつて (作ってあつて)、ちよいとした (小さな) 筆箱みたいん (のように) して、錠な (が) かかかって その家 相当の重要なもん (物) 入れるだけの用意にして有りおつた (有りました)。

しょおともて しようと思つて

じょおとやれ 上等です じょおとかい 参照

しょおどれ (しょうどれ) するものか [会話] あんななあ (彼が) なんで 出世ショオドレ、せえしんな (精神が) わりもんなあ (悪いから) 言うて。

しょおない (しょうない) (仕様無) 【名詞】 仕方が無い。(亀、上、南) [会話] なるな (丸太が) 有ると こおて (買って) 来て、よっけ (沢山) 積んであつたや (有ったら) 今し (今) 邪魔ん (に) なつて ショオナイ。

じょおなぎ 【名詞】 風のよい事 よく風いでいる

しょおなない (しょうなない) 仕様が無い。仕方がない。[会話] 腹な (が) へつて ショオナナイよん (ように) なつた時 だるん (に) つかれた (取付かれた) 言うんやろ (言うのでしょう)。

しょおなないわい。しょおないわな (女性語)。しょおなないわれ (しょうなないわれ) 仕方がないです

しょおなら (しょうなら) するならば すれば

じょおなれ (じょうなれ) (常慣) あたり前であること 普通のこと 常 [会話] よけ (沢山) の家内、七人も八人もおつて、大家内やなあ (だ) 言うて。七人や八人言うな (のは) ジョオナレで、十人も言うと ちよいと (少し) 多い方で、家い (へ) はばからん (入

いらぬ) 程 有るわい (有ります)。

しょおなわり (しょうなわり) (性悪) 性質が悪い。性格が悪い。[会話] ショオナワリ言うと、しなもん (品物が) わりと (悪ると) こや (これは) ショオナワリなあ言うて にげ (人間) も ショオナワリいて (悪るくて) 言うて、引きする (盗み) 時や (は) あやまあ ショオナワリねよつてん (悪るいのだから) 言うてな、ちよいと (少し) 指な (が) 曲がる人はなあ あやまあ 生まれつき ショオナワリねよつてん 言うてな。たちな (性質が) わりとかなあ (悪るとか)。性質が悪いとか しなもん (品物) でも わりと。

しょおにあわん (しょうにあわん) 気が合わない [会話] しゃかんや (左官) と土こねや (は) ショオニアワン言う。

じょおにち (じょうにち、じゃうにち) (浄日) (上日)

【名詞】 よい日 [会話] わり (悪い) 日を 不浄日 言うて ジョオニチ 言うのは ええ (よい) 日。

しょおにん (しょうにん、しゃうにん) (商人) 【名詞】 仲賣人。あきんど参照 (熊) [会話] 市場のショオニン 商売人 なかがいし。

しょおね (しょうね、しゃうねだま) (性根) 【名詞】 精神、心、根性、性根。行動、言語などのもとになる根本的な心の持ち方。しっかりした心。たしかな心。正気。本質的な部分。核心。(北) [会話] ショオネな (が) わり (悪い) 言うな (のは) 根性な (が) 腐つとんねよつてに (て居るのだから) 言うて、心な (が) わり 言う事。なんやかや すんのも (するの) ショオネな (が) 無い言うけど (言います)。ショオネな (が) のおて (無くて) 忘れたたよお (てしまった) 言うし、そして ショオネだま 言うななあ (のは) こんじよの、心の事 言うねや (言うのです)。あや (彼は) ショオネだま な (が) 腐つとんねよつて 言うねよつて (言うのだから)。ショオネ言うのは 気持ちとか 心の事 を。なんでも (何でも) 忘れると ショオネな (が) のおて (無くて) じっきん (すぐに) 忘れた言うねよつてん (言うのだから)。

しょおねいれたれ (しょうねいれたれ) 叱つてやれ 懲らしめてやれ [会話] あや (彼は) まあ ショオネイレタラな はざんわれ (てやらなければ駄目だ) 言うて。ぐれとて (ていて) すん (するのを) まあ そげん (そんなに) しとたら (していたら) はざんやんか (駄目でないか) 何時まで そげんしとたら 嫁も 貰わんならん ん (のに) 言うて、注意してな ショオネイレタラな はざんわれ (なければ駄目だ) あや

(彼は) 言うて、たちな (性質が) わりいて (悪く) 言う事 聞かんですんのを (いるのを)、注意してやれ。

しょおねいれる (しょうねいれる) 1) 本心に帰らせる。こらしめる。2) 一生懸命です。(志 (布施田)、上、阿) [会話] ① なんやら (何か) すると、ショオネイレテ貰え言うてなあ。ショオネイレテ貰う 言う事も 言うんなあ (言います)。ショオネイレテ もらわなはざんわれ (貰わなければ駄目だ) 言うてなあ (言います)。
しょおねうしなう (しょうねうしなう) 1) 酔いつぶれる (南、熊) 2) ある物に熱中し、他を考える余地が無い

しょおねえ (しょうねえ) 仕方がない。[会話] ショオネエワ シャアネエワ言う。シャアネエワ (です)。今日は あれやけど (あれだか) シャアネエワ言うて。仕方が無い言う事を 言うのなあ (言います)。ショオナイシ 今日 やめとこやんかれ (止めて置きましょう) 言うのなあ (言います)。

しょおねがつく (しょうねがつく) 改心する しょおねづくに同じ しょおねがいはる参照

しょおねがない (しょうねがない) 1) 根性が無い 2) 物忘れする

しょおねがいはる (しょうねがいはる) 改心する。精魂込めてする。[会話] ショオナ (精が) ハイッタとか、ショオネナ (が) ハイッタとか言うてなあ。人ん (に) 意見しやれたのおを (されたのを) 聞いて守る事なあ ショオネヅイタ 言う ショオネナ (が) ツイテ来た 言うのも有るしなあ。

しょおねだま (しょうねだま、しゃうねだま) (性根玉)
【名詞】根性 だま、たま、魂、たましい、靈魂、万物にやどり又遊離しやす状態。しょおね参照 (上、阿、北、尾)

しょおねづく (しょうねづく) (性根付) 1) 本心に帰る。(志 (布施田)) 2) こりる。[会話] ② ショオネヅク程 どぐらしとけ (叩いておけ) 言うて、こららわるう (子供を叱る) と 言うやんかい (言います)。ショオネヅク程 どぐらしとかな (ておかなければ) 此の がきや (子供は) 言う事聞かんで (聞かなくて) 言うて、わるいおったなあ (叱って居ました)。えごつと (充分) に 改心する迄言う事を ショオネヅク言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

しょおねなし (しょうねなし、しゃうねなし) (性根無)
【名詞】1) 心持ちのしっかりしない人。2) 物忘れの早い人。(志 (甲賀、国府、安乗)) [会話] ② ショ

オネナ (が) ナイ言うのは じっきん (すぐに) 忘れたんのを (てしまうのを) ショオネナシよ 言うて。じっきん 忘れたる (てやる) 事を ショオネナ (が) ナイので じっきん 忘れたて (てしまつて) 言うやんない (言うでしょう)。ショオネナシや (だ) 言うな (のは) じっきん 忘れたんのを (てしまうのを) ショオネナシや (だ) 言うて。

しょおねない (しょうねない) 根性が無い。物覚えが悪く。[会話] 忘れたる事なあ (です) ショオネナノオテ (無くて)、なんでも じっきん (何でもすぐ) 忘れたんのを (てやるのを) ショオネナナイ じっきん忘れたる (すぐに忘れてやる) 言うてな。

しょおねんば (しょうねんば) (正念場) 【名詞】 最も大切な場面。肝心な所。[会話] ショオネンバやなあ (だ) 言うやんかい (言うて有りませんか)。しまい (終り) の事を ショオネンバや (だ) 言う時な (が) あんな (有ります)。仕事な (が) 終わった頃ん (に)、終るきわんなんと (直前になると) ま こんで (これで) ショオネンバや (だ) 言うてな。

しょおの (しょうの、しゃうの) 【名詞】 樟腦 (三、鈴市、鈴郡、伊)

しょおばい (しょうばい、しゃうばい) (商売) 【名詞】
それによって生計をたてて行く仕事。職業。[会話] ショオバイ繁盛言うて、商いする事なあ (です)。そして そんな (それが) 調子よお (よく) 行くと 商売繁盛 言うてな。売買する ショオバイだけやなしん (でなしん) 漁師は漁師な (が) ショオバイ、百姓な (が) ショオバイで、それぞれの仕事が 皆 ショオバイやわな (です)。年寄りは遊ぶのな (が) ショオバイ、あやな (彼は) なんもせんと (なにもしず) 遊ぶのな (が) ショオバイやもんな (だから) 言うて。

しょおばいおなご (しょうばいおなご、しゃうばいおなご) (商売女) 【名詞】 売春婦 [会話] ショオバイオナゴ言うな (のは)、水商売しとる (して居る) にげ (人、人間) を。淫売や (とか) そいなのおを言うんやわい (そんなのを言うのです)。“田舎の どいんばい (ど 強調) お粥が 餌じき、さいな (菜、副食) が ひじきで 親方 乞食 淫売の事をだ おやま (女郎) へ行く迄を (なる迄を) 淫売言うて (言つて) おやま言うて あいなとこへ (あんな所へ) 連れられてきや (て行けば) おやまさんやけど (だが)、かげしとんのおは (かくれてして居るのは) 淫売やわいなあ (です)。

しょおばいがた (しょうばいがた、しゃうばいがた) (商

売肩【名詞】肩、朝の作業に入る迄の海女の肩。[会話] ひよろけるもんで(倒れるので) ひよいと 肩い(へ) つられたると(つかまえてやると) ショオバイガタ 押した言うて ピーンとして来る にげな(人間が) 有りおったわい(有りました)。

しょおばいがたき(しょうばいがたき、しゃうばいがたき)【名詞】商売仇 同じ商売で互に自家の商売を盛んにしようと競う相手 [会話] ショオバイガタキやよってん(だから) 言うて、同じ商売のなあ しとるにげ(している人間)をなあ。ショオバイガタキや(だ) 言うて。あんたな(貴方が) 医者しとる、わしも(私も) 医者しとる、そすと あれも(あの人も) 医者しとるとな ショオバイガタキやよってん(だから) にらみやい(あい) ばっかしとられ(ばかりしている) 言うてなあ。

しょおばいにん(しょうばいにん) (商売人)【名詞】1) 仲買人。2) 計算高い人。(上、阿) [会話] 1) ショオバイニンやなあ(だ) 言うて、なんでも(なんにでも) 商売 あれもしい 此れもしいして 売り買いすんのを(するのを) ショオバイニン。市場の仲買人あれも ショオバイニンやよってんな(です)。海老も貝もさざい(栄螺)も買ひ、仲買師やよって(だから) 商売。2) そして 吝くさいじっきん(すぐに) かんじよばっか(勘定、計算ばかり) して来るよおな人を、あや ショオバイニンで言うて かんじよだこおて(計算高かくて) 言うて。

しょおばいや(しょうばいや、しゃうばいや)【名詞】商店(上、阿)

じょおぼこ(じょうぼこ、しゃうぼこ) (状箱)【名詞】書状を入れて置く箱

じょおばら(じょうばら、しゃうばら) (常腹)【名詞】子を孕んでいない普通の腹。[会話] こおな(子が) 一貫位あって、ジョオバラ おつきいし(大きい) 子は おつきいし こんげん(こんなに) して。

じょおび(じょうび) (上日)【名詞】1) 上天気(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、安乗) 2) 事をするのに適した日(志、鳥) [会話] 1) 天気な(が) ええ(よい) 言う事な(です)。ジョオビやなあ(です) 今日は言うてなあ(言います)。

じょおび(じょうび) (常日)【名詞】いつも、日常。

じょおびことば(じょうびことば)【名詞】日常使っている言葉。[会話] 病んだ言うのを、よおだ 言うな(のは)、普通の ジョオビコトバや(です)。

じょおびつたり(じょうびつたり、しゃうびつたり)【副

詞】いつもくつついて居る じょおべつたり参照(尾)

じょおびよお(じょうびよう、しゃうびより)【名詞】

1) 常病、いつもの病気 慢性の病気 2) 悪い癖

じょおびより(じょうびより) (上日和)【名詞】よい天気。晴れておだやかな日。[会話] 日和な(が) よおて(よくて) 青空な(が) 一杯でなんも(少しも) 雲な(が) 無いの(のを) ジョオビヨリやなあ 言うて、上天気の事を ジョオビヨリやなあ(だ) 言うて。

しょおぶ(しょうぶ)【名詞】豊漁 大漁。じょうぶ(沢山) 飛驒 山梨 淡路 八丈島方言と関係あるか。しょおぶかぶる参照(志、鳥)

しょおぶ【名詞】形見、遺品(志(鶴方、立神))

じょおぶい(じょうぶい)【形容詞】丈夫で有る 頑強で有る(志(国府、三、上、阿))

しょおぶかぶる(じょうぶかぶる) 大漁をする(志) [会話] 大漁の時ショオブカブル。今日はショオブやなあ(だ) 言うて大漁すると。

じょおぶくろ(じょうぶくろ、しゃうぶくろ) (状袋)

【名詞】書状を封入する紙袋。封筒。(上、阿) [会話] ジョオブクロや(だ) 言うてなあ。状(文書)を入れんねよってん(入れるのだから) ジョオブクロ言うて封筒のことを。

しょおぶざけ(しょうぶざけ、しゃうぶざけ) (菖蒲酒)

【名詞】菖蒲の葉をひたした酒。五月五日に飲むと悪霊を防ぐと言われて居る。[会話] みきすず(お神酒徳利) い(へ) 御神酒 入れといて(ておいて)、そして 菖蒲さいとくの(さしておくのです)。それを 神さんへ祭って(供えて) わがとらも(自分達も) 頂くの(のです)。ショオブザケは魔除けやよってん(だから) 飲め飲め言うて、あやかりもんな(奇形児が) しやせん(しない) 言うて、こおもおけん(出産していない) 若いもん(者)に 一番に飲ますね(飲ますのです)。

じょおぶたい(じょうぶたい、しゃうぶたい) (常舞台)

【名詞】1) 一定の人が常に使用する芝居小屋 2) 常設の演劇場 [会話] 1) いつでも芝居する ジョオブタイ言うて。いつでもその家だけより使かむせんねよってなあ(使わないのだから) あしこ(あすこの) 家のジョオブタイや言うてなあ

しょおぶどこ(しょうぶどこ) (勝負所)【名詞】仕事でも、遊びでも、最も大事な場面。[会話] 此処な(が) ショオブドコやどお(だ) 言うて、仕事のなあ 難かし(しい) 仕事の終りどきん(時に) になると、そ

や(それ) こな (これが) ショオブドコやどお、勝負やどお、言うて 一番急所どこ (所) する よんな るとなあ (よくなると) 此処な (が) ショオブドコやどお、そや きい (気) 付けえよお (付けなさい) 言うてな。

じょおふね (じょうふね) 【名詞】 漁船、鯉釣舟、さんま漁の舟。(志) [会話] 鯉舟の事なあ (を) ジョオフネ、ジョオフネコギや (だ) 言うて、かとぶねこぎ (鯉舟漕ぎ、乗組員) を、ジョオフネコギや (だ) 言いおったの (言うて居たのです)。かとぶねこぎや、さいら (秋刀魚) 舟言うのも、ジョオフネ 言うね (言うのです)。漁する、りよお舟 言う事やろなあ (でしょう)。ジョオフネ言うてなあ (言います)。漁師 言うのを、ジョオシ 言うよおなもんで (もので) ジョオフネコギや (だ) 言うて、さいら舟行た (行った) とか、鯉舟いたとか、さっぱ舟頼んで行くのを、ジョオフネや言いおったの (言うて居たのです)。海女さんの舟とか 一本釣りの舟とか そんなの (で) 無しに (なくて)、かと舟とか、さいら舟とか、どいらい (大きい) おおざっぱで 十人とか二十人とか乗って行きおったやんかい (行って居ました)。それを ジョオフネ言うてなあ (言います)。

じょおふねこぎ 漁船の乗組員。じょおふね参照 (志) (布施田)

しよおふのり (しょうふのり、しゃうふのり) (正麩糊) 【名詞】 正麩 (小麦粒) を原料とした糊。[会話] ショオフノリ言うな (のは) 障子張る しよおふ言うて、こお (粉) にしてなあ 乾かしてあんのを (有るのを) 水で溶いといてなあ (ておいて) 炊いて、しよふ炊け 障子張んのん (るのに)、今しや (今は) 合成糊をビンに入れとて (ていて) こおて (買って) 来るけど (が)、昔や (は) 障子張んのん (るのに) 糊 炊けよお (炊きなさい) しよおふもくざけて (水に浸して) 言うて、しよおふもくざけて 溶いといて (ておいて) ぐつつとすると糊。

しよおぶわけ (しょうぶわけ) (所務分) 【名詞】 形見分け、遺品分け。かたみわけ、故人の愛用した品物を、親族や有人知己に分配する事 しよむわけの変化した語。(志) (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀)、鳥 (答志)、名、員、安、松、多、上、阿、張、伊、北、尾、南、熊) [会話] 死んだ時ん (に) なんやかや (いろいろ)、その人の身に付いたもん (物) を 貰うと、ショオブワケもろた (貰った) 言うやんかい (言います)。着るもん (物) でも、お金でも なんでも

(なにでも) その人のもん (物) 貰うと、ショオブワケもろた。形見分け。形見もろた 言うのを、ショオブワケもろた 言うて。

しよおぶん (性分) 【名詞】 生まれつきの性質。天性、性格、くせ。[会話] あんな (彼の) ショオープンなあ (が) 言うて、わり (悪い) 時でも、ショオープンな (が) わり よってん (から) 言う。なんやかや (何、彼と) すると、あや (彼は) あげな (あんな) ショオープンやよって (だから) 言うて。癖の事を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

しよおぶん するのなら。しようなら [会話] ショオープンなら、つらましょおなあ (つらい事だ) 言うて、したない (したくない) 事な (が) 有ると むつかし (難しい) 事な (が) 有るとなあ。

じよおべつたり 【副詞】 いつも。(上、阿、張、名) [会話] ひととこ (一ヶ所) い (へ) じよおく (いつも) 行く人をなあ、あや (彼は) まあ、じよおべつたりで、年中あしこ (あすこ) い (へ) 入りびたつとる (ている) 言うてな、ひととこい (一ヶ所へ) 毎日行とるなあ (行っていると)、そすと (すると) あや (彼は) ジョオブべつたりやどお (だ) 言うて。あや (彼は) まあ、あれん (彼女に) ジョオブべつたりで、ひつついとる (ている) 言うて、さへじ (小判鯨の子) な (が) ひつついた位やなあ (だ) 言うて。

じよおほ (じょうほ)。じよおほお (じょうほう) 【名詞】 両方。(員、鈴市) [会話] けぶり (煙) な (が) ジョオホオから行たり来たりするよおん (ように)、真ん中 通した。尻と尻とひつつけて ジョオホおい (へ) さかつとんのな (交尾しているのが) あるやんかい (有ります)。

しよおまい (しょうまい) しない、しないでおく [用例] あいな事 (あんな事) ショオマイ。

じよおまい (じよおまい、じようまえ、ぢやうまえ) 【名詞】 錠前 (多、松、伊、北、尾、南)

しよおみ (しょうみ、しゃうみ) (正味) 【名詞】 1) 容器を除いた中身をそのもの。2) 真実、本当。[会話] 2) ショオミ いくらどい (いくらですか) 言うて、ほんと (本当) の事を言うのな (言います)。1) ほんとの、み (中身) の事をショオミ。秤に掛けてふうたい (風袋、容器) ごち (共に) いくら言うのと ふうたい 引いたのをショオミ。ふうたい 引いといて (ておいて) ショオミ 幾ら言うて、ふうたい な (が) 五百め (匁) あや (あれば) 一貫あつたら 五百め引いといて 残った五百め、ショオミや (だ)。ほ

んと目方言う事やなあ(です)。ふうたい言うのは、いれもん(入れ物、容器)の事な(です)。ふうたいごちで、幾ら言うのと、ショオミ幾ら言うのとな。ふうたいごち 言うな(のは) いれもん 入れて掛けたながり(まま)を、ふうたいごち言うな(言います)。そすと ショオミ言うな(言うのは) ふうたい引いて(ておいて) 中ののおを(物を) ショオミ。

しょおめ(小目)【名詞】 網の目の小さいもの [会話] 網のめえ(目) あらくたい(粗い) のは、がらめや(だ) 言うんなしなあ(言うのですし)。こまかあい(小さい) めえ(目) ショオメや(だ) 言うて。

しょうめいしょうらい【名詞】 海女が磯手拭などに記す☆型の印 蘇民将来の詛り(雑誌、大陽12年11月号 荒俣(志))

しょおもない(しょうもない)。 しょおもねえ(しょうもねえ、しゃうもねえ) つまらない。くだらない、しゃあない参照(志(浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、上、阿、張、名、南) [会話] ショオモナイ事言うな言うけどなあ(言います)。ショオモナイよおん(ように) なってた(なって行った)。

じょおもん【名詞】 上等の物 立派な品物 [会話] 上等のもん(物) じょお(上) のもん(物) や(だ) 言う、ジョオモンや(だ) 言うてな、ええ(よい) 一番、品(格好) のええもん(よい物) を、こや(これは) ジョオモンや(だ) 言う。

しょおや(しょうや) しましょう。[会話] わがと(自分) だんどり(計画) して、あげん(あんなに) ショオヤ、こげん(こんなに) ショオヤ言うの(のを) 采配ふる。

じょおやど(じょうやど、じゃうやど) (定宿)【名詞】

1) いつもきまって宿泊する宿屋。2) いつも行って居る場所 [会話] 2) じょおく(いつも) 遊びん(に) 行くところ(所) をなあ、あや(彼は) ジョオヤドで まあ、家おらせんわれ(居ません)、だれ(どれ) ジョオヤドい(へ) いて(行って) 見て来い言うてな。じょおく 遊びん(に) 行く家なあ(です)。あんな(彼の) ジョオヤド やよって(だから) あしこん(あすこに) おらせんかれ(居ませんか) 言うて、ジョオヤドい(へ) 遊びん(に) 行くもんで(ので) ジョオヤドはたいかい(大体) 遊びやわいな(です)。
1) 薬屋やどけな(などが) 木賃宿行くと、ジョオヤドで泊つとよおったわい(ていました)。宿屋言うと、たつかい(高い) のん(のに) ひいて(一日) や ふつか(二日) ならええけど(よいが) 幾日もよおおらせ

んと(おれないと)、木賃宿、ジョオヤドん(に) しててな(していて) 泊つとり(て) おったわい(居ました)。

じょおやど(じょうやど、じゃうやど) (上宿)【名詞】 上等の宿

じょおやとい(じょうやとい、じゃうやとい) (常雇)

【名詞】 長期に渡って雇われている人。[会話] いつも雇とる(雇っている) のおをなあ(のを)、いつも毎年雇うにげや(人間は) あや(彼は) ジョオヤトイや(だ)。たあど(田人、田仕事の手伝人) でも、じょおく(いつも) 雇うにげや(人間は) あや(彼は) まああしこの(あすこの) ジョオヤトイ やよってん(だから) あれげ(あの家) い(へ) いかな(行かなければ) 言うて。

しょおやのみずのみやねこのこもたける(しょうやのみずのみやねこのこもたける)【俚諺】 庄屋の水飲めば猫の子もたける 虎の威を借る狐

しょおやんかい。 しょおやんかひな(女性語)。しょおやんかれ。しょおやんこ 1) しましょう。2) しませんか。[会話] 1) 2) 今日は よなべショオヤンコ。

しょおやんかい。 しょおやんかひな(女性語)。しょおやんかれ。しょおやんこ よく似ています [用例] あの子は 母親に ショオヤンコ。

しょおやんばば【名詞】 海魚 顔の醜い事から庄屋の婆の詛いずかさご カサゴ目フサカサゴ科フサカサゴ属 ふさかさご属は、背鰭棘は12本、臀鰭棘は3本、口蓋骨に歯が有る。前鰓蓋骨棘は6本。胸鰭の上半分の鰭条は分枝する。いずかさごの胸鰭液部に1皮弁が有る。胸鰭は通常19軟条

しょおよ(しょうよ) しょおよお(小用)【名詞】 小便

しょうよの略詛(志、鳥、上、阿) [会話] ショオヨてや(と言えば) しょんべ(小便)。小便の事、ショオヨ言うし、しょんべ たれてこお(して来よう) 言うて、がっこ(学校) い(へ) 行くと、ショオヨオしてこお(して来ます) 言よおったけどなあ(言っていました)。じぎよお(授業) したる(している) うちん(間に) てえ(手) 挙げて、なんど(なんですか) 言うて、先生ショオヨ 言うて、行て来い言うて、そして、ショオヨしいん(しに) 行くのもよお 先生に言わんで(先生に言えなくて) たれたりよおったわなあ(してしまいました)。一年や二年のおやなあ(時は)。たれたる こお(子) な(が) よけ(沢山) 有った。先生ん(に) よお言わんで だんだんとたれたて(してしまつて) ま、がっこ(学校) ん(の) ばあや

ん(婆さん)な、よわよおったやんかい(困って居た
で有りませんか)掃除すんのん(するのに)。気な
(が) ちっちゃい やろな(小さいのでしょう) あい
なななあ(あんなのは)。

じょおよ(じょうよ)。**じょおよお(じょうよう、じゃう
よう)(常備)【名詞】**大工など請負でなく、日給で支
払う契約。[会話] ショオヤトイも一緒や(です)。ジ
ョオオで 行とる(行っている)言うてな、あや(彼
は) あの家い(へ) ジョオオで、じょおおく(いつも)
いとられ(行っている)言うてな。

じょおよお(じょうよう じゃうよう)(常用)【名詞】
いつも使っている事

しよおよおみち(しょうようみち)。**しよおよみち(しよ
うよみち)【名詞】**尿道。[会話] 膀胱の事、ショオオ
ミチな(が) わり(悪るい)言う。ションベミチ(小
便道)な(が) わりいて(悪るくて)言うてな、今し
ゃなあ(今は)、しよんべ(小便)な(が) つまると、
膀胱な(が) わり 言うけどな(が) 昔や(は) ショ
ンベミチな(が) わりいて(悪るくて)言うてな。

じょおり(じょうり、じゃうり)【名詞】草履 ざうりの
訛(志(浜島、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、(浦村
石鏡)、員、三、鈴市、鈴郡、安、津、一、飯、松、多、
上、阿、張、北、尾、南、熊)[会話] 草履 言うの
なあ(言うのを) ジョオリ言うの(言うのです)。ジョ
オリ作ったとか、ジョオリ履いたとか。

じょおりかくし(じょうりかくし)【名詞】子供の遊び
草履かくし(鳥)[会話] じょおり かたっぽおつ
(片一方づつ) 隠してなあ ジョオリカクシや(だ)。
よお探さんと(探がせない) こんだ(今度) ねぶる
(目をつむる)言うて、ねぶって(鬼になって)、子供
の遊びや(です)。ねぶる言うな、目隠して、壁い
(へ) 引っついて、ねぶつとれよお言うて、まあ え
えか(よいか)言うて、まあだだよ言うてなあ。

じょおりげた(じょうりげた)【名詞】履き古して薄くな
った下駄の台に藁草履を付けたもの [会話] 下駄の
びたびた(薄くなった) のおん(のに)、じょおり(草
履)作って 打ち付けてなあ 履いとりおったよお
(ていました) ジョオリゲタや(だ)言うて。

じょおりすげ(じょうりすげ)【名詞】藁草履の前鼻緒を
つける竹のへら。[会話] 草履すげんの(るのを) す
げぼの事。ジョオリスゲ。竹でなあ 割って有って、
それい さいといて(はさんで) 先鼻緒 すんの(す
るのに) そんで(それで) 通すの(のです) ささばな
わ(先鼻緒)をなあ。

じょおりもち(じょうりもち、じゃうりもち)【名詞】

家来。子分。[会話] ジョオリモチから出世して豊臣
秀吉や(だ)。ジョオリモチや(だ)言うて、偉いさん
ら、ジョオリモチを付けよおったんやろなあ(付けて
いたのでしょ)。ジョオリモチ 言うて 家来、家来
な(が) 持つわけや(です)。自分らの子分を殿さんの
真似や(です)。ジョオリモチ さすね(させるので
す)。

じょおれん(じょうれん)(鋤簾)【名詞】 1) 川底など
から泥を掬い上げるための道具。2) 土壌の表面を削
り取るための道具。(志(布施田)、飯、員、鈴市、
南)[会話] ① 土掻くのもジョオレン言うのな(か)
有るしなあ(有ります)。土掻く時のジョオレンは、鍬
よりひらくとおて(平で) 針金がついとて(ついて居
て) 柄な(が) ついとて 鍬みたいに(のように) 鉄
でしてあつて(作って有って)。“ジョオレンで 掻っ
込んで もっこで つり出せ” 言うたね(言ったので
す)。

じょおれん(じゃうれん)(常連)【名詞】 1) いつも連
れ立っている仲間 2) 常にその場に居る仲間 [会
話] ② ジョオレン言うな(のは)、飲み屋行く 常客も
ジョオレンや(だ)言うし。

しよおろ【名詞】精霊、しょうりょう(しゃうりやう)、
祖先、先祖、死者の霊。(志(鵜方、神明、立神、志島、
甲賀、国府、安乗)[会話] 盆の ほとくさん(佛様)、
ショオロサンむかわんならん(迎えねばならない)言
うてな、そして、しよんがつ(正月)は、しよんがつ
どん(正月殿) や(だ)言うてな。しよんがつどんな
(が) 何処い迄 御座った言うてな。盆はショオロサ
ンなあ。ショオロマツリ言うてなあ。莫塵敷くのも、
ショオロゴザ言うてなあ。ショオロゴザもこおて(買
って) ええなあ(よいです)言うて、盆だけ、ショ
オロ言うだけで、つね(平常)は、佛さんとか先祖さ
んとかなあ、御飯供えてもなあ 普通やったら(だつ
たら) ほとけさんえも 飯、供えたか 言うやんない
(言うでしょう)。そやけど(しかし) ショオロサン
まつらな(なければ) はざん(駄目だ)言うて盆は言
うの(のです)。

じよおろ【名詞】如雨露

しよおろおくり(しょうろおくり)【名詞】八月十五日の
精霊送り。ささぶね参照(志(鵜方、神明、立神、志
島、甲賀、国府、安乗)[会話] 盆の十五日ん(に)
なると、ショオロオクリ言うて、しよおろ莫塵へ皆つ
つどいて(包んでおいて)、西瓜も、瓜も、なすび(茄

子)も、団子もまつたもん(物)は、皆 抱かえて行てなあ 流しよおったの(流して居たのです)。剣光寺のおっさん(和尚様) な(が) 里の浜から、堀の浜い迄 般若経をよんで(唱えて) 提灯つけて行きおったの(行って居たのです) ショオロオクリ言うてなあ。団子やてら(だとか)、なんもかも(なにもかも)皆流すもんで(ので)。そすと朝ん(に) になると、里の浜長々と、どてん(土堤に) 積んどんね(積んでいるのです)、そんでも(それでも) 波な(が) するよってん(から) じっばん(立派に) 洗ろてくけど(て行くが) 今は まあ、それしやせんもんで(しないので) せんこ(練香) だけ。そすと、びんぼ(貧乏) な家やなあ(は) その団子も、皆捨て食べよおったねんなあ(食べて居たのです)。十五日の晩になると不動さんえ参いってくんやんかい(行くのです) 帰りん(に) になると、夜な(が) 明けて来るやんない(でしょう) 夜籠りしとねよって(しているのだから)。そすと、越賀の浜い(へ) 来るとなあ、西瓜や瓜な一杯浮いとて(ていて) それ捨て来て食べてなあ、腹へるし、必ず盆の十五日、不動さんへ行きよおったもん(行って居たものです) 盆踊りしといてなあ(しておいて) 十二時かけていて(行って) 朝迄ん(に) 帰ってくんの(来るのです) 歩いてなあ 行くねよって(行くのだから)。

しよおろおなご(しよろおなご)【**名詞**】盆の女の人。忙しい人。しよおろさん参照 [会話] ショオロオナゴ(女)、盆おなご(女) 言うて、盆はほん(本当に) いそがしんやんかい(忙しいのです)。ショオロオナゴ(女)に、せち(正月) 男言うて。

じよおろく 平等にする事、平均に分けること [会話] かんじよ(勘定、計算) しても、はあ(端数) な出来ると、まあ ジョオロクン分けやええわれ(分ければよろしい) 言うて、平均にする言うのをなあ、ジョオロクに言うの(のです)。ジョオロクンしときやええない(しておけばよろしい) 言うて、かんじよな しにくいと まあ ジョオロクンわけやええない言うてなあ。

じよおろく(じよろく)(常録)【**名詞**】いつも雇って居る人 [会話] あや(彼は) ジョオロクやなあ(だ) 言うて、じよおく(いつも) おる人なあ ジョオロクや(だ) 言うやんかい(言います) いつも雇とる(雇っている) 人。

じよおろくんする(じよろくんする) いつもの通りにする 習慣通りにする [会話] 今しや(今は) 豆撒

き、おかた(大体) 節分にするやんかい(します)。そやけど(しかし)、わしら、ジョオロクンスル言うて、じよおつく(いつも) おつごも(大晦日) や(です)。

しよおろごぞ、**しよろごぞ**(**精霊莫塵**)【**名詞**】仏壇に敷く莫塵。[会話] ショオロゴザ、ほとき(佛) さんの前へ、莫塵敷くやんない(でしょう)。盆にショオロゴザや(と) 言うて、しよおろさん流しん行く時は(精霊送りの時は) 莫塵に なんもかも(何も彼も) 皆、土産もん(物) 持って、浜へ流しおったけど(居たが)。あの佛さんの前へ敷くの(のを) ショオロゴザ言うの(言います)。

しよおろさん【**名詞**】精霊、しよりうりょう、祖先、先祖、死者の霊。盆の三日間の内の佛様(志(布施田)、度、伊、尾) [会話] ショオロサン言うのは、佛さんな(が) 盆(盂蘭盆) な(が) 来て、しよおろ流しやとか(だとか) しよおろお迎えとか言うやんかい(言います) あれを。盆な(が) 来て 今日 ショオロサン迎えにいた(行った) 言うて、笹舟で流すやんない(でしょう)。あや(あれは) ショオロサン迎えに行く舟やし(ですし)、こんだ(今度は) 行く時は(帰る時は) 三日おって(居て) 盆の十五んち(十五日) ん(に) になると、ショオロサンを、うくります(送ります) 言うて、言いおったわい(言って居ました)。今しや(今は) 流しに行く言うけど(言うが)、それを、ショオロサン言うの(言うのです)。先祖さんの事をショオロサン言うのなあ(言います)。盆だけ、ショオロサンで、つね(平素) は、佛さんで みつか(三ケ日) のうち(あいだ、間) ショオロサンな(が) おる(居る) うち(間) は丁寧にせんとさいご(最後、その時は) ショオロサンな(が) 行く時ん(に) 喧嘩したり、子供らを撲ったり、夫婦喧嘩したりするとショオロサンな(が) おれげ(俺家) は おんな(俺が) おるうち(間に) 喧嘩したり、なんやらかんやらして、来る時ん(に) 子供をくどんなかい(火焚く所) 突っ込んで来たとか、井戸の中へ突っ込んどいて(でにおいて) 来たとか言うて 子供らな(が) 怪我したり、なんやかや、ショオロサンな(が) 仇(面当て) してく(いて行く) 訳やなあ(です)。丁寧にするとええんけど(よいのですが) ショオロサンななあ(が) おんな(俺が) おるうちな(居る間が) 三日のお客さんやよって(だから) 言うて、昔や(は) 裸で ほときさん(佛さま) の前 通つてもわるわれおったわい(叱られました)。ショオロサンの前、裸で行くやない(行ってはいけない) 言うて。ショオロサンのおるうちは三

日のお客さんやって (だから) 丁寧にせな (しなければ) 言うて、昔や (は) 夜食も喰わして丁寧に祭って、ああ (それ) 団子や、素麺や、今日は団子しい (作り) ぼた餅しい (作り) 変ったもん (物) 新米を供えて、ショオロサンを奉り大事なあ (に) 先祖をたつとぶ (尊ぶ) 訳やわい (です)。昔や (は) 盆、丁寧にしいおったね (して居たのです)。忙して (忙しくて) 忙して、わしら子供ら (が) 多勢有るし、まつり事せんならんし (しなければいけないので)。しよおろおなご (女) 言うて、盆おなご言うて、盆は忙して、しいおったけど (して居ましたが)。しよおろおなごせち男 言うて、盆はおなごら (女達) は ほん (本当に) 忙しんやんかい (忙しいのです)。しよんがつ (正月) は 男らな (男達が) 年始まいり (まわり) や、なんや言うて、男の人らな (が) するもんで (するので) 忙しし (忙しくて)。

しよおろさんのかがみ (しょうろさんのかがみ) 【名詞】 盆に佛に供えるところでん [会話] あや (あれは) ところてん、からのかがみ言うてな。ところてんを皿い (へ) 入れとくと (ておくと) まるくとお (丸く) なってなあ、そんな (それが) ショオロサンノカガミや (だ) 言うてなあ、それ供えんのな あ (るので) からのかがみもくて (食べて) 来たか言うてわれ (言うそうです) 言うてなあ。

しよおろだな 【名詞】 餓鬼棚。無縁佛の供養のため盂蘭盆の間、臨時に設ける祭棚。飯、水を供える。[会話] 餓鬼棚の事、ショオロダナ。ほときさん (佛さま) は、先祖さんな (が) 来んのなし (来るのです) 餓鬼棚は 無縁佛やわい (です)。そいらの (その人達の) 供養に 餓鬼棚言うて (言つて) 外へ棚こしゃえて (作つて) 内とうなし (同じ) よおにして祭りおったわい (居ました)。今し (今) でもするけど (します) 餓鬼棚。佛さんな (が) あがつた (召し上がった) 茶と (茶湯) でも、佛さんにいつたん (一度) 供えたのを こんだ (今度は) その茶湯を 餓鬼棚にして、御飯も一人前つ (宛) あげたのおを (供したのを) 餓鬼棚へ あげんの (供えるのです)。餓鬼な (が) 喰うよおん (食べるように) 餓鬼棚へ皆あげんの。しよおろさんも、今しゃ (今は) 皆 れいく膳でするけど (するが)。昔や (は) かわらき (土器) い (で) 土器で八寸の膳 へなあ (です) とおつうつ (十ヶ宛) 並べて、おかず (副食) として (と共に) しいおったけど (して居ましたが) 今しゃ れいく膳で。箸もなんぜんも、子供らも 皆 おるやろ (居るでしょう)。大勢 来るもん

で (ので) 十ぜん位つして。

しよおろだんご (しょうろだんご、しゃうろだんご) (精霊団子) 【名詞】 盆、佛前に供え、精霊送りの時に土産にする米の粉で作った団子。[会話] ショオロダngo 言うなだ (のは、土産の団子なあ。ころころ団子。米の団子をなあ、しよおろさんの箸え (へ) 両方え (へ) さいてなあ (刺して) 担のて (担なつて) 土産の団子や (だ) 言うて、土産ん (に) 持たしたんの (してやるのです)。“食うたら団子も持って、じさんも、ばさんも、よいそらよいそら” 言うてなあ、土産の団子や (だ) 言うて、土産ん (に) 持たしたんのな あ (てやるのです)。昔や (は) そげんして (そんなにして) 持たして、今しゃ (今は) 土産団子もこしらえんねけどなあ (作るのだが) 海い (へ) 流させんね (流さないのです)。

しよおろとんぼ (精霊蜻蛉) 【名詞】 あかとんぼ (赤蜻蛉) 盆近くになると、沢山見られるところから (鈴市、鈴郡、亀、一) [会話] あつかい (赤い) とんぼな (が) 有るやんかい (有ります)。あつかいとんぼ、あれ、ショオロトンボ、しよおろさん (精霊・仏) 送る時分 (頃) に あれやもんで (出て来るので) ショオロトンボ 言うやんかいな あ (言うのでしょうか)。あんな (あれが) 来ると、赤とんぼな (が) 飛んで来たまあ 盆な (が) 来んねなあ (来るのだなあ) 言うて。

しよおろばし (精霊箸) 【名詞】 佛前の御飯に供える麻殻で作った箸。おんからばし。[会話] 盆におんがら。緒の殻をへしよつて (折つて) ショオロバシや (と) 言うて。しよおろさん (精霊様) に、かあらき (かわらけ) を、とおつうつ (十ヶ宛) して おかず (副食) と飯として、おんから箸を 緒の殻やなあ (です)。あれを、箸にへしよつて しよおつたもんで (して居たので) それ、ショオロバシ。ショオロバシ、おんから箸 緒の殻を、緒、剥いた滓を乾かしてしたの (したのを)。

しよおろむかえ 【名詞】 精霊迎え、八月六日行う (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乘))

じよおろり (じょうろり、じゃうり) 【名詞】 浄瑠璃。語り物の一つ。(志 (布施田、鶴方)、多、三、鈴市、上、阿、度、伊、南、熊) [会話] ジョオロリ語る言うて、じよおろりやけど (ですが) ほんとは (本当)。そやけど (しかし) ジョオロリ語る言うね (言うのです)。

じよおろりかたり (じょうろりかたり、じゃうりかたり) 【名詞】 浄瑠璃を語ることを業とする人。[会話]

浄瑠璃を じょろり言うね (言うのです) ジョオロリカたり、じょろりかたり。

しょおわり (しょうわり、しゃうわり) (性悪) 【名詞】
性格が悪い事。又その人。(志) [会話] ショオワリや わなあ (だ) あのひた (人は)、こんじょくさりやわなあ 言うな、むつかして (難かしくて) 言うてな、こんじょ (根性) な (が) わり (悪るい) 言うの (のを) ショオナワリ 言うね (言うのです) 性格な (が) わり 言うのを、ショオナ (が) ワリなあ 言うてなあ、こんじょくさり言うのをなあ。あや (彼は) ショオワリや やどお (だ)、ずくわり (性格が悪るい) やどお 言うたりなあ。

じょおんな (じょうんな) 上手だ。【会話】 上手 ななあ (だ) 言うのを、ジョオンナ 言う人 な (が) 有るなあ (有ります)。

しょか (しょくあ) 【名詞】 する仕事。所課 (志 (立神、志島、甲賀、国府)) [会話] 休みが すつと (すると) なんも (なにも) ショカ ねえし (ないし)。

しょかち 【名詞】 消渴 尿道炎 婦人の淋病 しょおかち参照 [会話] ショカチ、淋病 熊さん淋病、嬢 ショカチ言うて、かまよおったなあ (からかっていました) しょんべ (小便) ななあ (が) でんのん (出るのに) でのくかったり (出にくかったり) よけ (沢山) 出たりすんのを (するのを) ショカチや (です)。ショカチで しょんべ ばっか (ばかり) しいん (しに) いとよおったわい (行っていました)。

しょかちのしょんべ 【名詞】 宴席などで歌が出そうで、なかなか出ない事

しょかない する事がない。暇だ。しょかのおて参照

しょかなし する事がない (志 (布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) [会話] ショカナシ、言う ななあ (のです) 仕事な (が) のおて (無くて)、言う のなあ (です)。

しょかなのおて する事が無くて しょかのおて参照

しょかねえ する事がない、手持ち無沙汰。[会話] ショカナネエよお、なんも (全く) ショカネエ、しなら (ので)、言うて 仕事な (が) 無い。

しょがねえ 仕方がない やむをえない (志 (浜島))

しょかのおて する事がなくて [会話] なんも (全く) ショカノオテ 言うて、仕事の無い、なんやかや (いろいろ) 手仕事の無い事、ショカノオテ 言うて。仕事な (が) 有ると、しょかん (に) あげな (あんな) 事しとんね (しているのだ) 言うて、じょつく (いつも) したるとなあ (していると) なんも 仕事

な (が) 無いとなあ ショカノオテ、ほん (本当に) さべして (寂しくて) 遊びん (に) 来たよ 言うて。

しょから 【名詞】 塩辛。しおから、魚貝類の肉、内蔵、卵などを塩漬けとし、これら食品に含まれる酵素、又は他から加えた酵素の働きに依って、熟成させた食品。酒のさかな、飯の副食として嬉ばれる。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)、尾、南) [会話] ショカラ。さいら (秋刀魚) のショカラ、たかべ (魚名) のショカラ。塩して石おそいして 樽い (へ) かつとお (堅く) しといて (しておいて) 喰うの、ショカラ。むろ (むろ鱈) のショカラ おいしい わい。

しょからい 【形容詞】 塩辛い。塩分が多い。(志 (浜島、鶴方、立神、甲賀、国府、安乗)、安、多、度、熊) [会話] ショカライ。塩っぱい事を あんまり (あまり) 辛いの、塩っぱい事 ショカライなあ こや (これは) 言うて。おつけ (味噌汁) でも、煮しめもん (野菜の煮た物) でも 醤油で辛いと、今し (今) の人ら (は) からいなあ 言うのを、ショカライ 言うて、ショカライ われ (です) 此のしら (汁は) 言うておつけ (味噌汁) でも。

しょかるおて 塩辛くて

しょき (暑気) 【名詞】 暑さ 夏の太陽熱の激しい事

しょきあたり 【名詞】 暑気当り あつけ当り、日射病、熱射病、夏の暑さのためにおこる病気。[会話] あつけ (熱気) 当てられると ショキアタリや (だ) 言うて。ショキアタリ 言うのは、あつけ当り 言うねやろ (言うのでしよう)。昔や (は) かくらん (霍乱)。あの ひた (人は) 霍乱したんでわれ (したそうだ) 言いおった (言って居た)。霍乱 したんでない (したそうだ) 言うて。

しょきばら 【名詞】 夏期の下痢 [会話] 夏やどけん (などに) 腹くだすと、ショキバラ やれ (だ) そや (それは) 言うて、あつつい (暑い) のおで (ので)、水 飲んだりなんやかや (いろいろ) するよつて (から) 腹くだしおった (下痢して居ました)。それやもん (で) (それで) 腹下つて来ると ショキバラ やれ 言うてなあ。

しょきばらい (しょきばらひ) (暑気拂) 【名詞】 暑さを拂いのける事。又そのため酒を飲むなど、なんらかの方法を講ずる事。

しょく (食) 【名詞】 1) 食事。食物を食べる事。2) 食欲 [会話] 1) 食べる 事やしなあ (です)し 飯な (が) 旨まないと (くないと) 2) ショク な (が) 行か

んで (進まなくて) 言うてなあ 食いた無い言うのを ショクな (が) 無いぬ (のだ) 言うてな。

しょく (職) 【名詞】 生計をたてるための仕事、職業、身についた技能。[会話] 仕事の事も ショクやしなあ (です)、仕事な (が) 無いと、ショクな (が) のおて (無くて) 言うしなあ。

しょくあたり (食当) 【名詞】 食べ過ぎ、飲み過ぎ、又は腐敗した食物を食べる事により下痢、嘔吐、腹痛を起す事。食中毒。[会話] ショクアタリすると 南天の はあ (葉) を、塩でもおどいて (揉んでおいて) すると 観面 や (です)。

しょくしょお (しょくしょう、しょくしゃう) (食傷) 【名詞】 同じ食べ物などが続いて、飽きて嫌になる事。同じ事が続いて、嫌になる事。

しょくたい (食滞) 【名詞】 食べ過ぎ。食べ過ぎて起す腹部の膨った感じ、それに伴う嘔吐 [会話] ショクタイ。あんまり (あまり) 食べ過ぎると、よけ (沢山) 喰うと ショクタイして 言うて。喰い過ぎて、あげると (嘔吐すると)。ショクタイして言うて よけ 食べ過ぎてあげるでしょお (嘔吐するでしょう) それをショクタイした。

しょくだい (卓) (食台) 【名詞】 食卓。食事をするための台。(志、南) [会話] テーブルの事。ショクダイや (と) 言いおった (言いて居ました)。飯喰うのん (の) に 飯台をショクダイや (です) 言うて。飯台 言うたり (言ったり)、ショクダイ言うたり 今しや (今は) テーブルや (です)。昔や (は) ショクダイも なしん (無くて) 地べた で はこぜん (箱膳) や (だ) 言うて、ちっさい (小さい) のおへ (のへ) とおさん (父さん) な (の) 箱膳 や (だ) あにんこ (兄) な (の) 箱膳 や 言うて、みんな (皆が) ひとつつつ (一つ宛) ちっちゃい (小さい) のおへ (のへ) 漆の塗ったのお (のを) して、かって (勝手、食堂) へ積んで、わがと (自分) 喰うた 茶碗と箸を入れて、さい (菜、副食物) の残りも入れて、積んどりおった (積んで居ました)。勝手の隅い (へ)。そげん (そんな) に しとる (して居る) うち (家) な (が) 有りおった (有りました)。皆皆は (全部は) しとらせんけど なあ (して居ないが)。箱膳の中いは (へ) のおだもん や (飲んだ物) 喰うたもん (物) して、ほったるもん (捨てる物) は ほったて (捨てて)。残って 今度 喰お (食べよう) 思うもん (物) を箱膳へ入れて わがと (自分) 又喰う時や (は) それ出して来て みんな (皆が) ひとつつつ (一つずつ) 当って、それい

(へ) 茶碗もなんもかも (すべて) 皆 いっとて (入って居て)。

しょくたいする 食べ過ぎで上腹部に膨満感がある。食べたくない。

しょくたく (食卓) 【名詞】 食事をするために、食物や食器をのせる台。はんたい参照

しょくつとる 食べて居る

しょくどり (食取) 【名詞】 食欲。(張) [会話] 物食べる。喰いぶりな (が) ええな (良い) 言うなあ。ショクドリな (が) ええなあ 言うな (のは) よけ (沢山) 喰うと (食べると) あのひた (人は) ショクドリな (が) ええなあ。

しょくどりなええ よく食べる

しょくどりなわり あまり食べない

しょくなふつとい よく食べる。[会話] ショクナフットイ言うな (のは) よお喰うねてや (よく食べるのです)。

しょくなほっそい 食事の食べる量が少ない。[会話] 飯よけ (沢山) 喰わん (食べない) 人、あの人、ショクナホツソイ言うてなあ よお (沢山) 喰うひた (人は) あや (彼は) しょくな (が) ふとおて (太くて) 言うてな、ショクナホツソイひた (人は) 弱いなあ。食うもん (物) よお (よく) 食うもん (者) は、いか ついなあ (強い)。

しょくぶん (職分) 【名詞】 自分の行うべきつとめ。[会話] 自分のする仕事、ショクブン言う。

しょくぶん (食分) 【名詞】 食べる量

しょくべん 【名詞】 1) 食紅。しょくべに。食べても害の無い赤色の色素。飯、餅、菓子、飲料に使用される。(上、阿) 2) 口紅。[会話] 1) ショクベン言うて、餅 搗くと入れよおったやんかい (入れて居たのでありませんか)。ショクベン言うて、口紅を盃のちっちゃい (小さい) のおの (物の) ふち (縁) い (へ) あつかあい (赤い) のおな (のが) 流してあつて (付いて居て)、それを付けよおった (付けて居ました)。ショクベンや (だ) 言うて (言って)。そして (そうして) 餅 搗く時は、ショクベンをといて (溶かして) 餅い (へ) 色 付けんのん (付けるのに) てみずん (に) してしょおったし (して居ました)。

しょくもたれ 【名詞】 食べ物が消化しないで胃に残ること しょくたい

しょくよおじょお (しょくようじょう、しょくやうじょう) (食養生) 【名詞】 栄養学的立場から疾病の予防、治療を行う事。食事により体力快復をはかる事。[会

話] 食い養生せえ (しなさい) 言うねやわいな (言うのです)、食べる事 養生せえ 言うね (のです)。シヨクヨウジョオせえ 言う事、口養生よおせんで (出来なくて) 腹いた (腹痛) ばっか (ばかり) おこしとられ (おこしている) 言うてな、そや (それは) 食うたら (食べてわ) はざんどお (いけないぞ) 言うても、まあ ちょいと (少し) ぐらいだんねえ (かまわな) おもてなあ (思っ) 食うのを 口養生よおせんで はざんよお (駄目だ) 言うて、好きなもん (物) 食うたら (食べてわ) はざんでも (いけない) 医者ん (に) 食うたら (食べたら) はざん言われとても (ていても)、それしんぼ (辛抱) せんと (せずに) 食うもな (者は) 口養生よおせん 言うてな。えよお (栄養) も取らな (なければ) はざん (いけない) 言うのもな、シヨクヨウジョオ せな (しなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うてな。

しょくりよお (しょくりょう、しょくりゃう) (食料)

【名詞】食物。食用とする糧。

しょくる 食べる。[会話] ショクツイテ (ておいて) おりると (海に入ると) ひがないちん (一日中) でもはいつて (海に居て)。

しょこと する事 せんことの変化した、しょうことが更に変化した語

しょことなし【形容詞】しょおことなしに同じ 1) 仕方無しに 2) どおしょうもない、退屈だ [会話] 2) ショコトナシやれ (だ)、ショコトナシの馬子節やれ 言うて。有っても ええし (よいし)、のおても (無くても) ええし 言うの (のを)、ショコトナシ言うてなあ。1) あや (有れば) くわさな (食べさせなければ) はざんし (いけないし)、無いのな (が) ええねけど (よいのだが) そんでも (そしでも)、ショコナシん (に) 生きとるもんなあ (ているから) しゃあねえや (仕方が無い) 食わせな (食べさせなければ)。

しょさ。しょしゃ (所為) (所作)【名詞】しわざ、所作、なす事、行い、仕事、生業、その場に応じた身のこなし、しぐさ [会話] あの ショシャ見よまあ (見なさい)、する ショシャ見よまあ (見なさい) する事見よまあ 言うのな (のが) ショシャ見よまあ。ショシャ言うな (のは) しくじったりしとる (して居る) 時ん (に)、あのした、ショシャ見よまあ 言うて失敗した時の事に。

しょざい (所在)【名詞】1) する事。しわざ。行為。

2) 居る所

しょざいない【形容詞】する事がなくて退屈である。手

持ちぶさたである。身の置き所がない。[会話] ショザイナイ言うな (のは)、しょことなしや (だ) 言うけどな (言います)。しょかな無いとかなあ、仕事な (が) 無いとか言うだけで。

じょさいない【形容詞】抜け目がない。手落ちがない。

[会話] ジョサイ無いわ (です) 言うて、なんでもなあ (何でも) 気な (が) 効いて 抜け目な (が) 無い 言う事やなあ (です)。

しょさいふぐ【名詞】ひがんふぐ さばふぐ参照 (志)

しょしゃ する事 所作 しょさ (所為) の訛 (三重県伊勢地方)

しょしょ【名詞】外 幼児語 [会話] ショシヨな (が) 見たい。あかみ (明かり) な (が) 見たい言うて、ショシヨな (が) 見たい言うて、外な (が) 見たい言うのな。

じょじょ【名詞】草履。じょおり参照。幼児語 (志) (神明、立神、国府、安乗)、鳥、桑郡、桑市、安、多、上、阿)

しょじょかい (しょぢょかい) (処女会)【名詞】女子青年団、学校卒業後、未婚の女性の団体 [会話] わかぬしゆ (若い衆) のこと しええねん (青年)。昔やな (は) 男を しええねん言うてな、おなご (女) をショジョカイ言うて、今しや (今は) 男でも おなごでも しええねん団言うやんない (言うでしょう)。

しょしよらかす まつわりつく 甘えかかる [会話] ショシヨラカシん (に) 行くのを、ちよろちよろ (うろうろ) そばえ (甘え) ん (に) 来て言うて。

しょしよらげる 煽てる 後ろで操る [会話] 人をシヨシヨラゲテ、煽ててすん (する) のを。あんた (貴方) は、偉いなあとか言うて 偉くもないのを (偉くもないのを) シヨシヨラゲル、シヨシヨラゲテ言うて。

しょしよらながい【形容詞】細長い [会話] 細長いのおをなあ (のを)、ちよちよらなあがしぬなあ (長いのだ) 言うてなあ、細長いのを ちよちよらなあが (長い) とか、陰山のとびきみたよなとか (のようだ)、シヨシヨラナアガイ言うのも言うやんかい (言います)。ものすごい (大変) きやしや (華奢) な おもなあ (のも) シヨシヨラナアガイ。ま、ひよろひよろしとられ (している) 言うてな 同じ意味やけどなあ (だが) ちよちよらなあが (長い) のも、シヨシヨラナアガイのもの。

しょしよりあげる 煽てあげる。[会話] あのひた (人

は) 除けもん(者) にしときゃ(しておけば) ええわれ(よろしい) 言うんけど(言うのだが)、言われやせんし(ないし) あんた(貴方) 偉い言うて、ショショリアゲトクト(ておくと) 喜ん^どる(でいる) やんない(でしよう)。

しょずくなる【自ラ五】 しゃがむ、かがむ、うずくまる。しょおずくなる参照(志(浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥(鳥羽)、上、阿、張、度、北)[会話] しゃがむ 言うのは ちょいと(少し) うつぶくし(うつむく)、ショズクナル言うな(のは) ちょいと 膝ついてすんのを(するのを) 背中丸めて(丸くして) ちっそお(小さく) なんのを(なるのを)、ショズクナル言うてなあ(言います)。猫背みたいな 格好になって、立膝たててしとんのお(して居るのを) しゃごむ言うね(言うのです)。雨な(が) 降って ちょいと(少し) しゃごましてもるた(貰った) 言うて、腰掛ける事も無いしすんのを(するのを) しゃごましてもるとるよお(もらって居ます) 言うて。

しょずくまる 屈む 膝を曲げて背を低くする しょずくなる(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、国府)、伊)[会話] ショズクマル言うね(言うのです)。うう(鶴) な(が) つび(女陰) 干したくらいやなあ(だ) 言うて、あげん(あんなに) しとるとなあ(していると) ショズクナッテ、そや(それ) たちやがとらんと(立ちあがってなくて) ショオズクナッテ せえまあ(しなさい) 言うて。としよや(年寄り)は すね(膝) な(が) 曲がらせんよって(ないから) やんない(でしよう)、ショオズクナナ(なるのは) ひざまづいてすんな(するのは) しいよいんけどなあ(しやすいのですが)、すね(膝) を立てて 尻ほったてとんなあ(立てているのは)。

しょずみぐい(しょづみぐい)【名詞】 つまみ喰い。(志(神明)、鳥)[会話] ショズミグイする言うて(言って) なんか(なにか) テーブルに有るとそれ掴んでひよいと喰い 又 ひよいと喰い、あれ喰いすると、ショズミグイして言うわい(言います)。つまみ喰いすんのを(するのを) ショズミグイ言うてなあ(言います)。

しょずむ(しょづむ)【他マ五】 “ずむ”はつむ(摘)の転か。つまむ。(志(片田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府)、鳥(浦村)、伊、桑郡、員、三、四、鈴市、安、一、上、阿、度)

しょせん(所詮)【到底】【名詞】 あれこれ考えた結論として、結局最後に行きつく所。[会話] ショセン か

なわん言うて。あやまあ(あれは) ショセン かなわん事やなあ(だ) 手に合わん(手に負えん) 事を 言うなあ(言います)。ショセンかなわん恋やけど(だ) 言うて、よお(よく) 言うやんかい(言います)。

しょぞん(所存)【名詞】 心に思う所。考え、思惑。[会話] ショゾンな有って、言うやんかい(言います) あんな(彼が) まあ なんやら(何か) ショゾンな(が) 有る ふうやなあ(様だ) 言うて、隠し事な(が) 有るとか、なんやら 奥歯い(へ) 物がはさか^つたよん(挟まったように) 言いたそおん(に) しとんない(していると)、なんか(何か) ショゾンな(が) あんねどお(有るのだ) あや(彼は) 言うてな。

しよた し合った、納得シヨタ

しよたい(所帯)【名詞】 せたい。現実に住居及び生計を同じくして居る者の集まりを言う。世帯は一定の親族(家族)を中心として居るもの即、家族世帯が多いが、他人の入る事も有り得る。各家族はそれ自体で経済圏を作り、この経済圏は世帯の名をもって呼ばれ、家族と略略同じ意味を持つ。(張)[会話] ショタイ持つ言うやんかい(言います)。しんしよ持ち(一家の経済の責任者)の事を、しんしよ持ちな(が) ええなあ言うて(よいと言います)。あや(彼は) しんしよ持ちな(が) わりいて(悪くて)、なんやかや ざあざあと、いなん(いらぬ) とこへ(所) ぜん(金銭) つこて(使って) 言うて。そいな(そんな) しんしよ持ちの事を、ショタイ持ちな(が) ええ(よい)とか、わり(悪い)とか。しんしよ持ちな(が) ええ言うのを。今し(今)では、ショタイ持ちな(が) 上手な(だ)とか、下手なとか言うしなあ。しんしよ持ちも、ショタイ持ちも一緒の意味や(です)。“しんしよ持ちたちや(始めは) なにかに欲しや(欲しい) はんぎり(半切、大きな平らな桶) みたいな(のような) ぼぼ欲しや。” 言うて(言って) 昔や(は) 言うた(言って居た)。しんしよの持ちたちや なんでも(何でも) 欲しいて(欲しくて) なんもかも(なにもかも) 欲しいて 半切りみたいな ぼぼ欲しや 言うて、ぼぼでもおつきい(大きい) のな(のが) 欲し(の)です)。

しよたいもち(所帯持)【名詞】 1) 一家の主人。 2) 生計のやりくり。 3) 結婚している者

じよちゅうたび(女中足袋)【名詞】 女物の足袋 大きい[会話] おなごな(女が) はくな(のは) 大体 九、七から おつきいても(大きくても) とおもんやんかい(十文です) ジョチュウタビ 売ってくれ(下さ

い) 言う、九、七おこすね (よこすのです)。

しょっから【名詞】 塩辛。しょから参照 (志 (志島))

しょっからい【形容詞】 塩辛い。しょからい参照 (志、南)

じょっく いつも、常々、度々、始終。[会話] ジョック じょおく言うのを、ジョック言う。おおた (感動詞) ごおな湧いて (腹が立って) ジョックあいな事して言うて。怒って言う時は、ジョック あいな事すねな (するのだ) 言うて、なごやかん (おだやかに) 言う時や (は) じょおくあいな事しとんね (して居るのだ) 言うんけどなあ (言うのだが)。いつもしとる (して居る) 言う事を、ジョック しとる。ジョック 言うとんねない (言ってるのだ)。つね (いつも) にそいな (そんな) 事、言うとんねない 言う事を、ジョック言うとんね (言ってるのだ)。ジョックそげな (そんな) 事しとる 言うて、いつもしとる 言う事を、ジョックしとる。

しょっくち (初口)【名詞】 始め

しよった していた。した (北) [会話] しいおった (していた)、シヨオッタ (していた)。仕事でもなんでも (なにでも) おらまあ (俺は) あげんして (あんなにして) シヨッタ。こげんして (こんなにして) シヨッタ 言うてなあ。しいおった、言うのも有るし、しいよった言う時も有るなあ。

しよっちゅう【副詞】 いつも 常に 初中終の略 (大言海) (志 (片田、布施田、鶴方))

しよって して

じよっと 上等 じよっとや参照

じよっとや、じよっとやれ 上等だ。[会話] 素晴らしい、じよおと (上等) や (だ) 言う事を、ジョットヤレこんで (此れで) 言うて、上等やなあ (だ) 言うて、一番ええ (よい) 言うのを、こんで ジョットヤレ言うて、素晴し出来た言う事、ジョオトヤなあ言うて、上等言わんと (言わずに) ジョット言うて。

しよっぱい【形容詞】 塩辛い。[会話] こや (此れは) どれいらい (大変) しょからいなあ (塩辛い) 言うの (のを) ショッパイなあ 言うて、おおた しょからいわれ (塩辛いです) こや (此れは) 言うて。

しよっぱじめ【名詞】 最初 (北、尾)

しよっぱち【名詞】 一番端、真最初、初っ端、物事の始め、最初。(志)

しよっぱな (初端)【名詞】 一番端、真最初、初っ端、物事の始め、最初。はな：端、物事の最初、物の突き出た先端の部分、先端、はし、物事を始めた時、やり始

めの時。(志 (浜島、布施田、鶴方)、鳥 (神島)、鈴市、張) [会話] ショッパナ言うのは、始めの事を言うんやわいな (言うのです)。ショッパナから 縁起な (が) ええなあ (よい) とか、縁起な ショッパナからわりなあ (悪いです) とか、言うんよってん (言うのだから) 始めの事を。

しよっぼり【副詞】 すっぼり ひよっこり、突然。

(志) [会話] ショッボリ抜いた剣光寺の筈や (だ)。ショッボリ 抜いたたれ (てやった) 言うなあ だいこ (大根) でも、ショッボリ抜いたたれ まあ、ごそつと抜く 言う事を、ショッボリ抜いた言うねやろなあ (言うのでしょうか)。

しよて (初手)【名詞】 1) 以前、かつて、前から、昔から。しよて参照 (志 (国府、浜島、布施田、鶴方)、伊、桑市、一、名) 2) 最初。もと囲碁、将棋の最初の手の意 (広辞苑) (志 (甲賀)) [会話] 1) ショテから言うのは 始めから言うのを、ショテ言うて (言うて)。前から、前した事を ショテ言うねなあ (言うのです)。ショテも そげな (そんな) 事 言うたやんか (言ったでないか) てやら (とか)、ショテそんな (それが) 有ったやんか (有ったでないか) てやら 言うねよって (言うのだから) 前の事を 言うねやろなあ (言うのでしょうか)。ショテも そげな事言うたり、したりしたやんかあ (したでないか) 言うて、前の事を 言うんやろなあ。ショテ言わんと (言わずに) ショオテ言うねなあ (言うのです)。ショオテから、そや (それは) 有るやんかあ (有ります) 言うて。前から有る言う事を ショオテから有る。一番初め言うわけでもねえね (有りません)。ショオテ言うねよって (言うのだから)。しよっぱな言うて 一番初めやけど (ですが) 先ん (に) した事を ショオテ。ショオテ言うた事やのん (ですのに) 言うねよって。2) しよて ショテは 一番始め。

しよてっぱち【名詞】 最初。(熊) [会話] ショテッパチ言うな (のは) 始まりの事を、ショテッパチ 言うね (言うのです)。一番初めの事をショテッパチやれ (だ) こやまあ (これは) 言うてな。

しよてっぱな【名詞】 最初。[会話] ショッパナ言うて、ショテッパナから、縁起な (が) ええなあ (よい) 言うて、初めからええとなあ (よいと)。

しよない 仕方が無い しょうが無い やむを得ない

しよなのか (初七日)【名詞】 人の死後七日目 [会話] 七日、始めのなぬか (七日) を、シヨナノカ言うてな

あ、死んでから七日目をなあ。そして ふたくらめ (二度目) んな (ののは) ふたなぬか (二・七日)、みなぬか (三・七日)、よなぬか (四・七日) 言うてな なななぬか (七・七日) ん (に) になると、しじゅうく んち (四十九日) や (です)。

しょなびれた 1) 水分を失って、勢いが無い様 2) 元気がなく、しょんぼりしている様 [会話] 2) 萎びれた 言わせんかい (言いませんか)。ショナビレトナア (ている) 言うてな。愁嘆して ショナビレトナア 言うてな、萎びれてやらなあ (とか)。1) なあ (菜) でもなあ、ひい (日) に照らしたると (てやると) ぐたつとしてくやんない (して行くでしょう) ま、ショナビレテタレ (ていった) はよまあ (早く) もお だらな (揉んでやらなければ) てやら (とか)。

しょなぶれた 元気が無い 勢いが無い 萎れた [会話] あの人のなんやら、しょぼくれた様にしとて、あわれがしかしみたいなあ (のようだ) 言うて、物凄を、哀れにしとんのを (しているのを)、ショナブレタよおん (に) して、萎れた様ん (に) しとると (していると)、あわれがしかしやなあ あげん (あんなに) なつたらまあ 言うて。

しょにち (初日) **【名詞】** 事を始める最初の日

しょびたれ **【名詞】** みすばらしい事。不潔な事。不精な事、又そのさま、人。元気がないさま、又 その人。(志 (浜島、甲賀、安乗、立神)、鳥 (鳥羽)、津、一度、伊) [会話] ショビタレや (と) 言うて、なんやかや そこらのもん (物) も引きずりさがして (散らかして) 此れも片付け あれも片付けて言うて (言うて) すんのを (するのを) せんとおいて (せず) に居て そこらに広げさがしとると (散らかして居ると) ショビタレやお (だ) 言いおった (言っていました)。汚い、不精しとる時も、ショビタレやなあ (だ) 言うし、そこら (その辺) 広げさがしとると (て居ても) ショビタレやなあ (だ) 言うて。片付けやへん (無い) 言う事は、不精しとる (して居る) 言う事やわいなあ (です)。そやって (だから) 体も、身嗜みくずしとると (崩して居ると)、お前、ショビタレみたいいな (のような) ふう (格好) して言うて。

しょびたれとる 勢が無い、萎縮している。[会話] なんやら (なにか) すもったよん (ぼんやり) しとると なあ (していると)、しおれとると 思案したよん (ように) しとると ショビタレトとか、言うてな。

しょびたれる **【自ラ下一】** 元気がなくなる。勢いが無くなる [会話] しょびたれや 言うてなあ。なんやら

(なにか) 薄汚いよんしとんな (ようにしているのは) しょびたれやとか (だ)、だめのおしとると (不潔にしていると) しょびたれやお (だ) お前や (は) 言うてな。そして 顔もだ、しおれたよん (ように) してなあ 元気無いのをなあ しょびたれみたよな あ (のようだ) 言うてな、ショビタレ 言うて。

しょびれる **【自ラ下一】** 元気がなくなりちぢまる。[会話] ショビレルも しょびたれるも一緒やわい (です) しょんぼりしとんのなあ (しているのです) ショビレトナア (て居る) 言うて。

じよふね **【名詞】** 漁船 鱈船 (志)

しょぼくれた 元気が無い。惨めたらしい。[会話] ショボクレタよん (ように) しとともなあ (していても)、しみつたれみたよななあ (のようだ) てやら (とか) 言うて、汚れたふう (格好) しととも。

しょぼくれる **【自ラ下一】** ぼんやりして居る。元気が無い。勢いが無い。(南) [会話] 人な (が) ぼんやりしとると (していると) あや (彼は) ショボクレトル。

しょぼしょぼめ **【名詞】** 細い目、はっきりしない目。[会話] めえ (目) すぼめて (細くして) すんのを (するのを) ショボショボメ言うの (のです)。

しょぼつく **【自カ五】** 1) ぼんやりして居る。生気に欠けみじめたらしい。2) 小雨が降る。(安) 3) 目が疲れてかすむ。[会話] 3) めえ (目、以下目と書く) な (が) しょぼしょぼする。ねぶとおて (眠くて) 目な (が) ショボツク 言うて。1) 人な (が) ぼんやりしとると (して居ると)、あや (彼は) しょぼくれとる (て居ると) とか、しょんぼりしとる 言うのも一緒やろなあ (でしょう)。目もとぼんと しとる時や (は) しょぼしょぼしとるし、1) にげ (人、人間) も、なんやら (何か) 物思いしとる時や (は) しょぼんとしとると ショボツクとか、ショボクレトル とか言うて。目がとぼんとしとる言うのは、ねぶとおて (眠くて) 目な (が) とろんとしとる時な (が) 有るやんかい (有ります)。それを 目な とぼついて来てまあ言うて、ねぶたい (眠い) 時に、しょぼしょぼして来ると とろんとして来た言うやんかい (言います)。目な (が) とろんとしとられ (して居る) あやあれ (あれ) 言うて、酒のおだ (飲んだ) 目みたいに (のよう) に しとられ。酒飲みの目な (が) とろおと して来るやんかい (して来ます)。酒ん (に) 酔おて来ると (酔って来ると)。とろおつと元気な (が) 無いよおん (ように) して来るやんかい。みずのめえ みたいん して。みずの目 言うて、鮫の目のほっそおおい (細

い) のな (のが) 有るわい (有ります)。酒飲むと、よ
おて来ると 目な (が)、ほっそおお (細く) になって来
て、あや (あれ) めえ (目) な (が) みずの目みたい
ん になって来たれ (なって来た) 言うやんかい。②) 雨
が降って来た時もショボツク、雨な (が) しょぼしょ
ぼ降って来た、しょぼしょぼ降りやなあ (だ) 言うて、
ただ降り (時化) なら、しけんねけど (のだが)。

しょぼつと 【副詞】 気力を失ってしおれたり、ぼんやり
したりしているさま [会話] ショボットしとん (し
ている) のは、なんやら (なにか) 考え事して、勢い
な (が) のおて (無くて) しょんぼりとしとる (して
いる) 時な (が) 有るやんかい (有ります)。

しょぼんとする 元気をなくす

しょやどん 【名詞】 庄屋敷 [会話] やまかた (山村)
のショヤドンな (が) 来た

しょゆ 【名詞】 醤油 (南)

しょゆめし 【名詞】 醤油をかけた飯 (張)

しよる している (志、北、南) [会話] あいな (あんな)
事してまあ言うのを、あげな (あんな) 事、ショ
ル言うてな、ごおなわいとると (腹が立っていると)、
ショツテマア なんど (なんだ) こや (これは) 言う
て、ショツテ言うな (のは) 腹な (が) 立ったよおな
言い方やんかい (です)。

じよろ (ぢよろ) (女郎) 【名詞】 春を売る女。売淫婦。
ぢよらう (じよらう) の訛 (志 (鶴方)、松) [会話]
おやまさんのジョロも有るなあ (有ります)。昔や
(は) おやまさんを、ジョロ言いおった (言いました)。

じよろ (如雨露) 【名詞】 散水のための器。じよらろ。
(四、北) [会話] 冬は 藁、打つと、しと (水分)
やらな (やらないと) 言うて、水を、ジョロで、しゅ
つと しめりけやらんと (やらないと) はしこおて
(堅くて)、節な (が) へしよれて (折れて) はざん
(いけない) もんで (ので) ちよいと (少し) しと
やつて。

じよろ 【名詞】 海魚 ひめじ (ひめぢ) (志)

じよろかい (女郎買い) 【名詞】 女郎を揚げて遊ぶこと。
[会話] おやま (女形) 買い ジョロカイ言うの (の
です)。おやま買うよな よおきな金な (が) 有れば、
味噌こおて (買って) おじや (雑炊) する言うて言よ
おった (言っていました)。「浜島よいとこ、よい港
尾の無い けんけんさん (狐) の住む所、私も二、三
回化かされた' 言うて、浜島のはしりがね言うて言よ
おったなあ。

しよろけ 【形容詞】 1) 帯がゆるく落ちてゆきそうなき

ま。締りのない風体。じよろ、ぞろ、ぞろけ、ぞろつ
と。2) ぞろつと着物を着流しにして居るさま。ぞろ
つぺ、だらしな事又そのさま、その人。[会話] ①)
ショロケオビして言うて、しりこけ 言うのなあ (で
す)。せだ (布施田) のわかいしゅや (若い衆は) モス
(布の名称) の巾広しりこけん (に) ゆうて (結ん
で) 尻い (へ) ちよかけて (ひっかけて) 煙草入れさ
いて (差して) ひよっこひよつこと歩いて来いおった
の (来て居たのです)。しりこけの事なあ (です)。帯、
ショロケン (に) して言うて。しりこけんするのを、
ショロケや (と)。きっちり結んどらせんの (結んで居
ないのを) しよろしよろにしとんの (しているのを)
しつかり結ばんと (結ばずに) ゆるゆるにしとるもん
で (して居るので) 尻にショロケて来んねやろ (来る
のでしょう)。

しよろけおび 【名詞】 今にも解けそうに尻で結んでいる
帯 しよろけ 参照

しよろける ずり落ちる。[会話] きっちり結んどらせ
んの (でないのです) ゆるゆるにしとるもんで (し
ているので) ショロケテケンネやろ (来るのでしょう)。

じよろや (ぢよろや) (女郎屋) 【名詞】 女郎を抱えてお
き、客に遊興させるのを業とする家。[会話] おやま
やの事なあ (です)、じよろさん (女郎さん) の、おる
とこや (居る所です) 遊郭の事を言うんやんかい (言
うのです) ジョロヤの事。

じよろり 【名詞】 浄瑠璃。語り物の一つ。じよろり参
照 (員、鈴市、安、度) [会話] 浄瑠璃の事 ジョロ
リ言うね (言うのです)。ジョロリ 語って言うてな、
昔の芝居は、皆 ジョロリな (が) 付かな (なけれ
ば) はざんね (駄目なのです)。たゆう (太夫) なあ
(です)、たゆう や (だ) 言うな (のは) ジョロリ語
ってなあ お染久松やたら (だとか) お軽 勘平やた
ら 言うての、そいな (そんな) 芝居ばつか (ばか
り) してのお、出語りで。

じよろりかたり 【名詞】 浄瑠璃を語る人。[会話] 浄瑠
璃を じよろり、ジョロリカタリ それ言う人。

しよんが 【名詞】 生姜 (志 (浜島)、度、南) [会話] シ
ョンガ 言うねなあ (言います)。生姜、ションガな
(が) 今年や (は) 豊年や (だ) 言うて。

しよんがつ 【名詞】 正月。一年の一番始め月。(志 (布施
田)、鳥 (坂手、答志)、伊) [会話] 正月の事を シ
ョンガツ。正月でものはいものや言うて、子供の
時分 (頃) に ションガツな来ると、うれして (嬉し
くて)、うれして まあ (もう) 幾つ寝ると、ションガ

ツや(だ)言うて指折り数えてなあ。しょおがつどん(殿)しょおがつどんどこまで御座った裏の柿のきい(木)のもと(元)い(へ)迄御座った何を土産に持って御座った、串柿せんべ(煎餅)に足袋のひぼ(紐)そんげん(そんなに)言うて、ションガツな(が)来ると喜んで唄いおったの(唄って居たのです)。ションガツな(が)くんのな(来るのが)嬉してなあ すずなりおったけど(鈴(神楽鈴)を鳴らして舞う程嬉んだが)今しや(今は)なんも(何にも)嬉しねえな(嬉しく有りません)。ションガツな(が)来ても 今し(今)の こらなあ(子供達は)つね(平素)な(が) ごっつお喰うて ええ(良い)きもん(着物)着とるよって(着て居るから)。そして小使いも 充分もおて(貰って)しとるけど(して居るか)。昔や(は) 正月やなけななあ(正月でなければ)めったん(絶対に)小使いも 貰う 言うこた(事は)無かった。そして 十銭貰うのな(が)一番上で、二銭貰おたり(貰ったり)二銭銅貨のどいらいの(大きいのを)貰うと嬉して、そして かべうち(壁打ち)のてぎや(だ)言うて、その 二銭銅貨とつといて(大事にしまっておいて) てぎにすんで(するので)。二銭もおても(貰っても) どいらい 嬉しかりおったなあ(嬉しかった)。五銭貰うと どいらい まだそれより嬉して 十銭も貰うと まいきつてく(舞上がる)程嬉して。十銭貰う言ううちや(家は) 滅多(殆ど) 無いねんなあ(無いのです)。十銭つ(も)貰う言うともあ かんぜる(数える) ほどき(程)より 無いの(無いのです)。五銭貰うか二銭銅貨貰ろたり一銭貰ろたり、そやよって(それだから)ションガツ中もろたてて(貰った所で) 五十銭ももらや(貰えば) いっしょけめ(大変、一生懸命) やわい(です)。今し(今)の十円より値打ちな(が) あんね(有るのです)。今しの十円玉と 昔の一銭と同じ格好して 五百円と五十銭と 一緒の格好や(だ)。昔や(は) 一銭をふたあつ(二つ)に しいおったんよって(して居たのだから)。ごりぜん(五厘銭) な(が) 有りおったんよって(有ったので)。

しょんがつぎ【名詞】晴衣 [会話] 晴衣を ションガツギ 着たて(着てしまつて) 言うて、よお(よく)言うやんかな(言います)。つね(平素)は なんも(少しも) ええ(よい) きもん(着物) きやへんし(着ないし)、正月や(で) なけな(無ければ) きやら ったもんで(着なかったの) そんで(それで) ションガツギ 言うねやろなあ(言うのでしょうか)。

しょんがつことば【名詞】あらたまつた言葉使い。しょんがつ言葉参照。(志) [会話] てえねん(丁寧)な言葉を、しょんがつ(正月)になると、もろもお言うたり、どおれ言うたりして、明けましてお目出とお言うたり、みんなん(皆に)、つねや(いつもは) なんも(少しも) ええ(よい) 言葉言わせんけど(言わないが)、しょんがつ ん(に) になると、みんな(皆) 家族な(が) そろた(揃った) おりん(時に) 年始すのん(するの)に 明けましてお目出とお御座居ます 言うもんで(ので)、そんで(それで) ションガツコトバ 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。しょんがつ だけ使うだけや(だ) もんで(ので)。

しょんがつどん【名詞】正月 [会話] しょんがつ(正月)はなあ、ションガツドン言うて。ションガツドンな(が) くんね(来るのだ) 言うて “ションガツドン ションガツドン どこ迄ござった、裏の柿の きい(木)の もとい(元へ)迄ござった、何を土産にもて(持って) ござった 串柿 せんべ(煎餅)に足袋の ひぼ(紐)” 言うて しょんがつ になるとなあ。

しょんがつのもな、おおのめ このめ【俚諺】正月の準備は忙しいので多少の手落ちは、許される。

しょんがばあさん【名詞】庄屋の婆様 [会話] ションガバアサン言うな(のは)、庄屋の婆 言わせんかい(言いませんか)。ションガバアサン牡丹餅 好きで言うて。

じょんじょ【名詞】草履 幼児語(志(布施田))

しょんば おすそわけ

しょんべ【名詞】1) 小便。血液中の水分や老廃物が、腎で濾過され体外に排出されるもの。尿、ゆばり、小水、小用、しょんべん。(志(布施田、片田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、津、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 違約、破約。契約後に売り手、買い手のいずれかが不当に契約を破棄する事を俗に言う。[会話] 1) 小便の事をションべ。ションべしてこお(して来ましょう) 言うて、ションべたれてこお(して来よう) 言うて、ションべしてこお 言うんなら(言うのなら) ええんけど(よいが) ションべたれてこお。たれんのかい(ですか) 言うて(言つて)。2) もう一つ約束 違えるのも ションべした言うて 約束したけど(が) ションべ し といて来た(しておいて来た) 言うて。それを買うわ い(買います) 言うて、断わんのを(断わるのを) ションべした言うて。

しょんべくさい【形容詞】1) 小便の臭いがする。2) 子供じみている。未熟である。

しょんべする 1) 小便する(志(越賀 志島 浜島 鶴方)、鳥(国崎 桃取 坂手)、張) 2) 約束を破る(志(鶴方)、員、阿、張、尾) [会話] 1) しょおよお (小用) する言うの (のを)、ションベスル 言うや んかい (言います)。しょんべたれてこお (小便して来ましょう) 言うて。2) ションベスル 言うて 違約するとなあ しょべしといて (しておいて) 来た言うてな あや (あれは) なしたんど (どうした) 言うたや (言ったら) しょんべした 言うてな 買う言う といて おつて (言っているながら) 買わんと (ないと) あやまあ (あれは) しょんべ しといて (しておいて) 来たよお (来ました) 言うて。

しょんべたご【名詞】1) 小便所。(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥(加茂)、上、張) 2) 肥料にする糞尿を入れ、田畑へ担いで行く桶。3) 多淫な女性。(志(布施田)) [会話] 1) ションベタゴ 此のぐらい(位)の かめ (糞) な (が) 有って、昔や (は) 道ばた (道の側) へ みんな (皆) 家のはいりぐち(入口) へ、おおかん (往環、従来、人通りの多い道路) でも、家のはいり口へ、ションベタゴ言うて 壺をいけて (埋めて) 有って、それへ 皆 ダー ダー 言うて しょんべしといて (しておいて) 家へ入りおったの (入って居ました)。すぐん (すぐに) 入る出口ん (に)。2) たご言うてと桶で取手 な (が) ついとて (付いて居て) 担う おなし (の) ですし。ションベタゴ言う な (言うのは) ちっちゃあい (小さい) 壺 いけて有りおったん (有りました)。それを ションベタゴ言うてなあ (言った)。しょんべ つぼ (壺) 言わんと (言わずに) ションベタゴ言うの。昔は たご (担桶) でも置いて有って それへでも。雨 な (が) 時化で、便所へ行く のん (のに) 濡れる やんない (でしょう)。そやもんで (それで) 庭へ入れてしたり。子供ら な (が) 雷、鳴ったりすると おとし がる (怖がる) と、庭へ入れといて (おいて) しい おったわい (して居ました) たあご (担桶) をなあ。そすと 昔は そのたんごに しとたのおを (して居たのを) 今度は、壺 いけてだんだんと (次第に) 移つてたの (のです)。

しょんべたれ【名詞】よく小便をする者。(志(片田 布施田)、鳥、多、南) [会話] ションベタレ言うて、寝ションベタレ。ションベタレ戻して、夜糞たれもろた (貰った) 言うて。しょんべたれるよつて (から) 戻

したたや (てやったら) こんだ (今度は) 夜糞たれもろた 言うや んかい (言います)。嬢 な (が) わり (悪い) よつて (から) 言うて戻した たや 今度 どげな (どんな) ええ (よい) 嬢、貰うや か 思たや (思ったら) はこ (大便) たれもろた も一つ悪 り かった (悪かった)。

しょんべたれる 小便をする(志(国府)、鳥(相差)) [会話] しょんべ するも 一緒や (です) ションベタレ も。たれる たらたら と 垂らすもんで (ので) たれる 言うんかい なあ (言うのでしょうか)。子供 ら 怒る のでも、しょんべたれよ (奴) 言 い お つ た (言っていました)。

しょんべぶくろ【名詞】膀胱(志(布施田))

しょんべまい【名詞】脬囊を作るかいこ。脬囊。[会話] ションベマイ言うて わり (悪い) のおを (のを) えつて (選んで) ほつた (捨てる)。

しょんべみち【名詞】尿道 [会話] 今しや (今は) しょんべ (小便) な (が) つまると (出ぬくいと)、膀胱 な (が) わり (悪るい) 言うけど (が) 昔や (は) ションベミチ な (が)、わり い て (悪るくて) 言うてなあ。

しょんべん【名詞】1) 小便。(鈴郡、鈴市、安、一、伊、南、熊) 2) 違約 [会話] 1) ションベン し ながら 足袋のこはぜをするけれど言うて 小用の事。

しょんべんごわり【名詞】出産ま近に小便ばかりしたくなる事 [会話] ションベンゴワリ言う な (のは)、お産の前に しょんべ (小便) ばつ か (ばかり) した な つて (したくなって) 来る、したいだけで なん も (少しも) 出やへん ねん なあ (出ないのです)

しょんぼり【副詞】姿、形が元氣なく、淋しそうな様

しらあえ(しらあへ)【白和】**名詞** 豆腐と野菜を混ぜたもの。(熊) [会話] とふ (豆腐) 砕 い と いて (ておいて)、だい こ (大根) の せん が き (千切り) く ざ け と いて (入れて) それを とふ の シラアエ、豆腐を 砕 い と いて 人参でも なん で も (なにでも) 色どり ん (に) し と いて (しておいて) シラアエ ん (に) してなあ。

しらい(白)【形容詞】白い。[会話] 白い言うのを しい ろい 言うて、い つけ ん ね よ つ て (つけるのだから) しい る (白) シライ (白) 言うの (のです)。

しらが(白髪)【名詞】老人 か は ケ (毛) の古語(広辞苑)。シラカミ (白髪) の略(日本国語大辞典) [会話] に げ (人間) の ち っ さ い の (小さいのを) あ や (彼は) こ ま し や (小さいのだ)。シラガ み た い ん (のように) し と る も ん な あ (しているから)。

じらかす【他サ五】 じりじりさせる。いらだたせる。じらす。[会話] 頼むとなあ なんやかや (いろいろ) 値打持たす事をなあ ジラカス、すぐんと (すぐに) してくれや (してくれれば) ええ (よい) 事に、そや まあ (それは) どおたら (どおだ) 出来やせんけど (ないが) 言うて、値打持たしとんのなあ (ているのです) ジラカス言うてな。 あげん (あんなに) ジラサ ンてて (なくても) はよ (早く) 言や (言えば) ええ ことん おもてな (思って)、はい 言わんと (言わずに) 値打持たしとんと (ていると) ジラカス言うて。

しらかみ (白紙)【名詞】 白い紙。何もかいてない紙。半紙 (志 (船越、志島、南) [会話] シラカミは 紙の事やんかい (です)、半紙の事をな。“文は書きたし、書く手は持たず、長いシラカミ 文と読む” 言うてな 文をひろげて よお書かんし (書けないし) よお 読まんし (読めないの) シラカミひろげて文と読む言うて。

しらき (白木)【名詞】 生地のまゝの木。塗り物のしてない木材。[会話] 曲げもん (わっぱ) は シラキで、シラキは汚れて来ると みがき砂つけてみがくと じっぱ (立派に) なるやんない (なるでしょう) そやもんで (それだから) シラキのほおな (が) よかった。

しらきりぼし (白切干)【名詞】 生の薩摩芋を切って乾した物。(志) [会話] 芋を うっすう (薄く) 切ったのを シラキリボシ 言うの (言うのです)。その きりぼし (切干) を うっすう (薄く) 切ったのをなあ 釜でざあつと うでて (茹でて) 干したのおは (のは) にたらしや (です)。しいろい (白い) のおを (のを) 切ったなり (まま) 干すのは シラキリボシ。にたらしを 芋の替りに 芋な (が) 切れて来ると (無くなって来ると) にたらし飯炊いて喰いおったわい (食べて居ました)。保存食やなあ (です)、生の芋な (が) 有るうちは (間は) 芋つぼから出して喰うし、芋な (が) 切れて来ると にたらし飯や (と) 言うてなあ。シラキリは 芋 切ったながり (まま) 生で干すの。それも 飯ん (に) 炊いて 今し (今) でも そんな飯 炊くわい (炊きます)。そやけど (しかし) にたらしん (に) しといて (しておいて) 炊くと 飯な (が) 美味しい シラキリボシん (に) すると ちよいと (少し) ひなたくさいの。きんこはまるつぼ (そのまま) おっさい (大きく) あつちう (厚く) 切んのをなあ (切るのを) きんこやし (です)。きんこは一回炊いといてから (ておいてから) 切るし、切つてなあ 炊くのも有るしな いろいろやけど (だけけれ

ど) 厚みが 違うのなあ (のです)。昔はな きんこは こしらえて (作って) 切つといて (切っておいて) から 炊きおったけど (炊いていたが) 今は皮ごち (ごと) 炊いといて、剥いてあつて 炊くと甘味が違うわてや (違うのです)。皮ごち (皮共) 炊いたのお (のは) おいしいのなあ (です)。かあ (皮) 剥いて 炊いたのお (のは) 出来上りは 美しんけど (美しいのだが) 味な (が) 違うの (違うのです)。甘味な (が) 違う。たあら (俵) ん (に) 何俵言うて ものき (物置) に入れて かしん (菓子) な (が) 無いねよつて (無いのだから) 子供らな (の) それ みんな (皆) おやつやもん (です)。

しらきる 嘘を吐いて平然として居る。

しらくそ【名詞】 鴉の糞 [会話] 鴉の シラクソ。鴉は くろお (黒く) ても、しいろい (白い) 糞たれるやんない (するでしょう)、真つ白なのおなあ (のを) たれといてくわい (しておいて行きます)。そやよつて (だから) しいろいと (白い) おた 鴉のシラクソや なあ (だ) 言うてなあ。色な (が) くろい (黒い) にげ (人間) ななあ (が) なんか (なにか) しいろいもん (物) 着ると、おた 鴉のシラクソ みたよな あ (のようだ) 言う。ほかの鳥は そげ (そんなに) しいろ ねえもん なあ (有りません) 鴉は くろお ろておつて (黒いのに) 真つ白なのをたれるわい (します)。しいろいの、ぼたぼた落して、そやもんで (それなので) 鴉のシラクソ言うの なあ (です)。

しらくび【名詞】 1) 白首 しらこべ参照。2) 芸者

しらくも (白癩)【名詞】 白癩。浅在性の白癩。多く幼児の頭皮に出来る糸状菌感染に依る皮膚病。軽い痒みがあり、掻くと白い粉が落ちる。しらた。[会話] シラクモを シラタや (と) 言いおったね (言つて居たのです)。シラタな出来て言うなあ。頭へ ぜんだむしみ みたい な (のような) のな (のが) 出来てなあ。

しらけてきた 1) 空が明るくなる。夜が明ける。2) 雨が止んで、晴れ間が出る。

しらけとる 白くなっている。色が失われている。[会話] シラケトル言うのを しゃれとる (曝れている) 言うの (のです)。

しらける (白)【自カ下一】 1) 白くなる。色があせる。(南) 2) 座の雰囲気や壊れる [会話] しげじろは 茶色しとるし (しています)、ちゅうじろ言う な (のは) それよりちよいと (少し) シラケトル なあ。

しらこ (白子)【名詞】 魚の精巢。食用になる。[会話] さいらのつぶこ (粒子) や、シラコ (白子) や (と)

言うてなあ。粒子言うな (のは) あや (あれは) 子に なんねやるし (なるのでしょう)、シラコ言うな それと もよて (一緒になって) 粒子とシラコと。 しょから (塩辛) に 漬けんのな (漬けるのが) その粒子を取ってなあ。わたじよから や (と) 言うて、 さいら (秋刀魚) 開きにいて (行って) わたじよからもろて来た (貰って来た) 言うて、粒子をしごいてなあ (綺麗にして) 皆 しょからに漬けえおったのお (漬けて居たのです)。 つぶか (粒子は) うもおて (美味で)。シラコは子になると シラコとあれとせな (しなければ) こお (子供) にならせんのやるなあ (ならないのです)。 にはおっ (二本宛) 入っとなねてや (入っているのです)。 わた (内臓) 開くと、シラコと、粒子とそして粒子をしょから ん (に) 漬けんのなあ (漬けるのです)。しごいて つけえおったわい (漬けて居ました) どいらい (大変) うまかってなあ (美味で)。 なんやら (何か) 腸みたいなもの (物) な (が) ついとるわい (付いて居ます) 粒子とシラコの 頭ん (に)。それをしごいてなあ 出刃で。 わりもん (悪い物) 中の臓物を しごいて (ておいて) しおった (しました) わたじよから。

しらこのもち【名詞】 米の粉の団子 [会話] 十一日 (正月十一日) ん (に) になると、シラコノモチで 浜い (へ) 祭りんきよおった (祭りに行きました)。米を こお (粉) ん (に) したのおを (のを) しらもちや (だ) 言うて、米の こお (粉) の餅を

しらこべ【名詞】 白骨化した頭蓋骨。[会話] なすび (茄子) の ひとらばえ (自然に生えたもの) 喰わんもんや (ものだ) 言うて ひとらばえんのおお (のを) 引いたや (引いたら)、 にげ (人間) のシラコベやら、 めえ (目) やら はあ (菌) やら かあ (皮) から、 めえ (芽) な (が) 出とた (出ていた) ひとらばえ、シラコベの間から生えた のおな (のが) あった。

しらざった 知らなかった [用例] おらなんも (俺は何も) シラザッタ

しらさまいや 知らさないでおこう。[用例] あれん (彼に) シラサマイヤ。

しらしらしてきた 1) 雨が止んで雲が切れて来た。雲が薄くなって来た。2) 夜が明けて来た。[会話] 1) 天気になって来た 言うのなあ (のです)。シラシラマア テンキナ (が) シテキタなあとか 2) 朝、夜明けな (が) 東じらみん (に) になると シラシラシテ、 東の (が) しろで来たのおを (白んで来たのを、明るくなくて来たのを)、東じらみになったら起きよ言うて。昔

や (は) 時計な (が) 無いやんな (でしょう) そやもんで (それなので) 東な (が) しろで来ると (明るくなると) 朝 起きるじき (時期、時間) にして、東じらみん (に) になったら まあ (もう) 起きて言いおった (言っていました)。 こなんだ (此の間) 伊勢 六時ん (の) のおで (ので) 行くのん (の) 外へ出たや (出たら)、 したや (そうしたら) 東からちよいと (少し) しろで来た。昔 や (は) こや (これは) 東じらみや (だ) 言いおったんなあ (言っ居たのに) おもて (思って)。 時計な (に) 無い 昔 や (は) 東じらみん (に) になったら起きよ言うて 時計の代りんなあ (に) そげんして (そんなにして) ひい (太陽) 見てし いおったねのん (して居たのに) こやまあ (これは) 丁度 東じらみやなあ (だ) おもて (思って) 見とたね (見て居たのです)。 1) シラシラシテキタなあ まあ 雨な (が) 止んで 言うてなあ 天気になって来る前をなあ (晴れる前を)、なりかけもなあ 天気ん (に) なる前ん (に) まあ シラシラシテキタよつて ん (から) こや (これは) 天気 (晴れる) なんねなあ (なるのだなあ) 言うの (言うのです)。シラシラシテキタ 言う時と、しらんで来た 言うんかい (言うのですか)。 東な (が) しらんで来た言うな (のは) おひいさん (太陽) な (が) 出かけて来て、 東ちよいと (少し) あっこ (赤く) なってくるやんない (でしょう)、それを 東じらみ言うてなあ。

しらす【知】【他サ下】 通知する 知らせる (上、阿) [会話] あんな (彼が) 死んでた (で行った) 言うて、シラスで やら (とか)。 こお (子) もおけた (産んだ) 言うて、シラス。報告することを、シラス言うの なあ (です)。 なんやかや (いろいろ) した時や (は) シラサナ (なければ) はざんわれ (いけない) 言うなあ、あの家も シラシトカナ (ておかなければ) はざんわれ 言うてな 通知する事なあ、 ええ (よい) 時でも わり (悪い) 時でもシラス。親戚の濃い家ら、シラシテカナ (て行かなければ) はざんわれ 言うてな。

じらす【他サ五】 焦ら焦らせる。困惑させる。

しらすな【白砂】【名詞】 白い砂。

しらせ【知】【名詞】 通知、便り。予感 (志 (布施田、甲賀)) [会話] 急な時ん (に) シラセ聞か やんない (でしょう)。何処の 人な (が) 死んでたてわれ (そうだ) とか、病院で手術 すんねてわれ (するそうだ) 言うて、聞いた 時ん (に) おどけて (驚いて) 胸ついたよお急で言うて。

しらせがね【知】【名詞】 葬式の日の早朝 (夜明

け)に打つ鐘(松) [会話] 死んだおりん (時に) シラセガネも 打たんと (打たずに) 言うてなあ。朝まあ 五時頃ん (に) なるとなあ、鐘 叩きよおったわい (叩いて居ました) 今しは (今は) でがね だけ、鳴らすだけやけど (だが)、シラセガネも打たんと (打たずに) 言うてな。そすと 誰やら (か) 今日死んだかして (と見えて) てんてんな なんなあ (鳴る) 言うて、今しゃ 放送するよつて (から) 鐘は打たせんけど (ないが) でがね (出棺の鐘) だけは打つわい (打ちます)。シラセガネは 朝 早よおなあ (早く) 死ぬと必ず うちよおったわい (打って居ました)

しらそ (白租) 【名詞】 白い麻糸 あおそ参照

しらた (白太) 【名詞】 1) 白斑。皮膚の色素が脱出して、肉眼的に白色の斑をなすもの。(鳥、一、度、伊) 2) 白太。杉の白い材。白材。木材の樹皮に近い白色をして居る部分。(員、尾、南) [会話] 1) 頭い (へ) シラタな (が) 出来た、シラタムシな (が) 出来よおった (出来て居ました)。顔いも出来るけど (が) 頭い (へ) シラタな (が) よお (よく) 出来よおった。2) きい (木) のシラタた言うて、あかみ (赤身) のないのを、松のうわかわ (上皮) の方は あかみな 無いもんで (ので)、杉は 中のあかみ な (が) いかつい もんで (強いので) 杉のあかみ 言うたら、ねえ (値) な (ので) ええの (よいのです) そやけど (しかし) きい (木) も、シラタわ、ざつい (雑い) きい (木) にあんのなあ (有るのです)。

しらだき 【名詞】 味をつけず湯だけで炊く事。水炊き。(志) [会話] だいこ (大根) 刻んどいて (でおいで) にあえや (と) 言うて、だいこ シラダキに炊いどいて 摺り鉢で 味噌摺つどいて それい (それへ) 放り込んで。

しらたま (白玉) 【名詞】 白玉粉(米の粉)を水でこね、丸めて茹でて作った団子。[会話] シラタマコオ (粉) 言うてな、菓子こしらえんの (作るのに) 一番 ええ (よい) こおを、やいこいなあ (柔らかい) あれを シラタマコオ (粉) 言うやんかいな (言います)。それで作つどいて (ておいて) あの団子を シラタマ 言うね (言うのです)。あの団子は やいこおて (柔らかくて) また違うんでや (のです)。

しらち (白血) 【名詞】 婦人病の一つ。臆から分泌される白色の液体。白帯下。しらちながち参照

しらちながち (白血長血) 【名詞】 白血と長い性器からの出血。子宮癌。[会話] 今しは (今は) 子宮癌言うて おなご (女) の病気を言うやんない (言うでしょう)。

昔は シラチナガチ 言うて 言よおったの (言つて居たのです)。昔は出血すると みえもんな (物が) して来た言うて、そすと シラチナガチ言うねよつて (言うのだから) あつかいのおを (赤いのを) ナガチ、違う おりもん (帯下) を シラチ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。あの人は シラチナガチ言う病氣やよつて (だから) そのむこた跡いも (座った跡にも) むかうな (座るな) 言うて (言つて)。シラチナガチ言うて 一番 おなごな おとし (恐い) 病氣や (です)。シラチ言うて こしけ (帯下) の事を言うんやろ (いうのだろうか) 思うね (思うのです)。そして婦人科な (が) わり (悪く) なると、肉な (が) 皆おりにくねてわい (失われて行くのだそうだ) 言うて、そすと (すると) おりに来るもんな (物が) 臭いんて わい (臭いそうです) どいらい (大変)。そやもんで (それで) あれば 肉な おりにくねよつて (来るのだから) 臭いんどお (臭いのだ) 言うて、みえもん (見え物) 言うのは 月経と違う時期 (時) に出て来ると みえもんな (が) して来た言うて、あや (あれば) 病氣やなあ (だ) 言うて、そして (そうして) 妊娠しとる (して居る) 時でも みえもんな (が) して来ると 流産するとか言うて 昔の人や (は) わがとらな (自分達が) 判断して みえもんな (が) して来たよつて (から) 流産してくんやれ (して行くのだ) 言うて。

しらちャける (白茶) 【自カ下一】 色があせて白っぽくなる。[会話] しらけてた言うのな、着るもん (物) でも 色な (が) されて (退めて) 来るやんない (来るでしょう) あいな (あんな) のを、シラチャケル言うてなあ。

しらついできた 1) 夜が明けかけて来た。2) 曇天の雲に切れ目が出来て来た。雲が薄くなって来た。[会話] 2) 曇つとたや (ていたら) 日和ん (に) なつて くんのかして (来るのか) シラツイテキタレ 言うてな、天気んな (に)。1) 夜な (が) 明けてくんのかして 東な (が) しらしらして来た シラツイテキタ言うし。昔や (は) 時計な (が) 無いもんで (ので) 東 じらみ や (だ) 言うて、時計の代りんなあ (に) 出て見て、ま 東 じらみやよつて (だから) 起きて なんなり (なんでも) せな (しなければ) はざんなあ (いけない) 言うて、東な (が) しろんで (明るくなつて) くんのを (来るのを) 待つて仕事しよおったね (して居たのです)。東じらみから仕事しとんね (しているのだ) 言うて。天気のわり (悪るい) ひい (日)

でもなあ 天気な (が) よお (よく) なって 来るよん (ように) なって来ると、明かるなって来るやんか な (来ます) まあ シラツイテキタな 天気ん (に) なってくのかして 言うてなあ。

しらなみ【名詞】白浪 白波 波頭が白く泡立つ波 し
らなみだつ参照

しらなみだつ 白浪が多く表れる 海が荒れて来る。[会
話] シラナミ 言うな (のは)、砕いてしいろお (白
く) なるやんな (でしょう)、島い (へ) うちつけて波
な (が) たっこお (高く) 上がって うちやれて (壊
れて) しいろお なんのを (なるのを) シラナミダッ
テキタ言う (言います)。

しらは【名詞】白い歯

しらはえ (白南風)【名詞】空梅雨。[会話] シラハエ
言うななあ (のは)、雨な (が) 降らんと (らずに) ま
ぜ (南風) の風な (が) 吹くのなあ (のを) シラハエ
言うなし (言うのです)。雨が降る時の はえ (梅
雨) はくろはえ。くろはえん (に) なったら 芋植え
せな (しなければ) 言うてなあ。黒はえん (に) なる
と雨な (が) よお (よく) 降んのなし (降るのです)。
シラハエや (だ) 言う と 雨な降らせんの (が降らな
いのです)。つゆ (梅雨) の事を はえ言うの (言いま
す)。そして まぜ (南風) な (が) 吹いて来ると、は
えの風な (が) 吹いた言うてなあ はえな (が) 吹い
て来た言うて (言って)。

しらはま (白浜)【名詞】白い砂の海岸。[会話] シラハ
マ言う、御座のシラハマ言う。こなすかな (小さい砂
が) 有るもんで (ので) 言うんなあ (言うのです) 御
座のシラハマ言うて。白い浜 言うのは、砂のこなす
か やもんで (なので) シラハマ言うて (言って)。昔
は 広の浜も あげん (あんなに) しとりおったん
なあ (して居たのに)。シラハマに しとりおったけど
(して居たが)、今しゃ (今は) 堤防ついだり (築いた
り) なんやかや (なにかと) するもんでなあ (するの
で)、砂もなんも (なんにも) 持て来やせんねなあ (持
って来ないのだなあ)。あんでなあ (あれで) 亀な
(が) こおすりに来いおったけど (産卵に来て居たが)、
今はまあ来やせんやろ (来ないでしょう) こなすか
な (が) 無いもんなあ (無いから) あらすな (荒砂?
砂利) な (が) 一杯有ったや (有ったが) 時化で、そ
れも 皆 とてくもんなあ (取って行くから)。

しらはむ (白)【自マ五】1) 夜明で、明るくなる 2)
白くなる。白色を帯びる しろばむ

しらべ (調)【名詞】1) 物事を区別すること。2) 理非

を正す事。[会話] 2) けえさつ (警察) に、シラべら
れて言うてな。1) そして なんやかや (いろいろ) す
ん (する) のでも、おおた、まあ、こや (これは) え
ごつと (完全に) シラべもせらったんかして (しなか
ったのか)、こやれ、まあ わり (悪るい) のな (の
が) よけ (沢山) まぜつとられ (混ざっている) とか、
言うてな、しわける (区別する) 事 シラべもせんと
(せずに) 言うてなあ。

しらほ (白穂)【名詞】稔らないで居る稲の穂。[会話]
シラホ。みい (実) な (が) いつとらせん (入ってい
ない) しいろおなあ (白く)、粒はついとんねけど (つ
いているが) 粃穀ぼつかで (ばかりで) 米な (が) は
いつとらせんの (入っていないのを)。

しらぼし (白干)【名詞】大根、芋などを切つてそのまま
干した物。(志) [会話] シラボシ言うなだ (のは)、
きりぼしの事、シラボシや (と) 言うんなあ (言いま
す)。芋の切つたのをシラボシ、しらきりぼし。だいこ
(大根) の切つたな (のは) だいこ (大根) のきりぼ
し言うわい (言います)。

しらまかす。しらます (白)【他サ五】白くする。

しらむ。しろむ (白)【自マ五】1) 夜が明けかける。
2) 雨雲が薄くなる。雨がやむ。3) 白くなる。[会
話] 1) 東じらみを シランデキタ言うなあ (言いま
す)。東な (が) シロム 言うて。昔や (は) 東な
(が) シロデキタん (のに) まあ起きんかれ (起き
なさい) 言うてなあ。

しらめ【名詞】虱、しらみ、哺乳動物の外部に寄生する
小型の昆虫。人体に寄生するのは、あたまじらみ、こ
ろもじらみ、けじらみが有る。しらみの訛 (志 (浜島、
片田、立神、甲賀、国府)、鳥 (加茂)、三、鈴郡、鈴
市、安、一、松、多、上、阿、張、名、伊、北、尾、
南、熊) [会話] 虱の事 シラメ。知らん (知らない)
みい (身) から出て来るよって (から) シラミ
言うねやけど (言うのだが)、シラメ言うてなあ (言いま
す)。みい (身) から 出て来んねてわい (来るそう
た) 言うて 昔や (は) 言いおったんなあ (言ってい
ました)。なつと (なんと、どんなにして) 出て来ん
か (来るのか) 思いおったわなあ (思っていました)。
寺の小母さんに シラミな (が) よけ (沢山) わいて、
寺のおば (妾) やけど (ですが) まあなあ 小僧がお
つき (大きく) なり、又、小僧に来て、わがと (自
分) な (が) 育てた小僧は 皆 他処へいたて (行っ
てしまって) わがとは、一人ぼつちで 放り出されて、
源平山 (地名) の納屋と隠居のあい (間) に ちつち

やあい (小さい) そおぎぶき (板屋根) の家 建てて、そこん (に) 置いてもるとんね (もらって居るのです)。そいたら (そうしたら) シラメでシラメで、わしら (私達) な (が) 学校へ行くのん (の)に いたり (行ったり) きたり (来たり、帰ったり) して あそことおん (通るの)に “おおた 小母さん シラメ見よまあ” 言うたら “阿呆よ シラメは人間にわくもん (物) 蚕は畜生に わくもん やわ (だ)” 言うて わしらん (私達に) そんげん 言いおったの (言うて居たのです)。シラメな ふちんなつて そおして、彼岸の中日に死んだねやったね (死んだのです)。シラメな ふちになる言うのは よつけ (沢山) おる言う事やわい (です)。襟やら (とか) 首玉やら (とか) まあ一杯おんのおを (居るのを) それを、ふちになる。シラメでふちや (だ) 言うてなあ。

しらめし (白飯) 【名詞】 麦など雑穀を入れないで、精米だけで炊いた飯。[会話] シラメシは 白い御飯。シラメシや (は) さるき (猿の牙)。せだ (布施田) の人らそれ、さるきやじゃ (です)。猿の牙ん (に) よお (よく) 似とる (て居る) やんない (でしょう) 米は そやもんで (それで) さるきやじゃ 言うて “さるきやじゃやつとこじゃ (食べましょう)” 言うて。

しらもち (白餅) 【名詞】 白い餅 米だけの餅 米の粉を餅にしたもの [会話] シラモチん (に) する言うてだ。しょながつ (正月) の餅なあ (です)。あいなの (あんなのを) 色つげんと (つげずに) すんの (するのを) シラモチや (だ) 言うしなあ (言います)。米の こお (粉) をシラモチで、十一日ん (に) になると、浜まつり、米のシラモチで祭りん (に) いて (行つて)。米をこお (粉) ん (に) したのおを (のを) シラモチや (だ) 言うて。米のこお (粉) の餅、普通の白い丸餅も、あいなのおでも (あんなのも) 眞餅でも シラモチや (だ) 言うて、しろい (白ろい) な (の) は 言うけどなあ。

しらゆ (白湯) 【名詞】 なにも混ぜてない湯。さゆ。[会話] さゆ言う時も有るしなあ、シラユ言う時も有るし、さゆ言うな (言うのは) なんも (全く) ちゃあ (茶) な (が) いっくらせんの (入っていないのを)、ゆう (湯) だけんのおを (ののを) さゆで飲む言うてな。ちゃあ (茶) 入れたのおな (のが) すけないと (少ない) おおた さゆやんか (でないか) こや (これは) 言うてな。

しららった 知らなかった。

しららって 知らなくて [会話] シララッテ、不安な

よおな思いとんねわい (しているのです)。

しらん 知らない。(桑市、三、四、上、尾) [会話] 知りません 言うのなあ (です)。そいなこた (そんな事は) おら (俺は) シランわれ (知りません) 言うて。知りません言うの (のを) シラン言うの (言うのです)。

しらんかい 知りませんか [会話] 此れ シランカイ、わしや (私は) なんも (全く) 知らんのん (知らないの)に 言うて、知らん事を問うの (のです)。わしら (私達) なんも (少しも) 知らんね (知らないのです) あんた (貴方) シランカイ言うて。知りませんか 言うのを、シランカイ言うてな。そしたや (そうしたら) 知つとる知つとる言うてそれはしつとる、酒はリットル言うて。

しらんかお (しらんかほ) (不知顔) 【名詞】 1) 空呆けて居る 2) 知らない人 [用例] 2) 知つとたけど (知つて居たが) シランカオの人やもんで (なので) 1) シランカオしとた (して居た)。

しらんかおしとこ 知らないふりをしておこう

しらんかおする 惚ける (南) [会話] 知つておつて (いて) シランカオシトル (している) 言うてな、知つとても (ていても) 知らんふりして、おや (俺は) なんも (なんにも) 知らんわれ (です) 言うて、シランカオスル言うて、とぼけとる (ている) 事。

しらんかった 知らなかった [用例] なんも (少しも) シランカッタ。

しらんだ (知) 知らなかった (津)

しらんだ (白) 1) 空が明るくなった。夜が明けた。 2) 雨雲が無くなった。 3) 白くなった

しらんできた 空が明るくなって来た。夜明けとか天候の回復の時に使用する。[会話] 夜な (が) 明けてくんのかして (来るのか) 東な (が) しらしらして来た。シラndeキタレ言うし。

しらんと 知らないで、ついうっかりと (熊) [会話] なんも (全く) シラント来たよお (来ました) 言うて、此処ん (に) 誰がおる (居る) とも知らんでなあ。シラントおつたよお (居ました) ほん (本当に) おとつしや、お前な (が) 来とん (来ている) のを言うて。なんも (少しも) シラントおつたら (とか)。シラントおつて (居て) 知つたふりすると、あや (彼は) なんも シラントおつて (居て) 知つたかぶりする。なんも シラントしたたよお (してしまった) 言うて、うっかりしたると (してしまうと) おとつしや、なんも シラントしたたんなあ (してしまったのだな) こや (これは) はざんなあ (駄目だ) 言うて、わり (悪

るい 事したるとなあ (してしまうと)。こや (これは) 知らったよお (知りませんでした) こげん (こんなに) したて (してしまって) こやまあ言うてな、したた (してしまった) 後で。

しらんとおらせん 知らないはずわな、知っているはずだ [用例] そいな事 (そんな事) シラントオラセン 知つとる (知って居る) はずや (だ)。

しらんとおるうち。しらんとおるひま 知らない間 (志)

しらんとこ 【名詞】 知らない所 [会話] シラントこい (へ) 行け言うて、あの家や (は) おら (俺は) なんも (全く) シラントこやのん (だのに) 言うてな わがと (自分が) シラントこはなあ。判からん始めてのとこい行くと、おら そいな (そんな) とこ (所) なんも (少しも) シラントこやのんなあ (だのに) 言うて。

しらんとこ 知らないでおこう [会話] そいな (そんな) 事 シラントコ言うて、知らんでもかまわせん (かまわない) 知らん顔しとこ 言うて、知つとても (ていても) 知らんふりすんのを (するのを)。

しらんとこに 知らないでおこう

しらんとるうち 知らない間 (志 (片田)) [会話] シラントルウチん (間に) まあ 行たたんかい (行ってしまったのですか)。おや (俺は) まあ なにそれやろ (あげよう) 思もとたのん (ていたのに) シラントルウチ 行たたんなあ (行ってしまったのだ) 言うて。

しらんとるひま 知らない間 (志 (浜島)) [会話] 知らんとおる (居る) うちに (間に) 言うのをなあ、シラントルヒマに、人な (が) こいな (こんな) 事したたとか (してしまったとか) いたた (行ってしまった) とか言うて

しらんね 1) 知らないのです 2) 知らないのだ [用例] 1) おやなんも (俺は少しも) シランネ おせてくれえ (教えて下さい)。

しらんねけど 知ら無いのですが [会話] なんも (全く) シランネケド言うて、わしや (私は) まあ 初めてで、なんも (なんにも) シランネケド、なんなど (何でも) おせて (教えて) くれまあ (下さい)、なんも こや (これは) 初めてで知らんわい (知りませぬ) 言うてなあ。

しらんの。しらんのや 1) 知らないのです 2) 知りませぬ

しらんのやけど 知ら無いのですが (三) [会話] なんも (少しも) シランノヤケド言うてな、シランノヤケ

ド おせてくれまあ (教えて下さい) 言うてな、わしや (私は) 初めてで こや (これは) なんも シランノヤケド、なんなど (なんでも) おせてくれえ (教えて下さい) まあ なんも こや (これは) 初めてで知らんわい (知りませぬ) 言うてな

しらんのん 知らないのに

しらんふう 【名詞】 知らぬ顔 知らぬ格好 (熊) [会話] 知らんふりしとくわい (しておきます) 言うて、知つとても (ていても) 知らん顔しとて (していて) 知らんふりしとて 言うてな、シランフウ言うのも、知らんふりも一緒やわいなあ (です)。

しらんふうする 知らぬ格好をする。惚ける。(熊) [会話] 知らん顔 しとる (している) 事をなあ シランフウスル、しとる 言うてな、知つておつて (居て) シランフウスル 言うて。

しらんふり 【名詞】 知らない格好 (南) [会話] シランフリしとくわい (しておきます) 言うて、知つとても (ていても) 知らん顔しとて (していて)、シランフリしとて 言うてなあ。

しらんま 【名詞】 知らない間 しらんまん参照

しらんまん 知らない間に (鳥 (相差 答志)) [会話] 知らんと (知らずに) おる (居る) うちん (間に) こえん (こんなに) したたねえ (してしまったのだ) とか、こげん (こんなに) 言うとんね (言っているのだ) とかなあ、知らんとおるうちに言う、シランマン、知らんうちに言う事やな (です)。

しらんわい 知りませぬ [会話] そいな (そんな) こた (事は) おら (俺は) シランワイ言うて、知らん顔 しとんのなあ (しているのです)。

しらんわれ 知りませぬ (志、度) [会話] おら (俺は) そいなこた (そんな事は) シランワレ言うて、知つとても (ていても) シランワレ言うの (のです) 知らん顔。

しり (尻) 【名詞】 1) 最後、一番後ろ、後方。 2) 不服、不平、苦情 シリモてく。 3) 直後 教えるシリから忘れる (上、阿、張、名) 4) しっぽ 尾 (熊) [会話] 1) 一番終り言うのもシリ。 “我が身一番嬢二番 子供三番、親はしまいのしん (シリ) のけつ” 言うやんない (言うでしょう)。そやよつてん (だから) しんのけつあ (は) いっち (一番) しまいやわいなあ (です)。 2) シリ言うな (のは) 不服やら (とか) シリもろた (貰った) 言うて なんやかや (何か彼か) 言うて来んのを (来るのを) まあ お前ざや (貴方家は) こんげん (こんなに) 言うたやんかい

(言ったでないか)。わしや(私は)なんも(なんにも)言わせんの(言わないのに)そんげな(そんな)事言うて、言うてくんのをなあ(来るのを)苦情貰うのを、シリもろた(貰った)言うてなあ。あの家
にシリもてて(持って行って)言うて苦情言うてく(言うて行く)のをシリや(だ)言うて。

しりあい(しりあひ)(知合)【名詞】 知人(志(布施田))

しりあう(しりあふ)(知合)【自ワ五】 1) 互に知っている事。2) 互に知り合いになる。

しりあて(尻当)【名詞】 いしきあて、浴衣、腰巻き等の尻の当る所に、補強のため付ける布。[会話] シリアテ言うのは、腰巻い(へ)あてんのも(当てるのも)シリアテやし(ですし)、ひとえもん(単衣)へもシリアテ。しりな(が)ほころんでかんよおに(ほころばないように)。いしきあて言うのも、シリアテ言うのも一緒やんかい(です)シリアテ。

しりいつく 1) 後について居る。まわりつく。(南) 2) 行き先などがわからない時 後について行く [会話] 1) 尻付きやなあ(だ)言うて、奥さんな(が)旦那の後ばっか(ばかり)追わえやあるいとと(追わえていると)、とと(夫)な(の)尻い(へ)ばっか付いとて(ていて)言うの。シリイツク とと な(の)尻い(へ)追わえや あるいて シリツイトンネ。

しりうち(尻打)【名詞】 しりあてに同じ 浴衣、腰巻き等の尻に当る部分につける布 補強と動作のしやすきようにつける。(志(布施田))

しりおし(尻押)(後押)【名詞】 1) 後押し 後ろから押すこと、押して貰うこと 2) 陰から援助する事 援助してもらう事 後援 [会話] 1) 後 押したるわい(てあげます)とか、坂を押したるの(てやるのを)シリオシや(だ)言うて、押して貰うとだくなやんかい(楽です)シリオシして貰うと

しりおも(尻重) 尻が重い事。ものぐさである事。容易に動こうとしない事 [会話] 尻な(が)おもたい(重い)。はよ(早く)此れしたればお(しなさい)言うても はい言うとも(言っていない)尻な(が)立たせんのなあ(ないのです)。シリオモで 言うたて(言っても)早速すんねないし(しないので)。

しりかいて あげ足をとって。しりかえす参照

しりかえす 1) 海女が潜水する しりかやす。 2) 揚げ足をとる。[会話] 1) シリカエシテまあ言うて、磯(海女)いても(行っても)底いってく(底へ潜

る)時ん(に)シリカエス言うしなあ(言います)。

2) そして なんでも(何でも)人の言う事を 後でまた言い返すと、シリカエスとか、しりとってとか シリカイトとか言うのなあ(です)。

しりかえる 1) 生れて来る子が性を変える 2) むつきを取り替える(志(甲賀、国府、安乗))

しりがかあるい 1) 気軽に言われた事をすぐ動作に移す 2) 浮気者である(女性について) [会話] 1) シリナ(が)カアルイ(軽い)言うて、あや(あれば)どげやなあ(どんなのだ)言うて はい言うて、からうけやい(軽受合)してでも、するにげ(人間)も有るし、なんでも 仕事な(が)有ると ひよっと 人な(が)せんうちん(しないうちに)立ってて(立って行って)わがとから(自分から)すんの(するのを)シリナ(が)カアルウテ(軽くて)あや(彼は)仕事よおするなあ(よくする)言うて、そしてなんでも(何でも)気な(が)付いて、あれも せんならんな(しなければならない)おもとと(思っていると)しゅっと そのにげ(人間)な(が)いて(行って)すんの(するのを)、あやまあ シリナ カアルウテ、気な(が)効いとて(ていて)言うてなあ。

しりかかえとる 1) 便所に行くの辛抱している。 2) 帰りたい

しりがけ【名詞】 海女が海藻を採る時、陸上で海藻を干したりして手助けすること、又その人。下働き(志(布施田)) [会話] シリガケ言うとなあ、めえ(若布)かづいて(採って)来ると、めえ 干しん(に)いたり(行ったり)、もお(藻)かづいて 来て、もお(藻)干しん(に)いたり。荒布を干したり、てえ(手)かえしたりすんの(するのを)シリガケや(だ)言うて。麦でもなんでも、干して有るもん(物)を、干したり取り込んだりすんのなあ(するのです)下働きするもん(者)を、シリガケ言うてなあ。

しりがさ(尻瘡)【名詞】 尻に出来た腫れ物。[会話] 尻い(へ)かさな(出来物が)出来たよってん(から)尻い(へ)かさやよってん シリガサ。

しりがながい 長居する、しりなながい

しりかやす 泳ぎながら頭を先にして潜水すること、尻が一度海面上に現れる。しりかえす参照 [会話] 磯人(海女)な(が)磯(海)いて(行って)頭から潜るの(の)をシリカヤス。

しりから すぐ、すぐ後から、言うたシリカラ忘れる

しりからげ(尻絡)【名詞】 着物の裾を帯にはさみあげること。尻はしより。(安)

しりからけぶりなでる 1) 一生懸命になる 2) 煙草を吸い過ぎる [会話] ① 秋 (秋の収穫) いて (行つて)、やあい、おらげ (俺の家) のととな (主人が) えろおて (大変で) 先い (に) 立てて、シリカラケブリナデルよお言うて。友達と出会うと まあやい 追いすえられて (立てられて) シリカラ ケブリナデルよお言うて、田圃で逢うと そげんして (そんなにして) 話しょおった (して居ました)。いっしょけんめ (一所懸命) なんので (なるので) シリカラケブリナデル程 追われて言うて、追いすえられて いっしょけんめ (一生懸命) なるもんで (ので)、へえ (屁) ぶうぶうへったる (してやる) もんで そんで (それで) シリカラケブリナ言うんかいなあ (言うのでしようか)。

しりかる あげ足をとる [会話] 人の言う事を後で言い返やすと (えすと) シリカル とか言うて。

しりがる (尻軽) 【名詞】 【形容詞】 1) 尻の軽い事 身軽なこと、起居の活発なこと 2) 女性の浮気な事 [会話] ① シリガル言うな (のは) 尻な (が) かあるうて (軽くて)、気な (が) 効いて しゅっと先い (へ) 立ってする言うのを、人より先い (へ) きい (気) 効かして すんのをなあ (するのを) シリガルやなあ (だ) 言うて。② じつきん (すぐに) 男の人と寝んの (寝るのを) シリガル、まえがる (前軽) や (です) 前も後ろも一緒やわい (です)。

しりきれとんぼ (尻切蜻蛉) 【名詞】 1) 途中で終る事。終りが判らない事、又長続きしない人をあざけつて言う語。2) 行ったまま行方が判らなくなる事。またその人。[会話] ② シリキレトンボや (だ) 言うて (言つて)、まあ どこやかや (どこか) 他所行て (行つて) 来やせんと (帰つて来ないと)、あや (彼は) シリキレトンボや 来やせん 言うけどなあ (言います)。どこ (何処) 行たねやら (行ったのか) 判らん (判らない) 言うので。シリキレトンボや (と) 言うななあ (のは)、とんぼのおお (尾) 切つといて (ておいて) それ 表藁さいて (差して) 飛ばしたると (てやると) 何処い (へ) でも にえこんでくもんで (勢いよ飛んで行くので) そんで (それで) シリキレトンボ言うんやろかなあ (言うのだから) 思うね (思うのです)。ちっちゃい (小さい) 時分 (頃) にやなあ (には) とんぼとて来といて (取つて来ておいて) 尻 切つといて (切つておいて) 表藁さしといて (ておいて) すつと放したると (てやると) ぴゅつと どこへやら 行き来つてくと (て行くと) そいな (そんな) の

を シリキレトンボ 言うんやかな (言うのか) 思う。そやつてん (だから) なつとも (なんとも) 言わんと (言わずに) どこやら (何処かへ) 行ききつて (てしまつて) 来やせん人_をなあ シリキレトンボ言うなあ (言います)。シリキレトンボや (だ) 行たきり (行つたまま) 来やせん 言うてなあ。

しりくさらん 知らない。(志 (片田、布施田)) [会話] そいなこた (事は) シリクサラン、知らんわ (知らない) 言うのをなあ シリクサランや 言うて。ごおな わいとる時 (腹が立って居る時) シリクサラン言うて、変な事 言いくさつて (言いやがつて) シリクサラン言うて。

しりくさる 知るの卑語

しりくせ (尻癩) 【名詞】 1) 性的に淫な癩。2) 履物を脱いだ時や、戸、障子を閉じた時のあとの様子。3) 大小便をもらす癩 [会話] ① シリクセな (が) わりいて (悪くて) あや (彼は) 言うて、どこやかや (あつちこつちの) 子 (娘) 孕ましといて (ておいて) 来ると、あや (彼は) シリクセな (が) わり、まらくせな (陰茎の癩) わり 言うて よお (よく) 言うやん かいなあ (言います)。男でもおなご (女) でも、そげん (そんなに) だらし無いのを シリクセな (が) わり。おとか (男は) まらくせ 言うんやろなあ (言うのでしょうか) おなご (女) の方を シリクセ 言うんやろなあ。男を まらくせな (が) わりいて (悪くて) どこやかや 子 ひりさがしといて (妊娠させておいて) 来て 言うよつて (から)、おなご を言うんやろ な シリクセな わりいて (悪くて) 言うてなあ。② 戸や障子 しめる時 にちよいと (少し) あいとると (開いていると) シリクセな (が) わり (悪い) とんと (きちつと) しめとかんかれ (しめておきなさい) 言うなあ (言います)。後の始末を きちつと (正しく) よおせん (出来ない) 言う事や (です)。とんと しめとけ (閉めておけ) 言うよつて なあ (言うから) シリクセな (が) わりいて そや (それ) 細目 あけて、とんと しめとかんかれ 言うて。

しりくせなわり 1) 後始末が出来ない 2) 性的に淫らで有る 3) 排便の仕末が出来ない [会話] ③ シリクセナワリ。あっちゃい (あちらへ) はこ (大便) たれ こつちやい (こちらへ) して、いん (犬) や (とか) 猫な シリクセナワリ このねか (猫は) どこやかやい (何処へでも) はこ たれさがして (しさがして) 言うて。④ 後始末 よおせんのも (出来ないのも) 仕事 なあ しさがして ほつとくのを (ほおつてお

くのを) シリクセナ ワリイテ、後もしまわんと (しまわずに) 言うてなあ。²⁾ 女の人な 浮気すんのも (するの) シリクセナワリ、まえぐせ (前癖) な (が) わり (悪るい) 言うけどなあ (言いますが)。まえばよおて (前早やくて) 誰とでも寝て言うて、まえ ばや 言うなあ (言います) そお言う時は 女の時は まえばよおて 男をまあ あれしいこれしい して言うてな、みちばたのしょんべたご (誰でもする) の事や わい (です) それから おなご (女) な (が) そいな (そんな) 事すんのをなあ (するのを) かんのんさん (観音様) や (だ) 言うて、御利益な (が) 有る言うてなあ。

しりくそ 【名詞】 尻糞 役に立たない者を卑しめて言う語 (志 (布施田)) [会話] シリクソ言うのはなあ 他のもん (者) な (が) 仕事よおせざったり (出来なかつたり) どんな (下手) 事すると、シリクソ、そっち や (そちら) い (へ) 行てけつかれ (行ておれ) へえ (屁) んも (にも) ならせんね (ならないの) よつて (だから) 言うて。

しりくらえ (しりくらへ) (尻食) 【名詞】 相手をののしる語。[会話] シリクラエ、はこ (大便) くらへ (喰え) 言うて、言いおったのなあ (言つて居たのです)。シリクラエ 糞くらえ言うて 男の子らは ちっきん (すぐに) 言うて来いおったやんかい (言つて来て居たで有りませんか)。

しりくわす 背を向ける [会話] 嫁 もろても (貰らつても)、色気もえごと (十分に) 知らんのおら (者は) 一緒ん (に) 寝ても 恥かしもんで (ので)、シリクワシテ (ていて) せぎやいや (押し合いた)。

しりけつ 【名詞】 1) 尻 (桑郡、鈴市、安、南) 2) 最後、びりけつ [会話] ²⁾ シンノケツかい (ですか)。がっこいきな (学生が) 走りやい (競走) しても べとやれ (最後だ) 言うのを、シンノケツやれ、あや (彼は) まあ 一番最後や (だ) 言うのをなあ。シリケツやれ あやまあ 言うて。

しりけん (手裏剣) 【名詞】 手に持って遠距離の敵に投げつける武器、しゅりけん。(鳥) [会話] シリケン さして言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います) 大工の人な (が) よお 言うなあ (言います)。

しりご 【名詞】 痔核、脱肛。尻子 (児) か、しりこだまのか糞りか (志 (布施田、鶴方、甲賀、国府、安乗)) [会話] シリゴ出した言うてなあ なんやかや (いろいろ) 力入れて持つと、おた (ああ) おもとおて (重くて) シリゴ出した言うて。シリゴ言うのな (のが)

出てきいおったなあ (出て来て居ました) ちゅぶんと なあ。よけ (多く) いきずむ (力を腹に入れると) と なあ。いぼ痔 みたいなのおを (のようなのを) 言う んやろなあ (言うのでしょうか)、シリゴ言うて。シリゴ な (が) 出る程 重たいない (重いです) 言うて、なんやかや 重たい (重い) もん (物) 持つと なあ お おた 重とおて シリゴな (が) 出た 言うて。

しりこけ 【名詞】 【形容詞】 1) 尻から落ちて行く様な帯の結び方。(志 (布施田)) 2) 尻の肉のない様。[会話] ¹⁾ 帯、シリコケン (に) して、普通の人ら (は) 腰い (へ) するやんない (するでしょう) せだ (布施田) の人ら (は) 尻い (へ) して、せだ (布施田) の若い衆 シリコケン (に) 言うて。

しりこけおび 【名詞】 しりこけに結んだ帯。尻の所まで、さげて結んである帯 [会話] せだ (布施田) の若い衆、モスの巾広ろ、しりこけに言うてなあ 尻の割れ目の 上の方い (へ) 迄 たらして 歩くと、シリコケオビ言うて。

しりこしょばい 【形容詞】 尻擦い。しりこそばゆい。恥しかったり、気がとがめたりして居たたまれない。[会話] シリコショバイわれ (です)。なんやかや (いろいろ) 言うとなあ シリコショバイよおななあ (ようだ) 言うてなあ。人の悪口言うたり、なんやら (何か) いやみ (嫌味) みたいな (のような) 事をなあ言うたりすると、おおた、シリコショバイよおな事 言うて 言うなあ (言います)。あんで (あれで) 嫌な事を言うのを、シリコショバイ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。嫌な事を言われた時にシリコショバイ よおななあ (ようだ) 言うて、よお言うなあ。人にほめられたり おだて られたりして、自分が気持ちよお (よ) く になって来た時も、人に そやされて (煽てられて) あの べつんも (特別に) わがとは (自分は) 値打ちも無いのに偉ないのん (のに) 偉いよおに そやすよおに 言うやんない (言うでしょう)。そすと (そうすると) シリコショバイ よおななあ 言うて。そんな時ん (に) ほんとに (本当に) ほめんと (ほめずに)、言うて そやすよおに 言うもんで (言うので)。

しりこびた 【名詞】 尻の両側の柔らかい所 [会話] シリコビタ、シリコビタ な (が) 痛い 言うなあ (言います)、しりこびた 言わんと (言わずに) シリコビタ 言う なあ。

しりこぶた (尻臀) 【名詞】 尻臀 尻の肉付きの豊かな部分。しりこぶら。しりこびた 参照 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥、伊

員、鈴市、津、安、上、阿、張、北、尾、南、熊)

しりこぼし【名詞】河童 尻をこぼつ(うがつ 穿つ 掘る)の意か(志(布施田)、鳥(相差)) [会話] シリコボシな(が)来る言いおったなあ(言っていました)。河童の事を言うねやろなあ(言うのでしょうか)、シリコボシや(だ)言うて。昔や(は)水な(が)さんご(三合)有ると、シリコボシな(が)来んねど(来るのだ)言うて。昔、こおぼおし川(弘法師川)言うて ちっちゃい(小さい)石な(が)有りおったなあ(有りました)。川の上に、こおぼおし川な(が)今しゃ(今は)無いなあ(有りません)、埋めたんかいないなあ(のでしょうか)、橋ん(に)したたんやろなあ(してしまったのでしょうか)土橋ん(に)。シリコボシしやれた(された)言うて、昔、寺に、馬こおとて(飼って居て)そして 女中を河童な(が)喰たて(食べてしまって)女中に化けとて(て居て)馬ん(に)水呉れんいて(呉れに行つて)馬のなんやらん(何かに)けつまげて けしたや(たら)頭の皿の水まけたて(こぼしてしまって)河童はその水な(が)無いと生きておられやせん(おれない)てわいなあ(そうです)。そんでなあ(それで)水を呉れ、わし(私)は水な(が)無けな(無ければ)生きておられやせんねよつて(おれないのだから)まあ こおこおで わがと(自分が)女中喰たて(食べてしまった)のおを(のを)おっさん(和尚さん)にあかして(話して)“水な(が)無いと わしや(私は)助かっておられやせんね(居られないのだ)”言うて “入れてやるよつて(から)あそこん(あそこに)石な(が)有るよつてん(から)その石な(が)腐る迄 此処へは来やせん(来ない) 言う約束したら水入れたる(てやる) 言うて、おっさん な(が)言うたんてわい(言ったそうです)。そして 頭の皿へ水入れて “石な(が)腐る迄来んな(来るな)” 言うて 石を立てといて(ておいて)いたんてわい(行ったそうです)。石や(は)めったん(絶対に)腐らせんし(ないし)そやもんで(それで)こおぼおし川の石や(だ)言うて、そんで(それで)あそこの石は 取ったらせんね(取り除かないのです)。

しりごり 後ろから盗んでいく 後ろからもれて行く しりもり [会話] あんたな なんか こおて来て 貯めとくと、それを 後ろから 盗んだり 持てたりすんの シリゴリした言うて あとごりとか シリゴリとか言うて。

しりしき【名詞】 1) 鍋、釜を据えるもの。

2) 衣服、腰巻きの尻の所に当てる小さい四角な布。しきし。[会話] ② 腰巻やどきい(などへ)腰巻いでも汚れんよおん(ように)シリシキ。

しりしきんする 嬉天下。亭主を尻に敷く。[会話] 男シリシキンシテ、あの家や(は)かか(な)嬢が(か)かだいしょ(嬢大将)で 言うて、とおやん(主人)な(が)かか(妻)ん(に)まかれて、かか(な)が(が)言う通りん(に)なつとんの(なっているのを)あや(彼は)かか(な)の(の)しりしきんなつとんねどお(なっているのだ)言うてな。男 シリシキンシテ、あの家や(は)かか(な)だいしょ(嬢大将)で 言うてな。

しりしまつ【名詞】 後始末、後片付け。[会話] ほつといてた(ほおっていった)、後の借金 はろたり(払ったり)すると、後の シリシマツ しやされた(さされた)。

しりしんまい【名詞】 最後 [会話] シリシンマイや(と)言うて、一番終いを、シリシンマイ言うて、シリシンマイ迄 喰うて、いやしんばあ(いやしんぼう)は 言うて。

しりすかす 怠ける。[会話] 仕事な(が)飽きて来たのん(に)ちよいと(少し)行て、あそでこお(遊んでこよう)おもて(思つて)行くのを、しりふかしん行たんかして(のか)おらせんわれ(居ません)言うてな、シリスカス言うね(のです)。

しりたぶ【名詞】 尻こぶたに同じ。尻の筋肉の多い所 しりたぶらの略 [会話] しりこびた、しりこびた言うて、じよおほお(両方)の尻を、シリタブ言うね(言うのです)。

しりだれかづき【名詞】 人が作業を終わっても何時までも作業している海女。[会話] シリダレカヅキや(だ)言うて、人な(が)舟に乗つてから、かづいとるとなあ(潜っていると)あや(彼女は)まあ、シリダレカヅキでなあ 言うて、おら(俺は)まあ しりだれかづくな(のは)嫌い(だ) 言うて、人な(が)乗つてまあ、待つとんのんなあ(ているのに)かづいたり(潜ったり)、舟な(が)行くと 横向いておえんでたりする(泳いでいたりする)にげや(人間は)シリダレカヅキ、シリダレカヅキするにげや(だ)嫌い(だ) 言うて、だらだと 人な(が)乗つてもしとんの(しているのを)シリダレカヅキや(だ)言うの(のです)。

しりつ【名詞】 手術。(北)

しりつき。しりづき【名詞】 人の後ばかり付いて居る人、特に子供。(志(布施田)) [会話] シリヅキ

言うななあ(言うのは)、子供らな(が)追わえて来るやんない(でしょう)。あとへついていくらくんな(来るな)言うても、追わえて来るやんな、それシリツキ。そして親な(が)いとると(行って居ると)それへ追わえて来るとなあシリツキな来たない(来ました)言うて。追わえて来んのを(来るのを)シリツキや(だ)言うの(言うのです)。

しりっけつ【名詞】1) 尻 2) 最後

しりつぼり。しりつぼる【名詞】しりはしより、尻端折り、着物の裾をまくって端を帯に挟む事。つぼる：つぼめる。縮める。開いて居た物を閉じて小さくする。先の方の幅を狭くする。すぼめる。(志(浜島、御座、船越、甲賀、国府、安乗)、鳥(相差、上)【会話】シリツボル 言うて なあごお(長く)きりもん(着物)着といて(着ておいて)シリツボッテナあ。ごおじ(役場の小使)の爺な(が)シリツボッテイテよおい 言うて おめきおったわい(大声を出して居ました)。なあがい(長い)きもん(着物)引きずつとる(て居る)もんで(ので)。シリツボりも一緒やなあ(です)。

しりとって あげ足をとって しりとる参照

しりどめ【名詞】縫い終った糸の端をとめる事、その結び玉

しりともない 知りたくも無い【用例】そいなこた(そんな事は)シリトモナイわい(です)。

しりとる あげ足をとる。【会話】人の言うた事、すぐに突っ込んで来て、そや(それは)こおやのん(こうだのに)そや どげやのんとか(どんなのだのに)言うのを、シリトル言うて。

しりないきぬけ 激しい頻回の下痢 いきぬけは行き止まらない事 つつぬけに同じ【会話】シリナイキヌケ 止まらせんのを(ないのを)行き抜けん(に)なつとて(なつて居て)言うて。あけほけん(に)なつとんのおを(なつて居るのを)出放題に、しまらんと(閉めずに)しとなつて(したくなって)来たとも止まったとも思わんと(思わずに)垂れ流ししとんのおを(して居るのを)あけほけんしとく(にしておく)言うの(のです)。尻 あけほけやよつて(だから)言うて。とんじゃくせんと(頓着・気を配るせず)にほつとく(放置する)事やわい(です)。出放題にしとる(している)言う事やわい(です)。

しりなが【名詞】磯物、貝。クダマキガイ科の貝【会話】シリナガ言ういそもん(小さな貝)もあんね(有るのです)。尻な(が)なあがいのな(長いのが)有る

わい(有ります)。ちっちゃあい(小さい)のでなあ、せえ(瀬)の峠ななあ(に)、よけ(沢山)喰わせんけど(食べないが)そんでも(それでも)喰や(食べれば)旨いねやろんなあ(でしょう)シリナガでも捨て(捨つて)喰をやんかあ(食べましょう)言う。

しりなが(尻長)【名詞】長時間居る事。(張、南)【会話】シリナガや(だ)言うて、あのひた(人は)尻な(が)なあごおて(長くて)おぞげや(嫌だ)。

しりながあるい 1) 気軽ですぐ立って行動する。2) 女性が性に淫で有る(志(布施田)【会話】1) シリナ カアルイ 言うな(言うのは)、じつきん(すぐに)仕事しても なんやかや(いろいろ)散らばつても(て居ても)ひよいと片付け、どこへ(に)なんな(何が)有つても、ひよつともて来て(持つて来て)何でもひよひよいとなあ、てがるう(手軽に)すんの(するのを)を(が)シリナカアルウテあや(彼は)言うてなあ(言います)。仕事な(が)あつてもいごかせんな(動かないのは)あや(彼は)尻な(が)おもたいなあ(重い)言うて。2) 若い娘な(が)シリナ カアルイ(軽い)おさせみたいなのおを(のを)シリナ カアルイ。おさせ言うのわだ 誰でもさす(性交させる)のを おさせ言うやんかい(言います)。おさせとか かんのんさん(観音さま)で 御利益な(が)有るとか言うてなあ。男の人ら(は)あんな(あの女の)とこ(所)へ行くと(行けば)御利益な(が)有んねよつて(有るのだから)行きさいしゃ(さえずれば)言うて、さしておこすと(させると)そげん(そんなに)言うて 男ら言うやんかい(言います)。

しりなげ 寝ころぶこと

しりなすわらん 1) 落ち着きがない あせつて居る 2) 移り気だ。一つの事も落ち着いてしない(志(布施田))

しりなつかえとる 後に続いている(志(布施田))

しりななあがい。しりなながい 長居をする。(志(布施田)【会話】人のとこ(所)い(へ)行くとなあ まあ(もう)いきや(行けば)ええのん(よいのに)おもてもなあ(思つても)、要る 要らん話してなあ、いつ迄おる人な(が)有るやんない(有るでしょう)。あの人な(が)来ると シリナ ナアゴオテ(長くて)おぞげ(嫌い)やなあ(だ)言うて。

しりななんがい 長居をする。【会話】しりながや(だ)言うてなあ(言つて)。あのひた(人は)シリナ ナンガイ言うてなあ。あの人な(が)来ると 尻な

(が) なあごおて おぞげや (嫌いだ) てや (です) 言うて、いつ迄おると、しりながや (だ) 言うてなあ。
しりぬぐい (しりぬぐひ) (尻拭い) 【名詞】 後始末 しりのぐい参照

しりぬげ (尻抜) 【名詞】 1) 見たり、聞いたりした事をすぐ忘れること、又その人。2) 後始末をしないこと。(熊)

しりのあな 【名詞】 肛門 (志 (越賀、鶴方、浜島、片田)、鳥 (坂手、答志)、阿、張、名)

しりのぐい 【名詞】 1) しりふき、尻拭い、他人の失敗の後始末をする事。しりぬぐい。2) 用便後の尻をぬぐう紙。[会話] ② シリノグイ言うんかい (言うのですか)。便所の紙を シリノグイ 言うし。① なんや かや (いろいろ) しさがして来たり (途中で止めて来たり)、葬式で あいた (欠損が出た) 言うやんない (でしょう) そいなのおを (そんなのを) シリノグイして。借金しといていて (しておいて行って) ほっといてく (て行く) やんない。 そいなのおも シリノグイ 言うやんかい (言います)。まあ あんな (彼が) なんもかも (何も彼も) 借りまくって (ていって) 後のシリノグイした言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。あとの始末すんのを (するのを) 便所へいて (行って) 尻拭くのも、あれも、シリノグイ言うやんない (でしょう)。尻 綺麗にすんの (するのを) シリノグイ。そしてまあ、ほっといてた (放つていった) もん (物) を、後のもん (者) な (が) 始末すんのなあ (するのを) シリノグイしやされた (さされた) 言うわい (言います)。

しりのけつ 【名詞】 1) 最後。2) 尻 [会話] ② しりこぼしな (が) シリノケツ抜く言うて、あや (あれは) ほとんかいなあ (本当でしょうか) 河童の事をしりこぼしや (だ) 言うて。

しりのけつものごわんと 後始末もしないで。[会話] 仕事してもなあ しさがして、後もえごと (完全に) 片付けんと (ずに) あや (彼は) シリノケツモノゴワント 言うて、とお (戸) を閉めやへんのも (閉めないのも) そげん (そんなに) 言うのなあ。

しりのごい 【名詞】 後始末。しりのぐいに同じ。(志 (布施田)、北) [会話] 借金しとて (して) わがと (自分) よお戻さんと (戻せないと)、尻、拭いてもろたんてわれ (貰ったそうだ) 言うて、シリノグイや (だ) 言うて、ごう (拭く) 言うねんなあ (言うのです) 拭く言わんと (言わずに) シリノグイも よおせんと (出来なくて) 言うて。

しりのぼら 【名詞】 肛門。[会話] けつ (尻) の穴言うのを、シリノボラや (だ) 言うてなあ。シリノボラな (が) あいとんない (開いている) そやれ (それ) 言うてな。 ふご (眷) でも編んで 尻かがらんと (整えずに) おると (居ると) しりぼら止めんと (止めずに) そやれ (それ) 言う。

しりはしより (尻端折) 【名詞】 着物の裾をまくりあげ、帯の後ろにはさんでからげる事。[会話] きもん (着物) つぼるのを (短くする)、シリハショリ言うやんかい (言います)、尻もはぼつて (短くして) 言うて、シリモハボツテ せえな (しなけれいば) とぼし (はね) すられ (する) 言うて 雨な (が) 降るとなあ。

しりはばる 尻まくりをする。しりはしより参照

しりひやす 怠ける しりふかすに同じ (志 (甲賀)) [会話] あんな (彼が) また、シリヒヤシん (に) ふけてて (逃げていって) おらせんわれ (居ない) 言うてなあ 怠ける

しりひろう あげ足を取る

しりふかし 【名詞】 怠ける事 外に出ての気分転換 しりふかす参照

しりふかす 怠ける。暇をつぶす。[会話] シリフカス言うてな。遊びん (に) いとる (行っている)。あんた げえ (貴方の家へ) 遊びん (に) 行く人な (が) あるやんない (有るでしょう)、あやまあ (彼は) 鍋島えシリフカシん (に) じよおく (いつも) いとられ (行って居る) 言うてな、遊びん (に) 行くのをなあ、シリフカス 言うて。なまけもん (者) やわいなあ (です) ちよいと (少し) さぼりん (に) 行くわけや (です)、仕事な (が) 飽きて来たのん (に) あしこ (あすこ) へ行って、ちよいと (少し) 遊んでこお (こよう) おもてなあ (思って) シリフカシん (に) 行たんか (して) (のか) おらせんわれ (居ません) 言うて。

しりふかず (尻不拭) 【名詞】 戸、障子を開放して、閉じずに行く人、あと始末をしない。(張) [会話] しりのごいもよおせんと (出来なくて) 言うてなあ。あと いなあ (後へ) 借金残したり、かけ (信用取引きの売買) 残したりすと シリフカズやよつて (だから) ほっといてた (ていった) 言うて、そすと (すると) あとい (へ) 残ったもん (者) な (が) しりのごいしや されて (さされて) 言うて あとの借金はるたり (拂ったり) かけはるたり するとなあ、あとのしりしまつしやされた (さされた) 言うて。そすと (そうすると) しといてたもな (して行った者は) しりものぐわ んと (ふかずに) ほっといて (て行って) 言うてな

あ。戸や障子も半分しても、しりのしまつせんと(せずに) しや(それ) あとも見よまあ(見なさい) 言うてなあ 戸な あいとると 細目に。あとの しりの ごいせえまあ(しなさい) 言うてなあ。シリフカズ 言わんと(言わずに) しりの ごいせえまあ 言うて。しりふき言うの、しりの ごい言うのなあ(言います)。

しりふき【名詞】 1) 後始末(上、阿) 2) 排便後尻を拭く紙、藁等。[会話] 2) 藁で 拭きよおった(拭いて居ました)。シリフキ 切つて こやんかぢ(行きましよう) 言うて 草履 作つたり、なあ(縄) のおたり(なつたり) すんのん(するのに) 藁をすぐる(ととのえる) やんない(でしょう)、あらすくで(粗い藁屑) なあ おらした(柔らかくした) のおの(のもの) すぐでや(藁屑は) 尻い(へ) はさかつて(挟まって)、こお(粉) な(が)。そやけど(しかし) すぐった あらくたい(粗い) のおわ(のわ)、シリフキや だ 言うて。藁でしりふく手洩かむ いなかもん(田舎者)。
1) 後始末、借金 しとでもなあ(していても) わがと(自分が) よお戻さんと(戻せない) 尻よお拭かんで(拭けなくて) あやまあ(彼は) 尻、拭いてもろたんでわれ(貰ったそう) あのらん(に) 言うて、立替えて貰うの なあ(です)、しりの ごいや(だ) 言うてなあ。しりの ごいもよおせんと(出来なくて) 言うてなあ、のこう 言うねんなあ(言うのです)、拭かんとなあ(拭かずに)、しりの ごいもよおせんと 言うて。

しりふきわら【名詞】 大便の後で尻を拭く藁、紙を使用する前の頃。[会話] せんちやがみ(便所紙) しりふきがみ、藁やつたんよつてなあ(だったの)、シリフキワラや だ 言うて、すくで(藁屑) 切つて、シリフキワラや(です)。

しりふりどり【名詞】 浜千鳥。

しりふる 機嫌を取る 上手を言う 追従する

しりぼつたてる 頭を低くし、尻を持ち上げて居る格好(志(布施田))

しりばら【名詞】 肛門。(志(布施田)) [会話] けつの穴 言うのを、シリボラや だ 言うて、シリボラ な(が) あいとんない(開いて居る) 言うて。

しりまくり【名詞】 着物の裾を後ろからまくり上げる悪戯。(阿、張、名) [会話] シリマクリ、今日は なぬか(七日) のシリマクリ 言うてなあ(言つて)。子供の時分(頃)に はりしとるとなあ(針、裁縫している)、知らんと(知らずに) おるの(のを) 今日(は)七日のシリマクリ 言うて そげんして(そんなにして) しいおつたわい(して居ました)。遊び。

しりまくる 態度を変えて居なおる。(志(布施田))

しりむける 1) 仲違いする、裏切る。(上、阿) 2) 気に入らない、そっぽ向く。[会話] 2) シリムケル 気に入らんねかして(気に入らないのか) まあ シリムケトラレ(ている) 言うてな。こつちや(こちら) 向いておつて(居て) ごおなわいて(腹が立って) 来ると ふんと シリムケル人な(が) おるんなあ(居ます)。まあ シリムケラレたよお(ました) 言うて、ふんとして あつちや(あちら) 向いてくんやんかひ(て行くのです)。1) そして 尻こつちやい(こちらへ) おこして シリムケラレテ 言うて、ちよいと(少し) 仲な(が) わり(悪るく) なつてく(なつて行く) 事やなあ(です)。寝る時に あつちや 向け、こつちや(こちら) 向けて踊りやわい(です)、松茸なあ(です)。「前(い)出るのは ちんぼこに、おめこ その又 ちんぼこな 夜の夜中の夜間(やかん)の頃には あつちやむき、こつちやむき よおい よい よい」言うてな、昔や(は) 嫁もろてもなあ(貰つても)、色気えごと(完全に) 知らんとなあ(知らない) のらまあ(二人が) 一緒な(に) 寝ても、恥ずかしもんで(ので)、しりくわしとて(背を向けていて) せぎやい(押し合い)。せんで(押し) くんなまあ(来るな) 言うて、のな(お前が) せんでくんなまあ 言うて、そやもんで(それで) せぎやいか しとる(している) 言うて、色気知らんのな(のが) 結婚すると そげんして(そんなにして) しとる(している)。誰か まあ それ 知つとると(知っている) こつちや 向け 言うて、一番からすんねけど(するのだが) 尻 喰わして ふたんな(二人が) 寝とて(寝ていて) せぎやいか しとる 言うて、よお(よく) 言よおつたなあ(言っていました)。

しりめ【名詞】 瞳だけ動かして側方を見る事、横目。流し目 [会話] 体向いてくの(て行くのを) 横 向いて見た言うけど(が)、目だけ見んの(見るのを) 横 目で見た、シリメ で見た。

しりもおてくる 子供がいたずらが過ぎて大人がその子供の家へ苦情を言いに行く時その子供の行動を言う。(鳥) [会話] シリモロタ よお 言うてな、なんやかや(いろいろ) お前こげん(こんな) 言うて 言うたやんない(言つただろう)、お前や(は) 何処其処でわしな(私の) 事 こげん 言うたやんない 言うて なあ その家い(へ) 言うてくの(言つて行くのを)、そすとまあ(すると) かっこんで(駆け込んで) 来て、シリモロタ(貰つた) 言うてな。シリモオタ よお 言う

て、言わん (言わない) 事をなあ あんな (彼が) こげん 言うた 言うのを 噂ん (に) 聞いてなあ 確かな事 判らせんねけど (判らないのだが) ごおわかして (腹立てて) かっこんでくね (駆け込んで行くのです) こおな (子供が) いたざらしといて (しておいて) 来るとなあ、親な (が) 言うてくと (言っていくと) シリモラウノン (の) にかかっとなねない (しているのだ) 言うて、入れもん (物) 受けて まっとな (待っていないければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて、おっちゃく (乱暴) で シリモオテクンノ 仕事ん (に) しとんね (しているのだ)。

しりもせんくせん 知らないのに

しりもち (尻餅) 【名詞】 一歳未満の幼児が歩くとそれを祝って搗く餅。(志 (布施田) 鳥) [会話] 誕生日、みい (箕) 立たしといて (せておいて)、尻うちつけると (打つと)、それい (へ) どんとシリモチ搗くもんで (ので) シリモチ 言うてなあ、みい (箕) いなあ (へ) 立たしといて 尻い (へ) 餅をぼんとうつつけ ると (投げつけると) どんと むかう (座る) ので 餅の上いなあ (へ) シリモチ なあ。尻ついてくので (ついて行くので) そんで (それで) シリモチ、シリモチ 搗いて言うて。

しりもちこまれた 苦情を言われた。怒られた。

しりもちこむ 怒りに行く 苦情を言いに行く

しりもてく 苦情を言いに行く。怒鳴り込む。後始末を申し入れに行く。責任を問いにいく。

しりもてくる 苦情を言いに来る。怒鳴り込んでくる。責任を問いに来る。(鳥) [会話] 不足 (不満) 言うて くんのなあ (来るのです)、シリモテクル。

しりもと 【名詞】 大小便 かめ参照 (志 (布施田)) [会話] シリモトの 始末 (処理) すんのな (するのが) 今しゃ (今は) 衛生車で なんも (なにも) せんで (しないで) ええけど (よいが)。

しりもらう 不足、苦情、不満を言われる。(志 (布施田) 鳥) [会話] 不足 (不満) 言われる方、言われる家なあ シリモラウ 言うて。

しりもり (尻漏) 【名詞】 1) 湯茶などを呑物に入れる時、その液体が容器の外側に沿ってもれる事。(志、鳥、上、阿) 2) 下痢。3) 容器の底が破れてこぼれ落ちる事。[会話] シリモリしたよお (しました) 言うなあ。腹な (が) 調子な (が) わり (悪) いて ちびったり (下痢をもらす) するとなあ まあ、シリモリ して言うてなあ。なんやかや (なにかが) 破れてても (破れて行っても) シリモリ しとられ (して居る) 言うて

なあ。いれもん (容器) な (が) 破れてても (ていっても) 下から落ちると、シリモリな (が) しとんない (して居る) そや (それ) 言うて。下から落ちるのを (のを) シリモリや (だ) 言うてなあ (言います)。

しりやい (知合) 【名詞】 知り合った相手の人、知人、近ずき。[会話] あの人と シリヤイヤもんで (なので)、あの人ん (に) 無理 言うて。知りよとるもんで (あっているのだ) シリヤイヤ なあ (です)。初めてのもん (者) は なんも (少しも) 言わせんね (言わないのです) けど (が)、じょおく (いつも) 心安く しとる (している) 人を シリヤイヤもんで 言うてな。

しりよとる 互に知って居る。知人である。

しる (汁) 【名詞】 1) 味噌汁。醤油、塩で味付けした吸い物は、すまし。(鳥 (浦村 神島)) 2) 物体からしみ出る、又はしぼり取った液。[会話] シリ 言うのは 味噌汁な (です)、目シリ 鼻シリ 言うし、目シリ たらして あやあれ (あれ) 言うやんかい (言います)。涙 こぼしたりしとると なあ (して居ると)。

しるかけめし (汁掛飯) 【名詞】 味噌汁をかけた飯。

しるかれ 知るものか、知らない (志)

しるけ (汁気) 【名詞】 1) 物に含まれている水分。2) みずみずしい事。若々しく美しい事。(南) [会話] 飯もほとらしとくと (むさしておくと) さんざりと (さっぱりと) シルケな (が) 無いよおん (ように) なつてくので (なつて行くので) いどらさな (むささなければ) 美味ねえわれ (くない)。

しるけなない 1) 婦人の膈内に潤いが無い 2) 湿り気が無い (志 (布施田))

しるし (印) 【名詞】 1) 他と区別してその物である事を表すもの。目じるし。2) 漁獲の多い時に船に立てる印、大漁のぼり。(志、熊) 3) 記念品 少しの品物 [会話] 嫁ん (に) いた (行った) シルシや (だ) 言うて、シルシ だけ言うて、一合つ、酒 こぼよおつたの (配って居たのです)、シルシ だけ こぼったんやわい (配ったのです) 言うてな。漁師な (が) 大漁 すると、旗立ててくんのも (来るのも) シルシ 立てて来た、まあ 今日は 大漁 で シュルシ (印) 立てて来たれ (来た) 言うて、白旗 を立てて来るとなあ “お島 うちらい シュルシ ない見え” 言うて 盆の歌ん (に) も有るよおん なあ (ように)、シュルシや (だ) 言うね (言うのです)、大漁旗 を。結婚したとか、子供が生れた言う時ん ゆわい もてくと なあ ほんシルシ だけ言うて、よけ (沢山) もてても (持っていくても) ちょおいと でああ (少しで) ほん (本当に) シル

シだけやわい言うのな (です) やる方な (が)

しるし (効) 【名詞】 効果 効き目

しるしなない 気配が無い、効き目がない。

しるじゃくし (汁杓子) 【名詞】 汁物を汲う柄杓 その柄杓を作る具 [会話] 帆立貝をなあ 杓子ん (に) しよおった (して居ました) もんでなあ (ので) そんで (それで) シルジャクシガイ言うね (言うのです)。汁もる (よそう) 杓子んなあ (に) 竹でなあ ええ (柄) つけて、今し (今) みたよん (のように) おたま無いしなあ 皆 貝杓子で、おっさい (大きい) のおから、ちっさい (小さい) のおから有ってなあ。シルジャクシ言う時は 味噌汁よそう杓子で、シルジャクシガイ言う時はその杓子を作る具

しるじゃくしがい 【名詞】 いたや貝 しるじゃくし参照 (志 (鶴方、神明、立神))

しるなたる 1) 滴が落ちる 2) 長生きする [会話] ② あんまり (あまり) 長生きしとると (していると)、あのひた (人は) シルナタル迄 生きとんね (ているのだ) 言うて、シルナタル迄 生きよえ (なさい) 言うて。

しるなたれる 1) 水分が落ちる。2) 泥酔する。3) 年を取る [会話] ① 水ななあ (が) しぼらんと (しぼらずに) すると、そやれ、シルナタル、しぼったれまあ (絞ってやれ) 言うて。③ あんまり 長生きしとるとなあ (していると)、まあ あのひた (人は) シルナ タレルまで生きとんね (ているのだ) 言うて、長生きせえ (しなさい) 言うて シルナタル迄 生きよえ (生きなさい) 言うて。年な (が) 寄ると おしっこもちびったるし (もらすし)、涎も出てくるしやかおのお (だのでだろうか) それを例えてあんのかいの (あるのでしょうか) シルナタル迄 言うて なんやら (何か) たらたらと 穴開いとる (ている) とこ (所) から、みな出て来るもんで (ので) やかなあ。② よおて (酔って) シルナットラレ (なっている) 言うてなあ。よっぱろて (酔っぱらって) 其処らん (に) つくねとる (うずくまっている) やんない (でしょう) そすとまあ あや (彼は) 酔おて、シルンなつとる (なっている) ぐたぐたん (に) なつとる (ている) もんで (ので) あげん (あんなに) 言うんやろなあ、シルんなる迄 よおて (酔って) あげん なる迄 飲まな (なければ) ええのん (よいのに) 言うて (言うて)。

しるなべ (汁鍋) 【名詞】 味噌汁を炊く大きな鍋 [会話] 味噌汁ばつか (ばかり) 炊くの (のを) シルナベ言う

てなあ。シルナベ言わんと (言わずに) シルナベ言うね (言うのです)。シルナベ 一杯 おつけ (味噌汁) 炊いといて (ておいて) それ 皆な (が) 食いおった ね (食べて居たのです)、大きなおえ (のえ) みみ (持つ所) な (が) 付いとてなあ (ていて) シルナベは なあ。

しるのみ 【名詞】 味噌汁の具。(志 (布施田)) [会話] おつけのみい (具) をなあ 菜っ葉や、葱や入れるやんない (でしょう)。それ シルノミ言うね (言うのです)。シルノミ 言わんと (言わずに) シルノミ 言う ね。シルノミな (が) 無いよつて (から) 葱こさえとけ (作っておけ) とかなあ、なあ (菜) こさえとけ とか言うてなあ (言って)。シルノミ言わせん (言いません) シルノミ言うね。

しるしばか 【副詞】 少し

しるしばかやけど 少しですが

しるひと 【名詞】 知人 (志)

しるめつぱ 【名詞】 味噌汁を入れる曲げ物。めつぱ。[会話] かと舟 (艀舟) 行くと めつぱ 言うて、めしめつぱに、シルメツパ言うて、桧のおおで (ので) 重ねるよおん (ように) してあって、飯のおおは (のは) ちっそおて (小さくて)、おつけ (味噌汁) もん (よそう) のおは どいらいのおおで (大きいので) それい (それへ) 飯入れんのを (入れるのを) 重ねて蓋して。

しるもん (汁物) 【名詞】 すまし汁、味噌汁など、汁を主とした料理。[会話] すいもん (吸物) や (だ) とか、そいなのおを (そんなのを) シルモン。シルモンやよつて (だから) しや (それ) きい (気) 付けな (なければ) はざんど (いけない) まけたんのん (こぼしてしまうのに) 言うやんかなあ (言います)。すいもん (吸物) とか 味噌汁とか 言うのを シルモン言う

しるわん (汁物) 【名詞】 汁物などを盛る椀。[会話] シルワンや (だ) 言うてなあ、どいらいのなあ (大きいのです)。シルワンで、こや (これは) またおっさい (大きい) の (のを) すんねけどな (するのだが)。

しるんなつとる 泥酔している。[会話] シルン (に) ナットル言うてな、よっぱろて (酔っぱらって) 其処らん (に) つくねとるやんない (うずくまっているでしょう)、そすとまあ、あや (あれ) 酔おて (酔って) シルンなつとる (なっている) ぐたぐたん (に) なつとるもんで (ので)、あげん (あんなに) 言うんやろなあ (言うのです) しるん (に) なる迄酔おて (酔って) あげん なる迄 飲まな (なければ) ええのん (よいのに) 言うてなあ。

しれた (知) 1) 大した事でない、少し、高がシレタ。
 しれたこと参照 2) 分かりきった、あたり前。

しれたこと 1) 少しの事 容易な事 2) 当然の事
 [会話] ① そいな (そんな) まん (ものは) シレタコトやれ (だ) 言うて、仕事すんのも (するのでも) 此れしてくれ (下さい) 言うとなあ、しやすい事やと (だと) そいな まん しれとられ、だれ (どれ) おんな (俺が) したるわ (してあげます) 言うしなあ。

しれたもん 大した事でない。少しのもの。(志 (布施田)) [会話] そいなもん (そんなもの) シレタモンやれ (だ) 言うやんかい (言います・言うで有りませんか)。ちよおいと (少し) のもん (物) や (だ)。ちよおいと こんだけのもん (此れだけの物) 言うのなあ (言うのを)。種も (にも) なんもならん (何にもならない) よおな もん (物) をなあ こんなもん シレタモンやれ (だ) 言うてなあ。こんなもん 貰るたてて (貰った所で) シレタモンやれとか、そいな (そんな) 時にシレタモンやれ。人間でもちよいと (少し) おろかな (愚な) 事 言うとなあ、人間も愚かやなあ 言う人間も有るしなあ しれとられ (知れて居る) あんな (彼の) 事なら言うてなあ。ちよいと (少し) こあんど (馬鹿) よおなのおをなあ (のを) あんな (彼の) 事ならシレタモンやれ。値打ちが無いとか。

しれとられ 簡単だ [会話] 此れしてくれ (して下さい) 言うて、しやすい事やと (だと) そいなまん (そいなもん) シレトラレ、おんな (俺が) したるわ (してあげます)。

しれとる 1) たいした事はない。簡単だ。 2) 少ない。(志 (布施田)) [会話] ② かさぶく さんがらがす (吊す) 道具、有る家は シレトリおったわい (少なかった)。

しれる 知られる

しれわたる 世間一般に知られる。

しれんとおらせん 知られずにはすまない

しろ (代) 【名詞】 報い、代金、漁獲代金の分け前。一人分の配当。しろわけ：漁村で漁獲物を分配する方法。その分配の単位をしろ と呼び勘定をしろわけと呼ぶ。分配方法 1) 漁をしない者迄加え、家又は人を単位に村落全体に平均に分配する。2) 分配は平等であるが、漁労に従事した者だけに限り、船主にはふなしろを別に取分とする。3) 親方の取り分を除いて残りをのりしろとして、乗組員に分配する。4) 乗組員の分前にも平漁夫と役付きとの間に差をつける。此の差を

ぶと呼ぶ。(志 (布施田、志島、国府)、北、尾、南)
 [会話] なんでも分けてしてあると そや (それ) ヒトシロ (一代) 貰えよお (貰いなさい) 言うてなあ そや (それ) お前とか (所は) 二人やよつて (だから) フタシロ (二代) 貰え 言うてな 頭数 (あたまか) ずい (へ) 一つうつ (一ヶ宛) やんの (やるのを) ヒトシロ 言うのなあ (のです)。じよおしな (漁師が) 沖いて (行って) ヒトシロ 祝い言うて、まだ初めて乗るにげ (人、人間) はなあ じよつく (いつも) いとる (行って居る) 人は慣れとるけど (て居るが) がっこあがり (卒業したばかりの者) してくと (が行くと) そすとさいご (その時) ヒトシロ 一人前に貰うとなあ ヒトシロ 祝いや (だ) 言うて、親類中、昔や (は) こばりおったの (配って居たのです)。ヒトシロ 当たった 始めの年はなあ ヒトシロ 祝い言うてなあ なんか (何か) 物こぼったり (配ったり) ごっつお (御馳走) してよんだり (招待したり) しいおったわい (して居ました)。ヒトシロ 祝いもるて (貰って) 言うて。

しろ (城) 【名詞】 家 根據とする処 [会話] 家なあ (です)、シロもよお建てん (建てられなくて) と言うて、家よお建てんとなあ (建てられなくて)。シロもいつ迄もよお建てんと 言うてな、そこい (そこへ) 行って、ねたまり (寝泊り) する人 あの家 ネジロン (寝城に) しとんねない (しているのだ) 言う時もあるなあ。そして たあ (田) 植えすんのも (するの) も したごさえ (準備) すると、シロ こさえて (作って) 植えるよん (ように) じっばん (立派に) すんの をなあ (するのを) シロも こさえて ちゃんとして言うてなあ

しろ (白) 【名詞】 鮑の貝柱の表面の白いもの

しろあえ 【名詞】 豆腐と野菜を混ぜ合わせた料理 しらあえ [会話] 豆腐を砕いて (ておいて)、人参でも なん (何) でも入れて あえんのなあ (るので) とふ (豆腐) のシロア言うて。

しろいか 【名詞】 鳥賊の一種 けんさきいか [会話] 普通のいかを 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。わしら (私も) えごと (充分に) 知らんけど (知らないが)。普通ののおを (のを) シロイカ 言うんやろなあ。

しろうま (白馬) 【名詞】 どぶろく

しろおい 【形容詞】 白い (志、度) [会話] 真っ白、白シロオイ のおを (のを) おおたえれ 真っ白やよお (だ) 言うてな

しろおばち【名詞】 白い鉢。食物を調理するのに用いる。

[会話] シロオバチを、かぶとや(だ) 言いおったな あ (言っていました)。しろかぶともて (持って) 来い 言うて 白い鉢に一番のかぶと言うて、二番のかぶと 言うて、それい (それへ) 重なるよおな白いのおな (のが) あんね (有るのです)。三番のかぶと言うと、ちっちゃあい (小さい) のおで (ので) 三つ重ねん (に) して有りおったわい (有りました)。

しろおなる 白くなる (北) [会話] シロオナル、白粉 塗つと (塗ると) 顔な (が) シロオナル言う。そして なんやかや (いろいろ) 物な (が) しらけて (白く なる) 来るとなあ。色がさめて (退色) して来るとな あ。おおた、まあ、しらけて、まあ、しやれ (それ) シロオナツテ来たやんか (でないか) 言うてな。

しろかい 1) 知らない 2) 知らないだろう [会話] 1) シロカイ言うのなあ (です) しろかれ (知らない) 言うてな、英語使て (使って) 来たてて (来ても) おらな (俺が) そいな (そんな) 事 シロカイ言うて な。

しろかき (代播)【名詞】 水田に水を入れた状態で土を砕き、かきならす作業。(鳥) [会話] たあ (田) のえぶり (土ならしの道具) ついてのお、球場な (が) えぶり でしとるやんない (しているでしょう) えぶり言うてな、あれでならすんやんかな (平らにするのです) 泥を。そんで、しろこさえた (作った) 言うてなあ、ならすと、シロカキ言うて、よお (よく) するやんかい (します・するで有りませんか)。

しろかぶと【名詞】 しろおばちに同じ。

しろかれ 1) 知らない (志) 2) 知らないだろう [会話] 1) そいな (そんな) 事、おらな (俺が) シロカレ言うね (言うのです)。わがとら (自分が) 知らん事 なあ (です) そいな事 シロカレ言うて、2) 人の事でも なあ あやまあ (彼は) にしやこで (阿呆で) なんも (何も) シロカレ、言うてなあ あれん (彼に) 言うたてて (言っても) そいな事 シロカレ、わかろかれ (判からない) 言うの (のを) シロカレ言うてなあ。

しろかわ (しろかは)【名詞】 しろかじき。皮膚がやゝ白っぽい。[会話] なんやら (何か) 見やせんけど (見ないが) シロカワ、くろかわ言うの聞くけど (聞きませんが)。

しろきん (白金)【名詞】 銀貨。ぎん、銀、しろがね。[会話] シロキン言うな (のは) 銀貨の事、言わせん のかい (言わないのですか)。銀貨 金貨 言うてなあ (言って) そいなの (そんなのを) シロキン言わせん

のかい。金貨はあつかいし (赤いし) 銀貨は白いやんな (でしょう)。

しろくび (白首)【名詞】 1) 白粉を首に濃く塗りたてて客に媚を売る女。淫売婦。2) 大根の肩の所の白いもの。

しろこ (白子)【名詞】 魚の精巢。しらこに同じ。

しろざと【名詞】 白砂糖。あく抜きして白くしてある砂糖。[会話] さと (砂糖) も きざらや (とか) げじろや シロザトや。

しろそ (白麻)【名詞】 麻の緒の白いもの。祝事の結び物に用いる。あおそ参照 [会話] おお (緒) でも、あおそ言うのな (が) 有るし、シロソ言うのな (が) 有るし。シロソ言うな (のは) 祝い事に使うのなし (ですし)。青苧言うのは下駄の鼻緒やんか (です)。

しろぞ 知るものか

しろぞこい (しろぞこひ) (白底翳)【名詞】 白内障 眼の水晶体の白くなる病気

しろだむし (白田虫)【名詞】 皮膚病。皮膚が白くなって来る。[会話] はたけな (が) 出来て言うて、シロダムシを 顔や頭も出来おった (居ました)。

しろっけんのうち【名詞】 南北四間 (六間) 東西六間 (四間) の家 大きな家 (志)

しろっばい (白)【形容詞】 白みがかって居る。白みを帯びている。色が褪せて居る。[会話] シロッポいなあ 言うて、がら (模様) でも、白地へがら な (が) 有ると じい (地) な (が) シロッポオテなあ てやら (とか) 言うてなあ。

しろで 妻が成熟した状態 [会話] シロデ真つ白ん (に) なったのなあ (です)、麦な (が) シロデ言うて、ちよんなくび (首をたれる) ん (に) なつとんね (なっているのだ) 言うてな、まあ、シロドンネド (くなっているのだ) 畑中言うてな よお (よく) あかろんどると (熟していると) 青いほお (穂) な (が) 一つも 無いとなあ シロデタ言うてな

しろできた 明るくなって来た。夜が明けて来た。雨が止んで来た。ちろちろ参照 [会話] 朝は東じらみやとか (だとか) 東な (が) シロデキタ言うし、夕方のうすくろお (薄暗く) なって来たのを ちろちろ。

しろでく 白くなる 色があせる [会話] てぐさ (天草) も雨ん (に) あわしたらと (当てると)、シロデク 言うてな

しろでくる 空が明るくなる [会話] 東なシロデクル 言うのなあ (です)。ちよいと (少し) 明かる (明かるく) なつてくんのを (来るのを) 東な (が) シロデキ

夕言うて

しろと (素人)【名詞】 しろうと。ある物事に経験の浅い人、又その事を職業にしていない人。(南) [会話] なんも (なんにも) 知らん、シロト わしら (私は) シロトで知ろかい (知りません) 言うてな

しろとざいく【名詞】 物の出来上りの悪い事

しろどれ 知るものか

しろない 白くない (伊、熊) [会話] シロナイ、あや (あれは) なんも (少しも) シロナイなあ 言うて、シロナイ言う。

しろなまず (しろなまづ) (白癩)【名詞】 尋常性白斑、色素の欠乏により皮膚に白斑を生じる病気

しろなる 白くなる (志、松、度、北) [会話] 白粉、ぬや (塗れど) 顔な (が) シロナル、ひなた (日の当る所) い (に) おらんと (居らずに) 陰い (へ) おれまあ (居なさい) 色な (が) くろうお (黒く) なって くのおん (て行くのに、陰い (に) おや (おれど) シロナルのかい (のですか) 言うて、よお (よく) 言よおったんなあ (言って居ました)。

しろね (白根)【名詞】 1) 木の根の白い物。生長する根
2) 葱の白い所 (阿、張、名)

しろはえ【名詞】 梅雨の時に晴天の続く事。(尾) [会話] シロハエ くろはえ言うて。雨な (が) 降らせん (ない) 時は、シロハエ言うんなしな (のです)、雨な (が) よけ (沢山) 降るうち (間) は、くろはえ。くろはえな (が) あいて (終って) こんだまあ (今度は) シロハエやなあ (だ) 言うて、ええ (よい) 天気な (に) なるとなあ シロハエや (です)。天気でもなあ まぜ (南) の風な (が) 吹くやんない (でしょう) そやもんで (それで) はえちゆう (梅雨の間) や (だ) 言うてな。シロハエやけど (だが) 風な (が) まぜ (南風) やよって (だから) したたりなあ (湿っぽい) 言うたりするわい (言ったりします)。五月の始め頃はくろはえで、そして 末頃ん (に) なって来ると 天気な (が) 続いて来るやんない そすと (すると) くろはえな (が) あいたんなあ (終わったのだ、こんだ (今度は) シロハエやなあ 言うて。天気な (が) よおても (よくても) まぜ (南) の風な吹くと はえやよってん 言うてな、まぜを はえの風言うて、はえの風な (が) 吹いて したたりわれ 言うて。

しろはぜ (白沙魚)【名詞】 まはぜ。ハゼ科の魚 全長 20cm 内外、灰黄色で体側に数枚の不明瞭な暗色斑紋が有る。頭部はやや平たく左右の腹鰭は接して吸盤状になる。[会話] 川で釣ってくんなあ (来るの)

シロハゼなあ (です)。

しろばい (白)【自マ五】 1) 白みを帯びる。白くなる。
2) 夜が明けかかる。しらむ。[会話] 1) てぐさでも雨ん (に) あわしたると (当ててやると) シロバシで かれ (で行く) シロバム言うてなあ。雨ん (に) ちよいと (少し) あわしたると、あおで (青くなって) 来たり、しいろ (白く) なって来たりすんね (するのです)。そやま (それ) はえ風 (南風) あわして (当てて) 言うてな、乾いて入れて有っても はえ (南風) な (が) 吹くとこい (所へ) そんなり (そのまま) 蓋さんと (さずに) おるとな (居ると) しとって (湿気を帯びて) 来て、あおお (青く) なったり、しいろお (白く) なったり 色な (が) 変って来んの (来るのです)。えごつと (完全に) 蓋して はえの風 (南風) ん (に) あてんよん (当てないように) しとかななあ (しておかなければ)。

しろまなこ (白眼)【名詞】 目の白い部分。球結膜。(志 (布施田)) [会話] とんとめ (角結膜炎) シロマナコな (が) 真っ赤ん (に) なんの (なります)。ちわた (血の凝り) みたいん (のように) 真っ赤ん (に) なって。

しろみ (白身)【名詞】 魚肉の白い物 [会話] 魚でもシロミの魚はええ (よろしい) 鯨のこお (具) にええ ねなあ (よいのだ) 言うてな。

しろむ (白)【自マ五】 1) 白くなる。夜が明ける。雲が切れる。2) 麦が熟くす 青い穂がない 3) 魚群で海の色が変わる [会話] 3) 沖の鯉で浜シロム言うてな。1) ところてん炊くのん、てぐさを、シロマシトケ (ておけ) 言うてなあ、水で洗ろたり、雨ん (に) 曝らしたりしてなあ。1) 夜が明ける、東な (が) シロム 言うてな、夜な (が) 明けて来ると、東じらみん (に) なって来た言うて、曇つとて (ていて) 天気が よお (よく) なって来る時、明るなって来るやんかい (です) そすと (すると) しらしらして来たれ言うてな。しらんで来た言うのも、しろで来た言うのも 一緒の事やけどな (です)。2) 麦やどけな (などが) あからむ (熟す) のもな シロム、あからで (熟して) シロム ちよんなくび (穂が垂れている) やれ (だ) 言うてなあ。

しろめ【名詞】 目の白い所 球結膜

しろめ (白芽)【名詞】 出たばかりの芽。[会話] どじも んなくそおて (怠け者で) 出てくんな (くるのが) シロメや (だ)。

しろめし (白飯)【名詞】 白米だけの御飯 (南)

しろもち (白餅) 【名詞】 米だけで、他の混ぜ物の無い餅

しろもの。しろもん (代物) (代者) 【名詞】 1) 売買する商品 2) 人格、人柄、気品、その人。多く悪い時に使用する。[会話] 1) まあ あのシロモン 言うて、しなもん (品物) の事をなあ シロモン言うね (言うのです) しなもん 言わんとなあ (言わずに)。2) シロモン言うて、にげ (人、人間) でも あの シロモンなあ (が) 言うのも あんねてや (有るのです)。ちよいと (少し) おかしなよおなあ (変なのは) あの人言わんと (言わずに) あのシロモンな (が) 言うて。あのシロモンの事なら 其の位の事やれ (だ) 言うてなあ。シロモンやろかれ言うな (のは)、そげな (そんな) よおな にげ (人間) やろかれ (でない) 言うなあ (です)、シロモン 言うて。そげな (そんな) おとなし (おとなしい) 人と違う 言う事を シロモンや (だ)。

しろわけ (代分) 【名詞】 漁獲の収入を分配する事。
(志) [会話] シロワケ してもおた 言うて、舟のあたりを 舟代 (フナシロ) や言うて。

しわかる 区別出来る。[会話] みい (実) と 滓とで別れんのなあ (るのです)、風な (が) よけ (沢山) 有ると (吹くと) あらし (風) な (が) よおて (よくて) よかったなあ、よお (よく) シワカッタなあ言うて、たてもん (風に吹かせて実と殻とを分ける作業) すると。

しわくた 【形容詞】 しわくちや、しわだらけ。全体にひどくしわの寄って居る事、またそのさま。皺腐りの義 (大言海) (津) [会話] シワクタ言うて しわの寄とんの (ているのを)。なんやかや きれ (布) や、なんやも (とかも) 揉んでなあ シワクタん (に) したた (してしまった)、したるか (してやろうか) 言うね (言うのです)。ころころん (に) したるとなあ (してやると) おおた (ああ) シワクタん (に) して、きもん (着物) も あやれ (あれ) 言うてなあ、ももぐつて (丸めて) 有るの (のを) 着るとなあ。シワクタの、しわも伸ばさんと (さずに) ぎっぱ (雑把、だだくさ) ね (のだ) よってん (から) 言うてなあ。顔の年寄りみたよおなの (のようなのを) シワクタ婆。

しわくちや 【形容詞】 皺の多い事 皺だらけ (北) [会話] きもん (着物) も ももぐつて (まるめて) シワクチャやあれ (だ) 言うてな。畳んで置いとくと (ておくと) ええけど (よいか)、のんで (脱いで) 押し入れ へし込んどくと (押し込んでおくと)、今度 着る

よん (ように) になると、シワクチャで着やれやへんない (着られない) 言うてな、皺だらけ 言う事。顔はしわだらけや (だ) 言うて、きもん (着物) は しわくたや (だ) 言う。きもん やとか (だとか) 帯や (だ) とか 衣類のもん (物) は、ももぐつたるとなあ (丸めてやると) シワクチャん (に) まあ、アイロンかけてせな (しなければ) みとみのおて (見苦しくて) 着てかれやせんわれ (ません)。

しわけ (仕分) 【名詞】 整理する。分配する。区別する。
(一) [会話] シワケ、物をシワケんのなあ (のです)。赤と白とか言うのをなあ わけんのおをな (分けるのを) シワケル言うてなあ。つぶもん (粒物、雑穀、豆類) でも、砂な (が) まぜったり (混ぜたり) しなくたな (悪い物が) 有ったりすんの (するの) 分けるのなあ シワケル言うのなあ。何や彼や 分ける事なあ (です)。

しわける (仕分) 【他カ下一】 区別する。分類する。しわけ参照 (志 (布施田))

しわざ (仕業) 【名詞】 いたずら、悪い結果の出た時に用いる語。[会話] あのシワザ見よまあ (見なさい) 言うてなあ する事をなあ、わり (悪い) 事した後なあ (が) わりやんない (悪いでしょう)。そしたら (そうしたら) あや (あれ) あんな (彼が) した (行った) ざま 見よまあ とか、シワザ見よまあ 言うて。したあとな (が) わりと、なんか しさがしみたよおに (のように) したり、した事な (が) わりか ったりするとなあ。

しわしわ 【副詞】 1) しわだらけ (三重県全域) 2) 水分が少なく、しなびている

じわじわ 【副詞】 ゆっくり、徐々に、ぼつぼつ、緩かでもしかも重苦しいさま。(鳥) [会話] ジワジワ ぬくと なって来たなあ (温くなって来ました) 言うてなあ (言います)。急にしてこんと (して来なくて) ぼちぼち (ゆっくり) した事、ジワジワ。ジワジワ いじめとかなあ そいな (そんな) 時に使うなあ (使います)。ひい (火) でも、あんまり (あまり) きつつせんと (きつくせずに) そや (それ) ジワジワしてせえよお (しなさい) とか、そおろつと (ゆっくりと) せえ 言うのをなあ そつとしとけ (しておけ) とか、ゆるりとせえ 言うのをなあ ジワジワせえ 言うの(です)。

しわすのがえる 考える。寒蛙 [会話] 師走は 寒いやんない (でしょう)、そんで (それで) かんがえる (寒蛙、考)。

しわすのちん 感心。[会話] 師走は寒いやんない(でしよう) そんで (それで、シワスノチンでかんちん (寒、感) や (だ)。

しわだらこい 執着している。あきらめがつかない。執念深い。(志 (布施田)、北、尾、南)

じわっと ゆっくりと静かに力が加わったり、しみ出したりする状態。[会話] ジワット ぬくとなって(温かくなって) 来たれ、じわじわと ぬくとおて(温かくて) 気持ちな(が) ええわれ (よるしい) 言うてな、じわじわと ぬくとおて ジンワリト ぬくとおて ええなあ (よい) 言うて。とろとろとしとろと (していると) ジンワリト ぬくとまるけど (温まるが)、あんまり (あまり) たつからかすと (強く焚くと) あたとおて (熱くて) 言うて。ジワット言うな (のは) ゆっくりと ちよろちよろと ぬくとおから (温かくから) だんだんと (次第に) するとええんけど (よいのだが) 初めから たつからかして あたとお (熱く) すると、さぶあたとおてなあ (寒くて表面だけ熱くて)。そやもんで、じわじわせえ言うのなあ 少しづつ 少しづつ言う事をジワット言うね (言うのです)。

しわる (機) 【自ラ五】 力が加わったり重さが掛ったりするために弾力の有る物が折れないで曲る (志 (布施田、鶴方、立神、志島)、鳥、貝、三、鈴市、安、津、上、阿、張、名) [会話] シワル。おくな (担い棒が) きゅつきゅつとしなう、肥にのても (担っても) かあるうて (軽くて) よおて (よくて)、ぼお (棒) みたよん (のように) しとろと (していると) おもとおてな (重くて)、ちよいと (少し) しなうと かあるいねけど (軽いのだが)、ちよいと (少し) 曲つたりなあ 歩るく拍子ん (に) ひゅつひゅつと、シワルとなあ どいらい (大変) 荷物な (が) かあるういしなあ (軽るいし) ぼお (棒) みたよん (のように) しとろと (していると) おもとおてなあ、はね (釣り竿) な (が) シワル言うて、かと (鰹) 釣つとも (ていても) しのて弓ん (に) なってくるやんかい (来ます・来るで有りませんか)。

しん (心、芯) 【名詞】 1) 中心、又真ん中の堅い所。木や藁物の芯。2) 中心になって働く人。3) 十分に炊けて居ない飯の堅い部分。(南) [会話] 1) なんやかや (種々のもの) に入れるシんとかなあ 真ん中ん (に) あるもん (物) をシん言うのなあ (言います)。シんを入れやな (なければ) むたむたしとられ (柔らかにして居ます)。2) 人の集まりでも 中心になってしてくれる人を、シんになってして呉れる人な有って

ええなあ (よいですね) 言うてなあ (言つて)。1) 梨や リンゴの真ん中のとこ (所) も あれもシんや (だ) 言うし (言います)。中ん (に) あんのをなあ (有るのを) 真ん中はシんやよつてなあ (だから)。“しんぼ (心棒) は かね (金) やれ (だ) ひきうさ (石臼) 石やれ (だ)” 言うて、石のなかんも (中にも) しんぼ (心棒) のかね (金属) な (が) 入つとる (入っている) やんない (でしよう)。3) 飯な (が) かんち (片煮え) になつとるのも シんな (が) 有る言うてなあ とちとち飯な (が) 出来るとなあ 此の米、シんな (が) あられ (有る) 言うてなあ、はあ (歯) へ、とちとち当るもんでなあ (ので) おおたこや (此れは) かんち (半煮え) でシんな (が) あられ 言うてなあ。

しん 【名詞】 味噌汁 (南) [会話] おつけ。葱やどけなあ (など) こやまあ (これは) シんのみい (具) に旨いねなあ (のだ) 言うてふのり摘んで来ると、こや (これは) シんのみい (具) に ええねなあ (よいのだ) 言うて、汁のみい (具) 言うのなあ シんのみい (具) や (だ) 言うてな 味噌汁や。

しん (新) 【名詞】 新歴の事。太陽歴 (志 (布施田))

じん 【名詞】 まつやに、松脂。松属の植物の樹幹から分泌される樹脂。分泌されたての樹脂は無色透明の粘度の高い液状であるが (おれおれじん)、時間の経過と共に揮発成分が蒸発すると固体に近くなる。(志 (布施田)) [会話] 松の ジんかい (ですか)。松のやね (やに) 言うねよつてなあ (言うのですから)。ジんを削つといて (ておいて) たきつけ (焚き付け) になあ 使うの (使うのです)。そやけど (しかし) まあ けぶり (煙) な (が) えらいの (大変です) こくえん (黒煙) に なってなあ そこやここやじゅう (一面) わや (だめ) になんの (なるのです) 磯行ても (海女に行つても) 松のぼん 焚くと ジんな (が) 有ると くすぼつてなあ (くすぶつて) ほこりな (が) 吹けてなあ 真つ黒ん (に) なんね (なるのです) ジん焚くと。そやけど (しかし) ちっきん (すぐに) 火な (が) 付くもんでなあ (ので) それを へげに 削つといてなあ 朝鮮で 飯 炊くのん (のに) わりき (割木、薪) ばっかや (ばかり) もんで (なので) 松のジんのほお削つといて (削つて) つけ木の代りに置いといて (ておいて) それへ マツチひょつと付けると まあそんで (それで) ぼおぼおして来んねやんかい (来るのです)。此処らやつたら (だったら) はぎ (葉木) きい (木) のはあ (葉) を はぎや (だ) 言

うて (言つて)、焚き付けん (に) したり、しんぶんが
み (新聞紙) 焚き付けん (に) したりするけど (しま
すが) なんも (何も) そいなもん (そんな物) 無いも
んで (ので) ジンの有るとこ (所) えつといて (選ん
で) それを へぎに へんどいて (削つて) それを
焚き付けの代りに くど (かまど) のふちい (へ) 置
いときおつた (置いておいたのです)。松のぼん言うな
なあ (のは) 松の丸太を 二つに割つたのおを (の
を) ぼん。二つか 四つに 割んのを (割るのを)
ぼん 言うの (言います)。こちつと (小さく) したる
と (してやると) 割り木 言うんなしなあ (言います)。
ぼんを 又 こわり (小さく割る) しといて (してお
いて) 飯 炊く時は 焚くねけど (焚くのですが) ひ
い (火) 当る時 (海から揚がつて暖を取る時) は ぼ
んそのまゝくべるけどなあ 飯 炊く時は、ぼんくべ
る (入れる) と 飯 炊いても 残るやんない (でし
ょう)。そやもんで (それで) 飯 炊く時はちつちよお
(小さく) 割つてしたりするけど (しますが)。ぼんを
焚くのは 海女な (が) 当る時 (火に当る時) なあ
(です)。豆蒸すとかなあ 味噌豆を 皆 家で蒸しお
つたわな (蒸して居ました)。そいな時なあ (そんな
時) ごお (多量) 焚く時ん (に) ぼんをくべんの (焚
くのです)。割つただけや (だ) もんで (ので) ぼん
言うの (言うのです)。大釜で炊く時んなあ (に) ぼん
で炊きおつた (炊いて居ました)。ぼんをくべとくと
(ておくと) まあ いくくら (何度) も、くべんで
(くべなくて) ええやんない (よいでしょう)。へげ言
うな (のは) こまこお (細かく) 鉋で うっすう (薄
く) へぐ (削る) の (のです)。ちよんちよんとなあ
へぐのをへげ言うの (のです)。朝鮮行くと 男の人ら
ん (に) へげこしやえといてくれえ (作つておいて下
さい) 言うて、へげん (に) しとくと (しておくと)
マッチですつとやると付くんでや (付くのです)。此処
らや (だ) 言うて はぎ (葉木) とか、紙とか まる
けといて (丸めておいて) 焚き付けん (に) するけど
(が) 舟の上やよつて (だから) そいな (そんな) め
んどくさい (面倒くさい) 事しておられやせん (おれ
ない)。ジンのほお (方) をへげん (に) しといて (し
ておいて) 焚き付けん (に) すんの (します)。

しんいも (新芋) 【名詞】 植えた年にとれた芋。新しくと
れたばかりの芋。[会話] 芋のこんぶ (瘤)。普通のと
こ (所) は、すいすいになつとるし (なつてゐる)
こんぶ (瘤) は立派な芋で シンイモみたいな (のよ
うな) な (のが) 出来てくんね (来るのです)。

しんいり (新入) 【名詞】 新しく仲間に入ること、又その
人。

しんがある 1) 煮損こなう (南) 2) 強情だ

しんがお (しんがほ) (新顔) 【名詞】 新しく仲間に加わ
つた人

しんがつ (しんがわつ) 【名詞】 四月、農繁期。(志、鳥、
員、三、四、鈴市、津、松、多、上、阿、張、伊、北、
尾) [会話] 蚕のシンガツ 蚊の五月 六月蟬の鳴き
分れ シンガツはなあ 麦刈りやもんで (なので)、シ
ンガツどいらい (大変) のどき (野時) で 忙し (忙
しい)、シンガツと十月はなあ。麦刈つたり、五月にな
ると 芋植え、その時な (が) 百姓時期で一番忙し時
や (です)。田植え 芋植え、麦刈り言うて、シンガツ
は 麦刈つて 五月になると たあ (田) も植えなは
ざん (植えなければいけない) 芋も植えなはざん そ
やもんで (それなので) そのふたあつき (二ヶ月) は
どいらい (大変) 忙しんやんかい (忙しいのです)。十
月ん (に) になると 芋掘り、たあ (田) 刈りせんなら
んやんない (しなければいけないでしょう)。そいな
(そんな) 時期な (が) 百姓で一番えらい (大変な)
時やもんで (なので) シンガツ言うてなあ 百姓は
シンガツはべつんも (特別に) 忙し (忙しい) 月や
(です)。昔や (は) 蚕もよけ (沢山) おつてなあ 蚕
のシンガツ 蚊の五月 六月蟬の鳴き分れ言うて。此
の時は皆 旧 (旧暦、大陰暦) や (だ)。百姓は 旧言
わな (わなけれい) 判らせん (判りません)。播き時な
(種を播く時が) 旧やなけななあ (でなければ) 見当
なつかせん (な) なあ (がつかないのです)。八十八夜な
(が) 過んだよつて (から) 豆植えたら 芋植えたら
(とか)。八十八夜な (が) 来たよつて 茶摘みや
(だ) とか言うてなあ。その時期時期な (が) 判らせ
んのなあ (判りません) 新は、播きもん (物) したり
夕時したりすんな (するのは) 旧やなきや (でなければ)
判やせん。のどき 言うのは一番忙し時を のど
き。今し (今) で言うて農繁期や (です) 昔では の
どき言うてなあ。

しんがつのおちほ 【名詞】 麦の実が熟し過ぎて、少しの
事で落ちる事。[会話] シンガツ (四月) ノオチホ言
うて、しんがつ になると、麦な (が) あかるんで
(熟して) ちよんなくび (垂れ首) に なつてくと
(なつて行くと) ちよいと (少し) 風な (が) 吹く
と 穂な (が) 落ちんねてや (落ちるのです)。

しんがつのよなし 【俳諺】 寝る暇も無い程忙しい。
(志 (布施田)) [会話] 麦刈る時期は シンガツ (四

月)ノヨナシ言うて、一番よ(夜)な(が)短い時や(です)。日な(が)なんごおて(長くて)朝四時ん(に)なると、畑いて(行って)磯行く迄 麦刈つといて(ておいて)くんね(来るのです)。そして 八時頃 磯行くやんな(でしょう)、磯から来て、道具ばな(を)うちつけといて畑向いてそらかして(走って)七時頃迄いつ(も)磯行く迄 刈ったの(のを)家へ担うてやら(とか)。

しんからそこから【副詞】完全に 本当に(桑市)

しんがん(しんがわん)(心願)【名詞】祈願 神に祈り頼ること [会話] 試験な(が)受かるよん(ように)言うて、こべがみさん え(に)詣って 信心すんのを(するのを)シンガンして言うてな。シンガンして、たので(頼んで)有るけど(が)ほどよお(具合よく)受けて(受かって)くれや(くれれば)ええな(よいが)言うて 祈る言う事や(です)。祈って頼み事する言う事やなあ(です)。

しんき(心気)【名詞】【形容詞】心、気分。心の働き。

心がくさくさして気が重くなること。(津)

しんぎ(審議)【名詞】詳しく調べてその可否を検討すること。調べること。[会話] 詮議 かけた 言うけどなあ(言います)。調べられん(る)のおを(のを)詮議な(が)掛って来た言うてなあ。お前らも そいな(そんな)とこん(所に)おると(居ると)しまいこや(にお)詮議な(が)かかってくんど(来るぞ)言うて、詮議掛けられて弱ったよお(困った)、けえさつ(警察)い(へ)呼ばれて言うて、調べられる事をなあ シンギな(が)掛って来た言うて。

しんきくさ(辛気臭)【形容詞】1) しんきくさい。辛気に臭い。思う様にはかどらず、じれったい。面倒くさい。くさい: 形容詞の語幹について、その語の意味を強める働きをする。(上、阿、張、名) 2) 退屈である(張) 3) 気が晴れられしない。[会話] 1) シンキクサ 言うて、こまかし事(細かい事)な(です) ややこし(面倒な)事、シンキクサイなあ 言うて。ややこし言うて、こまかし事すんのを(するのを) ややこしなあ 言うの(言うのです)。おおた(ああ) こいな(こんな) こまかし事 気持ちな(が)腐ってくられ(来ます)言うて。面倒くさい言うな(のは) こまかし事すんのなあ(するのです) 気な(が) こおして来るやんない(いらいらして来るでしょう)。よおせんで(出来なくて) おおた せせかし(急ぐ気持ち) 面倒くさい言うて、したないわ(したくない) 思う時を、シンキクサイ言うのなあ(言うのです)。おおた しん

きな(が)腐ってくんなあ(来る)言うて、ややこし事して あんまり(あまり) こん(根気)な事するとなあ。

しんきくさい【形容詞】気が晴れない、じれったい、退屈だ。しんきくさ参照(志(志島)、伊賀地方)

しんきなくさってくる いらいらして来る 退屈になる

しんきやみ(心気病)【名詞】病的に物事を気にしたり、心配したりする事、又その人。[会話] シンキヤミ。なんでも(なにでも) 神さんの事 ま こげん(こんな)に したたや(してしまったら)わり(悪く)なって 来たんねえんかいな(ので無いのか)。先祖さんを こげん(こんなに) しとる(している) もんで(ので) わり(悪く)なって 来たんかいな(来たのか)言うて、きい(気) やむのを、シンキヤミ言うなあ(言います) しんけえ病や(だ) 言うて。

しんぎよお(しんぎやう)(心経)【名詞】般若心経の略

しんぎよおんしとれ 行儀よくしておれ 神妙にしておれ [会話] シンギョオンシトレ言うて、おとなし(おとなしく) しとれ(しておれ) 言うの、神妙にせえ(しなさい) 言うのをなあ シンギョオンセエ 言うねやんかな(言うのです)。人な(が)来た時や(は) シンギョオンシトレまあ。おとなし して おつちやく(横着、乱暴) せんと(せずに) 言うてなあ。

しんぐさり【名詞】表面は綺麗だが中心部が腐って居ること [会話] シングサリな(が) しとる(している) 芋は、焼いても焼けやせんねてや(ないので) 上はじっぱん(立派に) しとんねけど(しているのだが) 中の芯な腐って(ていて) シングサリ言うて。

しんけ(神経)【名詞】1) 神経。2) 気持ち。

しんけいかまう 気にかかる。[会話] シンケイカマウ ねやるなあ(のでしょう) 縁起とる(かつぐ) 言う事は。

しんけえ【名詞】1) 神経 2) 気持ち [会話] 2) シンケエでまあ あげん(あんなに) したんど(したのだ) 言うて。シンケエで どこやかや(何処でも) わり(悪く)なって来たてやら(とか)、シンケエやみな(の) もななあ(者は)。シンケエ かもたよお(かまった、障った) 言うて。人に言うたら(言ったら) はざん(いけない) よおな事 口すべらかして(滑らして) 言うたたり(言ってしまったり) すると、あげん(あんなに) 言うたたけど(言ってしまったが) 後で シンケエやんで言うてなあ。

しんけえかまう 気にかかる 神経かまう

しんけえだま【名詞】頸部につかえる感じ ヒステリー球 しんけだま参照

しんけえつう【名詞】神経痛 神経の経路に沿って痛みが持続的 発作的におこる病気 [会話] すね(脛) な(が) 痛いてやら(と)か、てえ(手) な(が) 痛いてやら、首な(が) いごかせんでやら(動かないとか) 言うて、シンケエツウな(が) 入いて言うてなあ。昔や(は) すんぼこ な(が) おこつて言うて、腰な(が) 痛いてやら 脚な(が) 痛いてやら 言うて、すんぼこな(が) おこつて寝とられ(寝ている) 言うてなあ。かぶち(橙) 煎じて飲ましとけ(ておけ) 言うてな、かぶち 煎じてのみよおったわい(飲んで居ました)。

しんけえやむ 1) 気にする 2) 気にして病気のようになる。[会話] 1) シンケエヤミも一緒やなあ(です)。しんけえ(神経)で ちよいと(少し) した事 気にしてすんのなあ(するのを) シンケエヤム言うて

しんけだま【名詞】頸部につかえる感じ。ヒステリー球 [会話] シンケダマ なんやら(何か) こころえなあ(頸部へ) 詰まってきいやら(来たり) なんや(何か) すんの(するのを) 言うたやんかいなあ(言っていきました) シンケダマ。物食べんのおに(食べるのに) なんか(何か) 詰まるよおな 自分の気持ちで 気な(が) いらいらするとか 神経よけ(多く) 使うとか 言うて、こお詰まるよおに。実際に食べる時は詰まらせん(詰まりません) あんまり(あまり) 心配事な(が) 有ったり、神経質になげ(人間、人) な(が) そげん(そんなに) なつてくんねやろなあ(来るのでしょうか)。それも からびよおきやなあ(です)、からやまい言うのなあ(のです)。病気のなまい(名前)が 判らんで(なくて) そげんして(そんなに) して 神経で わりなつて来たり、わがと(自分で) 気持ちな(が) わりと、ぐあい(具合、健康状態) な(が) わりなつて来る人な(が) 有るなあ(有ります)。そいなのおを(そんなのを) からやまい 言うんなあ(言うのです)。

しんけやみ(神経病)【名詞】神経質に物事を気にして、いろいろ心配する事、しんきやみ。[会話] しんけえやみも一緒や(です)。そのにげ(人間) ん(に) よつて なあ 簡単にシンケヤミ 言う人もおるしなあ。

しんけん(真剣)【形容詞】真実である事。うそいつわりのない事。全力をそそぐ事。一生懸命。[会話] 一生懸命になる言うのをなあ シンケンになる。いっしょ

けんめ(一生懸命) ん(に) なると シンケンになつて しこつて来たれ(努力して来た) 言うなあ(言います)。

しんげんぶくろ(信玄袋)【名詞】がっさいぶくろとも。旅行などの時、身の回りの品すべてを入れる口紐のついた袋。がっさい参照 [会話] 朝鮮行くのに荷物一杯入れて 手荷物はシンゲンブクロ入れて、合切袋とも言うし。

しんこ(新子)【名詞】当年生まれの魚の仔 稚魚

しんご【名詞】四合(度、伊、尾)

しんこん(新婚)【名詞】夫婦同伴、男女同伴。年令を問わない(北、尾) [会話] シンコンサンかい(ですか)。あやまあ(あれは) みよと(夫婦、めおと) やれ(だ) 言う。ふたんな(二人が) みよと(夫婦) になつて 言うて、夫婦になつた言わんと(言わずに) みよと になつた。年取つた人でも 夫婦な(が) 一緒ん(に) 歩いとても(ていても) あや(あれ) シンコンでまあ言うてなあ。ふたんな 並んどる(並んで居る) と なあ。結婚したてを シンコンや(だ) 言うの ん(の)に 夫婦でおると ふたんで(二人で) おりさいしゃ(おりさえすれば) シンコンや(だ) 言うて。シンコンやら 旧婚やら判やせん(判らないのです)、にしゃこや(阿呆です)。

じんじ(神事)【名詞】旧六月一日に行われる夏祭り、潮かけ祭り。[会話] おおしま祭り(大島祭)の事を ジンジや(だ) 言うの。潮かけ祭りを ジンジや言うね(言うのです)。ジンジン言うてなあ お祭り言うのを言うんやろなあ(言うのでしょうか)。潮かけ祭り言うて 今しゃ(今は) 言うんかいなあ(言うではありませんか)。新聞やどけ(などに) 載つとんのなあ(て居るのは) 潮かけ祭り、ジンジンな(が) 来た言うけどなあ(言うが)。

しんしえき【名詞】親戚(志、鳥、鈴市、一、松、上、度、北、南)

しんしゃく(斟酌)【名詞】1) 遠慮する事。辞退すること。2) 考え 理解 [会話] 2) シンシャクな無いんよつて、理解が無い言う事やろなあ(でしょう)。

しんしゅうぐみ【名詞】植物、ぐみの一種。

しんじゅがい(しんじゅがひ)(真珠貝)【名詞】あこやがい。中形の二枚貝で長さ高さ共に8~10cm 位になる。殻の前後両端は耳のように突き出し、前の耳状部の所に少し隙間があつてそこから足糸(きぬ糸)を出して物に付く。殻の表面は暗紫緑色で雲母のようにうすくなった葉片で覆われる。内面は極めて美しく、

真珠光沢が強く周辺には、はっきりしない放射状の黒帯がある。真珠養殖の母貝として用いられる。[会話] あこや貝の事なあ(です) シンジュガイの事を。

しんじゅや(真珠屋)【名詞】真珠養殖を業とする人、又その家。

しんしょ(身上)【名詞】財産。種々の意に用いられるが、一般的には人間の経済的、社会的欲望を満足させる有形無形的手段がある主体を中心として結集された場合にその集結された全一体を言う。身上、財産、身代、暮しむき、家計、本来ののうち、身分地位。(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、安多、阿、張、伊、南) [会話] シンショ言うな、しよたい(所帯、世帯)の事なあ(です)。シンショ持ちな(が) わり(悪い)とか 言うてなあ、しよたい持ちな わりの、シンショ持ちな わりねよつて(悪のだから)いくら とどな(主人が)か かせんで(稼いで)来て、嬢(が)シンショ持ちな(が) わりいて ぜん よお 貯めんとか。ぜんも皆つこたんねて われ(使ってしまうのだそうだ) 言うてなあ、シンショ持ちの わり事なあ(を)しよたい持ちな わり。

じんじょお(じんじょう、じんじゃう)【名詞】
【形容詞】普通に、おとなしく、すなおに。(上、阿) [会話] そや(それ) 言うて やつても(与えても)、ジンジョオン(に) 取らんと(取らずに) しゃくりとばして(引たたくて)来た。

じんじょおのとき【名詞】平素、普段。[会話] ジンジョオノトキ言うな(のは)普通の時 腹の立つとらん(ていない)普通の時。

じんじょおばんば 飯事

しんしょざかり【名詞】働き盛り、最もよく稼ぐ時。(四) [会話] 世帯を持って 三十すえから四十代。今し(今) あいら(あの人達)シンショザカリでまあ 言うてな、働き盛り、知恵盛り、言う事 やなあ(です)。

しんしょじまい【名詞】破産。(志(鶴方、国府、安乗)) [会話] シンショジマイ やれ(だ)、そげん(そんなに) よけ(沢山) 酒のおだり(飲んだり) なんや かや(いろいろ)したら 言うてな。無駄な ぜん(銭)使うとなあ、芝居 見いん(に)行たり。おや ま(遊女) こおたり(買つたり)すると、あや まあ(彼は)シンショジマイ やれ あげん(あんなに) し いもて(しながら) しまいに や(終りには) まあ 言うて。家 潰すも と やれ 言う 訳や わい な(です)。あげ ん し よ(している) おりには(時には) あや まあ しん し よ ほら(洞) ん(に) す ん ね や れ(するのだ)

言うて、まあ のおだり(飲んだり) 食うたり し と や(していれば) シンショジマイ せ な(しなければ) し よ な ね え や ん か い(仕方が有りません)。

しんしよしまう(身上終) 破産する。(多、北) [会話] 賭事して、やくざ仕事でシンショシマウ。

しんしよしらず(しんしやうしらず)【名詞】(身上不知) 1) 経済観念の無い事、又その人 2) 浪費者。

しんしよのぼす 財産をふやす。(張) [会話] シンショノパス言うな(のは)、しんしよな よ お(よく) なって来る言うのをな、しんしよを こ し ら え る(作る)、財産 よ お け(沢山) 作る言う事を、シンショノパス言うてな。あ の ひ た(人は) せ え な も ん で(努力するの) ほ ん(本当に) よ お(よく) 働 く し、こ お と な し(質素だし) シンショノパス レ(のぼします) 言うて。

しんしよふるう 財産をなくす、破産する。[会話] 花魁 か お(買おう) 言うたら、シンショフルテ す の な(するのが) あ る や ん か い(あります)。

しんしよほらんした。しんしよほらんする 破産した。財産を失った。[会話] 財産 なん も(全く) 無 い よ ん(ように) し た ん の を(してやるのを) シンショホランシタ言うね。ほらんした、からになる事を 保証人になって、その全財産売って 立替えて、シンショホランシタ ネ(してしまったのだ) 言うて、財産 し ま う(なくす) 事を ほ らん し た 言 よ お つ た わ い(言っていました)。

しんしよもち【名詞】1) 一家の生計を立てる人、一家の戸主。世帯主(志(浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(国崎)) 2) 資産家(上、阿、張、名) 3) 家計のやりくり [会話] 3) シンショモチ言うのは、家計を切り廻す。1) 嫁 も ろ て も(貰つても) す ぐ に、シンショモチに さ せ や せ ん や ん な い(させないでしょう)。まだ家の家計 な(が) 判 ら ん よ つ て(判らないから)。金の稼ぎも な あ 若 い う ち や(間は) そ げ ん(そんなに) し や せ ん し(しないし) そ お す と ま あ 父 さん と 母 さん と しん し よ 持 つ と て(て居て) 息 子 ら な(が) た い が い(だいたい) なって来ると、しんしよ渡す言うて、息子らにしよたいを ま か す 事 な あ(を)、しんしよわたす 言 う ね(言います)。シンショモチは 家 計 切 り 廻 し て 上 手 に し て く の と(していくのと)、そこの家の大将 あ そ こ の う ち や(家は) あ ん な(彼が) シンショモチ や よ つ て(だから) 言うて。あんな シンショモチ や よ つ て、あ れ ん(彼に) なん も か も(すべて) 言 わ な(いわなければ) とかなあ 相談事でも。寄付 や ど け(など) 貰いに い て も

(行っても) シンショモチに言わな 言うて 責任者 言う事やわなあ (です) その家のなあ。その家の責任者で かねまかない しとんねよつてなあ (しているのだから)。シンショモチは 兄貴らん (に) しんしょ渡すと その責任 兄貴らん渡して、わがとら隠居役ん (に) なつて。

しんしょもちなええ 家計のやりくりが上手だ。[会話] シンショモチナエエとなあ (良いと)、金稼んでくの (稼いで来るのを) 貯めとて、財産求めるとか、金貯めるとかするのを、シンショモチナエエよつてなあ (良いから) あや (彼は) 金もよけ (沢山) 貯めとん ねなあ (て居るのだ) 言うやんかい (言います・言うて有りませんか)。

しんしょもちなわり 家計のやりくりが下手だ。[会話] シンショモチナワリ言うのはまあ ばあばあと 見たもん (物) こおたり (買った) いなんもん (要らぬ物) こおたり 無駄使いして、食うたり、のおだり (飲んだ) する人らを、ほん、シンショモチナワリイテ言うてな、あやまあ 嬢な (が) シンショモチナワリよつて (から) ぜん (錢) もなんも (少しも) よお残さんねわれ (残さないのだ) 言うて、嬢な (が) 欲しもん (物) こおたり 要らんもん (物) こおたり して、無駄なぜん (錢) 使うとなあ シンショモチナワリ。

しんしょもつ 1) 一家を構える。2) 一家の生活を立てるよう親から譲り受ける。[会話] 2) しょたい持つ 言うの、シンショモツ言うね (言うのです)。家庭をわがと (自分で) 切り廻すのをなあ しんしょ持ち言うね (のです)。1) 分家しやまあだ (すれば) わがとらな (自分達) まあ シンショモツナ (持たなければ)。おやめかがり (親掛り) のおや (時は) 親な (が) しんしょ 持つとんねよつて (持って居るから) 親ん (に) なんでも呉れとか 買おて (買って) 呉れとか 言うて言われるけど (言えるが) まあ わがとら (自分達) な (が) 分家してきや (して行けば)、わがと (自分) しょたい持ちになんねよつて (なるのだから) わがと 皆 せな (しなければ) はざん (駄目です)。シンショモツ言うのと、親から譲り受け。又 しんしょなええ (よい) 親な (が)、かいしよ (甲斐性、力) な (が) あるうちや (家は) 弟な (が) 別居しても、そや (それ) こんだけ (これだけ) のら (お前達) のあれやどお (当たりだぞ) 言うて金呉れたり、無いうちや (家は) そや (それ) わがとらな (お前達の) 家 建てゝやるよつてん (やるから) のらな (お

前達) 此れから、わがとらな してかな (して行かなければ) はざんどお (いけない) 言う家も有るし。その家な (が) かいしよな有りさいしや (有りさえすれば) そいらな (その人の) とおぎ (当座) しょたい持つだけの事してやられるけど 親な (が) そんだけ (それだけ) 力な (が) 無いと そげん (そんなに) してやられやせんけど (してやれないが) 家 建てや (てれば) そんなり (そのまゝ) 放したらな (てやらなければ)。とおぎ 言うと当分の間なあ (です)。シンショモツ 言うのは 親から譲られて 兄貴はなんでも 親から譲ったもん (物) 引きつんで (ついで) してくけど (して行くが)、分家してくと (行く)と やしき (土地) はもろても (貰つても) 家も親な (が) よお建ててくれな (呉れなければ) わがとらな 建てな (なければ) はざんし (駄目です) 生活もわがとらで、してかな (して行かなければ) はざんしなあ。

しんしょもろう 一家の主となり生活の責任を持つ。[会話] しんしょ渡したね (のだ) 言うて、舅命と婆と 嫁にまあ のらな (お前達が) 此れからやつてけよお (して行きなさい) 言うのをなあ、しんしょ渡した言うてな。若いもな (者は) おら (俺は) まあ、シンショモロタけど (貰ったが) なつともかつとも (いかにも) よおせんわれ (出来ません) 言うてな。財産も なんもかも (すべて) まかすの (のを)、出るのも入るのも 若いもん (者) な (が) 責任持つてする事なあ (です)。しんしょ渡した、言うて モラウ言う時は 引き受けた。 なつともかつとも よおせんけど (出来ないが)、おらな (俺達が) ま そしたら やつて見よかいのお (見ましようか) 言うわけやわい (です)。家を継いだ、財産を、將軍を渡した、將軍の後を継ぐわけや (です) 総理大臣や (です) 家の。金は内閣総理大臣、借金は有栖川宮言うて。

しんしょよし (身上良) 【名詞】 金持ち 財産家 (志 (浜島、越賀)、桑郡、阿、張、名) [会話] シンショヨシ 言うな (のは) 財産家でだ、昔で言う ごおか (豪家)。昔 ごおか言うたら (言ったら) 財産な (が) 有つて、金も有つてなあ する家をごおかや (だ) 言うて。そおすると 一軒だけ (のみ) や (で) 無いね (無いのです)。

しんしょわけ 財産の分配。分家する。(安、鈴市) [会話] 弟に財産やんのを (やるのを) シンショワケ、言うてな。分家してく (して行く)、弟でも、いもと (妹) でも、そや (それ) 此の畑、のも (お前も) こんだけ (これだけ) せえ (しなさい)、そやけど (しか

し) 家はよお建てたらんよって (建ててやれないから) のら (お前達) な (が) 建てえよお (建てなさい) 言うてなあ シンショワケテ。

しんしよわたす 家督を譲る。[会話] 若いうちや (間は) 金の稼ぎもそげん (そんなに) しやせんし (しないし) とおさん (父) と、かあさん (母) な (が) しんしよ 持つとて (ていて)、息子らな (が) たいがい (大体) になって来ると、シンショワタス言うて 世帯まかす事なあ。

じんじん 【副詞】 1) 寒さが身にしみるさま。2) 頭の痛いさま。(志) [会話] ① さぶい (寒い) 時に、ジンジンするとか、がちがち がつんがつんするとか、ぶるぶる振うとか 言うけどな (言いますが)。

じんじん 【名詞】 祭り じんじ参照

しんじんひまち (信心日待) 【名詞】 祈願のため、観音寺に参籠する事。三日間参籠祈願し、後一日 御礼のため又参籠する。[会話] 病気がちになると シンジンヒマチ 三日籠言うて、みっかあつ (三ケ日) 籠って、こんだ (今度は) れえごもり (礼籠) 言うて、又 後で いちにちいつ (一日) 籠ん (籠るのです)。

しんせきづきやい 【名詞】 非常に親しい交際。親戚と同じ様な交際。[会話] シンセキツキヤイ しとんねもんなあ (しているのだから) 言うてな、親戚みたよん (のように) 親しい (く) しとる (している) 言うのをな。

しんぜとく 供えておく

しんぜとけ 供えておきなさい。しんぜる参照

しんぜとる 供えて居る

しんぜもん 【名詞】 供え物 (度) 2) 進物 贈物

しんぜる (進) 【他サ下一】 神佛に供える事。(志 (浜島、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥、一、松、多、張、度、伊、北、南) [会話] 供える事。神さんへ シンゼトケ (ておけ)、佛さんへシンゼトケ言うて、供える事を、神さんへ 上げる言うのをなあ シンゼル。

しんぞ、しんぞお (しんざう) (新造) 【名詞】 新しく作る事。特に新しく舟を作ること。新艘、揚屋、水揚、引舟 すべて、水辺かかる語、又、遊女を言う。なだれめ、うかれめ、うかれ妻 海士の子、たわれめ、ひとよ妻も水に係る事 (物類稱呼) [会話] 舟のシンゾと、娘の良いは 誰も見たがる 乗りたがる。シンゾに 白帆で 借金丸やれ (だ) 言うて、シンゾオすると ふなおろし (進水式) や (だ) 言うて。

しんそお (しんそう、しんさう) (神葬) 【名詞】 神事に依る葬儀。[会話] シンソオ言うのは 神さんで行く

のを (あの世に) シンソオやな (です)。

しんそこ (真底) (心底) 【名詞】 【副詞】 心から、本当に、偽りや飾りのない全くの本心。シンテイ (心底) を湯桶読みした語 (大言海) [会話] シンソコ 腹な (が) わりいて (悪くくて) 言う。シンソコ あのひた (人は) 腹な (が) わり (悪くい) 人やなあ (だ) とか、シンソコ あのひた 心な ええ (よい) 人やなあ、シンソコ惚れとんねてわれ (ているのだそう) あの人ん (に) とかなあ 心の底から。

しんぞこない 【名詞】 1) 死に損ない。老人をののしつて言う語。(志 (片田)) 2) 大病から快復すること [会話] ② シンゾコナイ言うて、大病で あやまあ (彼は) はざんわれ (駄目だ) まあ 医者な (が) こやまあ (これは) 言うて、首かたげて (傾けて) しとん (しているのを)、医者な (が) しゃじ (匙) 投げたてわれ (そうだ) 言うても、奇跡にまめ (健康) ん (に) なる おおた命拾いしたなあ、シンゾコナイやどお (だ) 言うて。① 年寄りも シンゾコナイ、いつ迄生きとると (ていると) シンゾコナイや (だ)。

しんだい なりゆき、次第。(志 (布施田)、熊) [会話] なりゆき次第、シンダイに言うてなあ。シンダイに弱ってて (て行って) 言うて、病人な (が)。歩くシンダイに まあ 足も痛なって来て (痛くなって来て) とか。シンダイおとりや なあ (です) 言うて、病人ななあ (が) よお (よく) なって来んと (来ずに)、じりじりと わり (悪く) なって来んのなあ (来るのを)。まあ 年寄りの病気で、シンダイおとりや (です)。だんだん言う事やなあ (です)。悪くなってとか (行くとか) シンダイおとりやれ (だ) 言うて。ちよいと (少し) わりと、こやなあ (此れは) 年寄りの病氣やれ (だ) シンダイおとりやれ まあ言うて。

しんだい (身代) 【名詞】 個人、又は一家の持つすべての財産。(志 (布施田)) [会話] 財産、シンダイ ぼお (棒) ん (に) 振った言う時もあるしな、財産のこと シンダイ。あの家や (は) シンダイな (が) ええねよ って (よいのだから) なんもかも (なにもかも) よけ (沢山) 分けてもろたやんない (貰ったでしょう) 言うて。

しんだいおとり 【名詞】 次第に弱って行く事。しんだいよわり参照 [会話] だんだんと (次第に) わりな ってくと (悪くなって行くと)、年寄りの病気で シンダイオトリやれ (だ)。

しんだいかざり (身代限) 【名詞】 1) 破産。(上、阿) 2) あるだけ全部。[会話] ② シンダイカギリまあ

出したたよお (出してしまった) 言うて、ありぎり (あるだけ) 出したると (てやると)、なんでも まあ 全部出したると (てやると) シンダイカギリやどお (だぞ) 言うて。お金でも 品物でも 全部出したると (てやる) まあ そや (それ) シンダイカギリ出して来たれ (来ました)。全部言う事、へそくりまあ シンダイカギリ出して来たれ 言うて、よお (よく) 言うやんな (言うでしょう)。そやって (だから) 有るだけ出したた (てやった) 言う事やわいなあ (です)。わがと (自分) 持つとるもんを (持って居る物を)。それを そや (それ) 全財産 放り出して来たね (来たのだ)。

しんだいよわり 【名詞】 次第に弱って行くこと、しんだいおとり [会話] シンダイオトリや (だ) 言うてな、年寄りの病気で シンダイヨワリや (だ) 言うてな、だんだん わりなつてくと (悪くなって行く) 次第衰り言うのを シンダイヨワリやれ (だ) 言うてな、あやまあ (あはは) 年寄りの病気で シンダイオトリやれ まあ あげん (あんなに) しいもて (しながら) 死んでくねやれ (行くのだ) 言うて、シンダイヨワリな (です)。

しんたく (新宅) 【名詞】 分家、本家から分れた家。(桑郡、四、鈴市、安、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、南、熊) [会話] シンタク 言うのは 隠居してくの (して行くのを) 言うんやかなあ (言うのでしょうか)。シンタク 建てて言うて、家でも はなれ (離れ) 建てるとなあ シンタク建てて言うけどなあ (言います)。そいでまあ (それで) 分家してくの (して行くのを) シンタク言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

しんだもん 【名詞】 1) 死者 死人 (志 (浜島)) 2) 死んでしまったので

しんだる 死んでやる

しんだろ 1) 死んでやる 2) 死んでやれ

しんづけ (新漬) 【名詞】 新しく漬けたばかりの漬物

しんてい (心底) 【名詞】 心の奥底 本心

しんでからなくほらのかい 【俚諺】 後の祭り。[会話] ほらはなあ、焼くとピーピー言うて鳴くんやんかい (のです)。そやもんで (それなので) シンデカラナクホラノカイ 言うて。後からしても、なんも (少しも) 役立たん、鳴いたてて (ても) なんも 死んでからはざん (駄目だ)、後の祭りや (だ) 言う事やなあ (です)。よお (よく) 言うね (言うのです) 失敗した

ると (してしまうと) シンデカラナクホラノカイやれ (だ) こやまあ (これは) 言うて。

しんでく 死んで行く。(志 (志島)) [会話] 死ぬのをシンデクんでわれ (行くそうだ) 言うて、さかえ (境) ん (に) なつとんのを (なっているのを) シンデクよん (ように) しとんねてわれ、かたいきひいとんねてわれ (肩で息しているそうだ) 言うてな、死にるきわ (間際) の事やろなあ (でしょう)。シンデイク 言うのを、いきさかいし (生きる境) のさい (時) のときんなあ (時に) シンデクんやれ (行くのだ)。

しんでて 亡くなって 死んでしまつて

しんど 心労の転、疲れて苦しい事、又そのさま。しんどい。シンド (辛勞) の転 (物類稱呼) (鈴市、安、津、張、伊) [会話] シンドいなあ かいだり (だるい) 言うてなあ (言います)。くたばつたなあ 言うて、かいだりてまあ くたばつたよお、えらい (大変だ) とか。

しんどい 【形容詞】 苦しい、つらい。だるい (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗))

しんど。しんどお (しんどう、しんどう) (新道) 【名詞】 新しく作られた道。[会話] シンドオ言うな (のは) 新らし (新しい) 出来た道をな。今し (今の) 美珠通りのほおな (が) シンドオ、言いおつたのなあ (言つて居たのです)。浦 行く方をなあ シンドオ来たかい (来ましたか) 旧道来たか シンドオいこか (行きましょうか) 旧道いこか、一足も早く 旧道行け 言うて。和具のなあ 〇〇 言う、おなご (女) が有つてなあ 御座の人な もろてなあ (嫁にもらつて)。そすと (そうすると) 御座からくんのん (来るのに) 旧道とシンドオと 有るやんか (有ります)。こんびらさん 行くのと その下行くのと。そすと 和具へしゅうとや (嫁の実家) へ 泊りに行くのん (のに) シンドオいこか 旧道いこか 言うてなあ 別れ道になつて来ると、一足もはよ 旧道行け 言うて。しゅうとやへ 早よ とどくよおになあ そげん 言うて (そんなに言つて) 話しおつたなあ (して居ました)。

じんとり (ぢんとり) (陣取) 【名詞】 子供の遊び。(多、熊) [会話] ジントリ しいおつたなあ (して居ました)。みいる 言うて。丸 三つ 書いていてなあ (ておいて) 引つ張りやい (合い) してなあ。そいで (そうして) わがとな (自分の) 陣へ引つ張つて 来ると 勝ちやしなあ (です) 引つ張られてくと (行くと) 負けやんかい (です)。丸 書いてなあ 丸三つし といつて (しておいて) みいとこ (三ヶ所) に分

かれて引っぱりやい(あい)して、引張られてくど(て行く)負けて そいな のみいろや(だ)言うてしおったわい(しました)。みいろ しよおや(しましょう)言うてなあ みいろ すんのな(するの)か すきやった(でした)。

しんどる 1) 死んで居る 2) 何もしなくて、おとなしくして居る

しんなあ(芯縄)【名詞】 草履などを作る時芯にする縄。
[会話] シンナワ 言うて、シンナアにすんのなあ(するのです)。よお(よく) おらすと(打つと) シンナアな(が) いかつい(強い) やんかい(のです)。シンナア 言うて じょおり(草履) 作る時のなあ(縄)をなあ シンナア言うの(のです)。芯にするもんで(ので) シンナア言うの。芯縄言や(言えば) ええんけど(よいのだが) シンナア 言うてなあ。

しんなある 1) 米などを炊いた時半煮えで固い所が有る。2) 根性がしっかりしている、頑固だ。3) 塊が有る。[会話] 1) シンナルなあ この飯や(は) ちよいと(少し) かんちかして(と思えて) こちこち シンナ(が) アル、かんちめしやなあ(だ)。3) そして なんでも 押して 掴んで見て こやなあ(これは) ねぶと(出来物) な(が) 出来てくんのかして(来るのか) えらい(大変) シンナ(が) アラレ(有る) 言うてな、かつたいと(堅いと) こや(これは) どいらい(大変) かつたいな(堅いです)、シンナ(が) アルよって(から) こや(これは) なんか(何か) 出来てくんねどお(来るのだ) 言うてな。いぬごと(淋巴腺) な(が) こつこつして来る時な(が) 有ってなあ。2) こんじよ(根性) な(が) しっかりしとると(していると) シンナアッて、いつ迄 ねつっこおて(粘り濃くて) 言うてな、言うたよおな事ばっか(ばかり) 言うて、しねな(が) 有って言うて、シンナル言う事、しねな有る言うて、しねな有っていやらしねてや(嫌らしいのだ) 言う。

しんなべ【名詞】 味噌汁を作る専用の鍋。しんなべ 参照。

しんなり【副詞】 元気の無いさま。水分をなくし、しおれている状態。

しんにゅおかける。しんにょおつけて かける。大げさに言う。程度を一層はなはだしくする。輪をかける。
[会話] ごおなわく(腹が立つ)のを、シンニョオツケテ、ごおなわいて(腹が立つ) すんのを(するのを) おそげみそげ(総つ毛) な(が) よだつよおなれ(立つようだ)。

しんねこ【名詞】 1) 男女が人目をさけて仲よく語り合う事。2) しんみりして居るさま。(松、員、阿、張、名、津、北、尾) [会話] 1) シンネコやなあ(だ) 言うて、新婚の事いおったなあ(言いました)。あや(あれ) シンネコで言うて。2) 二人でなあ 男とおなご(女) と、ひそひそ話しとるやんかい(して居ます)。あやまあ(あれ) シンネコで やっとるわい(して居ます)。新婚やなしんなあ(でなくて) 二人でなあ ひそひそばなしとる(して居る) 時な(が) 有るやんない(有るでしょう)。それをだ、あやまあ シンネコで やっとられ(やって居る) 言うて、二人で なんか(誰か) 語りおとると(話をして居ると)。

しんねつ【名詞】 体内にある熱感

しんねんぶつ【名詞】 新しく作られた念仏講 [会話] 昔んなあ(ののは) ああも だいしの かんじよよお言うてなあ 言うし、シンネンブツあ(は) えんえん ちんちん 言うてなあ、言よおった(言っていました)。節な(が) 違うやんかい(のです)、シンネンブツと昔の節と。今し(今) 廻って来るおな(のが) 鈴振ってして来るやんかい(来ます)。昔んなあ(ののは) 丸いのお、たんたん 叩いてするやんかい(します)。

しんのけつ【名詞】 一番最後。しりけつ(北、尾) [会話] シンノケツ 言うんなあ、しりけつ言うてもええんけどだ(よいのですが) シンノケツ 言わなあ(言わなければ) シンノケツ言うと、ぴんと来んねけど(来るのですが) しりけつ 言うとなあ なん(何) 言うんかいなあ(言うのか) おもとんねてや(思っているのです)。一番しまい(後) 言う事、一番しまいのシンノケツ言うねよってんなあ(言うのだから) 尻はしまいの シンノケツ。

しんのみ。しんのみい【名詞】 味噌汁の中に入れる具。具の無い時はがんじる。しんのみ参照。(志(神明、立神)、鳥(浦村)) [会話] おつけの みの事なあ(を) シンノミ。葱やだいこ(大根)の事、シンノミ や(と) 言うて。

しんぱい(心配)【名詞】 骨折る事。苦勞、心使い。[会話] 骨折りしてもおたり(仕事してもらったり) なんや(なにか) する時に、シンパイかけてなあとか言うなあ(言います)。普通に 心でシンパイしとんねやなしに(して居るのでなくて)、仕事 てつてもおたり(手伝って貰ったり) するとなあ、おた、みんなに(皆に) シンパイかけてなあ言うて、祝儀もろた(貰った)とか、なんか(何か) もろた おりんなあ(時

に。こころづかい してもらうと、ほすと (すると) それを シンパイかけてなあ 言うてなあ。

しんぱいごと (心配事) 【名詞】 心配な事。気掛りなこと。困った事。案じ事。[会話] 嫁貴いんいたや (行ったり) なんや (なんとか) 言うて、シンパイゴトかけた時ん (に) 骨折つてもおて (もらつて) よかった言うて。

しんぱか (新墓) 【名詞】 新しく人の葬られた墓。

しんぱとくのあまり (俚諺) 【名詞】 神社佛閣の参拝を理由に遊山すること [会話] シンハトクノあまり言うて、何処いでも、神さんに (へ) 参つてくね (て行くのだ) 言うて、行くやんない (行くでしょう)、あやれ シンハトクノあまり言うて、神さんへ あっちゃやこつちやや (あちらだ、こちらだ) 言うて 参つてくよつて (行くから) とくすられ (する) 言うて、神さんかづけて (かこつけて) 物見遊山しとるのを、シンハトクノあまり言うて 神さんのお陰で、まあ言うてなあ、お伊勢さん参つて、宿屋い泊つて、えいよ (栄耀) して、家で出来んことを すんのな (のるのをです)

しんぴょお (しんべう) (神妙) 【名詞】 おとなしくしている。ぴょうは妙の漢音 [会話] まじまじと シンベョオしとる (している) とか言うて、おとなし (おとなしく) しとる (している) 時ん (に)。

しんぴょおんしとれ 静かにしておれ、神妙にしておれ

しんぶし (新節) 【名詞】 その年に作った鯉節。

しんぶんがみ (新聞紙) 【名詞】 前日迄の新聞で、ニュース価値の無くなったもの。古新聞。単に紙として見る時。(上、阿) [会話] はぎ (小枝) や (とか)、シンブンガミ 焚き付けん (に) するけど (するが) 昔や (は) 松のじん (やに) の有るとこ (所) へんどいて (削つて) (に) 焚き付けん (に) しおつた (して居ました)。

じんべ (甚兵衛) 【名詞】 甚兵衛羽織の略。甚兵衛羽織を着物仕立てとした、夏の男子の室内着。甚兵衛羽織。下級武士が着た木綿、綿入れの袖なし羽織り。陣羽織をまねた物が原形とされる。(張、一、阿、名、南) [会話] 着るうわっぱりをなあ ジンベヤ (と) 言うなあ (言います)。昔や (は) ジンベな (が) よお (よく) はやつてなあ (流行りました)。わしら (私達) の若い頃、ちゅうがた (浴衣の布) でなあ よお、ジンベこしらえおつた (作つて居ました)。夏ん (に) なるとなあ。

じんべ 【名詞】 甚平鮫 ジンペイザメの海魚 魚類中最

大の種類で体長1.8mに達するものも有る。体は太く頭が扁平で 吻の端は幅広くて丸い。体の割に目は小さい。体色は暗褐色、赤褐色、または緑褐色で、丸い白、または黄色の点が散在する。

しんぼ (しんぼう) 【名詞】 辛抱。心法を守る意 (大言海) (具、三、鈴郡、鈴市、安、一、上、阿、張、名、伊、北) [会話] シンボして シンボして シンボしいきれんで (しきれなくて) 尻の先い (へ) 突き通つた。

しんぼ (しんぼう) (心棒) 【名詞】 1) 物の中心に入れ、その物が曲ったりくずれたりしないようにする棒。

2) 物を支える棒。3) 中心になって居る物や人。

しんぼする 辛抱する。我慢する。

しんぼち 【名詞】 初盆の済まない人の墓

しんぼづよい (辛抱強) 【形容詞】 がまん強い。よく辛抱出来る性質である。[会話] いとお (痛く) てもなあ、しんぼ (辛抱) しとるの (しているのを)、痛い痛いよけ (あまり) 言わせん (ない) にげ (人間) をなあ シンボゾヨイ あや (彼は) 言うて。

しんぼできやせん 辛抱出来ない 堪えられない (志 (浜島))

しんぼとけ (新佛) 【名詞】 一年忌のすむ迄の死者。[会話] シンボトケ 初盆な (が) すむ迄は、死んだばっか (ばかり) シンボトケ。

しんぼな 辛抱だ、耐えてよく働く事を言う

しんぼなたらん 辛抱が足りない、我慢しない

しんぼなし 【名詞】 苦勞に耐えられない者

しんぼよおせん 辛抱出来ない 堪えられない (上) [会話] 姑婆な (が) えろおて (大変で) シンボヨオセンで、戻つたてわれ (そうだ) 言うのも有るしなあ。どこやかやな (いろいろな所が) 痛おて (痛たくて) シンボヨオセン言うのも 有るしなあ。しんぼできやせん言うのも シンボヨオセン言うのも一緒や (です) 辛抱が出来ない、我慢よおせん (出来ない) 言う事やなあ (です)。

しんまい (新米) 【名詞】 新参者 初心者 (志 (布施田))

しんまいいも 【名詞】 当年初にとれた芋

しんまいくい 【名詞】 新しい物ずき。しんもの食い。(志 (布施田)) [会話] シンマイクイ言うて あたら し (新しい) もん (物) あたらしもん (へ) 取り掛る人を、シンマイクイや (だ) 言うて、米ん (に) 例えて 今しや (今は) しんもん (物) 喰い言うけど (が)。

しんまいみそ 【名詞】 今年仕込んだばかりの味噌。[会

話] シンマイミソ 喰うと わかき 若味噌 わかじ よから (若塩辛) 言うて 若味噌は喰わんよおん (食べないように) 言うて。

しんまいもん【名詞】 新物 初めて獲れた物 [会話] 神さんえ (に) あげんのを (供えるのを) 初穂米 言うな (言います) 新米は 獲れると 神さんや (とか) 佛さんは シンマイモンを あげる (供える) やんない (でしょう)。

しんみ (親身)【名詞】 親切なさま。力になって呉れる事。 [会話] なんでも 親切にしてまあ シンミになって 呉れてなあ言うて、力になって貰う言う事を言うんなあ (言うのです)。力、入れて貰うとか、力になって貰う。その人が なんもかも (すべて) 心配して呉れて、あれもせえ (しなさい) 此れもせえ そや (それは) そげん (そんなに) するとはざんやんかあ (駄目です) 言うて、世話やいて (して) 呉れる事をなあ シンミになって呉れて言うやんかい (言います)。

しんみり【副詞】 静かに、落ちついて。じっくり参照

しんも (新亡)【名詞】 新亡者の略。死んだばかりの人、新しく死人の有る事。最近死人のあった家。盆から盆迄の間に死んだ人、初盆。(志 (浜島、布施田、片田、鶴方、神明、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)) [会話] 初盆の事 シンモや (です)。盆から盆迄のうちん (間に) 死んでくとなあ (行くと) シンモやなあ (です) 今年や (は) 言うて。

しんもす (新モス)【名詞】 モスはモスリンの略。純毛のモスリンに偽せた薄地で地合いの粗い平織りの綿織物。 [会話] 新モスは ちよいと (少し) 木綿な (が) か かつとんのなし (入っているのですし)、とおちりめん言うのは 本モスの事。

しんもん (新物)【名詞】 新しい物。初物。 [会話] シンモン言うて 芋でも なんでも 新しく 出来て来た事を シンモン。米は新米 他のもな (物は) シンモン言うて、はつもん (初物)。シンモンや (と) 言わん (言わずに) と はつもん や (だ) 言うて、胡瓜の はつもん 芋のはつもん やなあ (だ) 言うて、初めてとてくんのを (採って来るのを) はつもんや。

しんもんくい (新物喰い)【名詞】 新しい物へと気移る人。新し物好き。 [会話] シンモンクイ言うのは、しんまい喰い でああ。しんまい喰いよ (奴) 言うてなあ なんでも あたらし (新しい) もん (物) あたらしもん (物) へ 取りかかる人をなあ あや (彼は) しんまい喰いや (だ) 言うて。シンモンクイ言うて、今し (今) の人らは言うし 昔や (は) しんまい喰いや

言うて、米ん (に) 例えとるんやろえ (て居るのでしよう)。しんまい喰いやよってん (だから) まあ 言うて、あたらし とこ (所) へ、ぼっか (ばかり) いたり (行ったり) 金持ちのうちい (家へ) まいす (おべっか) こいて (使って) いたり すると、しんまい喰いやよって (だから) あの家ぼっか (ばかり) いて (行って) まいすこいて (おべっか使って) まあ。シンモンクイ言うて、あたらし出来たもん (物) ぼっか (ばかり) 食う人と それからだ 人づきやい (つきあい) もなあ あの人と つきよとるか (交際しているか) 思うとまた、此処い (へ) 違う人な (が) 来ると こんだ (今度は) その人と したし (親しく) なって、先の人ばな (を) ほっといて (捨てておいて) すんのなあ (するのです) しんまいくいや (だ) 言う。しんまいくいや (だ) 言うてなあ、シンモンクイであやまあ 誰ん (に) でも 初めてのもん (者) に 飛び付いて言うて、しんまいくいや (だ) 言うて。

しんや (新屋)【名詞】 おもや参照 新しく建てた家。分家、隠居所。(志 (甲賀)、鳥 (神島 畔名)、桑郡、員、三、鈴市、津、飯、松、多、張) [会話] あたらし (新しく) 建てるとシンヤ言うて。

しんりょお【名詞】 神妙

しんりょおんしとれ 静かにしておれ [会話] やかまし し (喧かましい)、シンリョオンシトレ言うて。神妙に しとれ (しておれ) 言うのを、シンリョオンシトレ。

しんるい (親類)【名詞】 一族 同族集団 (志、桑郡、三、鈴郡、鈴市、久、飯、松、多、伊賀地方、度、熊)

しんるいすじ (しんるいすぢ) (親類筋)【名詞】 親類の関係に有る者

しんるいづきやい (しんるいづきあひ)【名詞】 1) 親類としての交際 2) 親類同様の交際

じんろく (甚六)【名詞】 長男の卑語 (阿)

じんわり【副詞】 1) 物事がゆっくりと少しづつ進んで行くさま 2) 汗や涙が徐々にしみ出してくるさま。(上、阿、張、名)